

20cm、P₃₆…44cmである。

〔炉〕 北側に1基、南側に2基確認した。炉1は風倒木により攪乱され全体形は不明であり、炉2は周堤炉であり、規模は長軸88cm、短軸約80cmと考えられ、周堤の高さは3～4cmである。炉3は規模が32cm×28cm、深さ18cmで炉2に近接する。炭化物層とそれを覆う貼土が互層となっており、確認時は貼り床で覆われていた。炉2に関係する施設の可能性もある。

〔堆積土〕 8層に分層した。南盛土に近接し、にぶい黄褐色土等の土層は南盛土から続くものと考えられる。人為堆積の可能性が高い。

〔出土遺物〕 床面直上から第Ⅲ群3・4類土器が、炉堆積土からは第Ⅲ群9類土器が出土した。堆積土から第Ⅱ群5類、第Ⅲ群1～6、8～11類土器、ミニチュア土器が出土した。石器は床面直上から石棒などが、堆積土から石鏃、石錐、スクレイパー類、U.フレイク、石核、敲磨器類、半円状扁平打製石器などが出土した。

〔時期〕 堆積土出土遺物から縄文時代中期前葉～中葉と考えられる。

(斎藤 岳)

第370号住居跡 (162図～163図)

〔位置と確認〕 VIH-112に位置する。第121号溝跡の精査中に炉跡を確認した。

〔重複〕 第121号溝跡と重複し、本住居跡が古い。

〔平面形・規模〕 不明である。

〔壁・床面〕 炉の周辺の貼り床のみ残存する。

〔柱穴〕 床面上に1個確認された。ピットの深さは、P₁₁…16cmである。柱痕跡は確認できない。

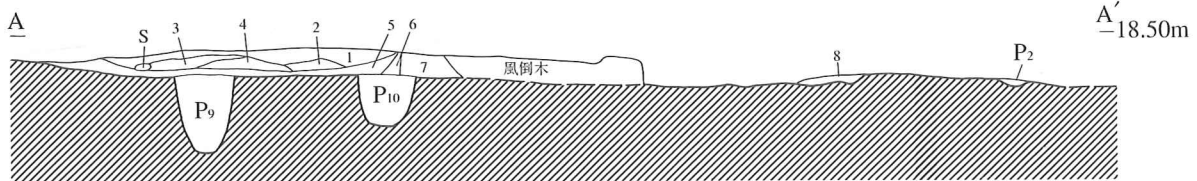
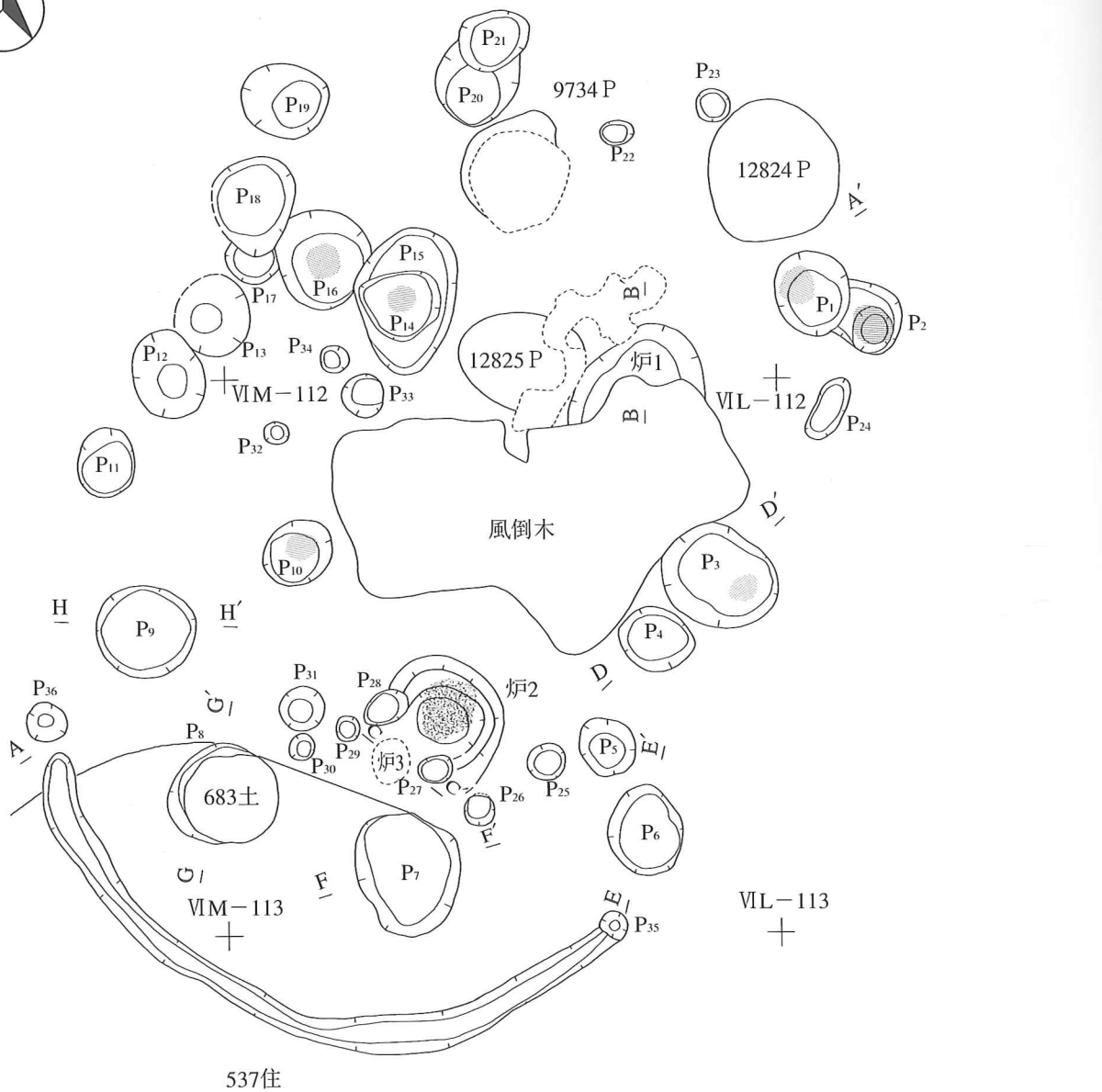
〔炉〕 炉の掘り方の残存部分の長軸は80cm、短軸は70cmである。

〔堆積土〕 炉の周辺に部分的にのみ残存していた。

〔出土遺物〕 炉の土器は第Ⅲ群10類である。堆積土から第Ⅱ群5類、第Ⅲ群1、2、4、11類土器が出土した。

〔時期〕 炉に使用された土器から縄文時代中期末葉（大木10式併行期）である。

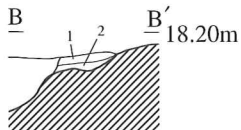
(斎藤 岳)



第369号住居跡

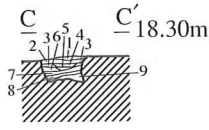
- | | | | |
|-----|---------|---------|------------------|
| 第1層 | にぶい黄褐色土 | 10YR4/3 | L.B.多量、浮石粒微量。 |
| 第2層 | にぶい黄褐色土 | 10YR5/4 | |
| 第3層 | にぶい黄褐色土 | 10YR5/4 | L.B.多量、浮石粒微量。 |
| 第4層 | にぶい黄褐色土 | 10YR5/4 | 炭化物・浮石粒微量。 |
| 第5層 | 灰黄褐色土 | 10YR4/2 | L.B.・炭化物・浮石粒微量。 |
| 第6層 | にぶい黄褐色土 | 10YR7/4 | 白色ローム粒多量。 |
| 第7層 | 黒色土 | 10YR2/1 | 白色ローム粒多量。 |
| 第8層 | 黒褐色土 | 10YR3/2 | 炉1の堆積土。炭化物・焼土微量。 |

151図 第369号住居跡 (1)



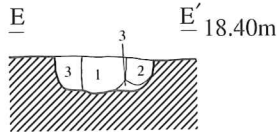
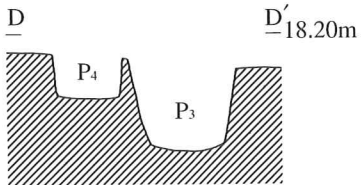
第369号住居跡 炉1

第1層 暗褐色土 10YR3/3 炭化物・焼土微量。
 第2層 黒褐色土 10YR3/2 炭化物・焼土微量。



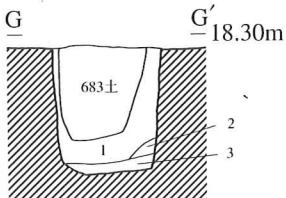
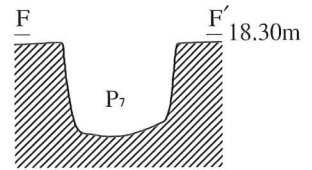
第369号住居跡 炉3

第1層 褐色土 10YR4/6 貼床。炭化物・焼土微量。直下に約2mmの炭化物層。
 第2層 褐色土 10YR4/4
 第3層 暗褐色土 10YR3/4 炭化物・焼土微量。
 第4層 極暗褐色土 7.5YR2/3 炭化物少量、焼土・骨片微量。
 第5層 褐色土 10YR4/6 炭化物少量。
 第6層 明黄褐色土 10YR6/6 炭化物微量、直下に約2~10mmの炭化物層。
 第7層 褐色土 10YR4/6 炭化物少量、焼土微量。直下に約2~5mmの炭化物層。
 第8層 暗褐色土 10YR3/4 炭化物少量、焼土微量。直下に約3mmの炭化物層。
 第9層 褐色土 10YR4/6 炭化物少量、焼土微量。



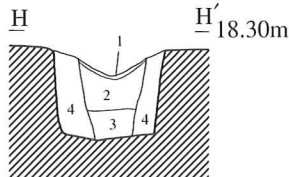
第369号住居跡 ビット6

第1層 褐色土 10YR4/4 柱痕跡? 炭化物微量。
 第2層 褐色土 10YR4/4 炭化物微量。
 第3層 黄褐色土 10YR5/6 炭化物微量。



第369号住居跡 ビット8

第1層 黄褐色土 10YR5/6 炭化物微量、L.B.中量。
 第2層 黄褐色土 10YR5/6 炭化物微量、L.B.中量。
 第3層 黄褐色土 10YR5/6 炭化物微量。



第369号住居跡 ビット9

第1層 暗褐色土 7.5YR3/4 炭化物多量、焼土微量。
 第2層 褐色土 10YR4/4 柱痕跡? 炭化物少量、焼土微量。
 第3層 黄褐色土 10YR5/6 柱痕跡? 炭化物微量。
 第4層 黄褐色土 10YR5/6 炭化物多量、焼土微量。



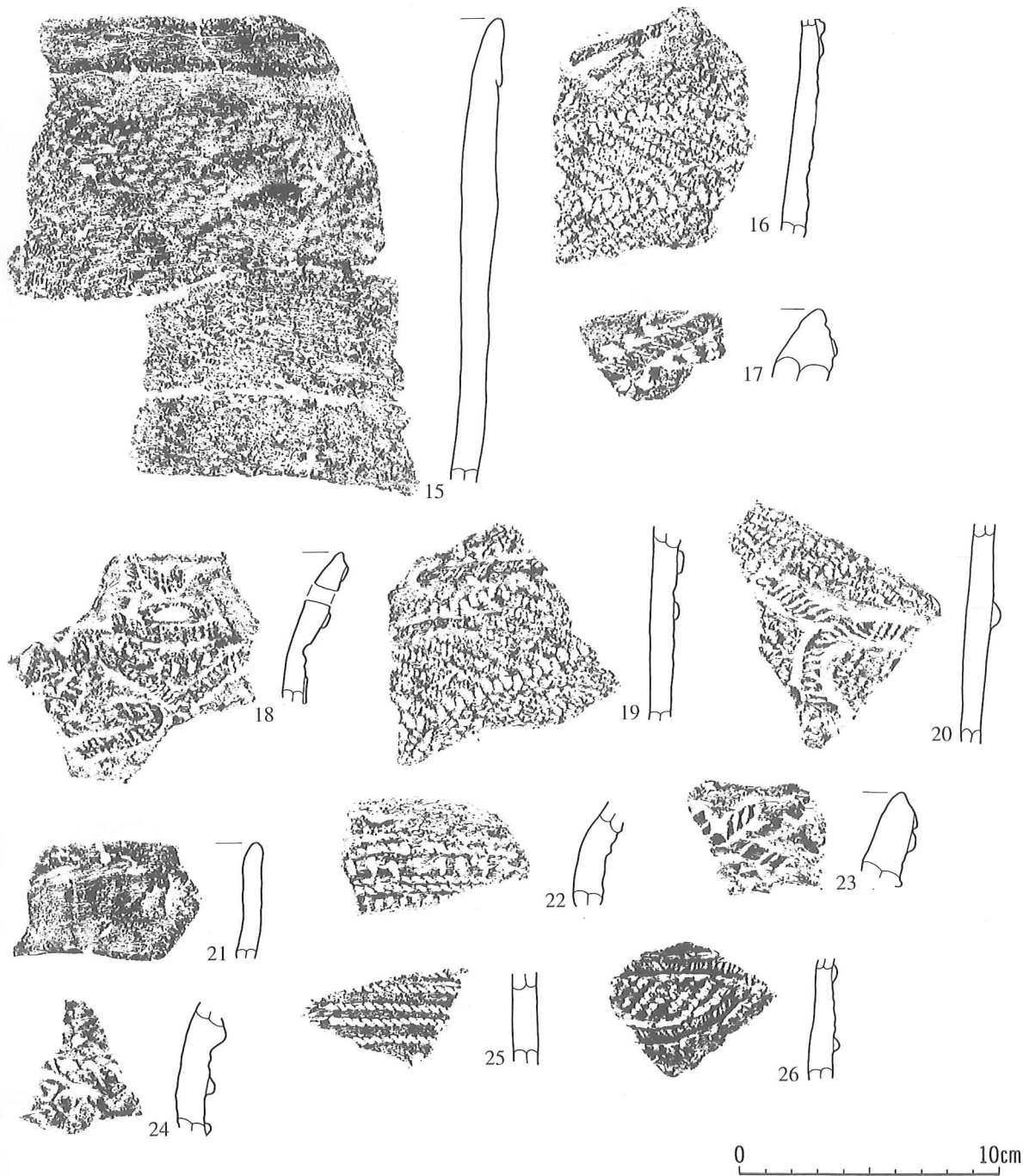
152図 第369号住居跡 (2)



0 10cm

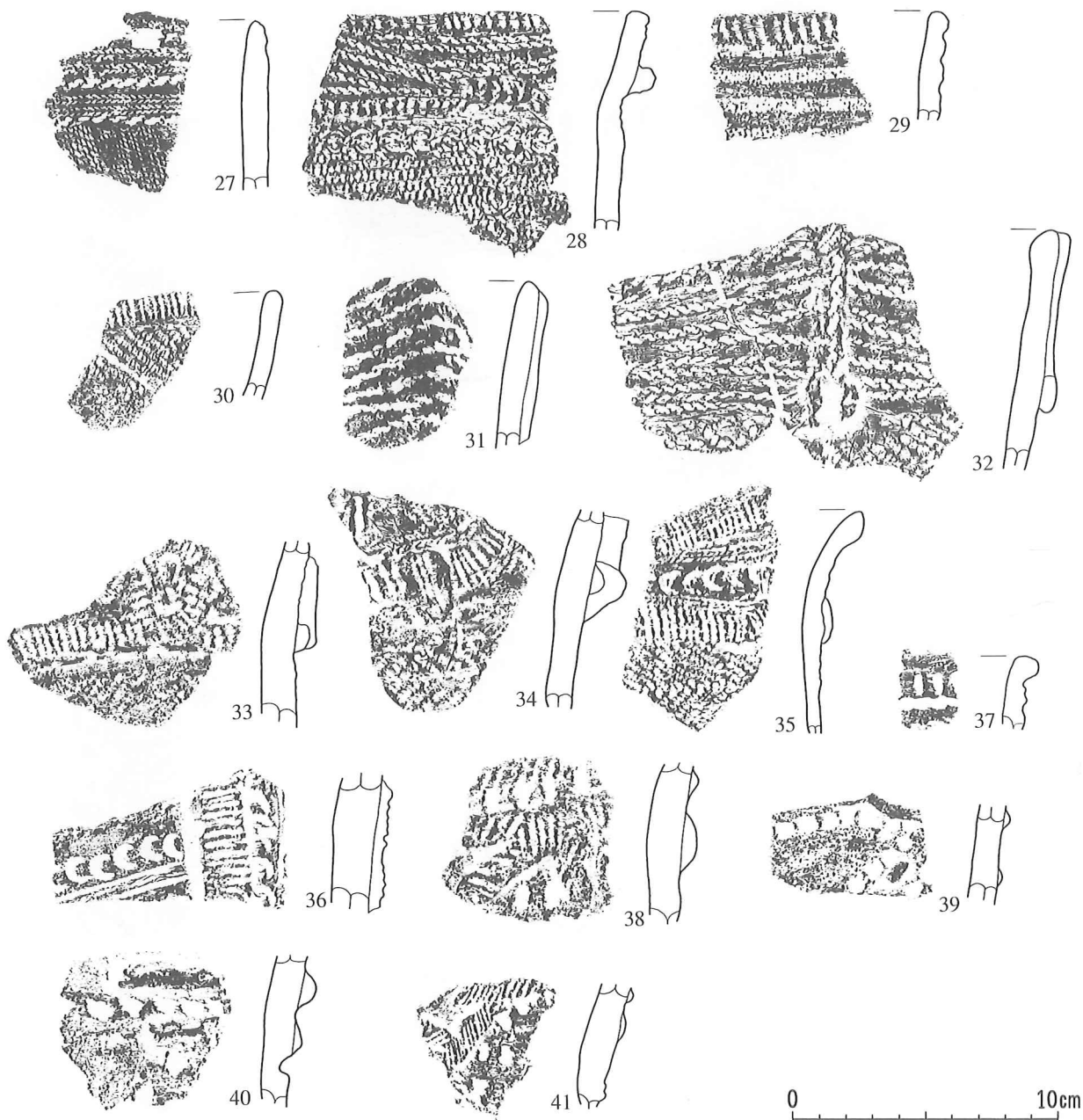
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	369住炉	堆積土		RL、沈線		ミガキ	Ⅲ-9	P-1	
2	369住	床直	貼付 (L押)、刺突			〃	Ⅲ-3	P-2	
3	〃	〃		結束第一種、貼付		〃	Ⅲ-4	P-3	
4	〃	〃			結束第一種 (LR、RL)	〃	Ⅲ-6		
5	369住 ^レ 73	堆積土	LR押	刺突、LR		〃	Ⅱ-5-2		
6	〃	〃	貼付 (L押)			〃	Ⅲ-4		
7	〃	〃		貼付 (L押)		〃	〃		
8	369住 ^レ 12	〃	貼付 (R押)、R押			〃	Ⅲ-1		
9	〃	〃	〃 (刻み)、刺突			〃	Ⅲ-3		
10	〃	〃		結束第一種、貼付		〃	Ⅲ-4		
11	369住	堆積土下部		貼付 (単絡1押)、R結回	結束第一種 (LR、RL)	〃	Ⅱ-5-2		
12	〃	〃	貼付 (L押)、L押			〃	Ⅲ-2		
13	〃	〃	〃 (〃)、刺突			〃	Ⅲ-3		
14	〃	〃	L押	結束第一種、RL		〃	Ⅱ-5-1		

153図 第369号住居跡出土遺物 (1)



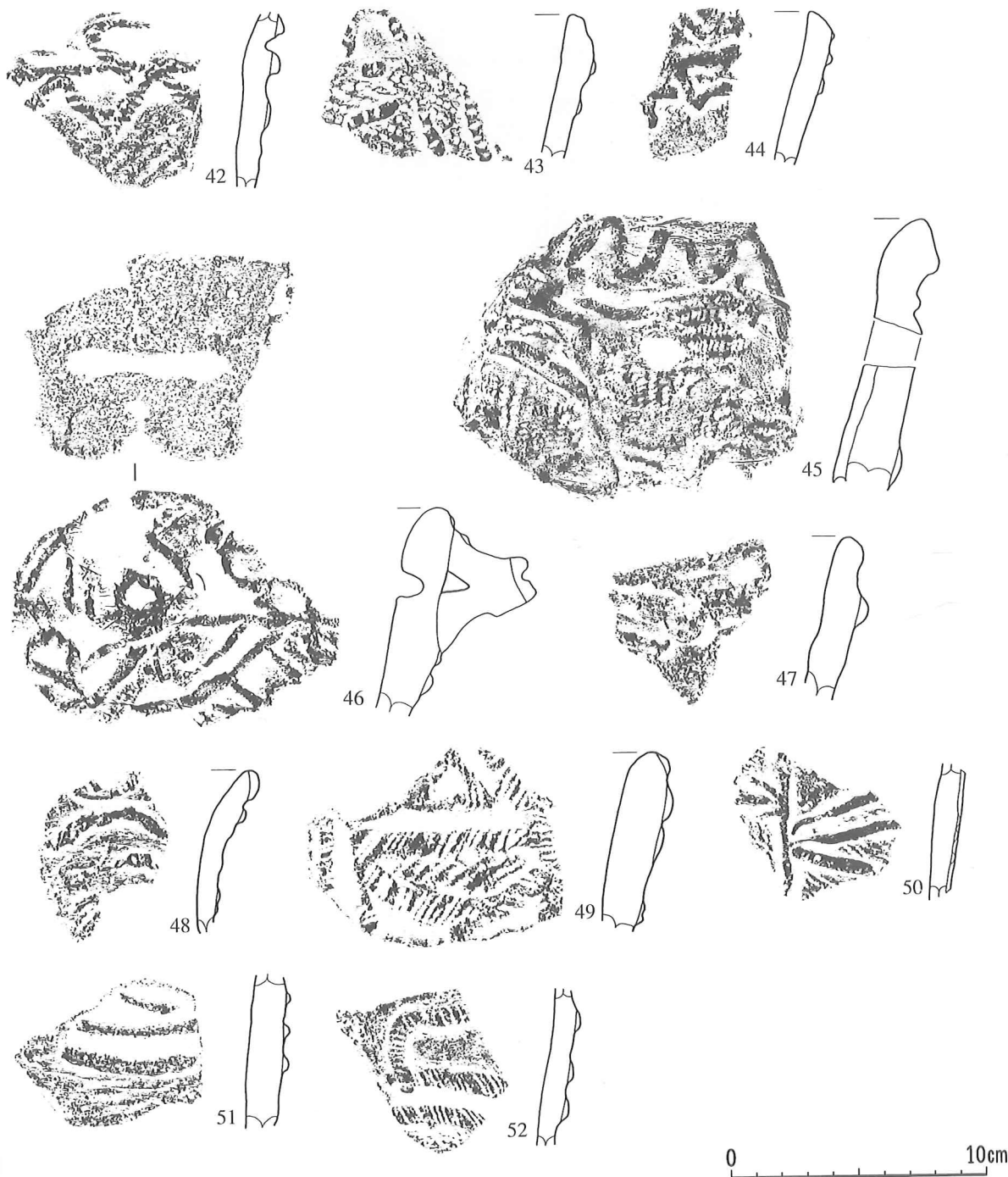
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
15	369住	堆積土下部	折返口縁	RL?		ミガキ	Ⅲ-11		
16	〃	〃		結束第一種、貼付		〃	Ⅲ-4		
17	〃	〃	貼付(L押)、刺突			〃	Ⅲ-3		
18	〃	〃	〃			〃	〃	19と同一個体	
19	〃	〃		貼付(L押)、刺突、結束第一種		〃	〃		
20	〃	〃		結束第一種、貼付(L押)		〃	Ⅲ-4		
21	〃	〃	無文			〃	Ⅲ-11		
22	〃	〃	LR押、刺突			〃	Ⅱ-5-2		
23	〃	〃	貼付(刻み)			〃	Ⅲ-4		
24	〃	〃	〃(縄押)、刺突			〃	Ⅲ-3		
25	〃	〃	LR押			〃	Ⅱ-5-2		
26	〃	〃		LR、貼付(L押)		〃	Ⅲ-4		

154図 第369号住居跡出土遺物(2)



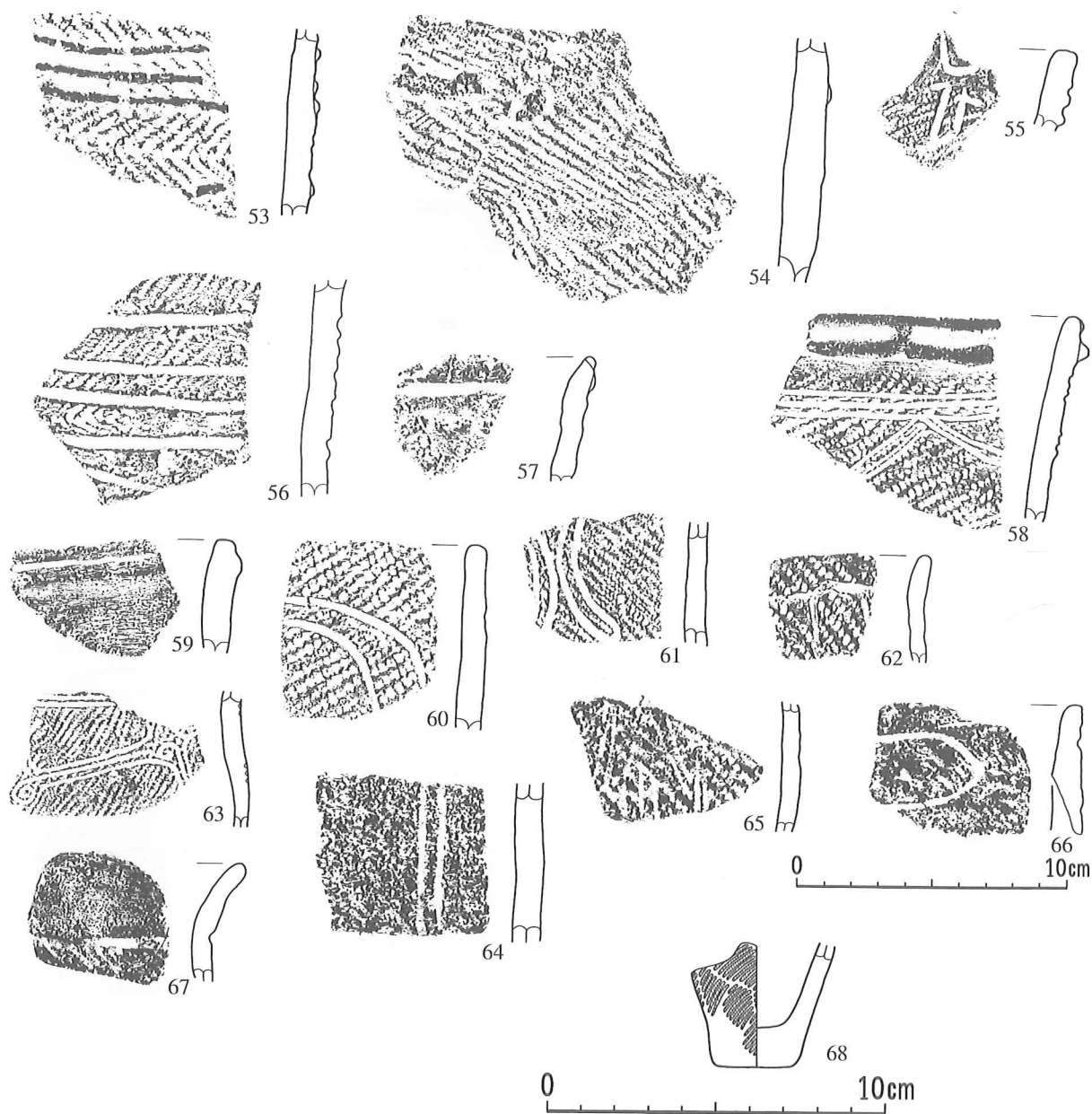
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
27	369住	堆積土	LR・RLR押	R単絡I		ミガキ	II-5-1		
28	〃	〃	LR押、貼付(LR押)、刺突	R結回、R多軸絡		〃	〃		
29	〃	〃	R単絡I押			〃	〃		
30	〃	〃	L押			〃	II-5-2		
31	〃	〃	貼付、LR押			〃	〃		
32	〃	〃	〃、〃	RL?		〃	〃		
33	〃	〃	〃(L押)、L押			〃	III-1		
34	〃	〃	〃			〃	〃		
35	〃	〃	L・LR押	結束第一種(LR、RL)		〃	III-2		
36	〃	〃	LR押			〃	〃		
37	〃	〃	貼付(L押)、L馬蹄形押			〃	〃		
38	〃	〃		貼付(L押)、刺突		〃	III-3		
39	〃	〃		貼付、刺突		〃	〃		
40	〃	〃		〃、〃		〃	〃		
41	〃	〃		〃(L押)、刺突		〃	〃		

155図 第369号住居跡出土遺物(3)



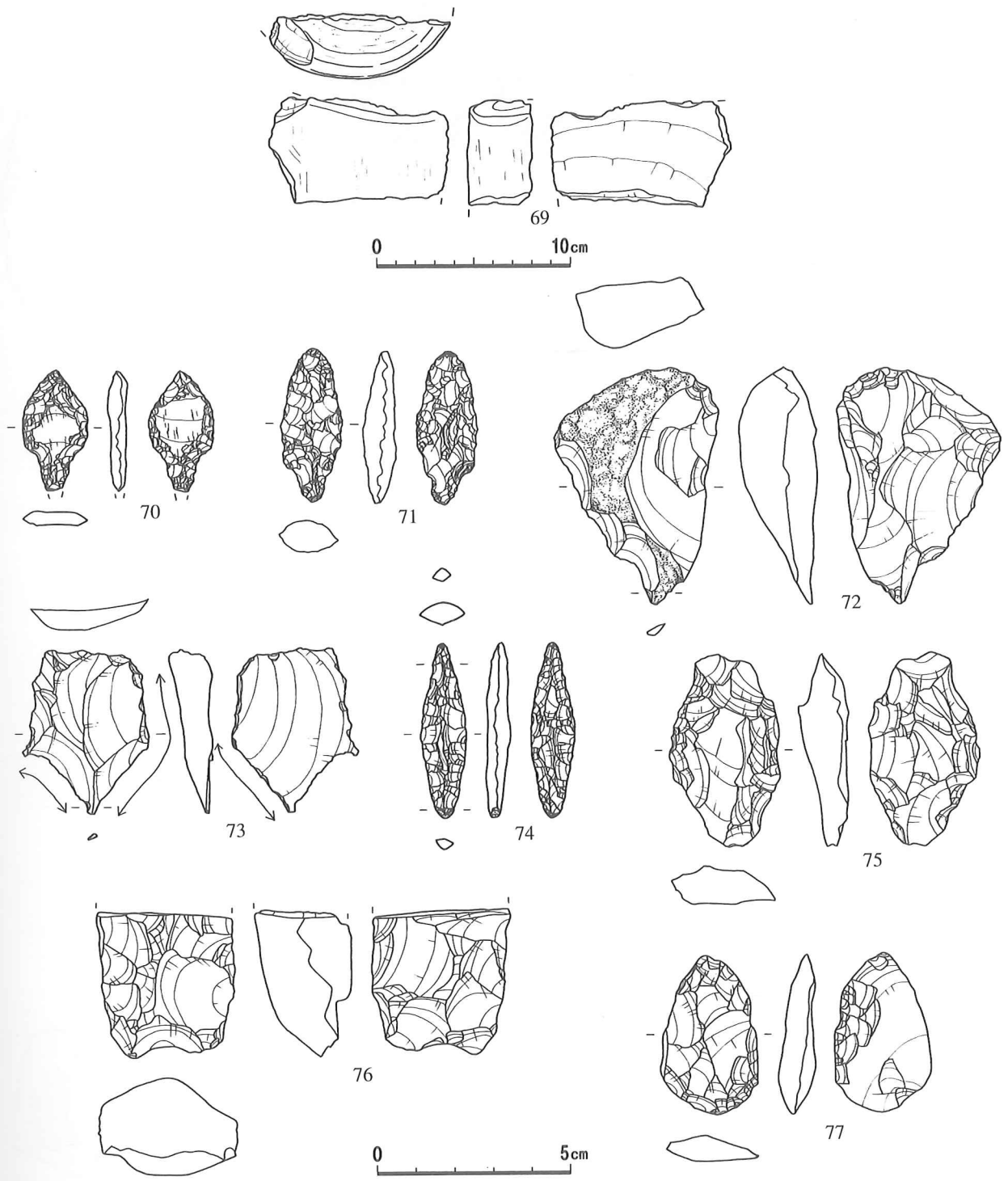
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
42	369住	堆積土		貼付 (L押)、LR? 刺突		ナデ	Ⅲ-3	貼付間に刺突	
43	〃	〃	RL? 貼付 (刻み)			ミガキ	Ⅲ-4		
44	〃	〃	貼付、貫通孔			〃	〃		
45	〃	〃	貼付、結束第一種、貫通孔			〃	〃		
46	〃	〃	貼付			〃	〃	内面に盲孔	
47	〃	〃	〃			〃	〃		
48	〃	〃	〃 (刻み)			〃	〃		
49	〃	〃	〃 (L押)	結束第一種、貼付 (L押)		〃	〃		
50	〃	〃		RL、貼付		〃	〃		
51	〃	〃		貼付		〃	〃		
52	〃	〃		〃 (L押)、RL?		〃	〃		

156図 第369号住居跡出土遺物 (4)



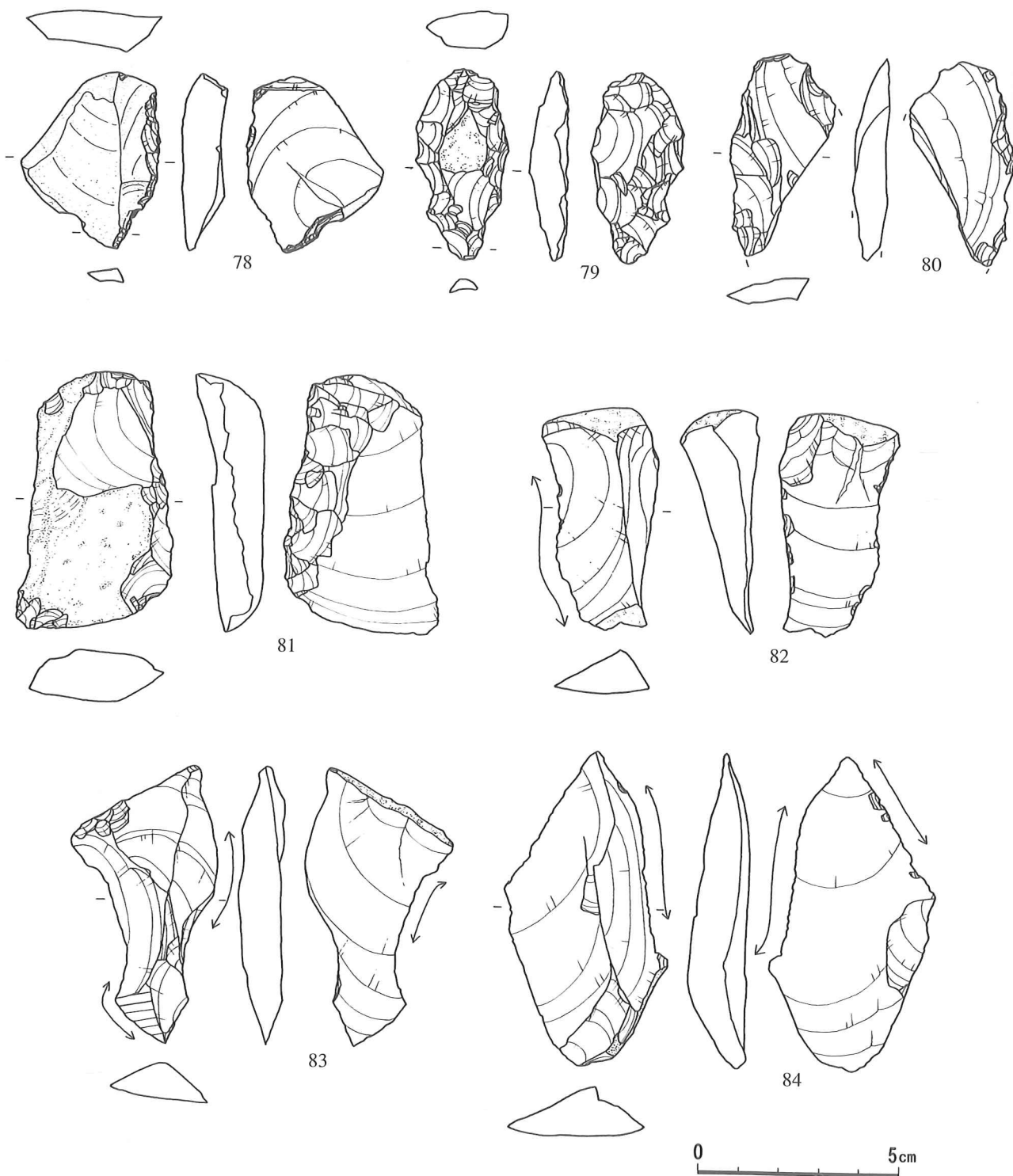
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
53	369住	堆積土		結束第一種、貼付		ミガキ	Ⅲ-4		
54	〃	〃		RL、貼付		〃	〃		
55	〃	〃	LR、沈線			〃	Ⅲ-5		
56	〃	〃		結束第一種、沈線		〃	〃		
57	〃	〃	貼付、LR?			〃	Ⅲ-4・5		
58	〃	〃	〃、LR、沈線			〃	Ⅲ-8	見かけ上口唇に沿う凹状線	
59	〃	〃	口唇に沿った沈線			〃	〃		
60	〃	〃	LR、沈線			〃	〃		
61	〃	〃		RL、沈線		〃	〃		
62	〃	〃	折返状口縁、RL	〃		〃	Ⅲ-9		
63	〃	〃		LR、沈線		〃	〃		
64	〃	〃		〃		〃	〃		
65	〃	〃		RL、〃		〃	〃		
66	〃	〃		縄文、〃		〃	Ⅲ-10		
67	〃	〃	無文帯、区画沈線			〃	Ⅲ-11		
68	〃	〃			LR	無文	ミニチュア		

157図 第369号住居跡出土遺物 (5)



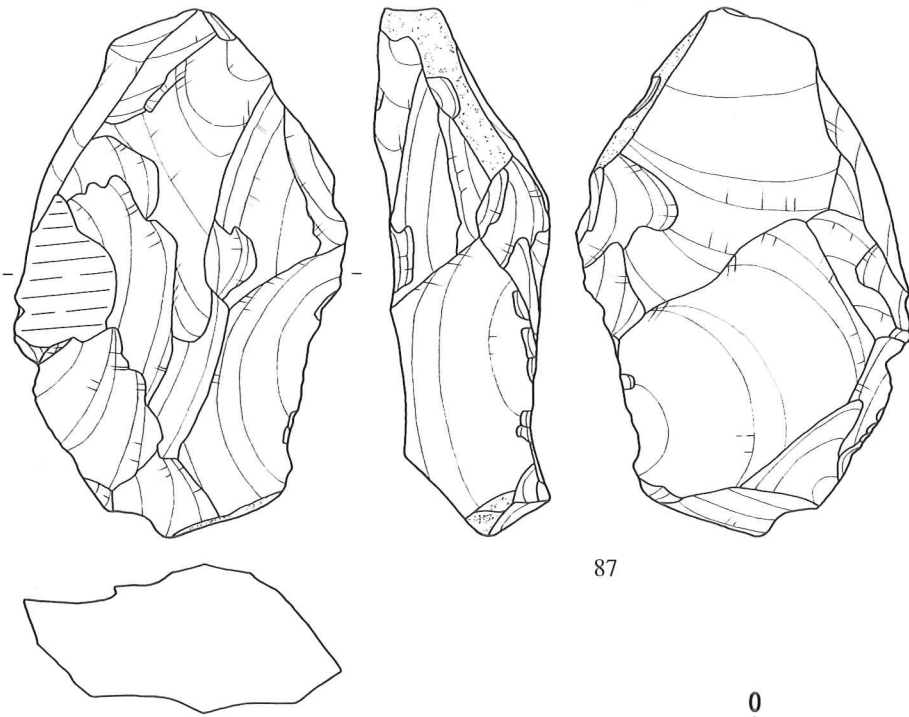
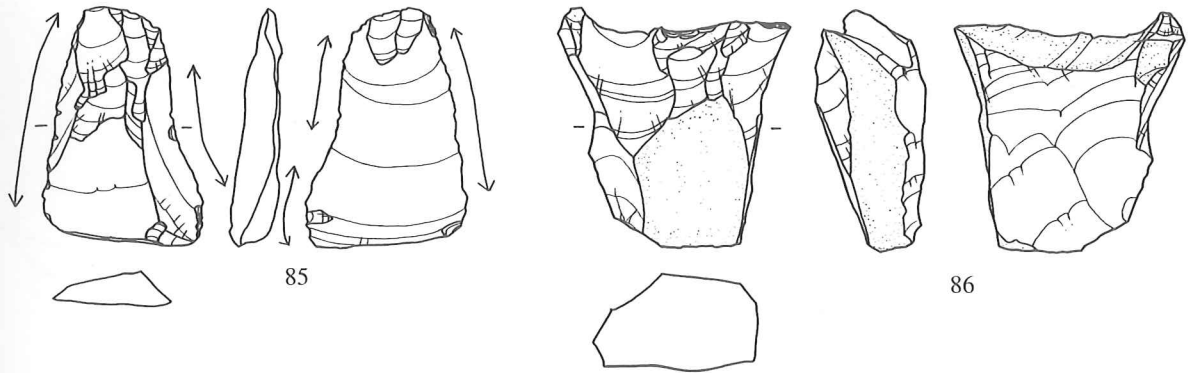
図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
69	369住	床直	(55)	(92)	(33)	(197.1)	流	Ma	S-7	46326
70	〃	堆積土	(32)	17	5	(2.4)	珪頁	Ab	VIL-112	50156
71	〃	〃	40	16	9	4.5	〃	〃	〃	50143
72	〃	〃	61	43	20	41.4	〃	Db	VIL-111	45521
73	〃	〃	42	33	11	6.7	〃	Gb	石錐? VIL-112	45530
74	〃	〃	45	12	6	3.0	〃	Dd	尖端磨耗、VIL-112	44796
75	〃	〃	50	27	13	14.7	〃	Ga	VIL-111	45518
76	〃	〃	(38)	(36)	(25)	(31.4)	〃	〃	石籠? VII-112	45591
77	〃	〃	41	25	10	8.4	〃	〃	石鏃未製品?	45601

158図 第369号住居跡出土遺物 (6)

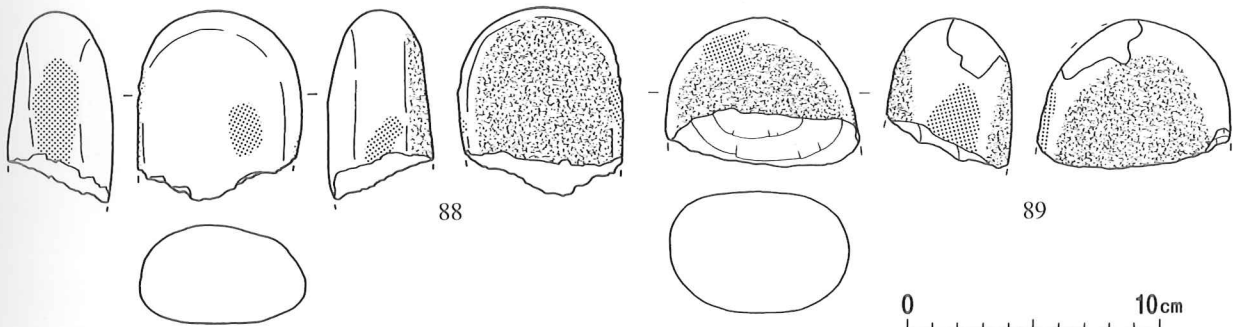


図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
78	369住	堆積土	49	34	11	15.9	珪質	Ga	石錐? VIL-112	45525
79	〃	〃	48	24	10	10.4	〃	〃	〃	45566
80	〃	〃	(51)	(26)	(8)	(6.9)	〃	〃	VIL-112	45612
81	〃	〃	65	39	17	40.9	〃	〃	VIL-112	45520
82	〃	〃	50	30	20	20.0	〃	Gc	VIL-111	45523
83	〃	〃	70	37	11	18.0	〃	〃	〃	45510
84	〃	〃	79	41	15	29.9	〃	〃	VIL-112	45592

159図 第369号住居跡出土遺物 (7)



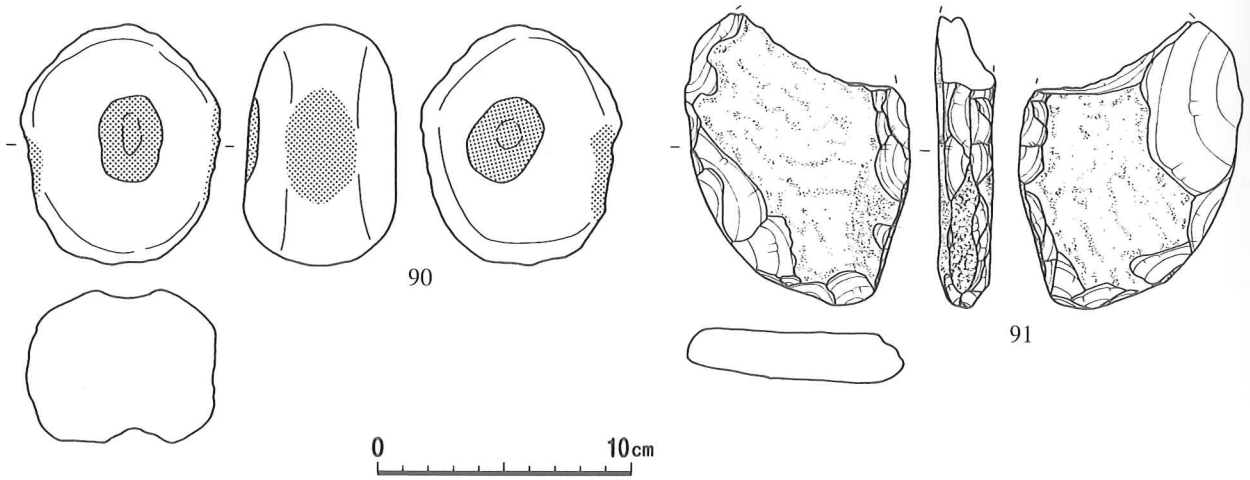
0 5cm



0 10cm

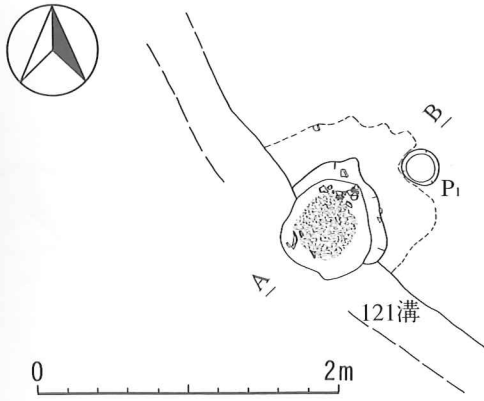
図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
85	369住	堆積土	47	32	10	11.6	珪頁	Ge	VIL-112	45611
86	〃	〃	48	46	21	40.9	〃	Pa		45615
87	〃	〃	105	66	35	165.1	頁	〃	VIL-112	46332
88	〃	〃	(75)	(65)	(42)	(255.6)	安	Ib	VIM-112	46328
89	〃	〃	(59)	(78)	(49)	(231.5)	〃	Ic	焼付、VIL-112	46325

160図 第369号住居跡出土遺物 (8)

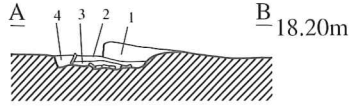


図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
90	369住	堆積土	94	78	60	346.4	安	Ia	VIL-112	46323
91	〃	〃	(115)	88	(23)	(276.6)	〃	J		46327

161図 第369号住居跡出土遺物 (9)

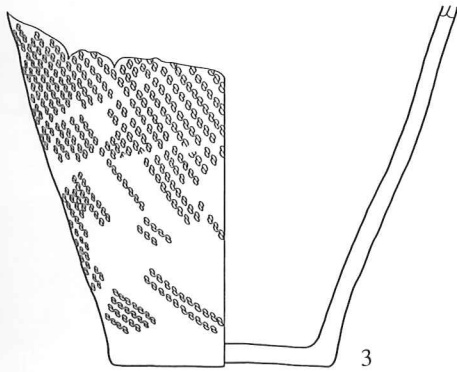
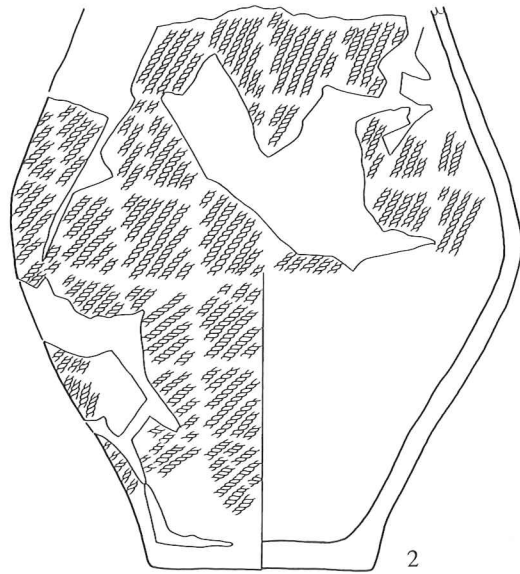
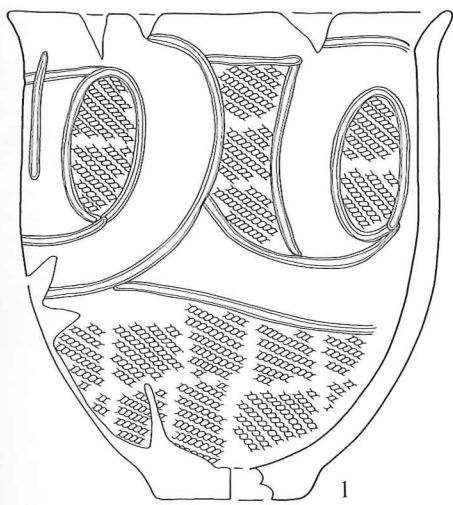


炉土器検出状況



第370号住居跡 炉
 第1層 黒褐色土 10YR2/3 浮石粒・炭化物・L.B.微量。
 第2層 にぶい黄褐色土 10YR4/3 焼土多量、L.B.微量。
 第3層 黄褐色土 10YR5/6 焼土多量、L.B.微量。
 第4層 にぶい黄褐色土 10YR4/3 L.B.微量。

VH-113
+

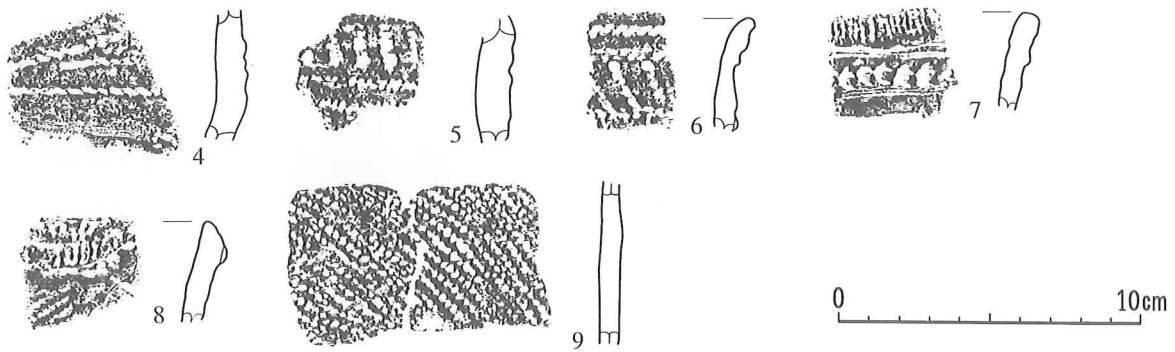


0 10cm



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	370住炉		無文帯	RL、磨消	LR	ミガキ	無文	Ⅲ-10	
2	〃			RL	RL	〃	〃	〃	
3	〃				LR	〃	網代痕	Ⅲ-11	

162図 第370号住居跡・出土遺物(1)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
4	370住	堆積土	LR押			ミガキ		Ⅱ-5-2	
5	〃	〃	単絡1押			〃		Ⅲ-1	
6	〃	〃	RL押			〃		〃	
7	〃	〃	R押 (直線状、馬蹄形状)			〃		Ⅲ-2	
8	〃	〃	貼付 (L押)、LR			〃		Ⅲ-4	
9	〃	〃		RL		〃		Ⅲ-11	

163図 第370号住居跡出土遺物 (2)

第371号住居跡 (164図~166図)

〔位置と確認〕 VI L-115に位置する。南盛土精査中に黒褐色土の落ち込みとして確認した。

〔重複〕 第677号土坑と重複し、本住居跡が古い。西側を欠失する。

〔平面形・規模〕 平面形は南北に長軸のある楕円形と考えられる。長軸は3mである。

〔壁・床面〕 各壁ともに直線的に外傾しながら立ち上がる。壁高は東壁8cm、南壁8cm、北壁13cmである。床面はほぼ平坦である。

〔柱穴〕 検出されなかった。

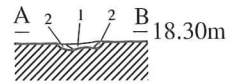
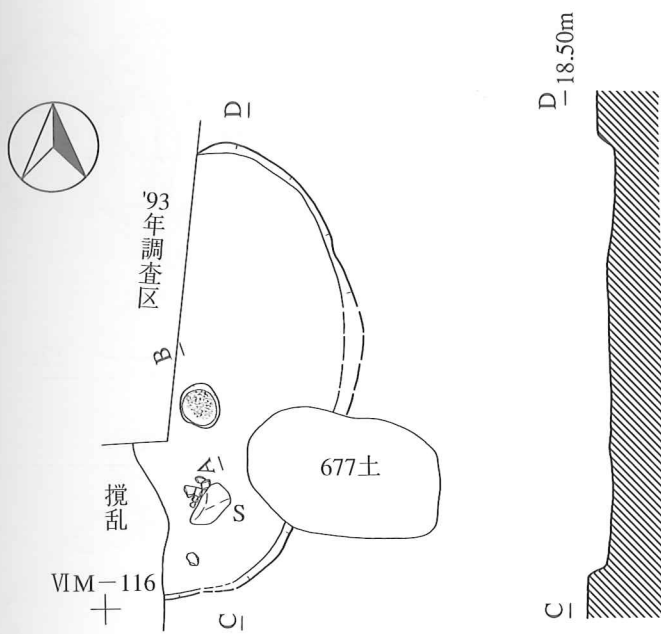
〔炉〕 床面中央からやや南東に地床炉を検出した。掘り方の規模は30cm×28cm、深さ7cmである。

〔堆積土〕 自然堆積と考えられる。

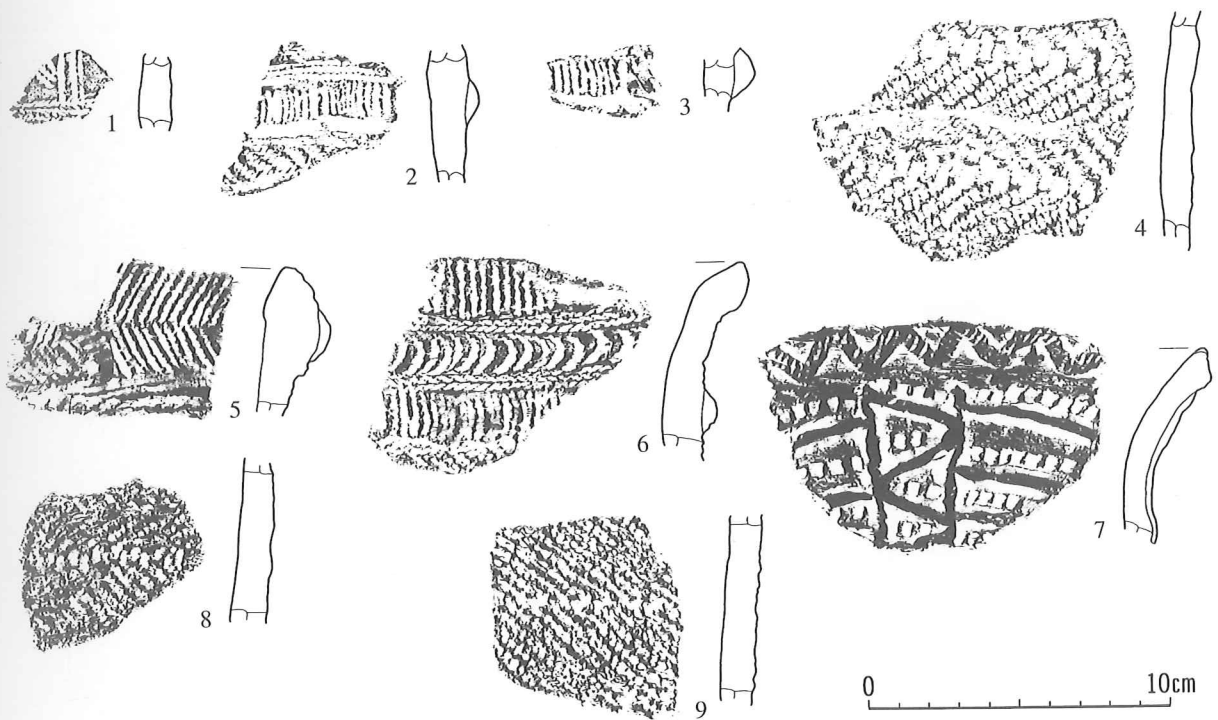
〔出土遺物〕 床面直上から第Ⅲ群1類土器が出土した。また、堆積土から第Ⅲ群1~3、6類土器、石鏃、スクレイパー類、R.フレイク、U.フレイク、敲磨器類などが出土した。

〔時期〕 床面直上出土土器から縄文時代中期前葉 (円筒上層 a 式期) である。

(斎藤 岳)

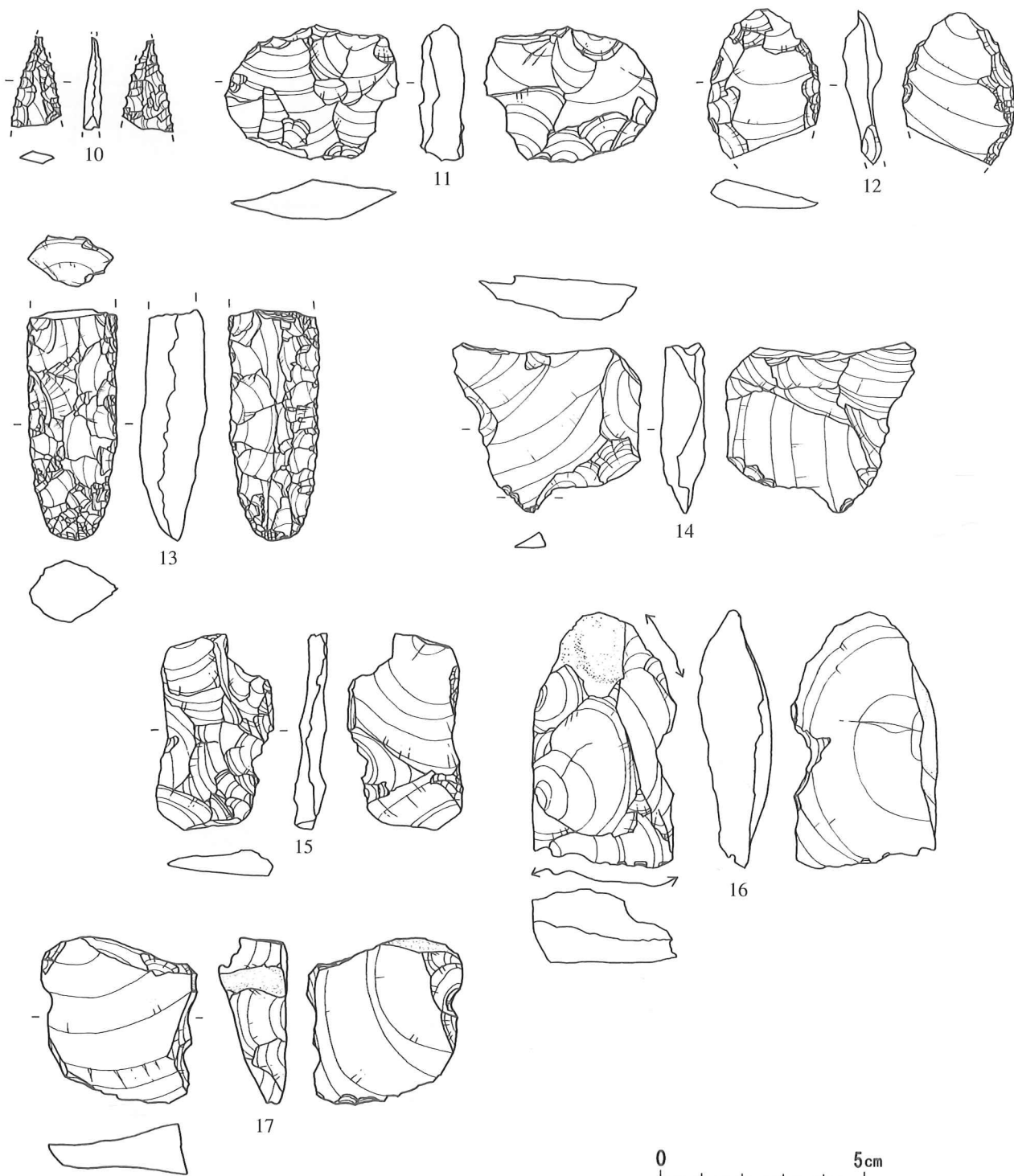


第371号住居跡 炉
 第1層 褐色土 7.5YR4/6
 焼土。粘質土ブロック含む。
 第2層 にぶい黄色土 2.5YR6/4
 粘質土。



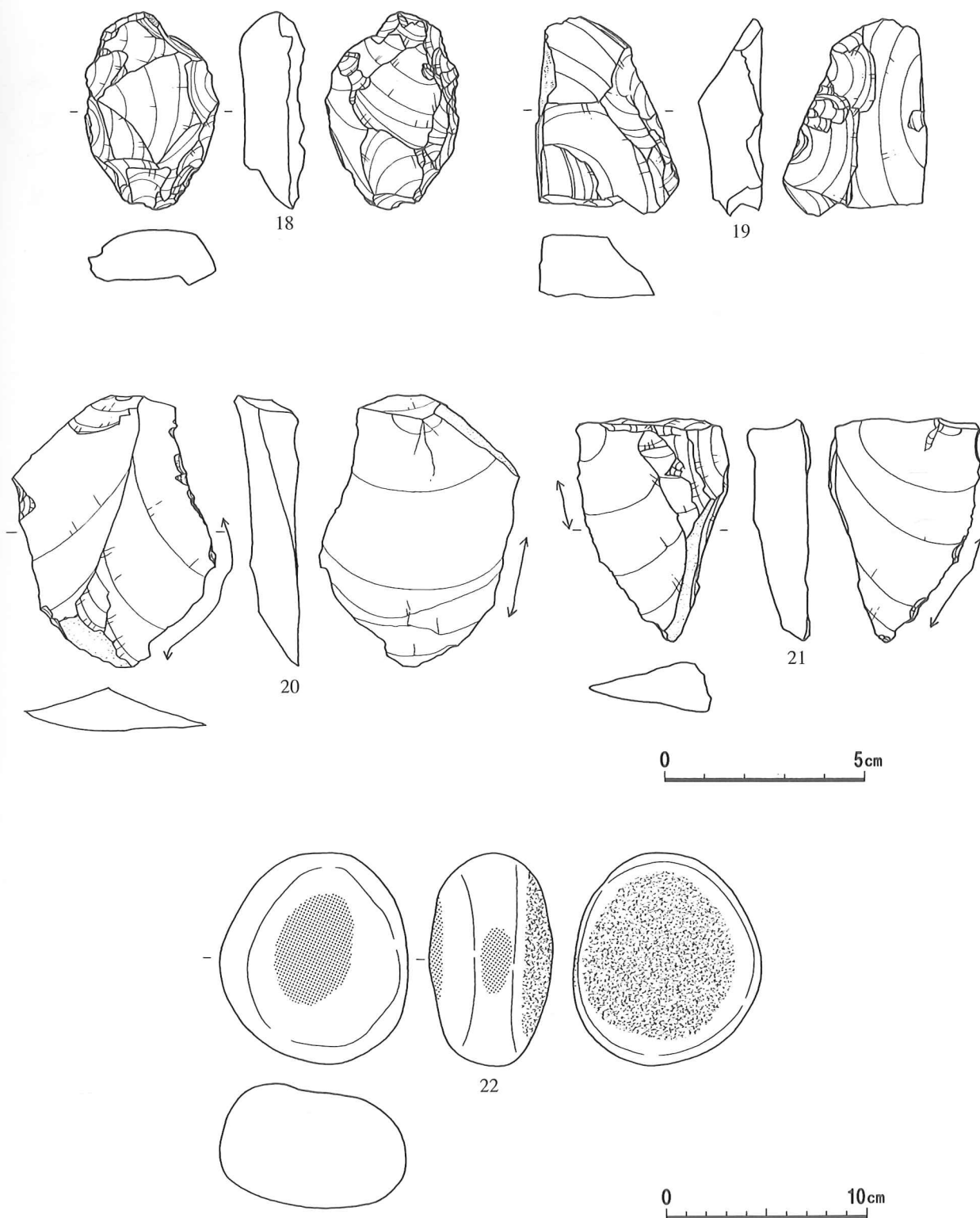
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	371住	床直	L・R押			ミガキ		Ⅲ-1	
2	〃	〃	〃	貼付 (R押)、RL?		〃		〃	
3	〃	〃	〃	貼付 (R押)		〃		〃	
4	〃	〃	〃	結束第一種 (LR、RL)		〃		Ⅲ-6	
5	〃	堆積土	LR押			〃		Ⅲ-1	
6	〃	〃	L・R押 (直線状、馬蹄形状)			〃		Ⅲ-2	
7	〃	〃	貼付 (一部刻み)、刺突			〃		Ⅲ-3	
8	〃	〃	〃	結束第一種 (LR、RL)		〃		Ⅲ-6	
9	〃	〃	〃	RL		〃		〃	

164図 第371号住居跡・出土遺物 (1)



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
10	371住	堆積土	(22)	(12)	(4)	(1.0)	珪頁	A		52296
11	〃	〃	33	43	11	13.4	〃	Gb		45645
12	〃	〃	(37)	28	(10)	(7.2)	〃	Ga		45659
13	〃	〃	(57)	(22)	(17)	(21.6)	〃	〃	石槍? 石匙? 石鏃?	50113
14	〃	〃	42	47	11	17.6	〃	Gb	石錐?	45626
15	〃	〃	48	29	8	8.6	〃	〃		45640
16	〃	〃	63	36	18	34.0	〃	〃		45670
17	〃	〃	41	38	17	21.0	〃	〃		45624

165図 第371号住居跡出土遺物 (2)



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
18	371住	堆積土	49	33	16	27.3	珪頁	Ga		45667
19	〃	〃	50	36	16	27.4	〃	Gb		45668
20	〃	〃	68	50	16	34.6	〃	Gc		45672
21	〃	〃	56	38	15	25.5	〃	〃		45669
22	〃	〃	105	94	62	814.7	安	Ic		46333

166図 第371号住居跡出土遺物 (3)

第375号住居跡 (167図)

〔位置と確認〕 VIS・T-119・120に位置する。第Ⅲ層上面で攪乱の穴の東西で落ち込みを確認した。中央部を大きく欠失するが、床面のレベル差が小さいことなどから同一の住居跡と認定した。

〔重複〕 攪乱を受けている。

〔平面形・規模〕 平面形は東西に長軸のある楕円形の可能性がある。規模は長軸4m54cmである。

〔壁・床面〕 西壁は外傾しながら立ち上がる。壁高は西壁17cmである。東壁は攪乱の浅い部分に僅かに残存している。

〔壁溝〕 西部を巡る。幅3～8cm、深さ2～5cmである。

〔柱穴〕 壁溝に1個確認された。ピットの深さは、P1…41cmである。

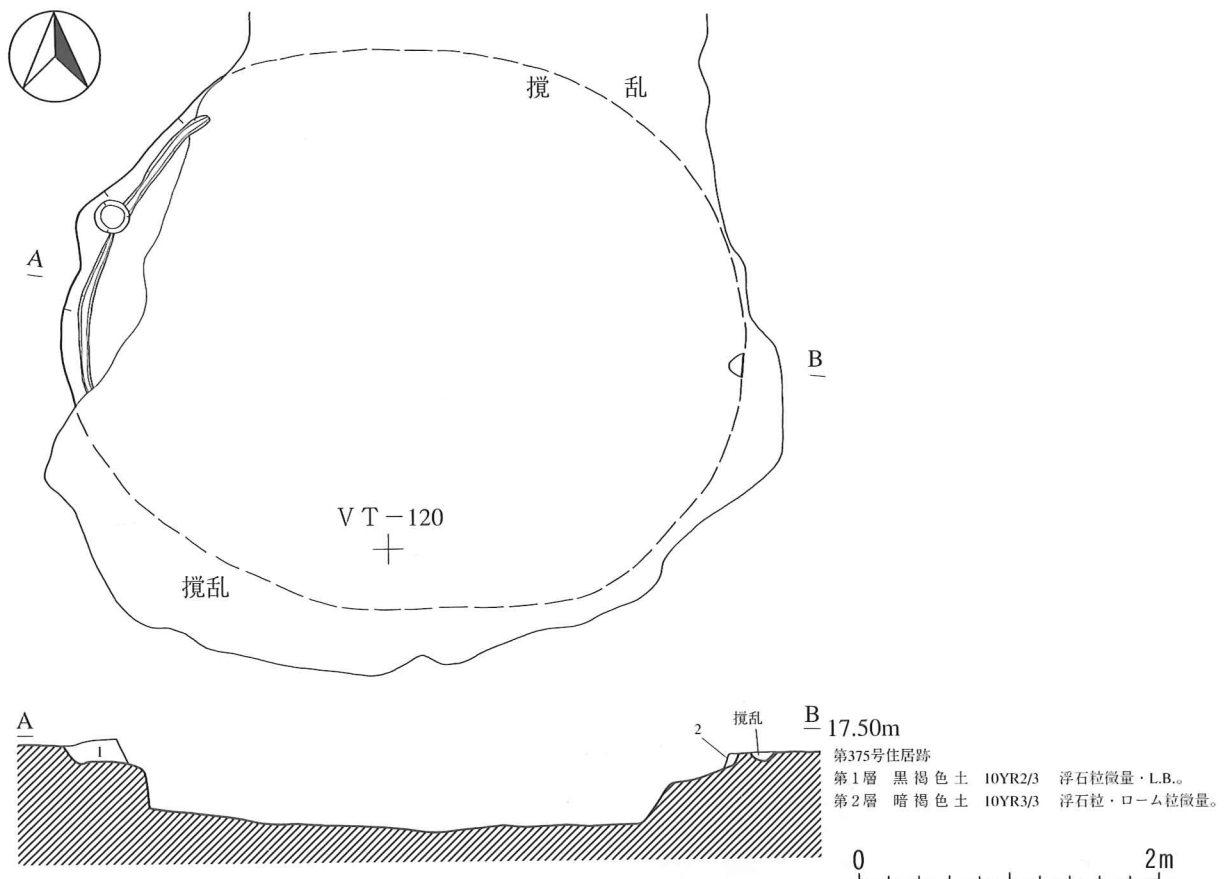
〔炉〕 検出されなかった。

〔堆積土〕 2層に分層した。残存部分が僅かであり自然堆積か人為堆積か判断できない。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 検出状況から縄文時代中期と考えられる。

(斎藤 岳)



167図 第375号住居跡

第376号住居跡 (168図)

〔位置と確認〕 VIB・C-118、VIB-119に位置する。第Ⅲ層精査中に黒褐色土の落ち込みとして確認した。

〔重複〕 第436・437号住居跡と重複し、本住居跡が最も古い。

〔平面形・規模〕 平面形は東西に長軸のある不整楕円形である。規模は短軸3m40cmである。

〔壁・床面〕 各壁ともに直線的に外傾しながら立ち上がる。壁高は西壁15cm、南壁14cm、北壁6cmである。床面はほぼ平坦である。

〔壁溝〕 検出されなかった。

〔柱穴〕 床面上に12個確認された。それぞれのピットの深さは、P₁…21cm、P₂…34cm、P₃…34cm、P₄…37cm、P₅…33cm、P₆…31cm、P₇…21cm、P₈…22cm、P₉…28cm、P₁₀…26cm、P₁₁…36cm、P₁₂…36cmである。

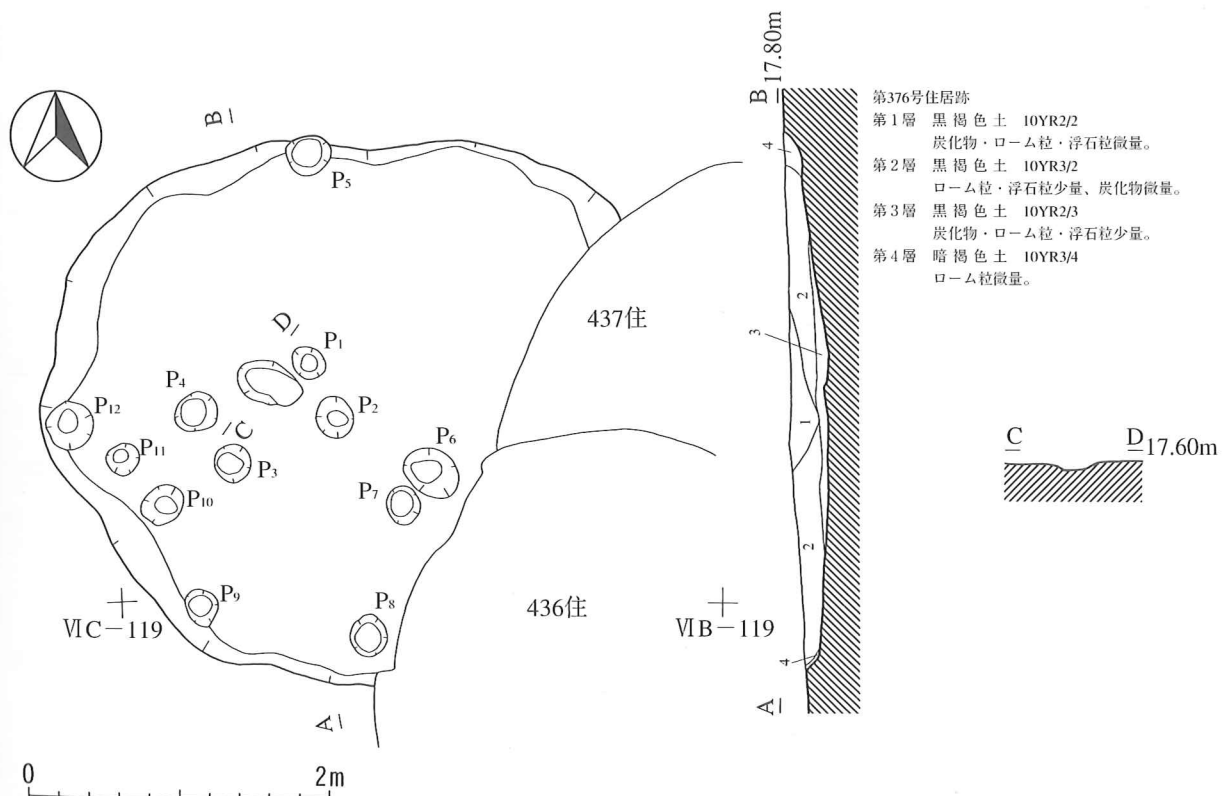
〔炉〕 床面中央からやや北西に地床炉を検出した。火烧面は確認できなかったが炭化物粒等から認定した。掘り方規模は44cm×26cm、深さ5cmである。

〔堆積土〕 4層に分層した。自然堆積と考えられる。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 検出状況から縄文時代であるが、細別については不明である。

(斎藤 岳)



第377号住居跡 (169図～171図)

〔位置と確認〕 VT・VIA-118・119に位置する。第Ⅲ層精査中に黒褐色土の楕円形の落ち込みとして確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は北西-南東に長軸のある楕円形である。規模は長軸 3 m46cm、短軸 2 m78cmで、床面積は6.38m²である。

〔壁・床面〕 各壁ともにゆるやかに外傾しながら立ち上がる。壁高は東壁18cm、西壁13cm、南壁19cm、北壁22cmである。床面はほぼ平坦であり、炉の周辺には貼り床がみられる。

〔壁溝〕 検出されなかった。

〔柱穴〕 床面上に12個確認された。それぞれのピットの深さは、P₁…14cm、P₂…23cm、P₃…21cm、P₄…15cm、P₅…23cm、P₆…24cm、P₇…34cm、P₈…20cm、P₉…19cm、P₁₀…22cm、P₁₁…13cm、P₁₂…18cmである。貼り床下からはP₁₃…20cmが確認された。

〔炉〕 床面中央から土器埋設炉を検出した。掘り方の規模は54cm×44cm、深さ25cmである。

〔その他の施設〕 炉の北西の貼り床の下に長軸60cm、短軸46cm、深さ8cmの浅い窪みが検出された。炉に関連する施設の可能性がある。なお、P₈は周辺の床面が若干起伏があり、付属施設の可能性がある。

〔堆積土〕 6層に分層した。自然堆積か人為堆積かは不明である。

〔出土遺物〕 炉の土器は第Ⅲ群4類である。堆積土からも第Ⅲ群4・5類土器が出土した。

〔時期〕 炉として使用された土器から縄文時代中期中葉（円筒上層d式期）である。

（斎藤 岳）

第378号住居跡 (172図)

〔位置と確認〕 VT・VIA-116・117に位置する。第Ⅲ層精査中に黒褐色土の楕円形の落ち込みとして確認した。

〔重複〕 第379号住居跡、第679・682号土坑と重複し、本住居跡が古い。一部床面まで攪乱を受けている。

〔平面形・規模〕 平面形は円形と考えられる。規模は東西で3 m60cmである。

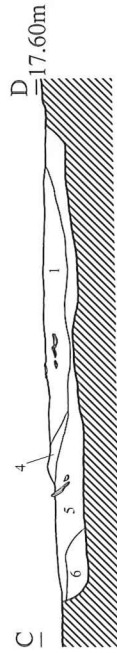
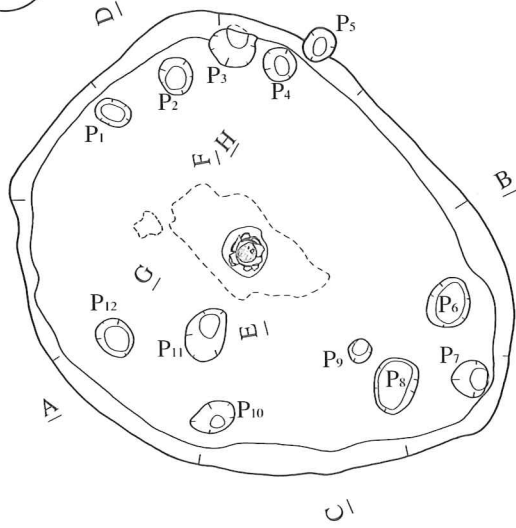
〔壁・床面〕 各壁ともに直線的に外傾しながら立ち上がる。壁高は東壁4cm、西壁11cm、北壁4cmである。床面は若干の凹凸がある。

〔柱穴〕 床面上に19個確認された。それぞれのピットの深さはP₁…49cm、P₂…51cm、P₃…78cm、P₄…66cm、P₅…67cm、P₆…14cm、P₇…63cm、P₈…38cm、P₉…12cm、P₁₀…27cm、P₁₁…19cm、P₁₂…16cm、P₁₃…12cm、P₁₄…15cm、P₁₅…20cm、P₁₆…20cm、P₁₇…18cm、P₁₈…16cm、P₁₉…16cmである。P₁及びP₃あるいはP₂及びP₄が主柱穴である可能性がある。

〔炉〕 床面中央の42cm×36cm、深さ11cmの窪みが地床炉に相当するものと考えられるが、焼土は確認されていない。

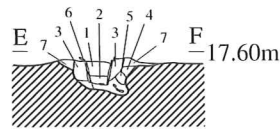
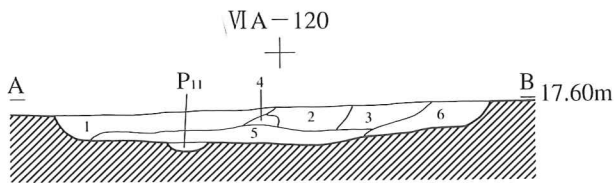
〔堆積土〕 3層に分層した。自然堆積と考えられる。

〔出土遺物〕 堆積土から第Ⅱ群6類、第Ⅲ群6類土器が、ピット3堆積土から敲磨器類などが出土した。



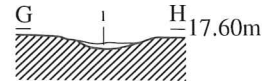
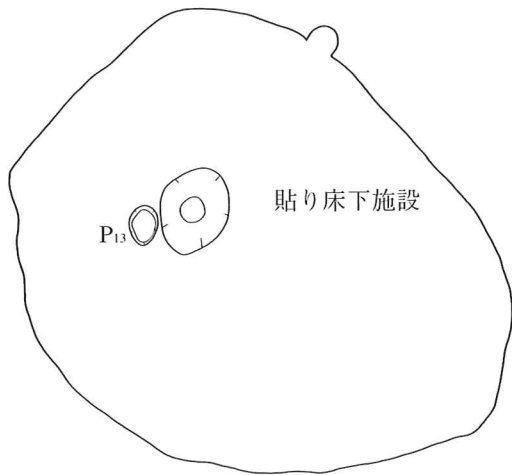
第377号住居跡

- 第1層 黒褐色土 10YR3/1 浮石粒少量、炭化物・焼土粒微量。
- 第2層 黒褐色土 10YR2/2 浮石粒・炭化物・焼土粒微量。
- 第3層 黒褐色土 2.5Y1/3 L.B.多量、浮石粒少量。
- 第4層 黒褐色土 10YR2/2 L.B.・浮石粒少量。
- 第5層 黒褐色土 2.5Y1/3 L.B.・浮石粒少量。
- 第6層 黒褐色土 10YR3/1 浮石粒少量。



第377号住居跡 炉

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 L.B.・浮石粒少量。
- 第2層 黒褐色土 10YR2/3 上面は炉火焼面。焼土粒多量。
- 第3層 黒褐色土 10YR2/2 浮石粒・炭化物微量。
- 第4層 褐色土 10YR4/6
- 第5層 暗褐色土 10YR3/3 浮石粒少量。
- 第6層 にぶい黄褐色土 10YR5/4 浮石粒少量。
- 第7層 明黄褐色土 10YR6/6 貼床。

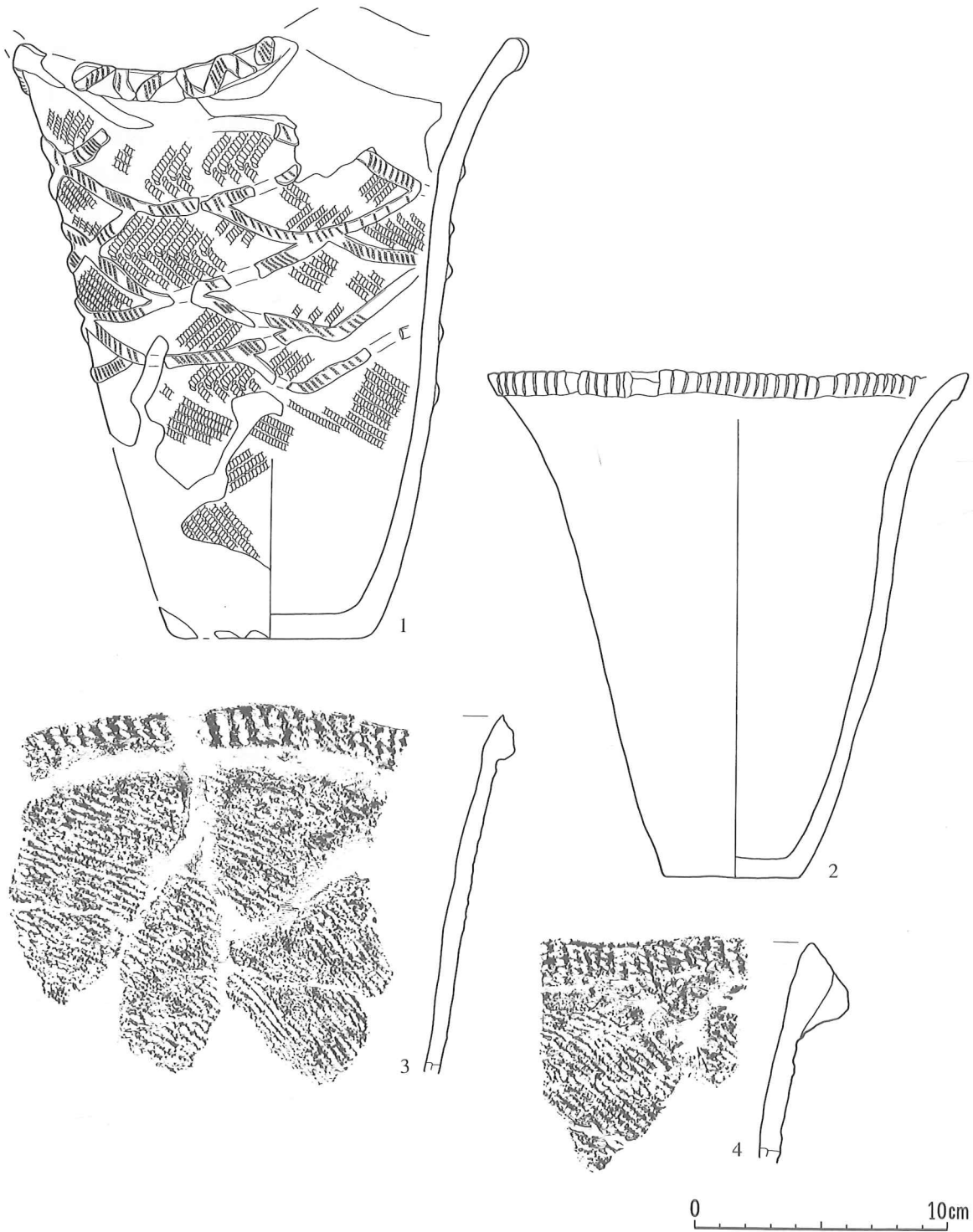


第377号住居跡 貼り床下施設

- 第1層 明黄褐色土 10YR7/6 貼り床。床面との間に黒褐色土(10YR7/6)入る。

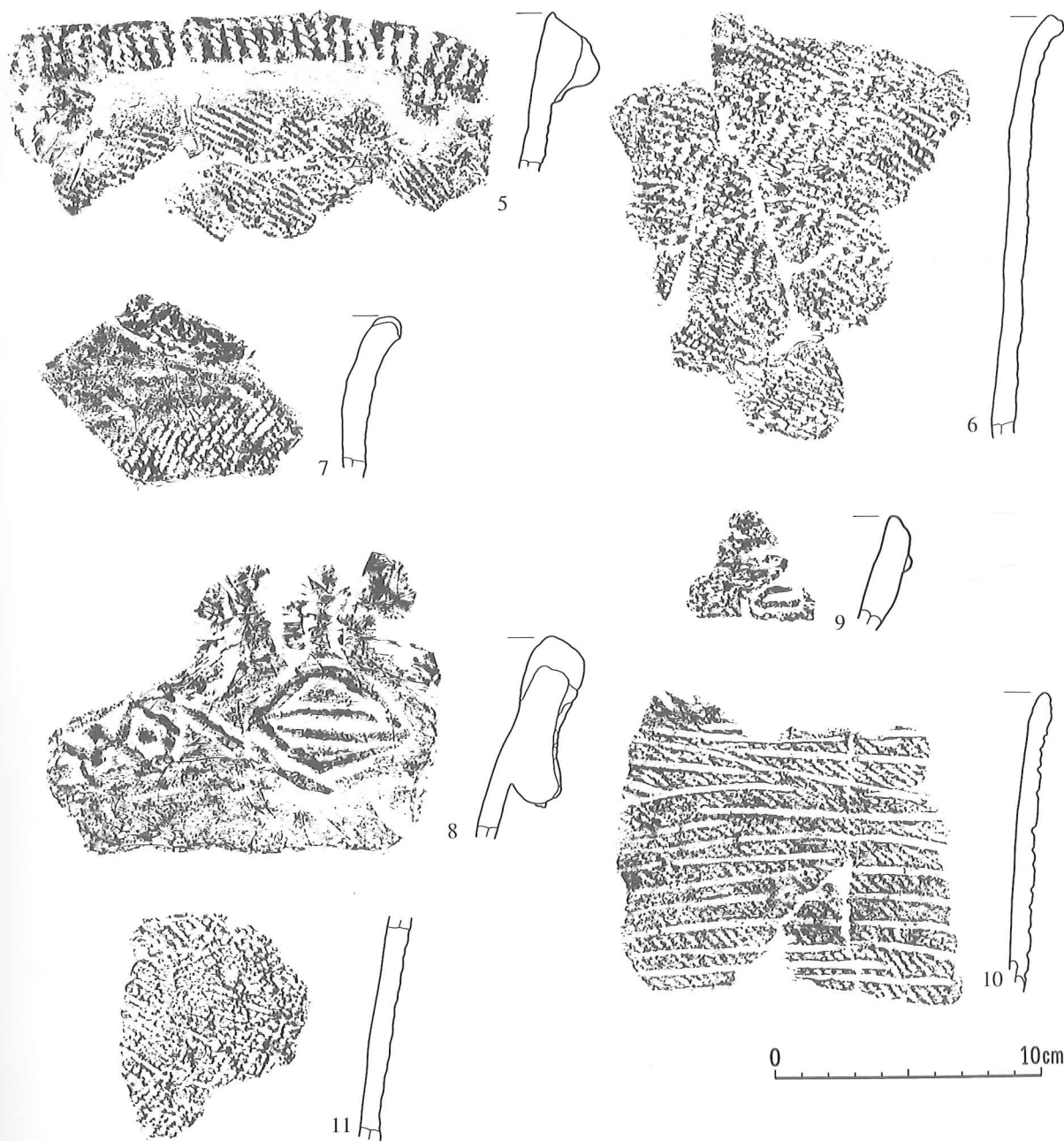


169図 第377号住居跡



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	377住炉		貼付 (R押)	結束第一種、貼付 (R押)	結束第一種 (LR, RL)	ミガキ	無文	Ⅲ-4	
2	377住	堆積土	刻み	無文	無文	〃	〃	Ⅲ-4・5	
3	〃	〃	RL押、RL			〃		〃	3~5同一個体
4	〃	〃	〃、〃			〃		〃	

170図 第377号住居跡出土遺物 (1)

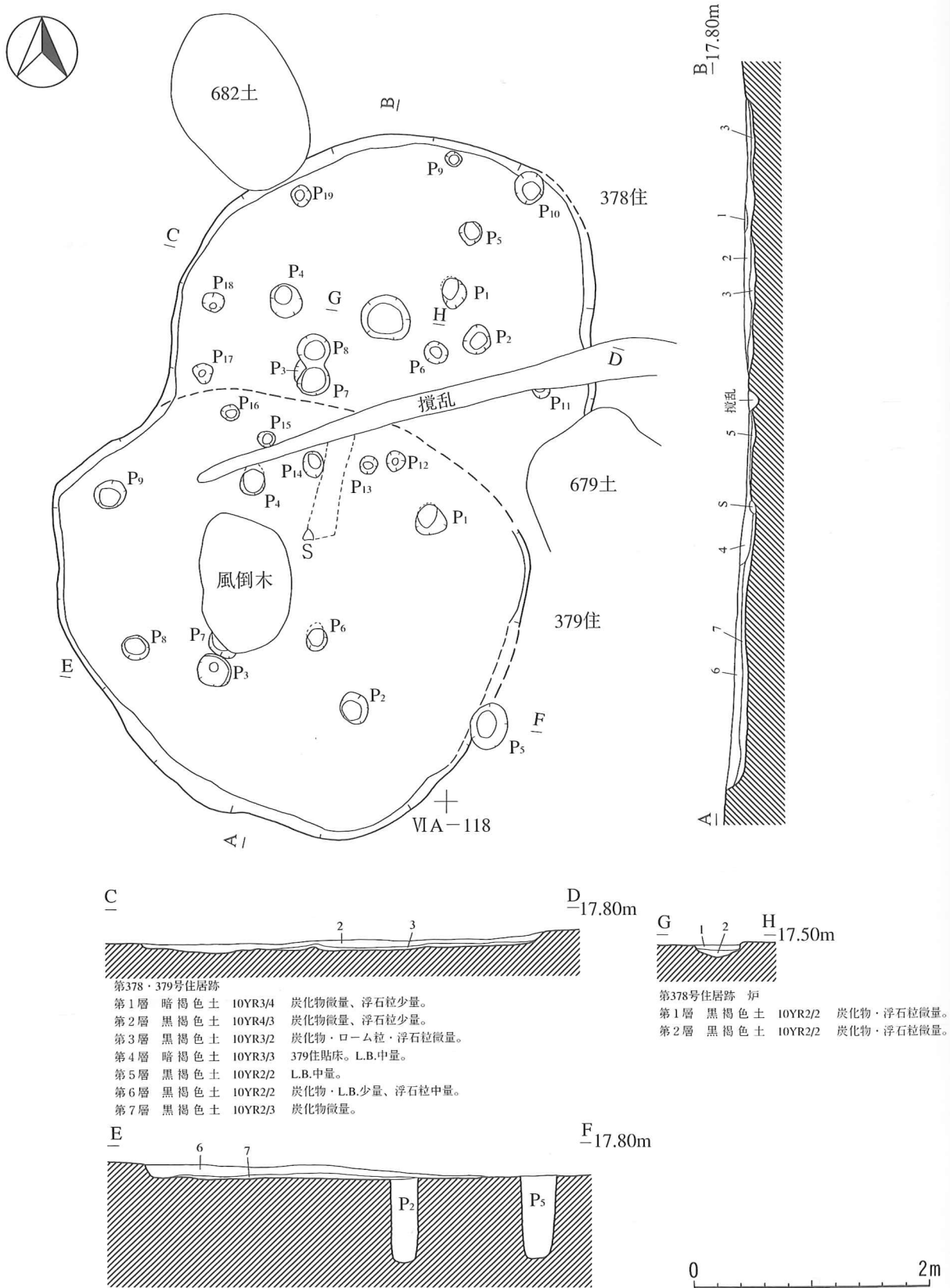


番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
5	377住	堆積土	RL押、RL			ミガキ		Ⅲ-4・5	
6	〃	〃	肥厚	結束第一種 (LR、RL)		〃		〃	
7	〃	〃	貼付	LR?		〃		〃	
8	〃	〃	〃			〃		〃	
9	〃	〃	〃	貼付 (剥落)、沈線		〃		Ⅲ-5	
10	〃	〃	LR押、LR、沈線	LR、沈線		〃		〃	
11	〃	〃	〃	結束第一種 (LR、RL)		〃		Ⅲ-6	

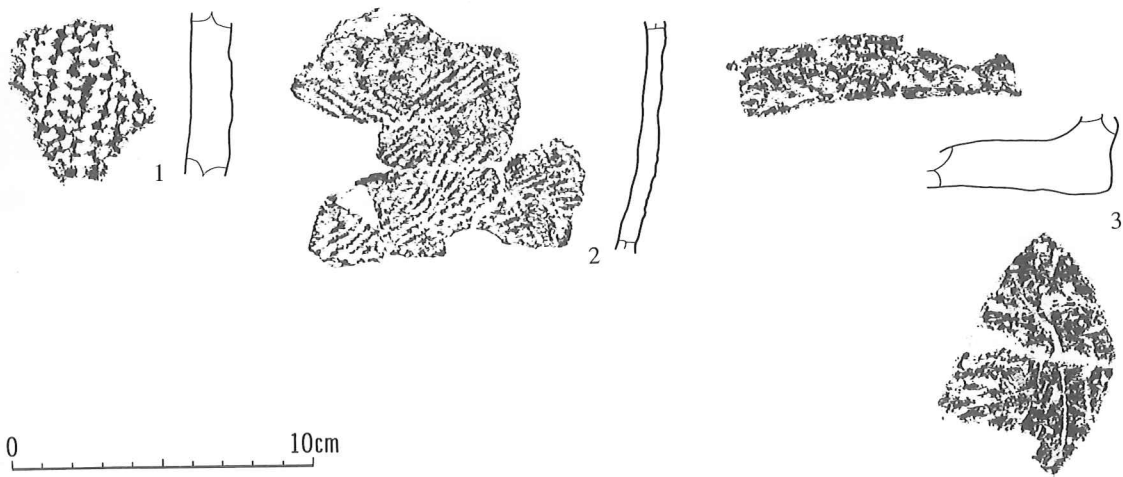
171図 第377号住居跡出土遺物 (2)

[時期] 検出状況から縄文時代であり、炉や柱穴配置から前期の可能性はある。

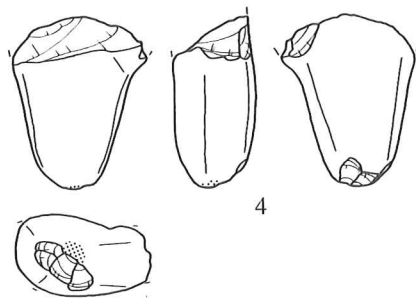
(斎藤 岳)



172図 第378号・379号住居跡



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	378住	堆積土		RLR		ミガキ		II-6	
2	〃	〃			結束第一種 (LR, RL)	〃		III-6	
3	〃	〃			RL?	〃	擦痕状	〃	



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
4	378住ビット3	堆積土	68	53	32	133.0	頁	Ib		46335

173図 第378号住居跡出土遺物

第379号住居跡 (174図)

〔位置と確認〕 VT・VI A-117・118に位置する。第Ⅲ層精査中に黒褐色の楕円形の落ち込みとして確認した。

〔重複〕 第378号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。風倒木により攪乱を受けている。

〔平面形・規模〕 平面形は北西-南東に長軸のある不整楕円形である。規模は長軸 4 m12cm、短軸 3 m54cmで、床面積は推定10.77m²である。

〔壁・床面〕 各壁ともに直線的に外傾しながら立ち上がる。壁高は東壁 4 cm、西壁12cm、南壁12cmである。床面はほぼ平坦であり、第378号住居跡と重複する部分では部分的に貼床が検出された。

〔柱穴〕 床面上に9個確認された。それぞれのピットの深さは、P₁…71cm、P₂…71cm、P₃…103cm、P₄…65cm、P₅…70cm、P₆…101cm、P₇…64cm、P₈…40cm、P₉…18cmである。

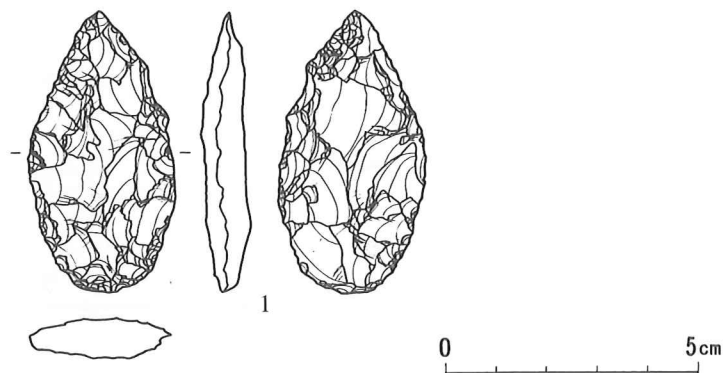
〔炉〕 確認できなかった。

〔堆積土〕 5層に分層した。自然堆積と考えられる。

〔出土遺物〕 床面直上から石槍などが出土した。

〔時期〕 検出状況から縄文時代である。

(斎藤 岳)



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備	考	整理番号
1	379住	床直	51	29	10	13.1	珪頁	Ba			50116

174図 第379号住居跡出土遺物

第380号住居跡（175図～176図）

〔位置と確認〕 V T・VI A-117・118に位置する。第Ⅲ層精査中に黒褐色土の楕円形の落ち込みとして確認した。

〔重複〕 第442号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。貼り床下の第442号住居跡が本住居跡の範囲内におさまるような重複状況であるため、本住居跡は拡張後の第442号住居跡である可能性もある。しかし、第442号住居跡の時期は円筒上層 d 式期であり、時間差が大きいことから、別住居とした。

〔平面形・規模〕 平面形は北東—南東に長軸のある楕円形である。規模は長軸 3 m80cm、短軸 3 m10cmで、床面積は8.52m²である。

〔壁・床面〕 各壁ともに直線的に外傾しながら立ち上がる。壁高は東壁10cm、西壁 5 cm、南壁15cm、北壁 8 cmである。床面はほぼ平坦であるが、東側・南側が大きく窪む。貼り床を欠失し、重複関係にある第442号住居跡の床面まで堆積土が落ち込むことによるものと考えられる。炉の南側には貼り床がみられる。

〔柱穴〕 床面上に11個確認された。それぞれのピットの深さは、P₁…13cm、P₂…21cm、P₃…19cm、P₄…14cm、P₅…25cm、P₆…23cm、P₇…20cm、P₈…18cm、P₉…37cm、P₁₀…20cm、P₁₁…11cmである。

〔炉〕 床面中央からやや北西寄りで土器片敷炉を検出した。掘り方規模は37cm×29cm、深さ13cmである。

〔堆積土〕 3層に分層した。自然堆積と考えられる。

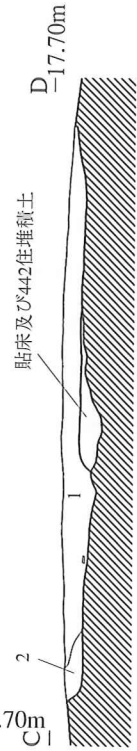
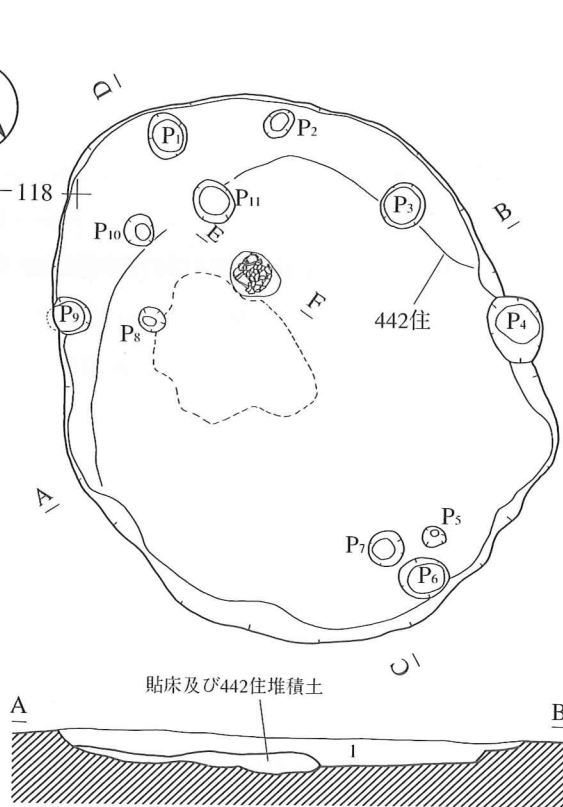
〔出土遺物〕 炉の土器は第Ⅲ群 8 類である。堆積土からは第Ⅲ群 4・5 類を主体とする土器が出土した。

〔時期〕 炉に使用された土器から縄文時代中期後葉（榎林式期）である。

（斎藤 岳）



VIA-118

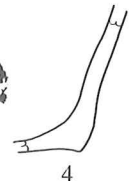
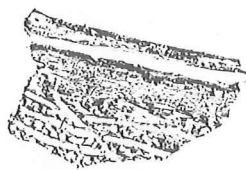


第380号住居跡
 第1層 黒褐色土 10YR2/3 浮石粒中量、炭化物微量。
 第2層 黒褐色土 10YR2/2 浮石粒中量、ローム粒少量。

E E 17.60m

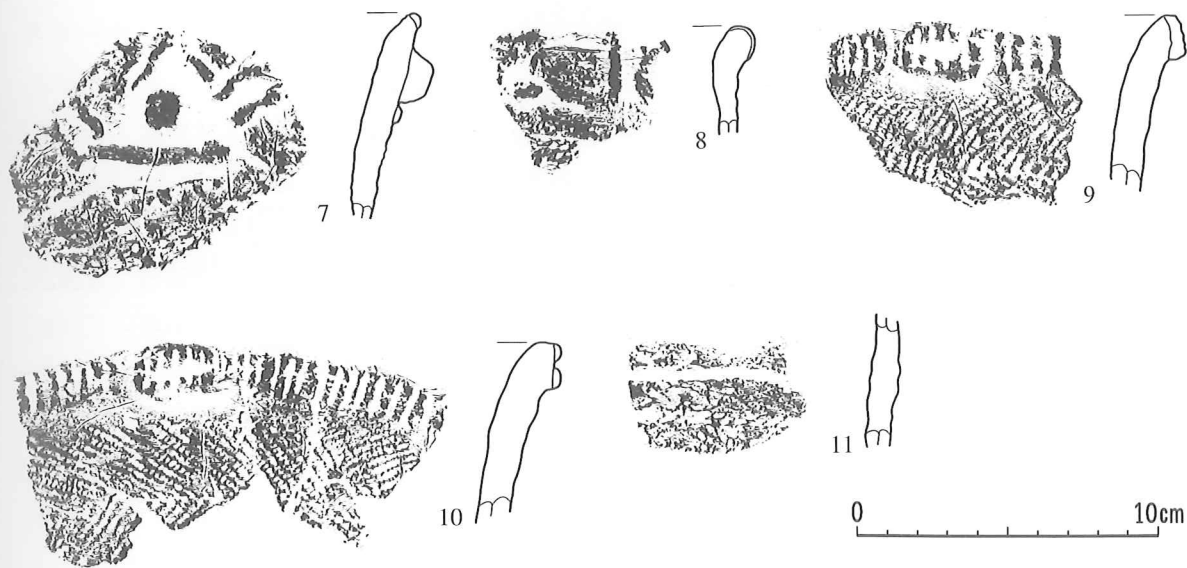


第380号住居跡 炉
 第1層 暗褐色土 10YR3/4 炭化物・浮石粒微量。



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	380住炉		凹状沈線、RL、沈線			ミガキ	III-8	1~4同一個体	
2	〃		〃			〃	〃		
3	〃			RL		〃	〃		
4	〃				RL	〃	無文	〃	
5	380住	堆積土	RL結回			〃	II-2		
6	〃	〃		貼付 (L押)、刺突		〃	III-3		

175図 第380号住居跡・出土遺物 (1)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
7	380住	堆積土	貼付 (一部剥落)	LR?		ミガキ		Ⅲ-4・5	
8	〃	〃	貼付			〃		〃	
9	〃	〃	〃 (刻み)	結束第一種 (LR, RL)		〃		〃	10と同一個体
10	〃	〃	〃	〃		〃		〃	
11	〃	〃		RL押		〃		〃	

176図 第380号住居跡出土遺物 (2)

第382号住居跡 (第177図)

〔位置と確認〕 V A・B-123に位置する。Ⅲ層中で黒色土の落ち込みを確認した。

〔重複〕 第317号住居跡と重複し、本住居跡が古い。

〔平面形・規模〕 平面形は不整円形であると思われ、規模は長軸 3 m 4 cm、床面積が5.69m²である。長軸方向は北東-南西である。

〔壁・床面〕 第Ⅵ層土を掘り込んで壁・床としている。壁は一部重複によって消失している。残存する壁の最大高は、32cmである。床は平坦で、比較的堅い。

〔柱穴〕 床面南側に1個、中央部に1個検出した。付属施設内からも3個の小ピットが検出されている。深さはP₁…18cm、P₂…14cm、P₃…3cm、P₄…14cm、P₅…6cmである。

〔炉〕 床面中央より土器埋設炉が確認された。掘り方は深さ約20cm、径約30cmである。土器は口縁を欠いた深鉢形で、正立して埋設される。

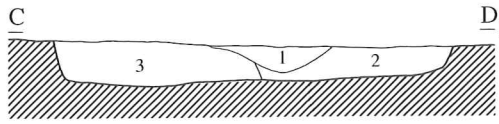
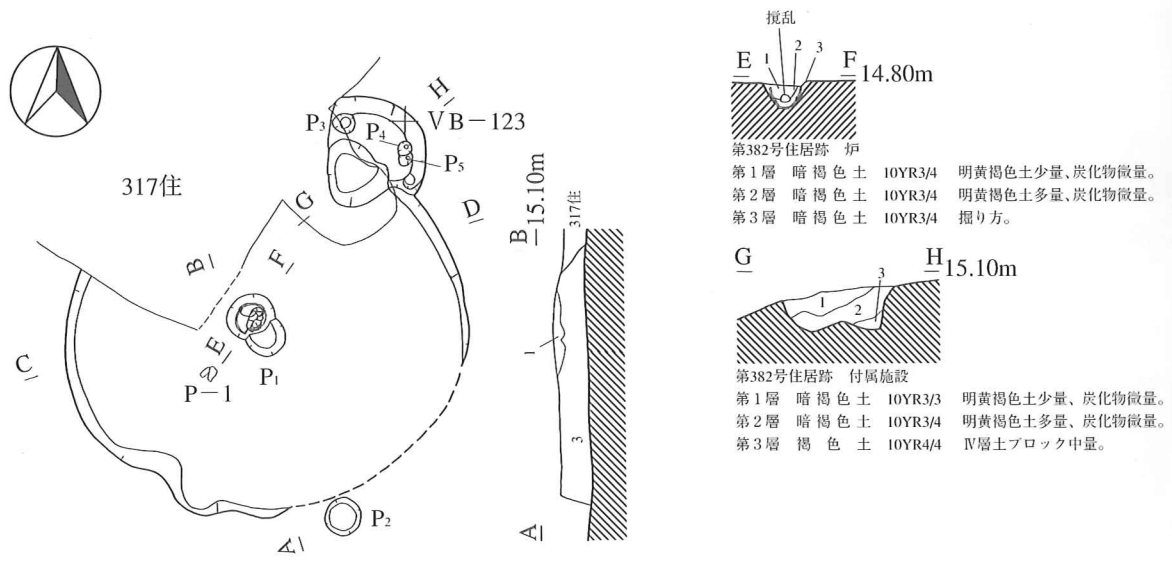
〔その他の施設〕 北東壁に、張り出しを伴う付属施設を確認した。長径約50cm、深さ約25cmのピット1個と、径約15cmの小ピット4個からなる。壁はもろい。

〔堆積土〕 暗褐色土を基調とする。第Ⅵ層土のブロックを多く混入し、全体に人為堆積の様相を呈している。

〔出土遺物〕 床面から第Ⅲ群5類土器が出土した。埋設炉の土器は図示できなかった。

〔時期〕 床面出土遺物より、縄文中期中葉 (円筒上層e式期) である。

(木村 真明・秦 光次郎)

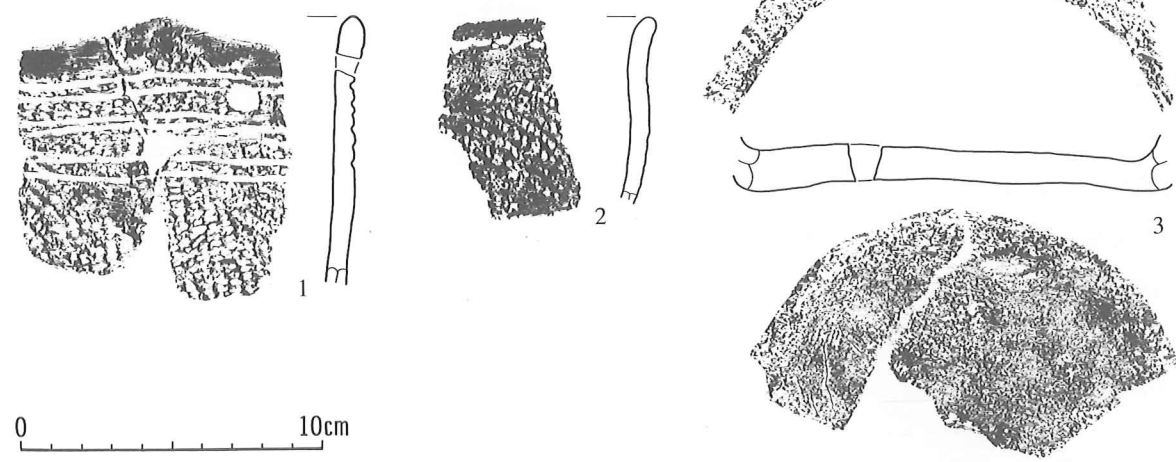


第382号住居跡

第1層 黒色土 10YR1.7/1 炭化物・明黄褐色土微量。

第2層 暗褐色土 10YR3/3 明黄褐色土少量、炭化物微量。

第3層 暗褐色土 10YR3/4 明黄褐色土多量、炭化物微量。



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	382住	床面	RL、沈線、貫通孔			ミガキ		Ⅲ-5	
2	382住付属施設	床直	RL押、RL			〃		Ⅲ-4・5	
3	382住	1			縄文?	〃	無文	Ⅲ-6	

177図 第382号住居跡・出土遺物

第383号住居跡（178図～182図）

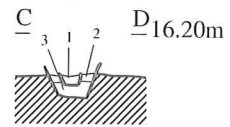
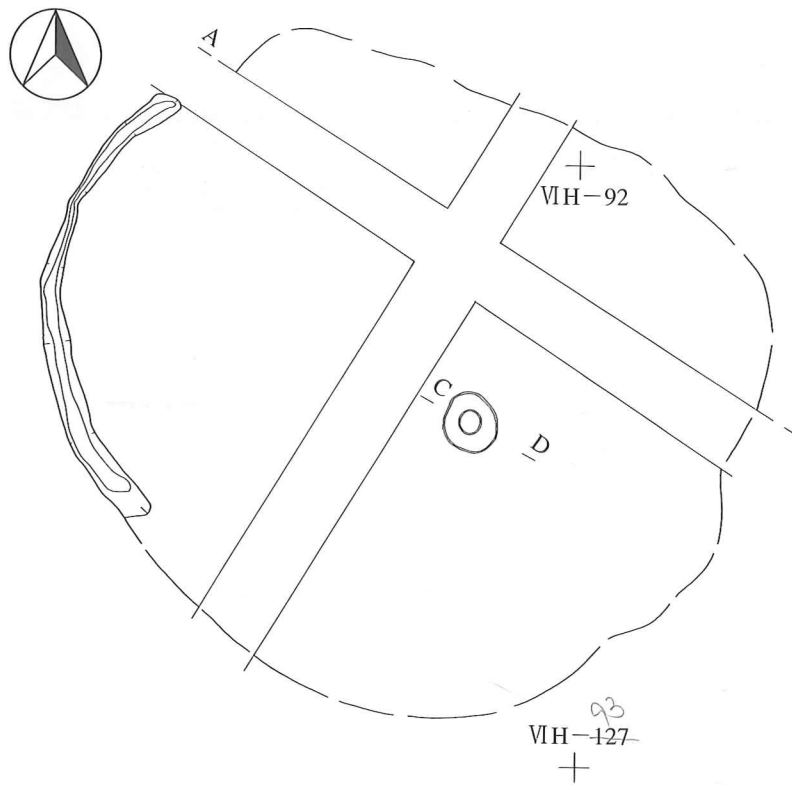
- 〔位置と確認〕 VI G・H-91・92に位置し、第Ⅲ層精査中に土器埋設炉と床面の一部を確認した。
- 〔平面形・規模〕 平面形は北西―南東に長軸のある楕円形と推定されるが、壁が残存しないので詳細は不明である。残存している範囲は長軸4 m85cm、短軸4 m10cmである。
- 〔壁・床面〕 壁は残存しない。床面はほぼ平坦であるが、貼り床はなく、軟弱である。
- 〔壁溝〕 西壁際から検出され、幅10cm～20cm、深さ6 cm～11cmである。
- 〔柱穴〕 検出されなかった。
- 〔炉〕 床面中央から南東方向に寄って土器埋設炉が検出された。土器は二重になっており、内側は下半部を、外側は胴部破片を使用し、別個体である。掘り方の規模は65cm×25cm、深さ25cmである。堆積土には微細な炭化物、焼土を含んでいる。明確な火烧面は検出されなかった。
- 〔堆積土〕 6層に分層した。人為堆積と考えられる。暗褐色土を基調とし、層全体にロームブロック、炭化物を含む。
- 〔出土遺物〕 埋設炉の土器は第Ⅱ群6類である。堆積土からは第Ⅱ群5-2類、第Ⅲ群1類を主体とする土器が出土した。石器は2層から敲磨器類などが、堆積土からスクレイパー類、R.フレイク、U.フレイク、石核、磨製石斧などが出土した。
- 〔時期〕 炉・堆積土出土遺物から縄文時代前期末葉～中期初頭と考えられる。

（岡田 康博）

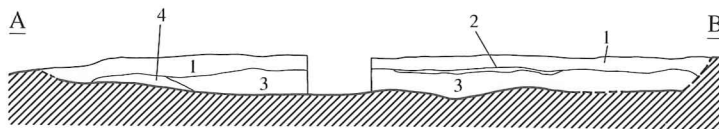
第384号住居跡（183図）

- 〔位置と確認〕 VI G-92・93に位置し、第Ⅲ層精査中に炉跡を確認した。
- 〔重複〕 第58～62号焼土と重複し、新旧関係は不明である。
- 〔平面形・規模〕 炉跡しか残存しないため、全体の形状は不明である。
- 〔壁・床面〕 残存しない。
- 〔柱穴〕 検出されなかった。
- 〔炉〕 低い周堤で囲まれた、掘り方を持つ地床炉と火烧面を検出した。掘り方の規模は1 m20cm×1 m20cm、深さ約15cmである。堆積土には大量の焼土と炭化物が含まれる。火烧面からは掘り方は検出されなかった。
- 〔堆積土〕 なし。
- 〔出土遺物〕 炉から第Ⅱ群6類土器、半円状扁平打製石器などが出土した。
- 〔時期〕 炉堆積土出土遺物から縄文時代前期後半と考えられる。

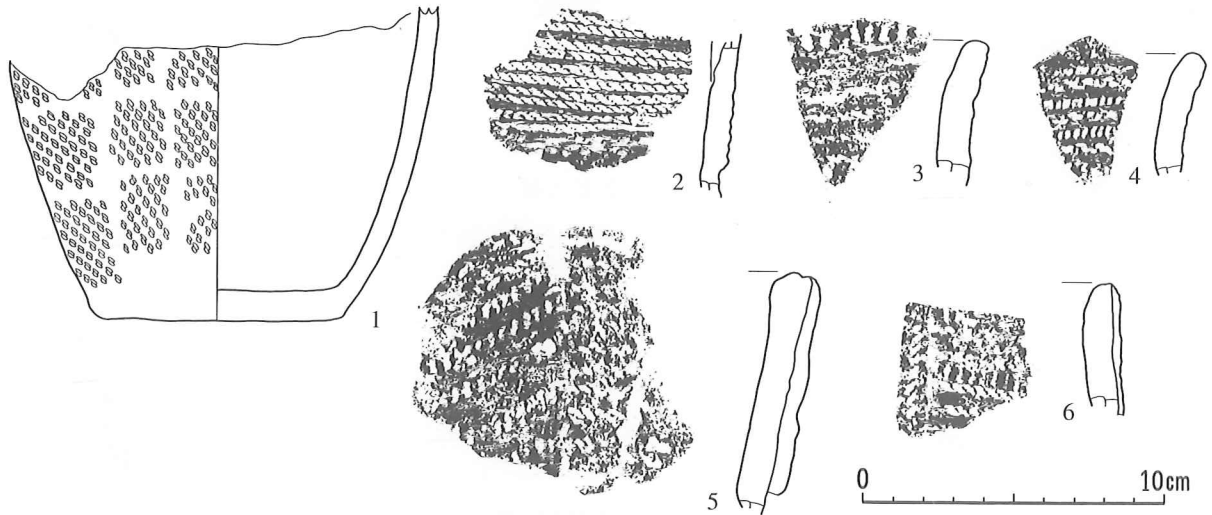
（岡田 康博）



第383号住居跡 炉
 第1層 褐色土 10YR4/4
 L.B.微量、炭化物少量。
 第2層 にぶい黄褐色土 10YR5/4
 L.B.・ローム粒・炭化物少量。
 第3層 明黄褐色土 10YR6/6
 L.B.少量、ローム粒・炭化物微量。

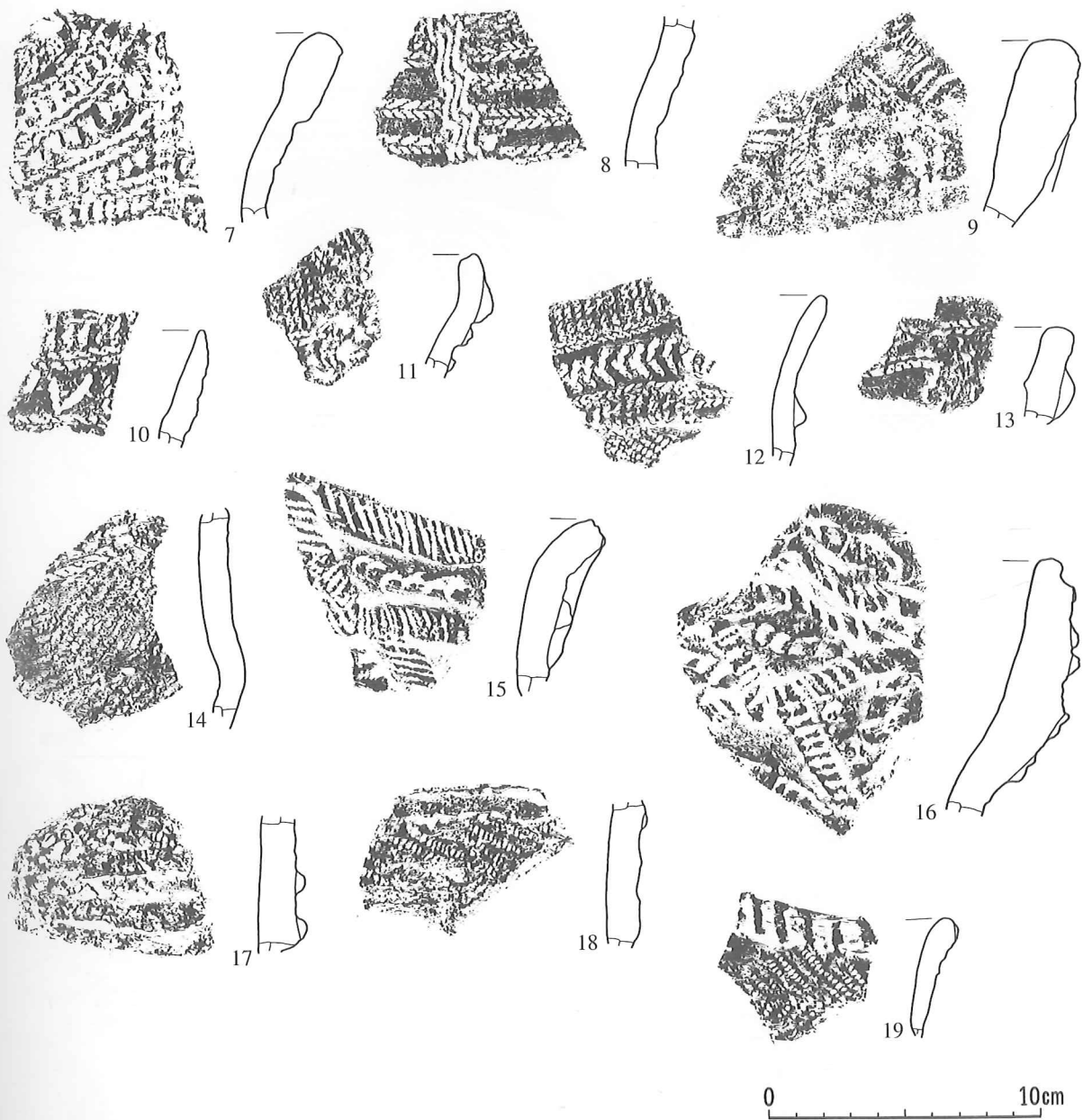


第383号住居跡
 第1層 にぶい黄褐色土 10YR5/3 焼土・炭化物・L.B.中量。
 第2層 灰黄褐色土 10YR4/2 炭化物多量、L.B.少量。
 第3層 褐色土 10YR4/4 炭化物・L.B.少量、焼土微量。
 第4層 褐色土 10YR4/6 炭化物・L.B.少量。



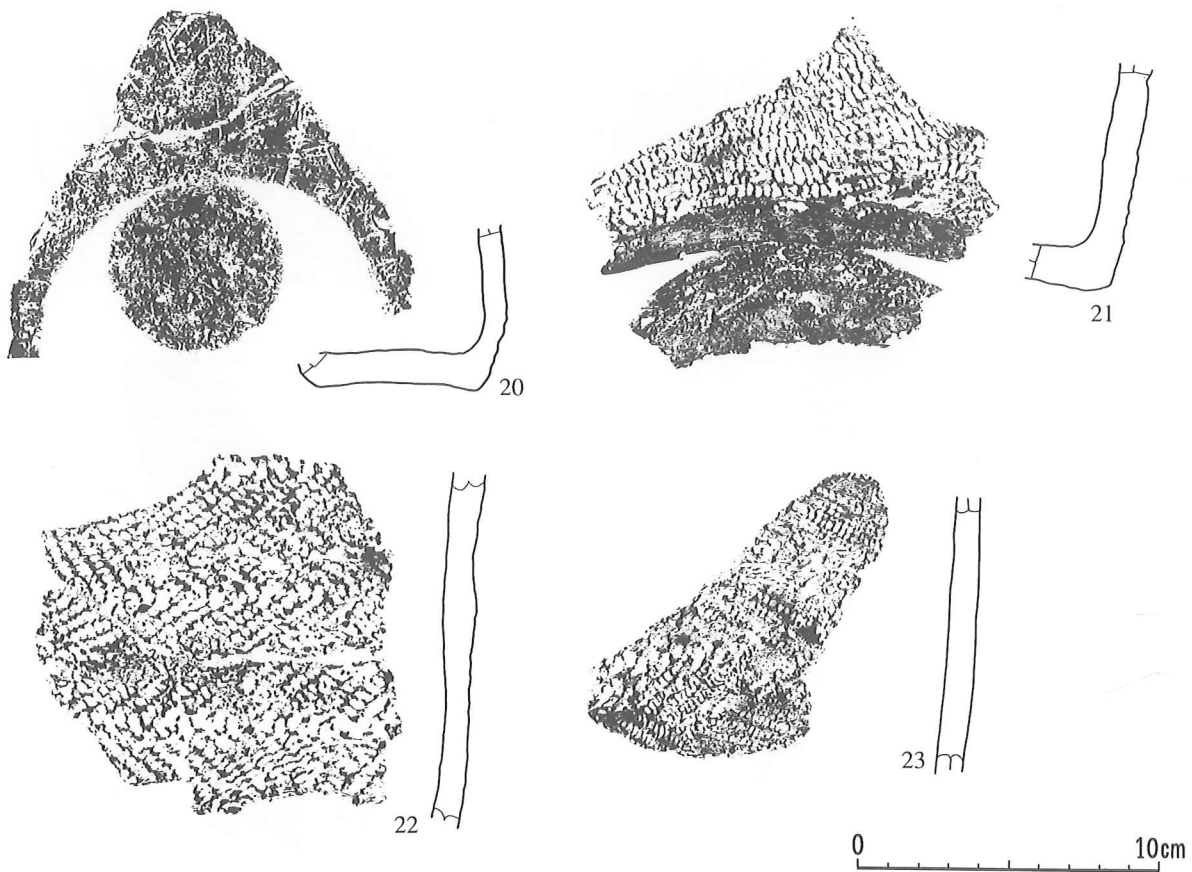
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	383住炉				RLR	ミガキ	無文	II-6	
2	383住	堆積土	LR押			剥落		II-5-2	
3	〃	〃	口唇上面刻み、LR押			ミガキ		〃	
4	〃	〃	単絡1押			〃		〃	
5	〃	〃	L単絡1押、貼付			〃		〃	
6	〃	〃	貼付(LR押)、LR押、刻み			〃		〃	

178図 第383号住居跡・出土遺物(1)

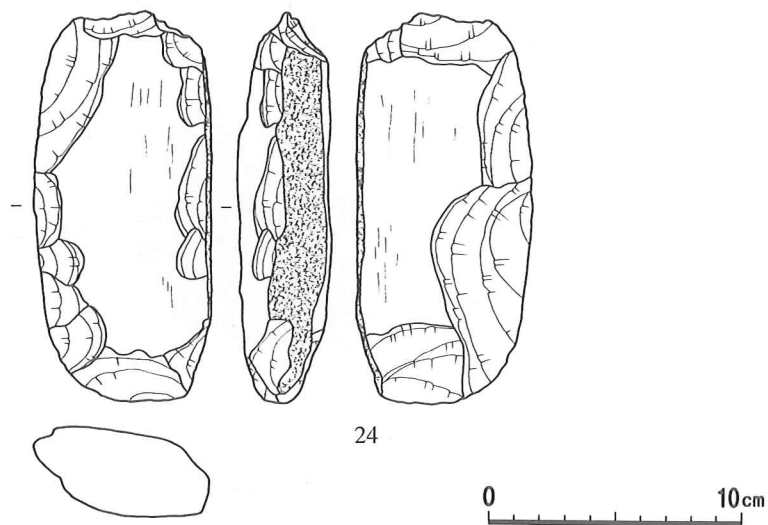


番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
7	383住	堆積土	単絡1押、LR押			ミガキ		Ⅱ-5-2	
8	〃	〃	LR・RL押、R結回			〃		〃	円形貼付剥落
9	〃	〃	L押			〃		Ⅲ-1	
10	〃	〃	LR押			〃		〃	
11	〃	〃	LR押、貼付(L・R押)			〃		〃	
12	〃	〃	〃	RL?		〃		〃	
13	〃	〃	RL・LR押、貼付(縄押)			〃		〃	
14	〃	〃		LR		〃		〃	頸部・胴部屈曲
15	〃	〃	貼付(L押)、L馬蹄形押			〃		Ⅲ-2	
16	〃	〃	〃(〃)、刺突			〃		Ⅲ-3	
17	〃	〃		結束第一種、貼付(L押)		〃		Ⅲ-4	
18	〃	〃		〃、貼付		〃		〃	
19	〃	〃	貼付、結束第一種			〃		Ⅲ-4・5	

179図 第383号住居跡出土遺物(2)

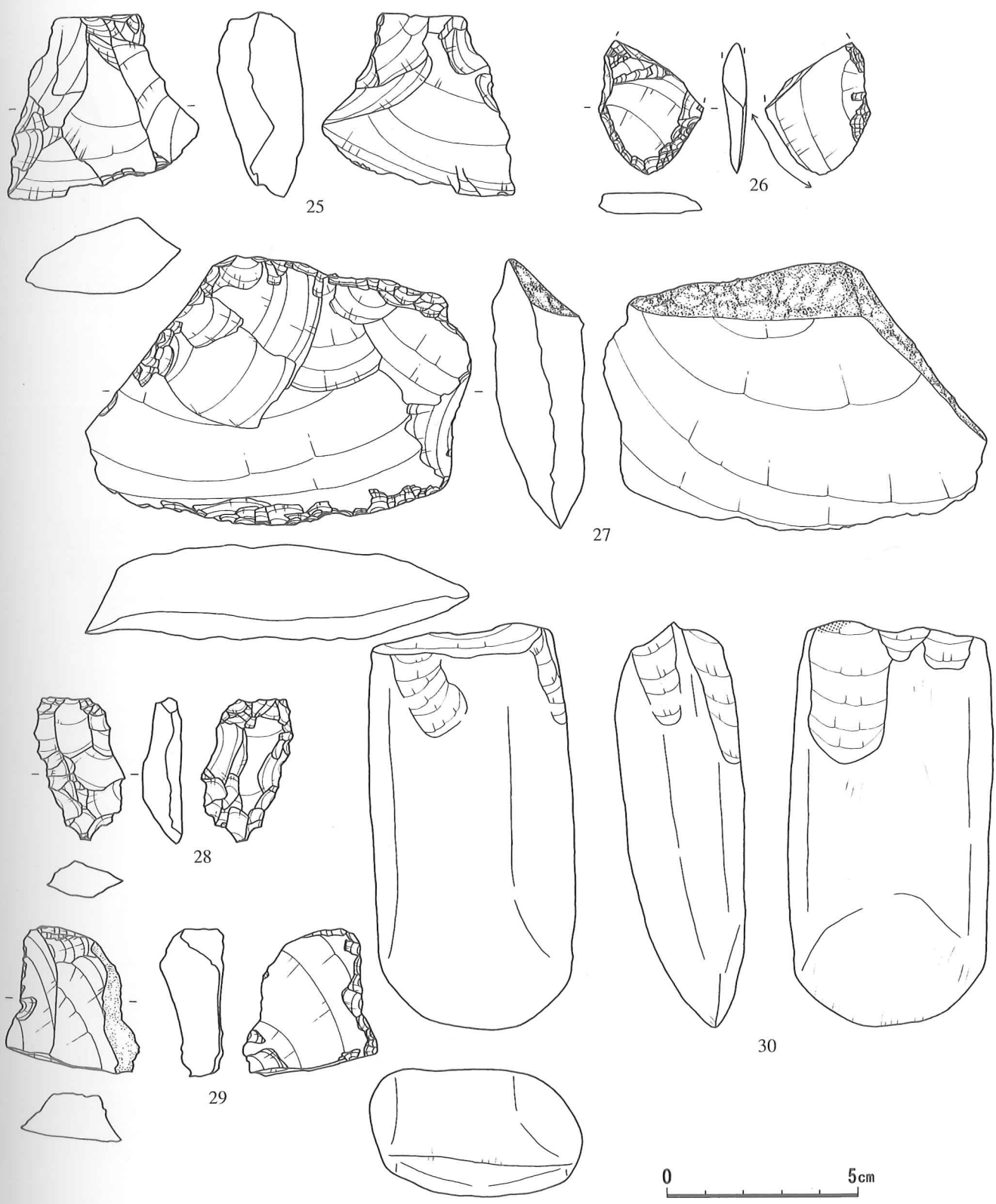


番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
20	383住	堆積土			擦痕状の沈線	ミガキ		Ⅲ-6	
21	〃	〃			R多軸絡	〃	無文	Ⅱ-6	
22	〃	〃			結束第一種 (LR、RL)	〃		Ⅲ-6	
23	〃	〃			〃 (〃)	〃		〃	



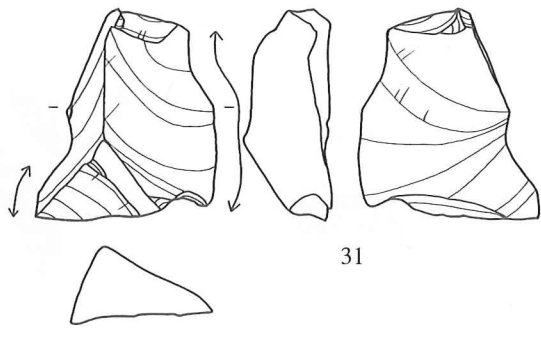
図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備 考	整理番号
24	383住	2	155	70	37	514.7	安	Ic		42588

180図 第383号住居跡出土遺物 (3)

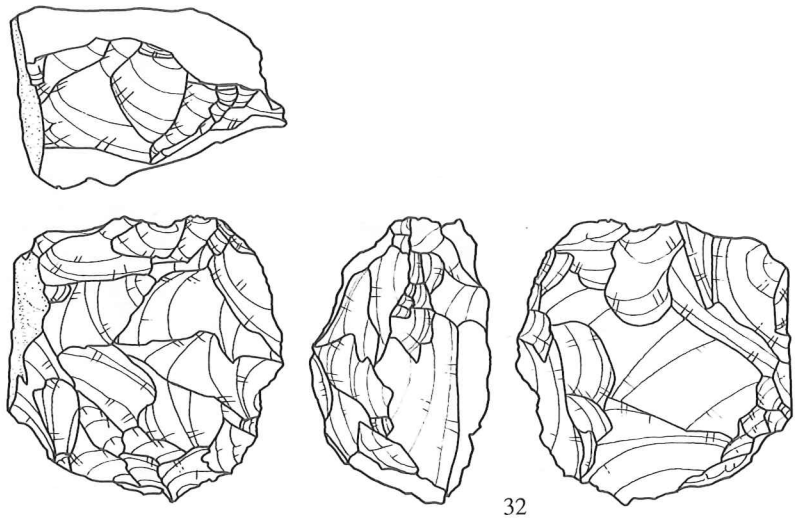


図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
25	383住	堆積土	48	50	22	37.9	珪頁	Gb		40150
26	〃	〃	(35)	27	(6)	(5.4)	〃	Ga		40146
27	〃	〃	71	110	24	162.3	〃	〃		40257
28	〃	〃	38	25	10	7.5	〃	〃		52121
29	〃	〃	39	35	17	19.0	〃	〃	欠損面から剥離加工	40199
30	〃	〃	107	55	34	301.6	閃	Ha		40160

181図 第383号住居跡出土遺物 (4)



31

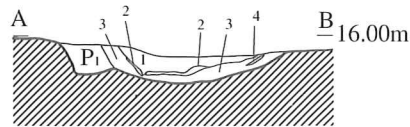
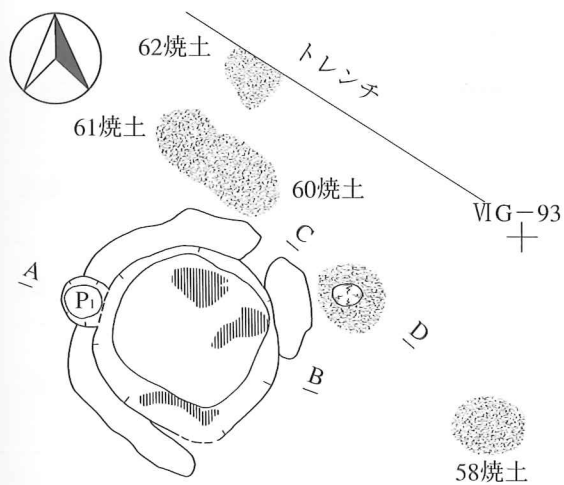


32

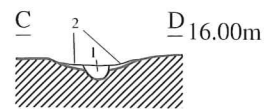


図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
31	383住	堆積土	42	36	18	18.0	珪頁	Gc		40147
32	〃	〃	57	55	36	121.6	〃	Pa		40213

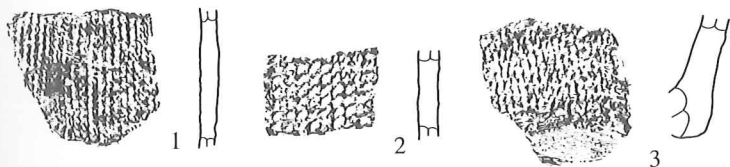
182図 第383号住居跡出土遺物 (5)



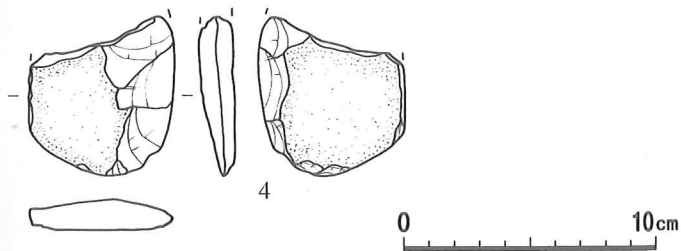
第384号住居跡 炉A-B
 第1層 灰黄褐色土 10YR4/2 炭化物・L.B.微量。
 第2層 暗褐色土 10YR3/3 炭化物多量。
 第3層 暗褐色土 10YR3/4
 第4層 黑褐色土 10YR3/2 炭化物少量、ローム粒微量。



第384号住居跡 炉C-D
 第1層 褐色土 10YR4/4 炭化物中量、ローム粒少量、焼土微量。
 第2層 黄褐色土 10YR7/8



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	384住炉	堆積土		R単絡I		ミガキ	II-6		
2	〃	〃		RLR		〃	〃		
3	〃	〃			L単絡I	〃	〃		



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
4	384住炉	堆積土	(62)	(52)	(14)	(56.2)	安	J		42494

183図 第384号住居跡・出土遺物

第385号住居跡 (184図～187図)

〔位置と確認〕 VI F・G-90に位置し、第Ⅲ層精査中に褐色土の落ち込みを確認した。

〔重複〕 第328・359・386・392・396号住居跡と重複し、第392・396号住居跡より新しく、第328・359・386号住居跡より古い。

〔平面形・規模〕 壁と柱穴しか残存していないため、全体の平面形は不明である。残存部分の規模は東西3m80cm、南北1m50cmである。

〔壁・床面〕 南壁しか残存しない。南壁は外傾しながら直線的に立ち上がる。壁高は3cmである。床面はほぼ平坦であるが、貼り床は施されておらず、軟弱である。

〔柱穴〕 柱穴が確認されたが明確に支柱穴と判断できるものはない。ピットの深さは、P₁…34cm、P₂…38cm、P₃…12cm、P₄…19cm、P₅…18cmである。

〔炉〕 残存しない。

〔堆積土〕 2層に分層した。人為堆積と考えられる。暗褐色土を基調とし、層全体にロームブロックを含む。

〔出土遺物〕 床面直上から第Ⅲ群6類、堆積土から第Ⅱ群5-2類、第Ⅲ群1類土器が出土した。石器は床面直上から敲磨器類、角柱状の礫石器などが、堆積土から敲磨器類などが出土した。

〔時期〕 床面直上・堆積土出土遺物及び重複関係から縄文時代中期初頭～前葉と考えられる。

(岡田 康博)

第386号住居跡 (184図・188図～189図)

〔位置と確認〕 VI G-89に位置し、第385号住居跡精査中に暗褐色土の落ち込みを確認した。

〔重複〕 第290・359・385号住居跡と重複し、第385号住居跡より新しく、第290・359号住居跡より古い。

〔平面形・規模〕 壁と柱穴しか残存していないため、全体の平面形は不明であるが隅丸長方形の可能性もある。残存部分の規模は東西2m50cm、南北3m95cmである。

〔壁・床面〕 南壁と東壁の一部しか残存しない。壁は外傾しながら直線的に立ち上がる。壁高は南壁9cm、東壁2cmである。床面はほぼ平坦であるが、貼り床は施されておらず、全体に軟弱である。

〔柱穴〕 柱穴が確認されたが明確に支柱穴と判断できるものはないものの、P₁・P₂・P₃はその可能性がある。ピットの深さは、P₁…22cm、P₂…26cm、P₃…41cmである。また、壁際には壁柱穴があり、直径5cm～10cm、深さ10cm～20cmである。

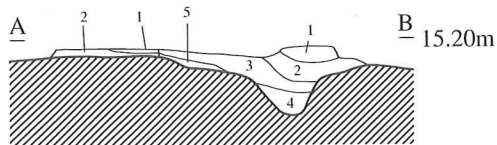
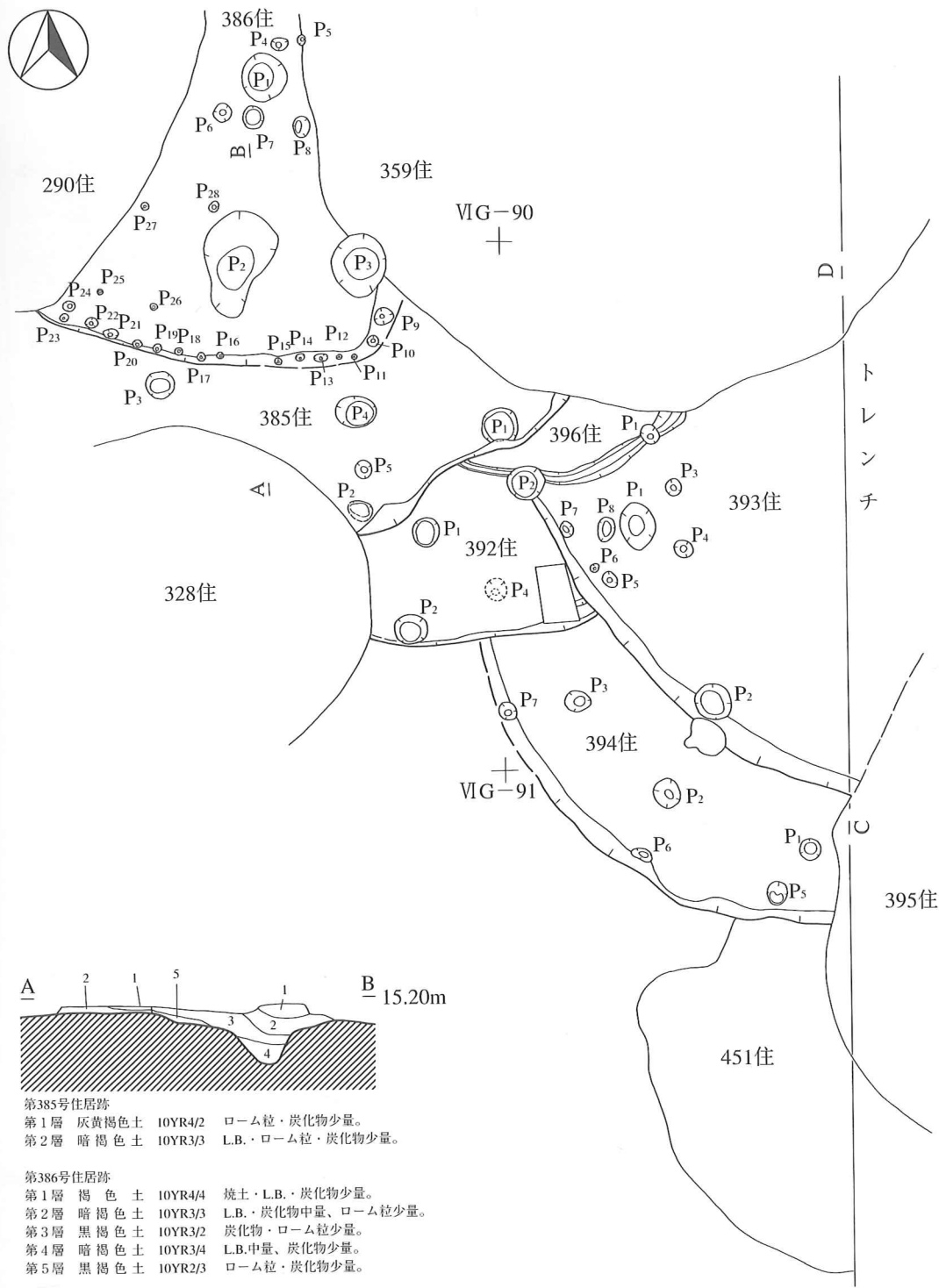
〔炉〕 残存しない。

〔堆積土〕 5層に分層した。人為堆積と考えられる。暗褐色土を基調とし、層全体にロームブロックを含む。

〔出土遺物〕 堆積土から第Ⅱ群3、5、6類土器、敲磨器類、抉入扁平磨製石器、石皿・台石類などが出土した。14は粘板岩の扁平礫を素材とし、部分的に剥離と研磨加工が施される。大きさからみて石製品の素材の可能性もある。

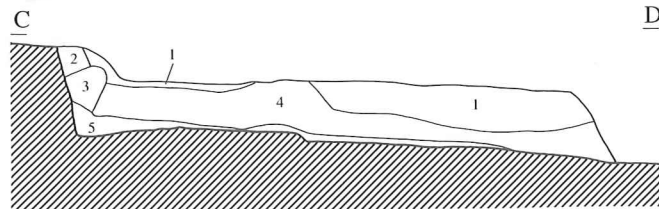
〔時期〕 堆積土出土遺物及び重複関係から縄文時代中期と考えられる。

(岡田 康博)



第385号住居跡
 第1層 灰黄褐色土 10YR4/2 ローム粒・炭化物少量。
 第2層 暗褐色土 10YR3/3 L.B.・ローム粒・炭化物少量。

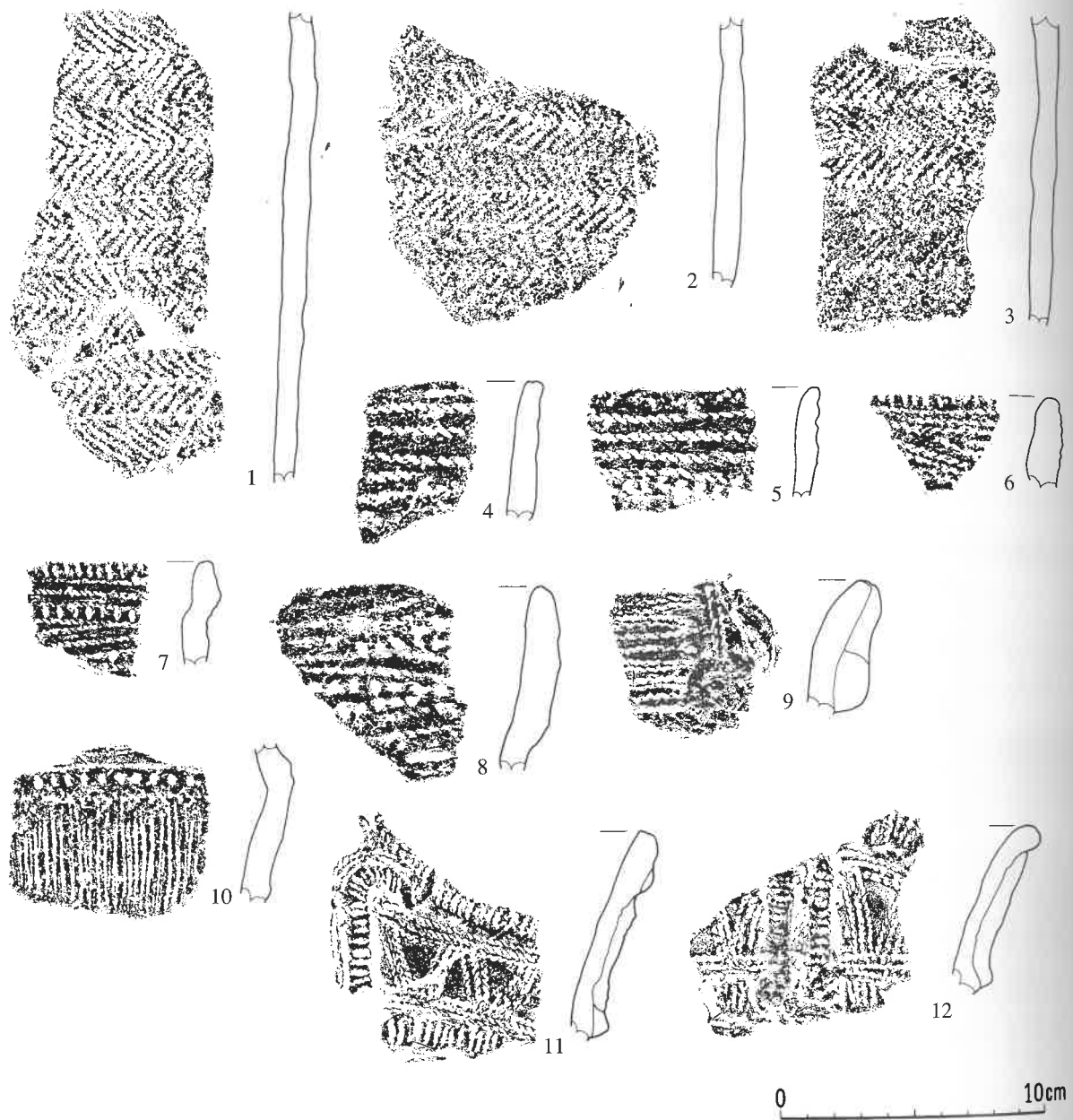
第386号住居跡
 第1層 褐色土 10YR4/4 焼土・L.B.・炭化物少量。
 第2層 暗褐色土 10YR3/3 L.B.・炭化物中量、ローム粒少量。
 第3層 黒褐色土 10YR3/2 炭化物・ローム粒少量。
 第4層 暗褐色土 10YR3/4 L.B.中量、炭化物少量。
 第5層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒・炭化物少量。



第393号住居跡
 第1層 暗褐色土 10YR3/4 炭化物・ローム粒・L.B.少量。
 第2層 褐色土 10YR4/4 炭化物・ローム粒・L.B.少量。
 第3層 黄褐色土 10YR5/6 ローム粒・L.B.少量、炭化物微量。
 第4層 にぶい黄褐色土 10YR5/3 炭化物・ローム粒・L.B.少量。
 第5層 褐色土 10YR4/6 炭化物・ローム粒・L.B.少量。

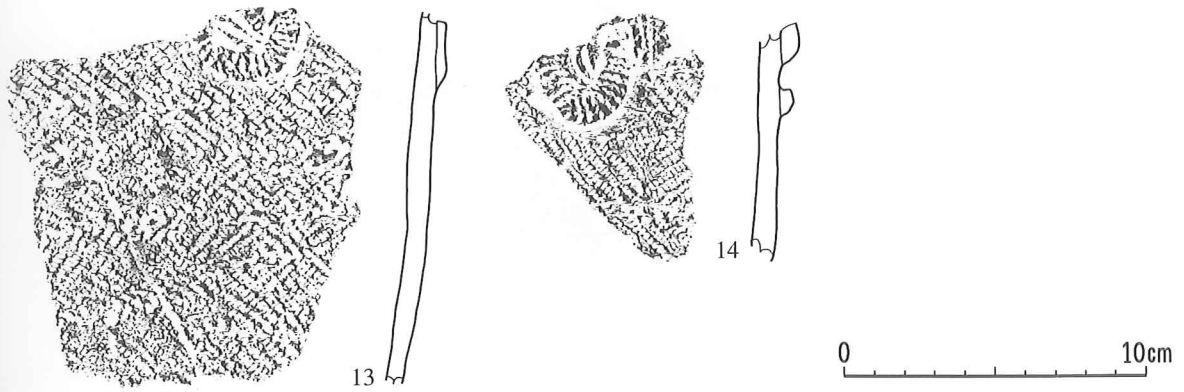


184図 第385号・386号・392号・394号・396号住居跡

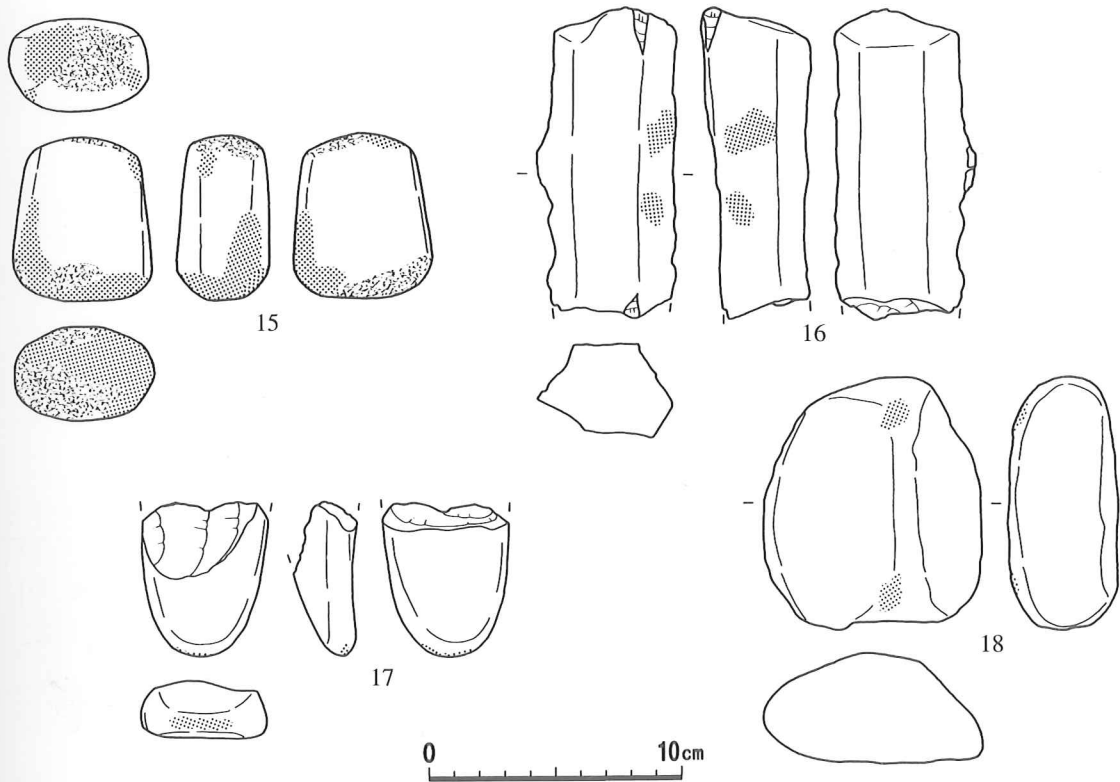


番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	385住	床直		結束第一種 (LR、RL)		ミガキ		Ⅲ-6	
2	〃	〃		〃 (〃)		〃		〃	
3	〃	〃		〃 (〃)		〃		〃	
4	〃	堆積土	LR押			〃		Ⅱ-5-2	
5	〃	〃	L押、C字状刺突			〃		〃	
6	〃	〃	RL押			〃		〃	
7	〃	〃	L押、刺突			〃		〃	
8	〃	〃	〃、〃			〃		〃	
9	〃	〃	貼付 (LR押)、LR押			〃		〃	
10	〃	〃		刺突、R単絡1		〃		〃	
11	〃	〃	貼付 (L押)、L・R押			〃		Ⅲ-1	12と同一個体
12	〃	〃	〃 (〃)、〃			〃		〃	

185図 第385号住居跡出土遺物 (1)

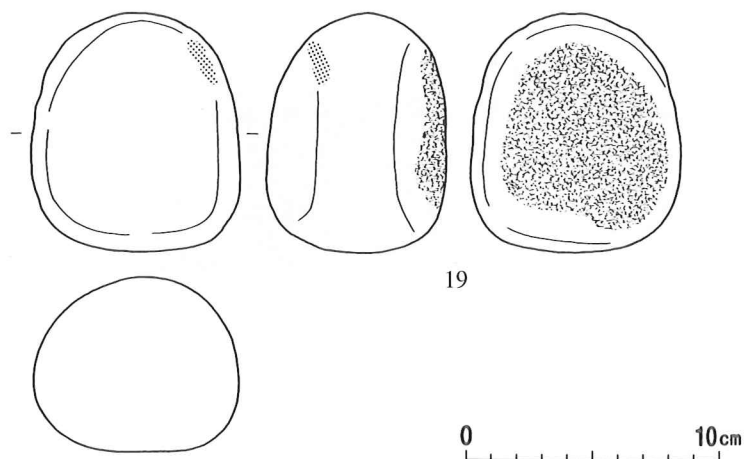


番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
13	385住	堆積土		貼付(L押)、結束第一種		ミガキ		Ⅲ-1~3	14と同一個体
14	〃	〃		〃(〃)、〃		〃		〃	



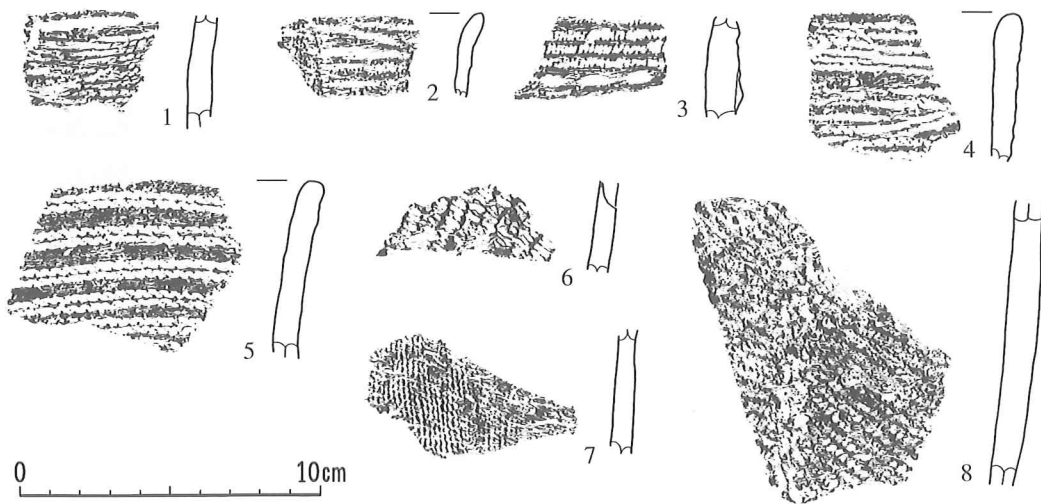
図版番号	出土地点	層位	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	石質	分類	備考	整理番号
15	385住	床直	65	55	37	226.2	安	Ib		42589
16	〃	〃	(122)	(55)	(43)	(363.7)	流	Ub	S-2	43713
17	〃	堆積土	(61)	(50)	(25)	(82.1)	安	Ib		42495
18	〃	〃	100	86	43	493.4	〃	〃		42592

186図 第385号住居跡出土遺物(2)



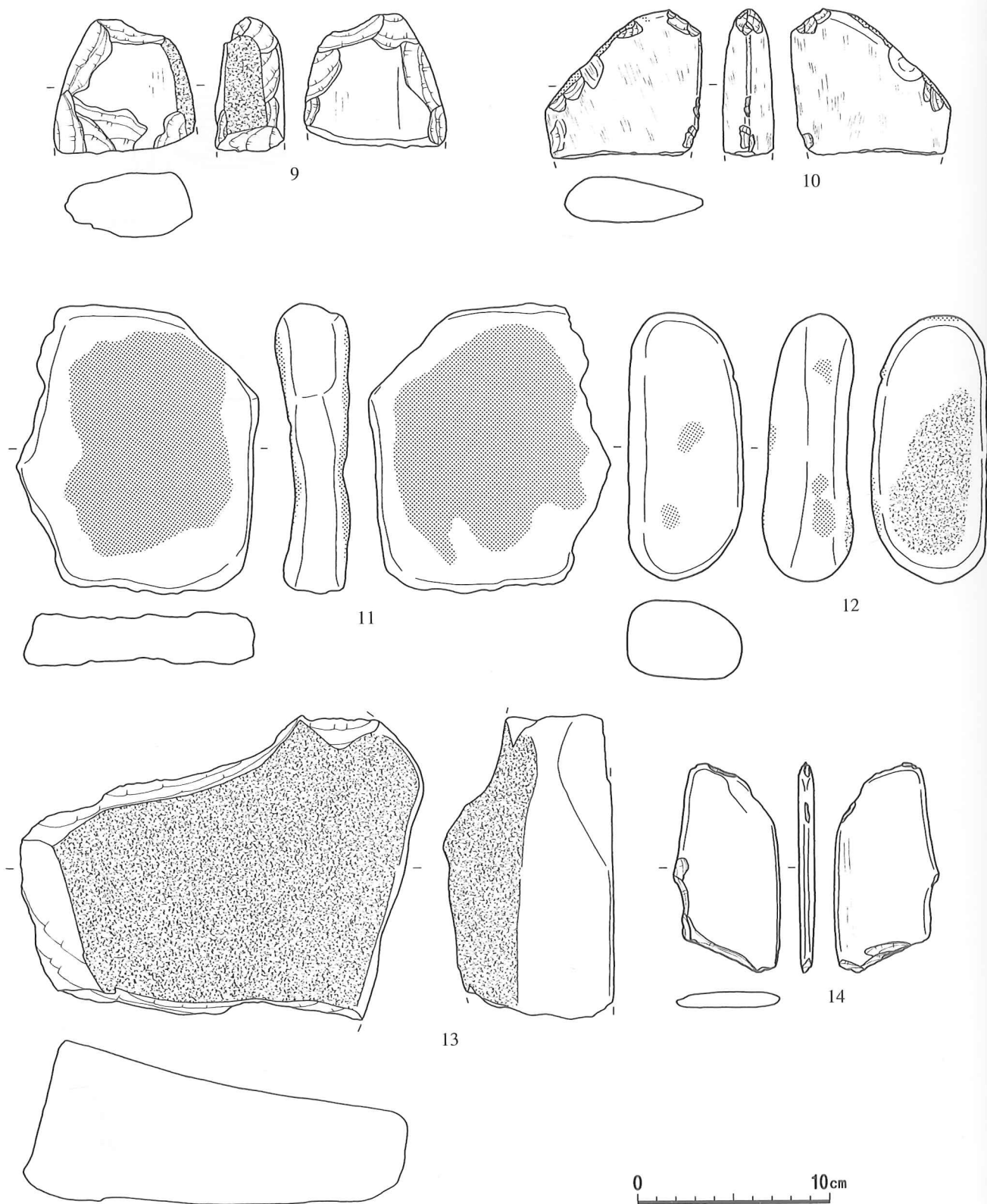
図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備	考	整理番号
19	385住	堆積土	95	83	71	747.7	流	Ic			42591

187図 第385号住居跡出土遺物 (3)



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	386住	堆積土	単絡1、LR?押			ミガキ		II-3	
2	〃	〃	単絡1押					II-5-1	
3	〃	〃	〃、刺突			ミガキ		〃	低隆帯状の膨隆
4	〃	〃	LR押			〃		II-5-2	
5	〃	〃	〃			〃		〃	
6	〃	〃		LR		〃		II-6	
7	〃	〃		RL、結回		〃		〃	
8	〃	〃		単絡1		〃		〃	

188図 第386号住居跡出土遺物(1)



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
9	386住	堆積土	(70)	(74)	(36)	(236.5)	安	Ic		42594
10	〃	〃	(77)	82	(26)	(196.9)	〃	K		42593
11	〃	〃	151	126	38	1055.8	〃	L		42596
12	〃	〃	140	60	47	552.8	流	Ib		42595
13	〃	〃	(159)	(210)	(89)	(3514.2)	安	L		46427
14	〃	〃	109	56	8	70.2	粘	Q		42497

189図 第386号住居跡出土遺物 (2)

第387号住居跡（190図～193図）

〔位置と確認〕 VI G・H-87・88に位置し、第287号住居跡精査中に暗褐色土の隅丸長方形の落ち込みを確認した。

〔重複〕 第287・388号住居跡と重複し、本住居跡が最も古い。

〔平面形・規模〕 平面形は東西に長軸のある隅丸長方形である。規模は長軸5 m20cm、短軸4 m30cmである。床面積は推定19.2m²である。

〔壁・床面〕 各壁ともに外傾しながら直線的に立ち上がる。壁高は東壁30cm、西壁13cm、南壁45cm、北壁20cmである。床面はほぼ平坦で、貼り床は施されていないものの堅緻である。

〔柱穴〕 主柱穴はP₁・P₂で、さらにP₄₂・P₈₁がその可能性が高い。傾斜面の山側のみが明確に検出された。ピットの深さは、P₁…23cm・P₂…44cm・P₄₂…20cm・P₈₁…12cmである。また、立て替えの痕跡が認められ、中軸線上に炉を跨ぐように2個配置されていた可能性がある。壁際には壁柱穴がほぼ全周巡り、直径5cm～10cm、深さ6cm～21cmである。

〔炉〕 床面のほぼ中央から地床炉が検出された。掘り方の規模は約1 m20cm×85cm、深さ15cmである。堆積土には微細な炭化物、焼土を大量に含んでいる。作り替えが認められ、火烧面が2枚検出された。

〔堆積土〕 12層に分層した。人為堆積と考えられる。暗褐色土を基調とし、層全体にロームブロック、炭化物を含む。

〔出土遺物〕 床面直上から第Ⅱ群6類土器が、堆積土から第Ⅱ群2、3、5-1類土器が出土した。石器は第7層から敲磨器類などが、第4層から敲磨器類、石皿・台石類などが、第2層から敲磨器類などが、その他の堆積土から石匙、スクレイパー類、敲磨器類などが出土した。

〔時期〕 床面直上・第2層出土遺物から縄文時代前期末(円筒下層d₁式期)に近い時期と考えられる。

(岡田 康博)

第388号住居跡（194図～206図）

〔位置と確認〕 VI F・G-86・87に位置し、第287号住居跡精査中に暗褐色土の楕円形の落ち込みを確認した。

〔重複〕 第287・387号住居跡と重複し、第287号住居跡より新しく、第387号住居跡より古い。

〔平面形・規模〕 平面形は東西に長軸のある隅丸長方形に近い楕円形である。規模は長径6 m25cm、短径4 m95cmである。床面積は25.44m²である。

〔壁・床面〕 各壁ともに緩やかに湾曲しながら立ち上がる。壁高は東壁10cm、西壁12cm、南壁50cm、北壁30cmである。床面はほぼ平坦で、南壁際の貼り床は顕著である。全体に堅緻である。

〔壁溝〕 西壁の一部から検出された。幅10cm、深さ4cmである。

〔柱穴〕 主柱穴はP₁～P₄の4本柱で炉の周囲に配置され、それら以外にも対角線上に柱の圧痕が確認された。ピットの深さは、P₁…42cm、P₂…35cm、P₃…44cm、P₄…44cmである。

〔炉〕 床面のほぼ中央から地床炉が検出された。掘り方の規模は1 m×1 m10cm、深さ20cmである。堆積土中に炭化物、焼土を含む。

〔その他の施設〕 住居外の南東隅から出入口施設と考えられる張り出しが検出された。南東に延

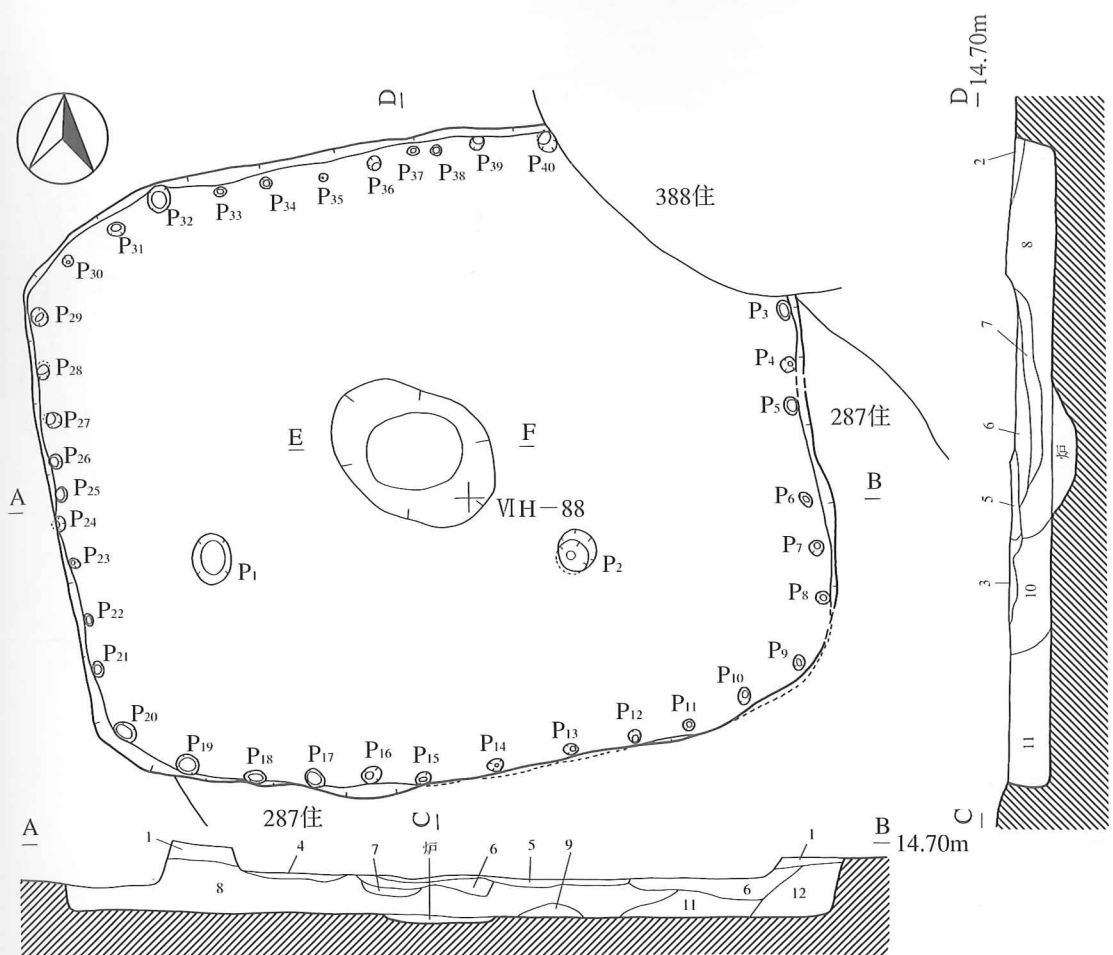
びる舌状で、規模は95cm×1m20cm、深さ10cmで、ほぼ平坦である。全面に貼り床が施され、南壁際からは壁溝が検出された。壁溝の規模は幅15cm、深さ5cmである。

〔堆積土〕 13層に分層した。人為的堆積と考えられる。暗褐色土を基調とし、層全体にロームブロック・炭化物を微量に含む。

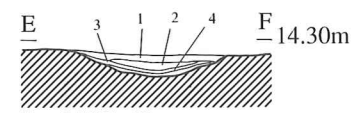
〔出土遺物〕 堆積土から第Ⅱ群3類を主体とする多量の土器が出土した。石器は第7層から角柱状の礫石器など、堆積土から石鏃、石匙、石錐、スクレイパー類、黒曜石製剥片、異形石器、磨製石斧、半円状扁平打製石器、敲磨器類などが出土した。

〔時期〕 ピット堆積土出土遺物及び重複関係から縄文時代前期中葉（円筒下層b式期）と考えられる。

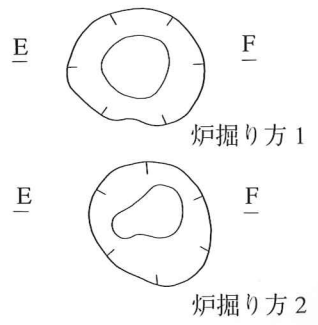
（岡田 康博）



- 第387号住居跡
- | | | | |
|------|---------|---------|--------------------------------------|
| 第1層 | 褐色土 | 10YR4/4 | ローム粒・パミス少量、炭化物微量、焼土粒極微量。 |
| 第2層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | 炭化物少量、ローム粒、パミス微量。 |
| 第3層 | にぶい暗褐色土 | 10YR7/4 | 黒色土微量、炭化物・パミス・細砂微量。 |
| 第4層 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | 炭化物中量、ローム粒、L.B.少量、焼土粒・パミス微量。 |
| 第5層 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | ローム粒・L.B.・パミス少量、炭化物・焼土粒極微量。287住の床。 |
| 第6層 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | 炭化物少量、ローム粒、パミス微量、焼土粒極微量。 |
| 第7層 | 黒褐色土 | 10YR2/3 | 炭化物中量、ローム粒少量、焼土・パミス微量。 |
| 第8層 | 黒褐色土 | 10YR2/3 | ローム粒・L.B.少量、炭化物・パミス微量、焼土粒極微量。 |
| 第9層 | 暗褐色土 | 10YR3/4 | ローム粒・L.B.少量、炭化物・パミス微量、焼土粒極微量。 |
| 第10層 | 黒褐色土 | 10YR2/3 | ローム粒・L.B.少量、炭化物・パミス微量、焼土粒極微量。287住の床。 |
| 第11層 | 暗褐色土 | 10YR3/4 | ローム粒・L.B.中量・パミス微量、炭化物微量。 |
| 第12層 | 暗褐色土 | 10YR3/4 | ローム粒・L.B.・パミス少量、炭化物微量。 |

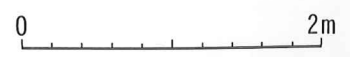


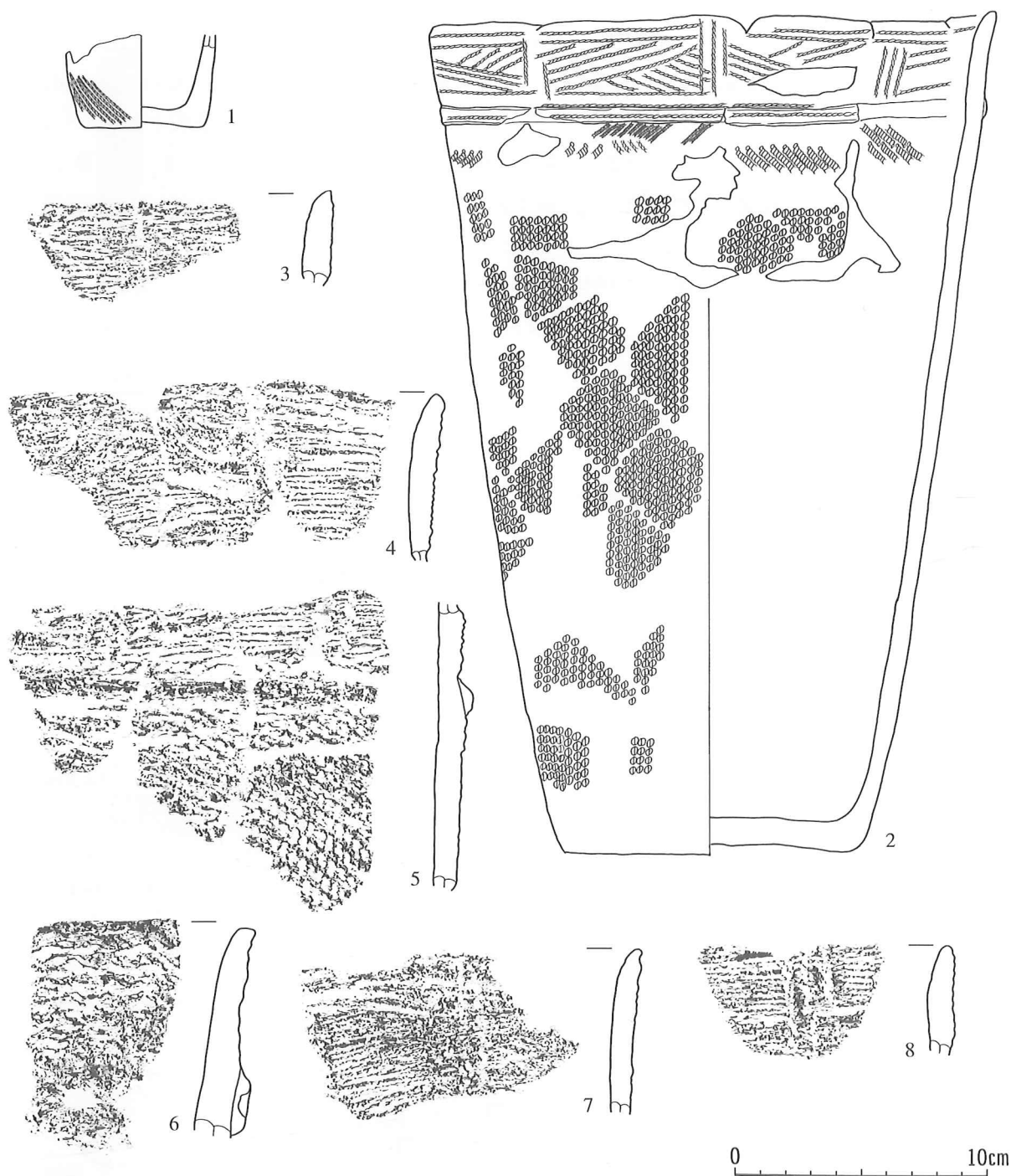
- 第387号住居跡 炉
- | | | | |
|-----|------|---------|--------------------------|
| 第1層 | 褐色土 | 10YR4/4 | ローム粒・パミス少量、炭化物微量、焼土粒極微量。 |
| 第2層 | 黒褐色土 | 10YR2/3 | ローム粒・パミス多量、炭化物微量、焼土粒極微量。 |
| 第3層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | 炭化物少量、ローム粒微量、焼土粒極微量。 |
| 第4層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | 焼土多量、炭化物中量、ローム粒微量。 |



(床面下ピット検出状況)

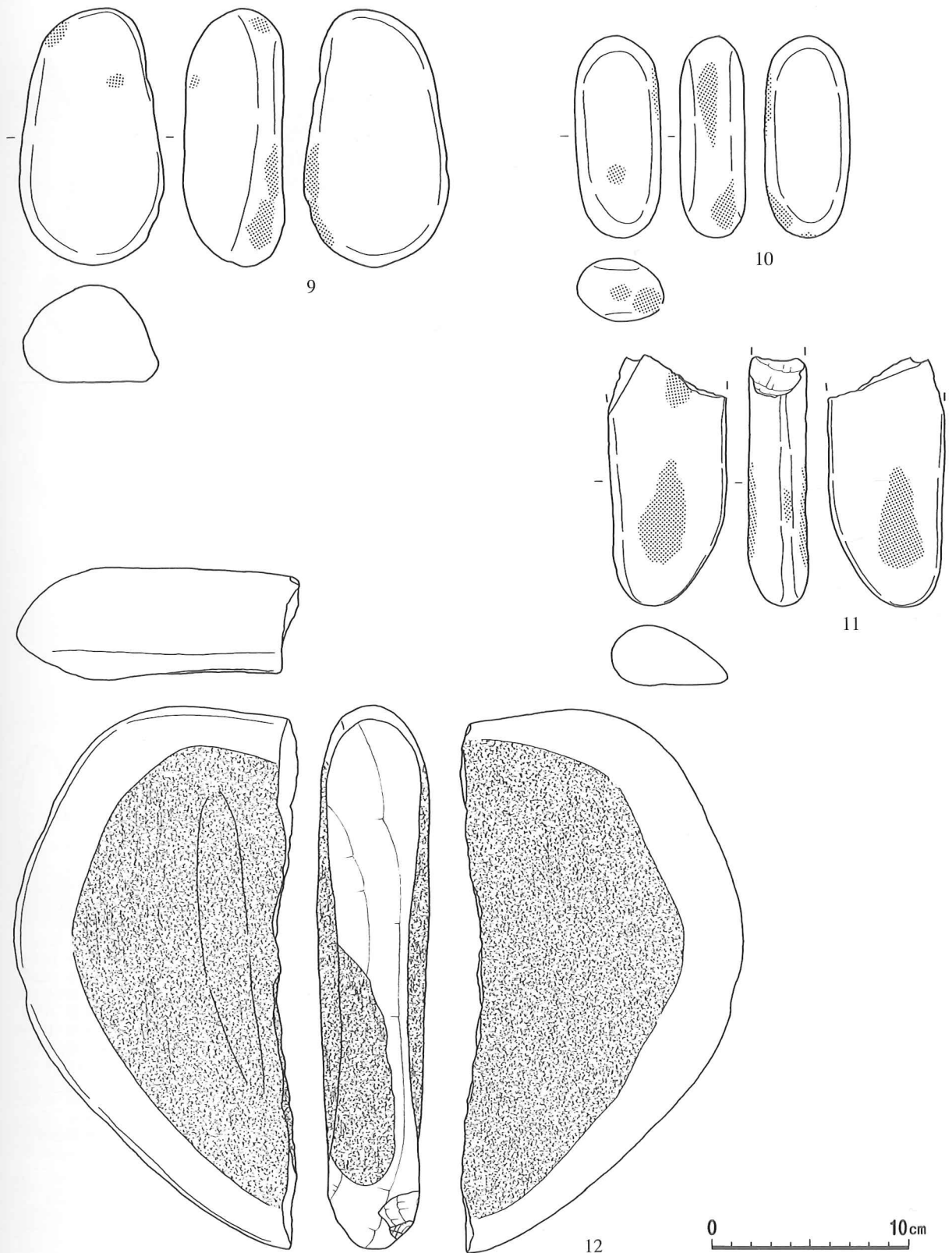
190図 第387号住居跡





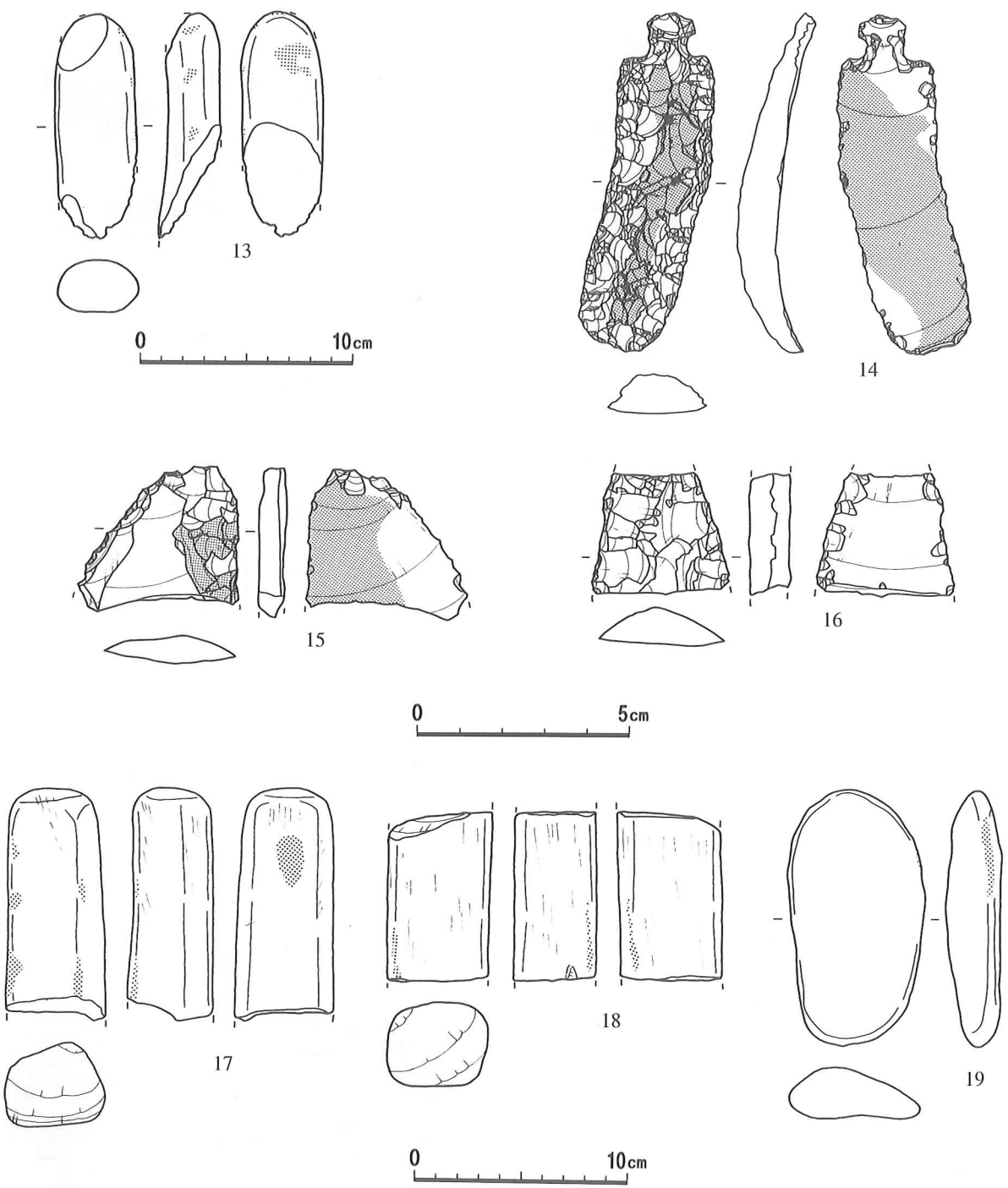
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	387住	床直			単絡1	ミガキ	無文(上底風)	II-6	
2	〃	2	R押	微隆帯 (R押)、結束第一種	RLR	〃	無文	II-5-1	
3	〃	〃	単絡1?			〃		II-3	
4	〃	〃	R単絡1			〃		〃	
5	〃	〃	R単絡6A	低隆帯 (繩押?)、RLR		〃		〃	
6	〃	堆積土	LR結回	隆帯 (円形刺突)		〃		II-2	
7	〃	〃	L単絡1? LR押			〃		II-3	
8	〃	〃	R単絡1、RLR押			〃		〃	

191図 第387号住居跡出土遺物 (1)



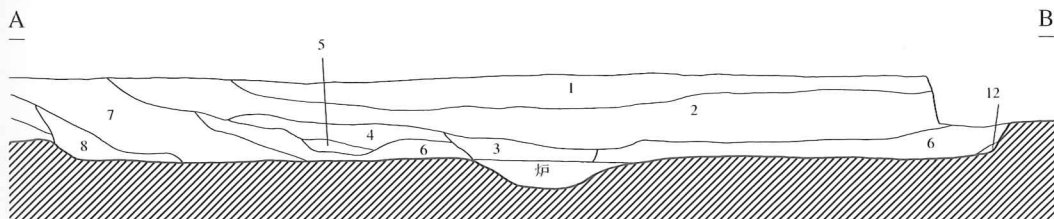
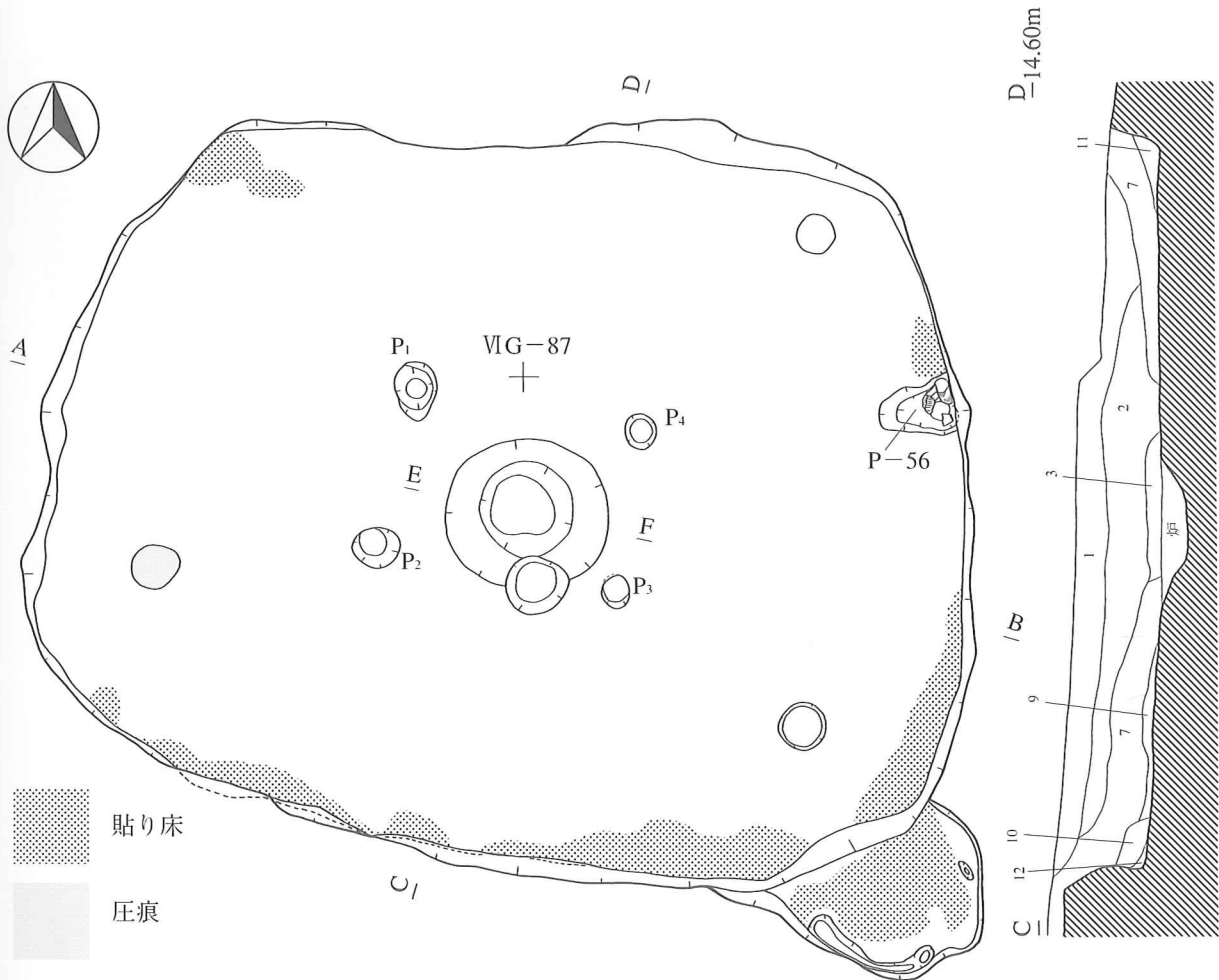
図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
9	387住	7	131	73	51	631.7	流	Ib	S-8	42603
10	〃	〃	102	44	32	203.6	〃	〃	S-9	42599
11	〃	4	(126)	(61)	(31)	(266.0)	〃	〃	S-4	42600
12	〃	〃	275	144	57	2700.7	安	L	S-15、欠損面に磨面	46428

192図 第387号住居跡出土遺物 (2)



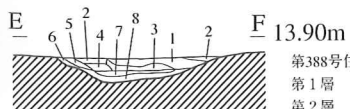
図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
13	387住	2	(105)	37	(30)	(115.6)	流	Ib	焼け	42597
14	〃	堆積土	80	32	18	17.8	珪頁	Ca		51903
15	〃	〃	(35)	(38)	(6)	(7.6)	〃	Ga	石匙破片?	52122
16	〃	〃	(29)	(33)	(9)	(8.0)	〃	〃		52123
17	〃	〃	(109)	(47)	(40)	(297.3)	安	Ib	S-1	42598
18	〃	〃	(79)	(49)	(39)	(293.1)	〃	〃	石棒破片?	42602
19	〃	〃	119	65	26	228.4	頁	〃		42500

193図 第387号住居跡出土遺物 (3)



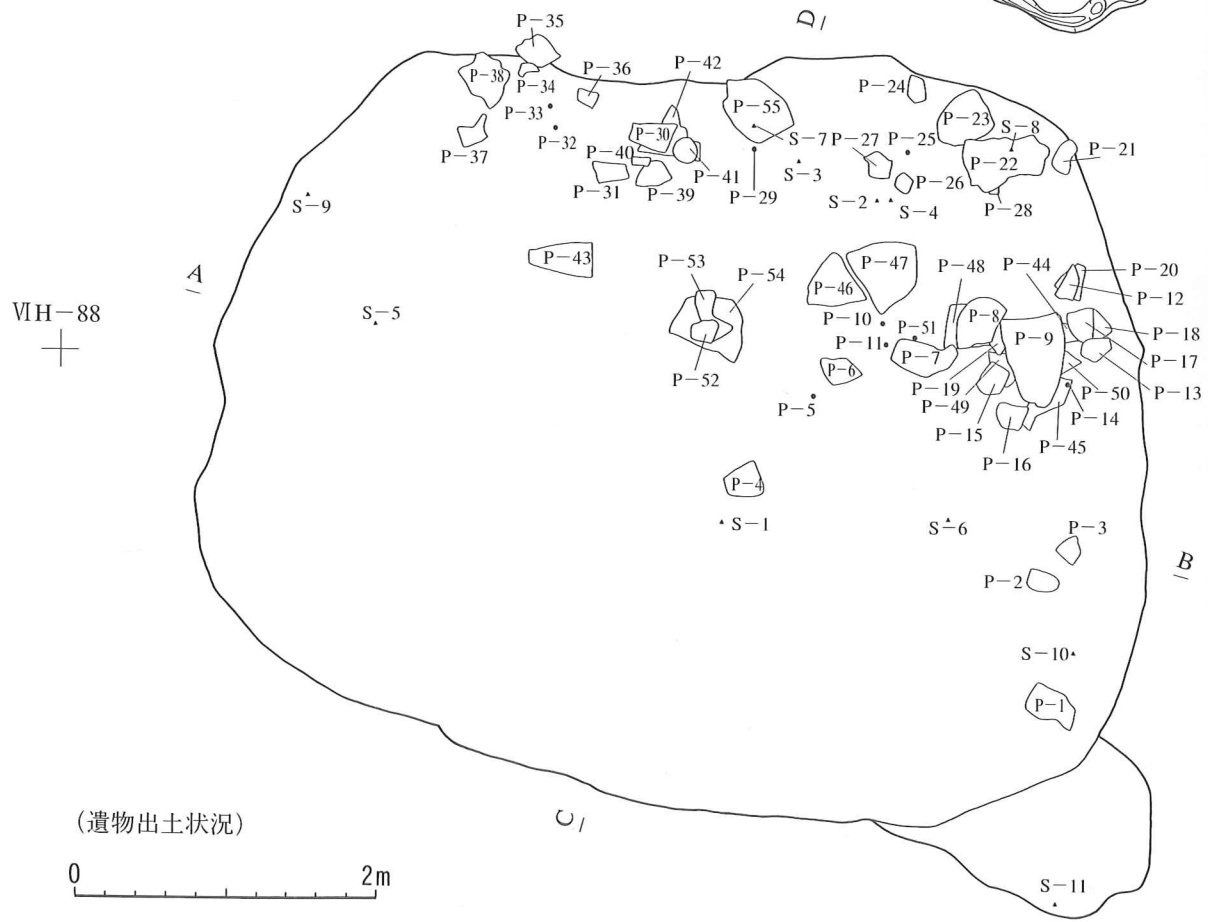
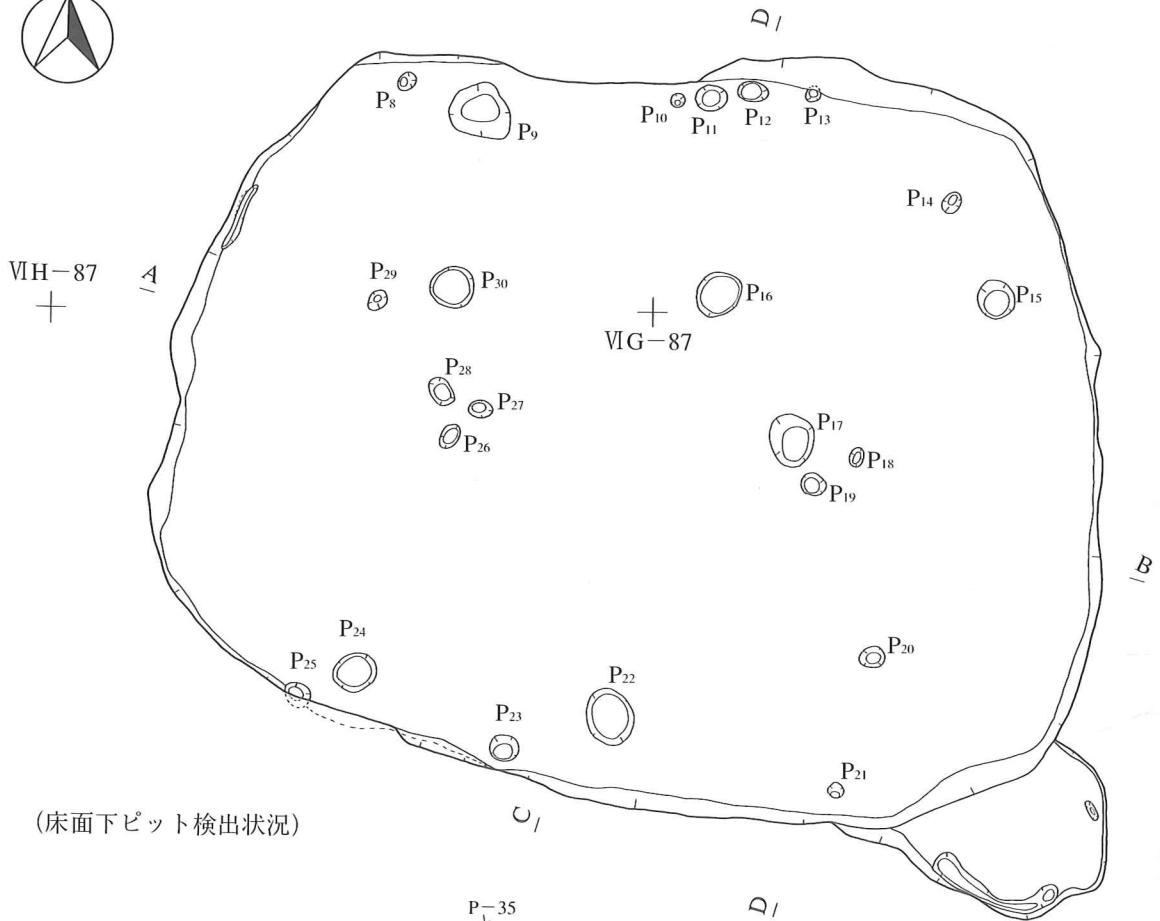
第388号住居跡

- 第1層 暗褐色土 10YR3/3 炭化物少量、ローム粒・ハミス微量、焼土粒極微量。
- 第2層 暗褐色土 10YR3/3 炭化物少量、ローム粒・ハミス微量、焼土粒極微量。
- 第3層 黒色土 10YR2/3 炭化物微量、ローム粒・ハミス・焼土粒極微量。
- 第4層 黒褐色土 10YR1.7/1 炭化物少量、ローム粒・ハミス微量、焼土粒極微量。
- 第5層 黒褐色土 10YR2/2 炭化物微量、ローム粒・ハミス極微量、焼土粒極微量。
- 第6層 暗褐色土 10YR3/4 炭化物微量、ローム粒・L.B.・ハミス少量、焼土粒極微量。
- 第7層 暗褐色土 10YR4/3 ローム粒・L.B.多量、炭化物・ハミス少量、焼土粒極微量。
- 第8層 黒褐色土 10YR2/3 炭化物・ローム粒・ハミス微量。
- 第9層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒少量、炭化物・ハミス微量。
- 第10層 黒褐色土 10YR2/2 炭化物・ローム粒・ハミス微量。
- 第11層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒・ハミス微量、炭化物極微量。
- 第12層 黒褐色土 10YR3/2 炭化物・ローム粒微量。

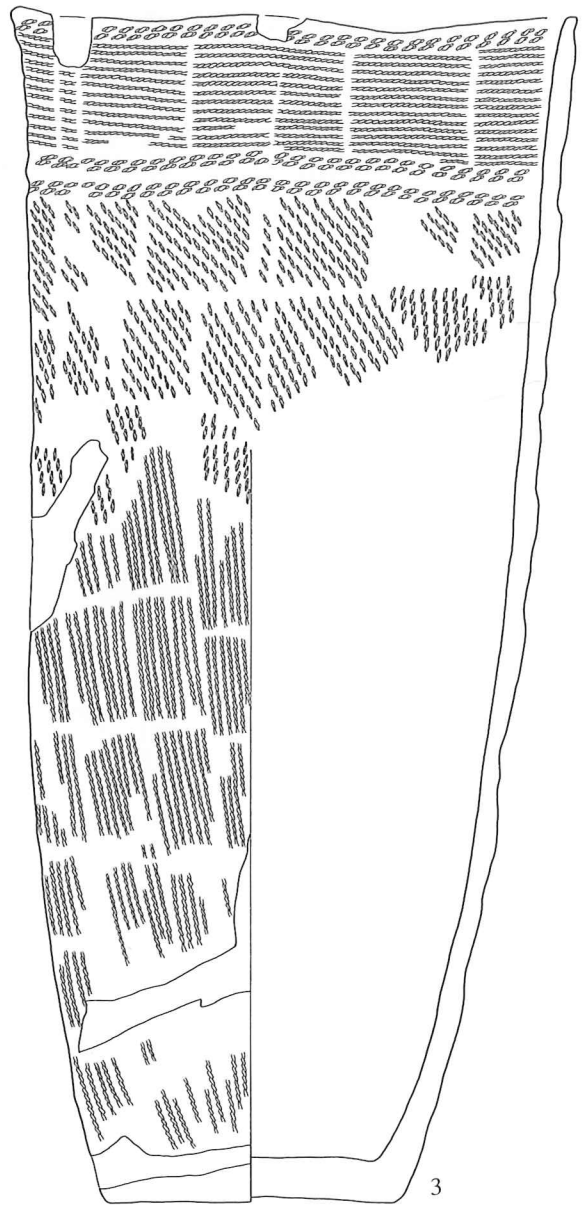
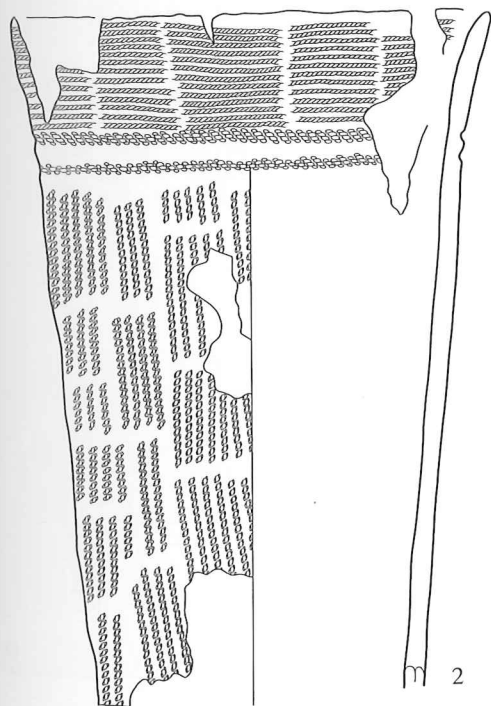
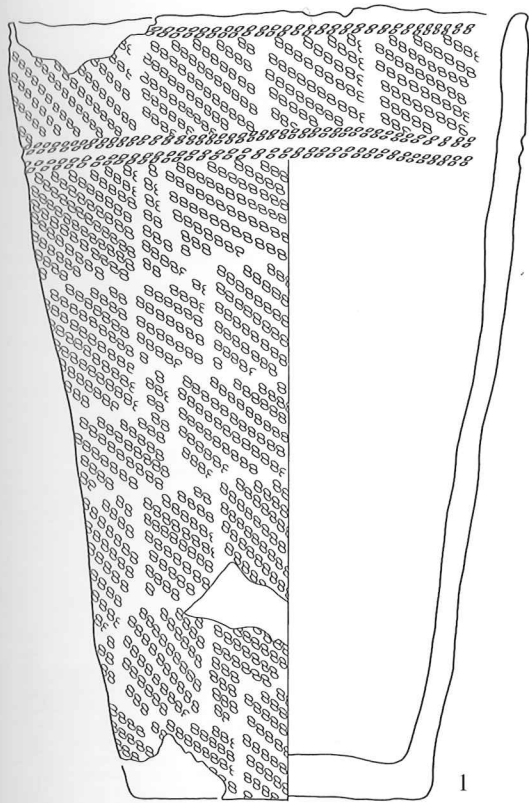


- 第388号住居跡 炉
- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 炭化物少量、ハミス・ローム粒微量、焼土粒極微量。
 - 第2層 黒褐色土 10YR2/3 炭化物・ハミス・ローム粒少量。
 - 第3層 黒褐色土 10YR2/2 炭化物・L.B.・ローム粒・ハミス中量。
 - 第4層 暗褐色土 10YR3/3 L.B.・ローム粒多量、ハミス少量、炭化物微量。
 - 第5層 黒褐色土 10YR2/3 炭化物・ハミス少量、ローム粒・焼土粒微量。
 - 第6層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒・ハミス・炭化物中量。
 - 第7層 黒褐色土 10YR2/2 炭化物中量、ローム粒・焼土粒微量。
 - 第8層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒・L.B.中量、炭化物少量、ローム粒・ハミス微量。

194図 第388号住居跡 (1)



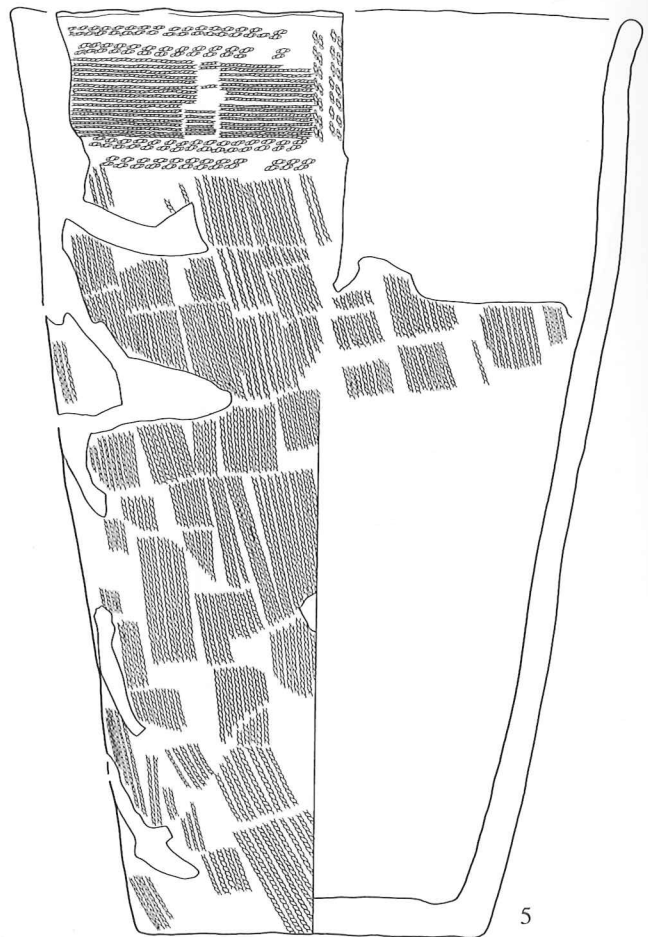
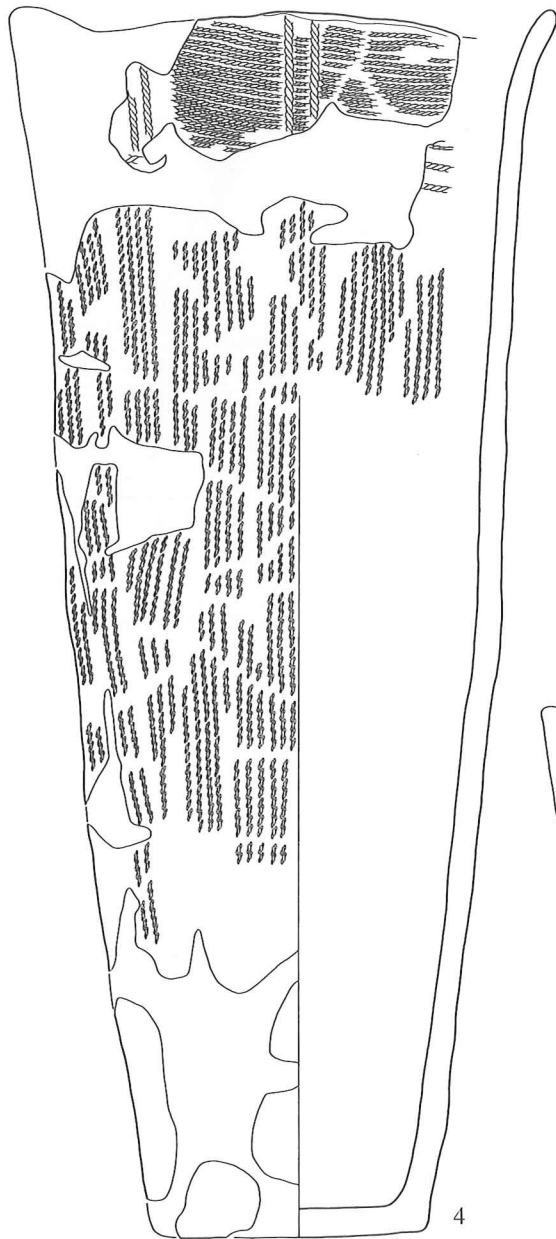
195図 第388号住居跡 (2)



0 10cm

番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	388住	堆積土	RLR、RLR押	RLR	RLR	ミガキ	無文	II-3	P-30
2	〃	I	R単絡I、LR押	LR単絡I		〃		〃	P-43
3	〃	堆積土	〃、RLR押	RLR	R単絡I	〃	無文	〃	P-20

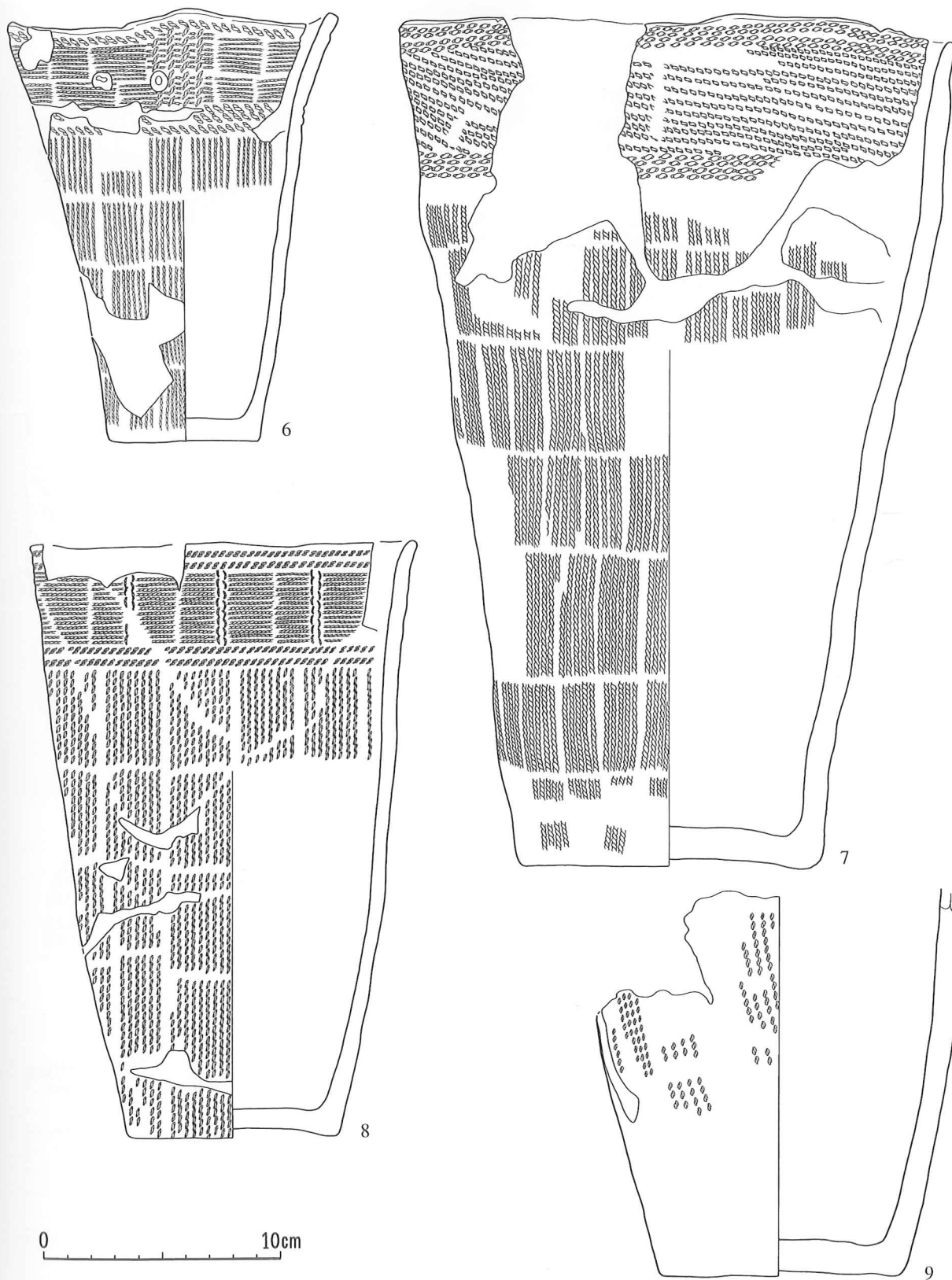
196図 第388号住居跡出土遺物(1)



0 10cm

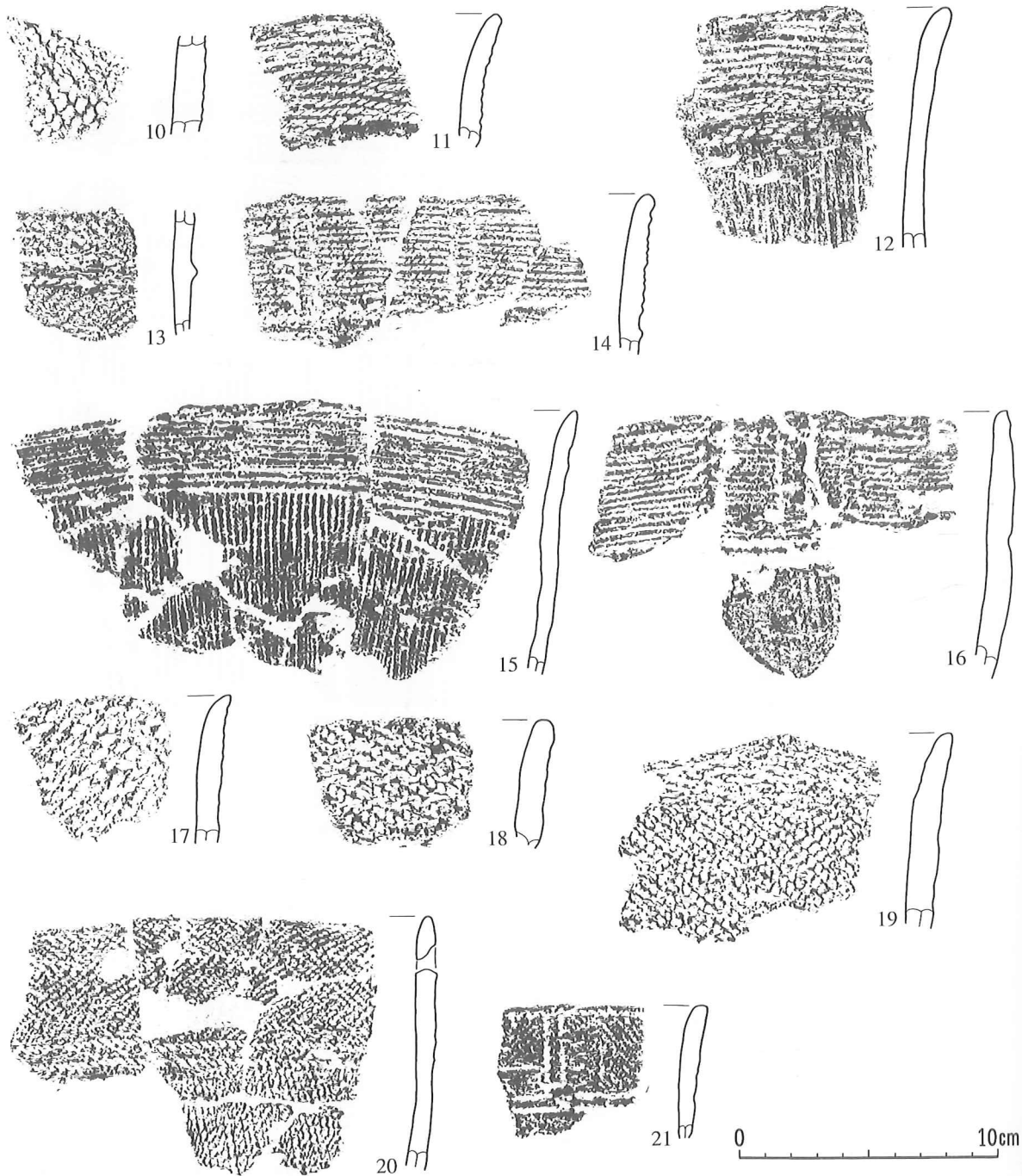
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
4	388住	堆積土	R単絡I、R押	LR単絡I	LR単絡I	ミガキ	無文	II-3	
5	〃	〃	〃、RLR押	R単絡I	R単絡I	〃	〃	〃	P-23

197図 第388号住居跡出土遺物 (2)



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
6	388住	堆積土	R単絡1、LR押	R単絡1	R単絡1	ミガキ	無文	II-3	P-50
7	〃	〃	LR単絡1、RLR押	〃	〃	〃	〃	〃	P-54
8	〃	〃	R単絡1、〃	LR単絡1	LR単絡1	〃	〃	〃	P-46
9	〃	〃			〃	〃	〃	II-6	P-41

198図 第388号住居跡出土遺物 (3)



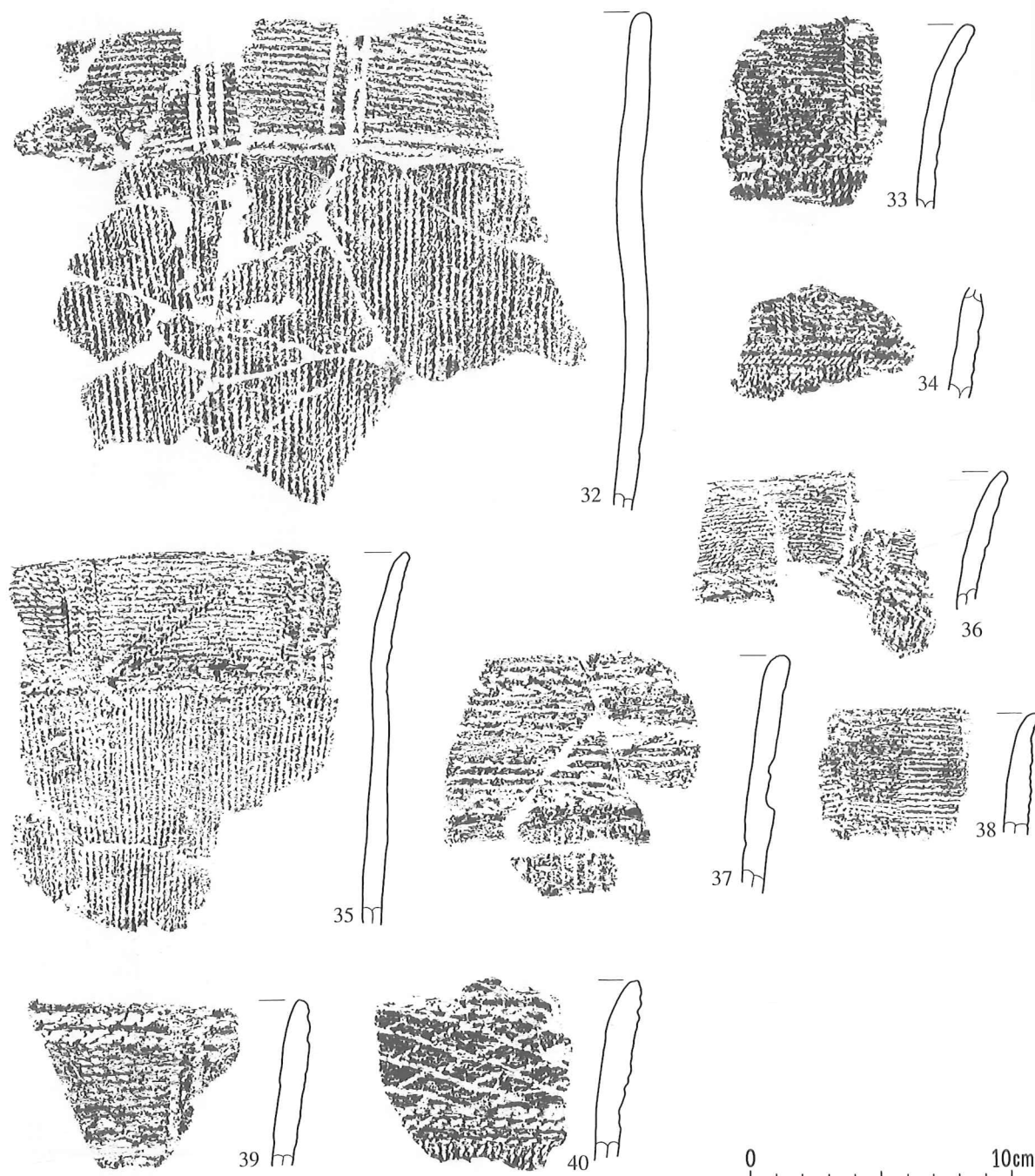
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
10	388住ビッド6	堆積土		RLR		ミガキ	II-6		
11	388住	2	R単絡1			〃	II-3		
12	〃	〃	〃、RLR押	R単絡1		〃	〃		
13	〃	1	RL	低隆帯、LR		〃	〃		
14	〃	〃	L単絡6A			〃	〃		
15	〃	〃	R単絡1	R単絡1		〃	〃		
16	〃	〃	R単絡6A、RLR押			〃	〃		
17	〃	堆積土	RLR			〃	II-2		
18	〃	〃	R結回	RLR		〃	〃	小波状	
19	〃	〃	RLR、R結回			〃	〃		
20	〃	〃	結束第一種、L押	L単絡1		〃	II-3		
21	〃	〃	〃、LR押			〃	〃		

199図 第388号住居跡出土遺物 (4)



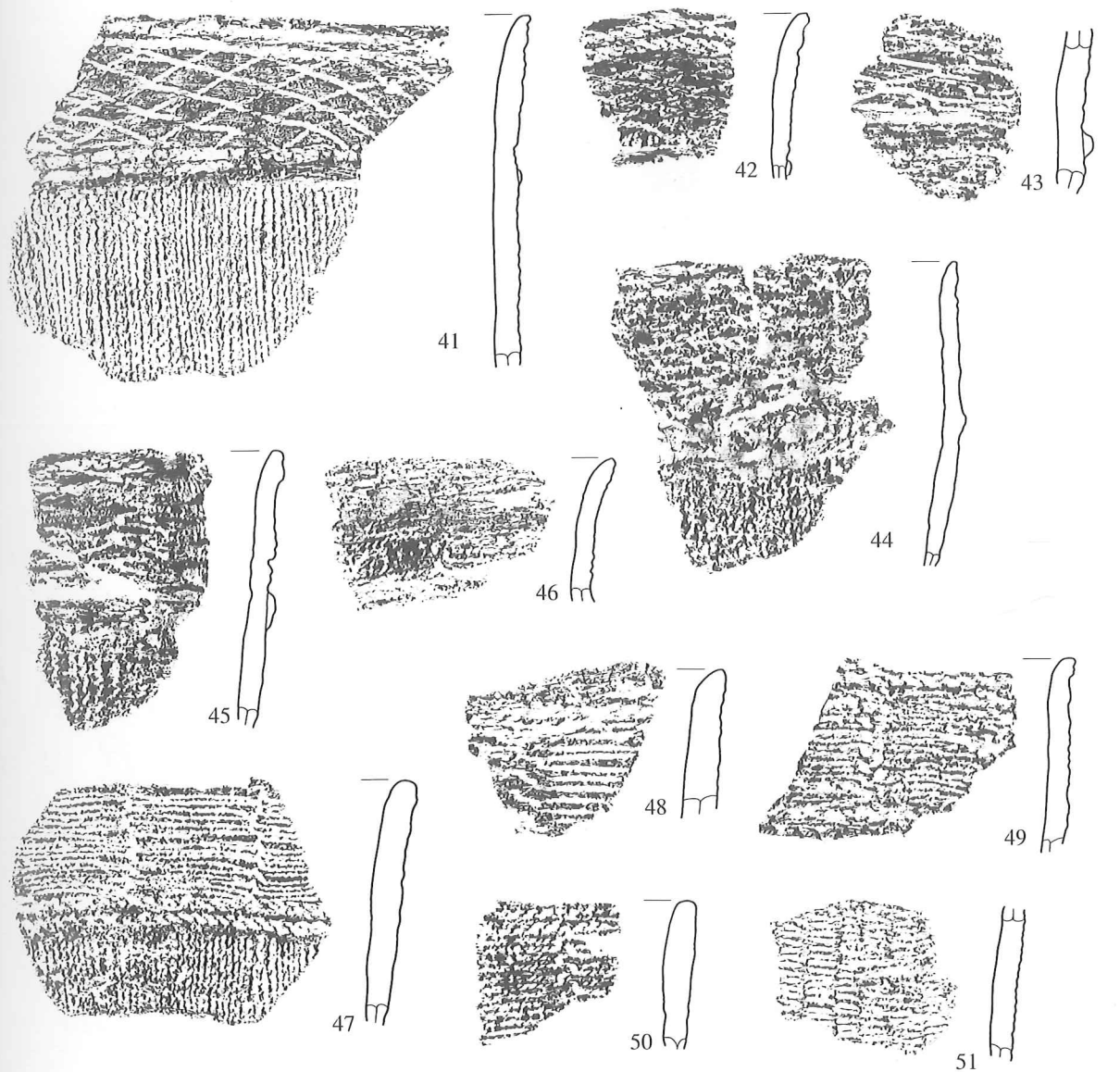
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
22	388住	堆積土	L結回	隆帯 (RLR押)、RLR		ミガキ		II-3	
23	〃	〃	結束第一種、RLR押	RLR+LR		〃		〃	
24	〃	〃	R単絡I	R単絡I		〃		〃	
25	〃	〃	〃、LR押			〃		〃	
26	〃	〃	L単絡I、R押	L単絡I		〃		〃	
27	〃	〃	LR単絡I			〃		〃	
28	〃	〃	L単絡I、貫通孔	低隆帯状の膨隆、単絡I		〃		〃	
29	〃	〃	LR単絡I、RL押	L単絡I		〃		〃	
30	〃	〃	R単絡I、LR押			〃		〃	
31	〃	〃	〃、RLR押			〃		〃	

200図 第388号住居跡出土遺物 (5)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
32	388住	堆積土	R単絡1、RL押	R単絡1		ミガキ	II-3		
33	〃	〃	〃、R押	〃		〃	〃		
34	〃	〃	〃	〃		〃	〃		
35	〃	〃	〃	〃		〃	〃		
36	〃	〃	〃、LR押	〃		〃	〃		
37	〃	〃	L単絡1	R単絡1?		〃	〃		
38	〃	〃	R単絡1	R単絡1		〃	〃		
39	〃	〃	単絡1、RLR押			〃	〃		
40	〃	〃	R単絡5、RL押	R単絡1		〃	〃		

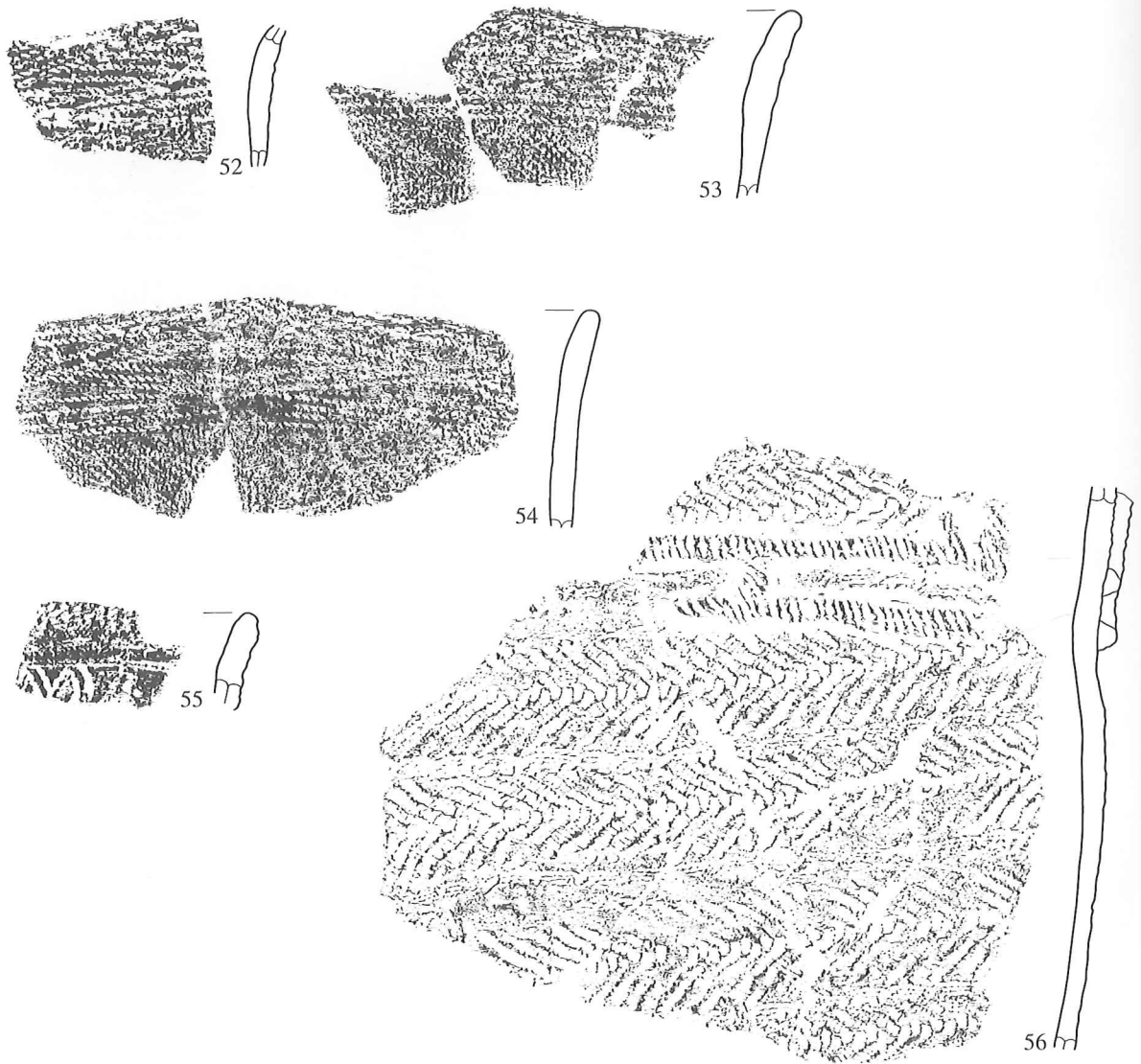
201図 第388号住居跡出土遺物 (6)



0 10cm

番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
41	388住	堆積土	R単絡5、RLR押	低隆帯、R単絡1		ミガキ	II-3		
42	〃	〃	〃	低隆帯		〃	〃		
43	〃	〃	R単絡6	〃		〃	〃		
44	〃	〃	〃、RLR?押	低隆帯状、RLR?		〃	〃		
45	〃	〃	〃、RLR押			〃	〃		
46	〃	〃	R単絡6A			〃	〃		
47	〃	〃	〃、LR押	R単絡1		〃	〃		
48	〃	〃	〃、RLR押			〃	〃		
49	〃	〃	単絡6A、縄押			〃	〃		
50	〃	〃	R単絡6A、RLR押			〃	〃		
51	〃	〃	R多軸絡			〃	〃		

202図 第388号住居跡出土遺物 (7)

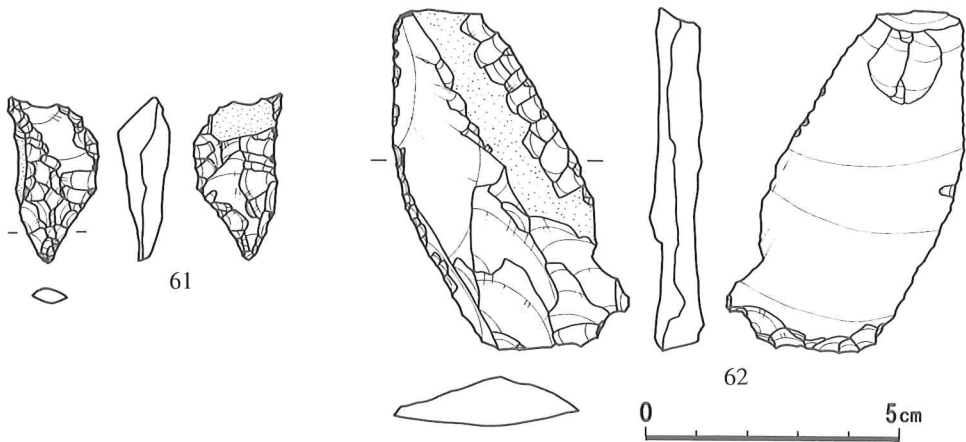
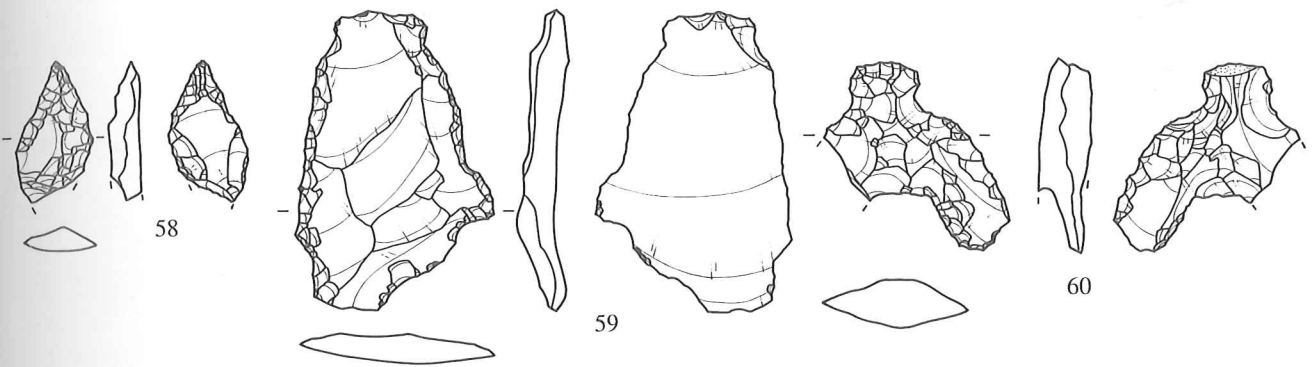


番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
52	388住	堆積土	L押			ミガキ	II-5-1		
53	〃	〃	〃	RLR?		〃	〃		
54	〃	〃	〃	RLR		〃	〃		
55	〃	〃	〃			〃	III-1		
56	〃	〃		結束第一種、貼付(L押)		〃	III-4		

203図 第388号住居跡出土遺物 (8)



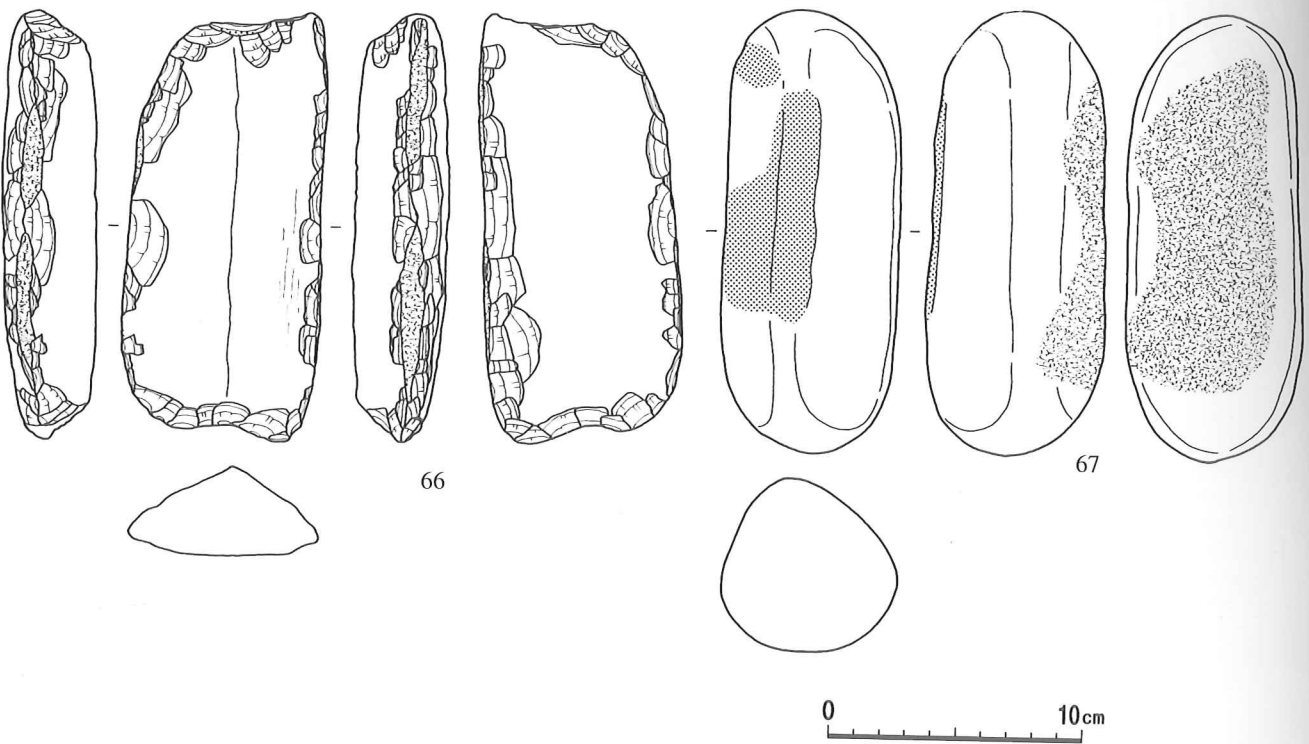
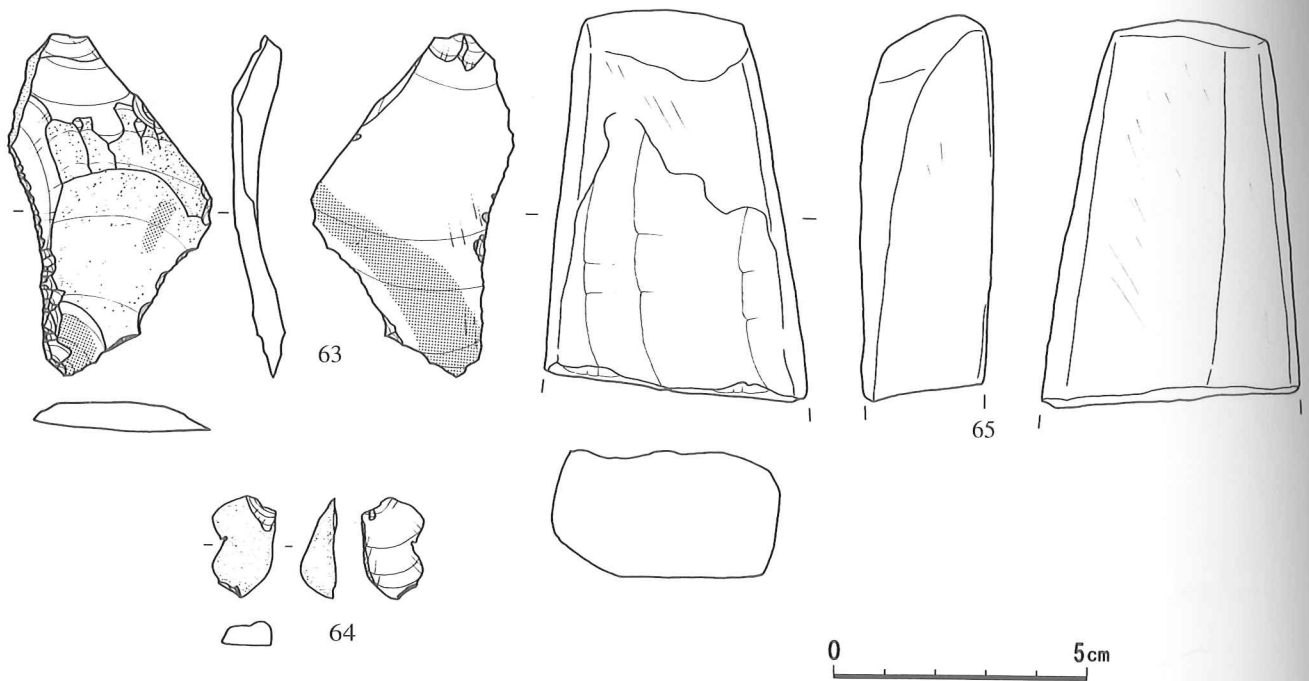
0 10cm



0 5cm

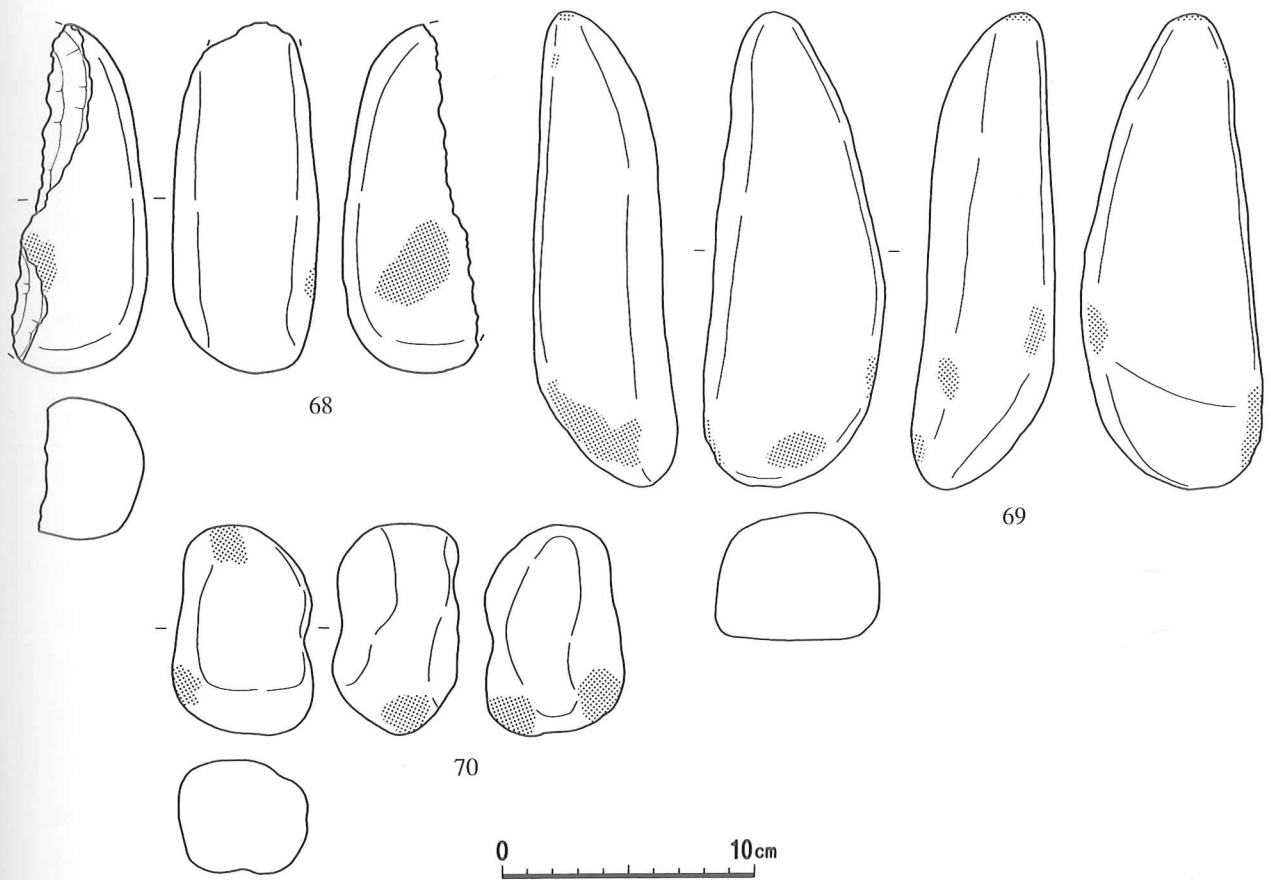
图版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
57	388住	7	(208)	44	42	(495.4)	流	Ub	S-7	42611
58	〃	堆積土	(28)	15	(6)	(2.0)	珪頁	A		52129
59	〃	〃	60	39	9	12.8	〃	Ca		52127
60	〃	〃	(37)	(37)	11	(7.8)	〃	R		52125
61	〃	〃	33	18	10	3.9	〃	Db		52128
62	〃	〃	68	47	11	24.3	〃	Ga		52130

204図 第388号住居跡出土遺物 (9)



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
63	388住	堆積土	68	40	10	15.4	珪頁	Ga		52126
64	〃	〃	20	12	7	1.5	黒	Pc	S-11	40204
65	〃	〃	(77)	(52)	(26)	(190.0)	緑細	Ha		40159
66	〃	〃	170	81	38	641.5	安	J		40264
67	〃	〃	174	71	71	1207.4	流	Ic		42608

205図 第388号住居跡出土遺物 (10)



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
68	388住	堆積土	(138)	(53)	57	(468.9)	流	Ib		42605
69	〃	〃	189	72	57	854.9	安	〃		42607
70	〃	〃	83	54	50	314.8	チャート	〃		42606

206図 第388号住居跡出土遺物 (11)

第389号住居跡 (207図)

〔位置と確認〕 VI H-89に位置し、第290号住居跡精査終了後に壁溝と柱穴の一部を確認した。

〔重複〕 第290・357・391号住居跡と重複し、本住居跡が最も古い

〔平面形・規模〕 壁溝と柱穴しか残存しないため、全体の平面形は不明である。残存部分は東西に長軸があり、規模は長軸 3 m35cm、短軸 2 m70cmである。

〔壁・床面〕 残存しない。

〔壁溝〕 北側を除き検出された。幅10~25cm、深さ5~15cmである。

〔柱穴〕 主柱穴はP₁~P₄の4本である。ピットの深さは、P₁…25cm、P₂…10cm、P₃…20cm、P₄…37cmである。

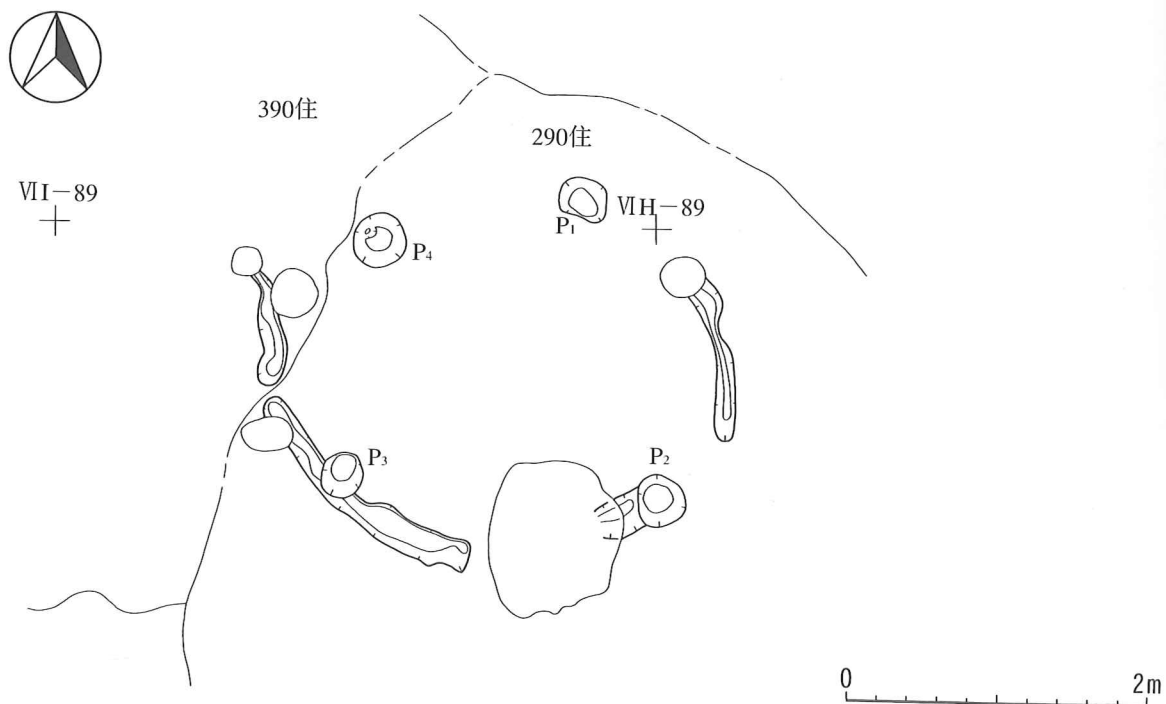
〔炉〕 残存しない。

〔堆積土〕 なし。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 重複関係から縄文時代前期と考えられる。

(岡田 康博)



207図 第389号住居跡

第390号住居跡（208図～211図）

〔位置と確認〕 VI H・I-88・89に位置し、第290号住居跡精査中に暗褐色土の落ち込みを確認した。

〔重複〕 第290・357・391号住居跡と重複し、第391号住居跡より新しく、第290・357号住居跡より古い。

〔平面形・規模〕 重複のため東側が残存しないもの、北西—南東に長軸のある楕円形と考えられる。残存部分の規模は長径4 m70cm、短径4 m55cmである。

〔壁・床面〕 各壁ともに緩やかに湾曲しながら立ち上がる。壁高は西壁23cm、南壁10cm、北壁8 cmである。床面はほぼ平坦であり、全体に堅緻である。

〔柱穴〕 柱穴が確認されたが明確に主柱穴と判断できるものはない。配置や規模からP₂が炉跡を挟んで向かい合う主柱穴のうちの1つである可能性がある。ピットの深さは、P₂…33cmである。他にP₃・P₁₁・P₁₅・P₁₈が主柱穴の可能性がある。深さはP₃…50cm・P₁₁…51cm・P₁₅…59cm・P₁₈…27cmである。

〔炉〕 床面のほぼ中央と南壁に寄った場所から地床炉が検出された。中央の炉跡は掘り方を持ち、規模は60cm×50cm、深さ10cmである。南側の地床炉は掘り方がなく、規模は90cm×45cmである。

〔堆積土〕 なし。

〔出土遺物〕 堆積土から第Ⅱ群6類を主体とする土器が出土した。石器は床面直上から挟入扁平磨製石器など、堆積土から石匙、敲磨器類など、ピット2 堆積土から石鏃、敲磨器類などが出土した。なお46は石棒破片の末端に剥離加工が施されたものである。

〔時期〕 炉堆積土出土遺物及び重複関係から縄文時代前期中葉（円筒下層b式期）に近い時期と考えられる。

（岡田 康博）

第391号住居跡（208図・212図）

〔位置と確認〕 VI H・I-89に位置し、第390号住居跡を精査中に壁の一部を確認した。

〔重複〕 第290・390・464号住居跡と重複し、第464号住居跡より新しく、第290・390号住居跡より古い。

〔平面形・規模〕 一部しか残存しないため、全体の平面形は不明である。残存部分の規模は長軸2 m30cm、短軸55cmである。

〔壁・床面〕 南壁しか残存しない。南壁は緩やかに湾曲しながら立ち上がる。壁高は南壁13cmである。床面はほぼ平坦であるが、貼り床は施されておらず軟弱である。

〔柱穴〕 柱穴が確認されたが主柱穴は不明である。ピットの深さはP₁…34cmである。

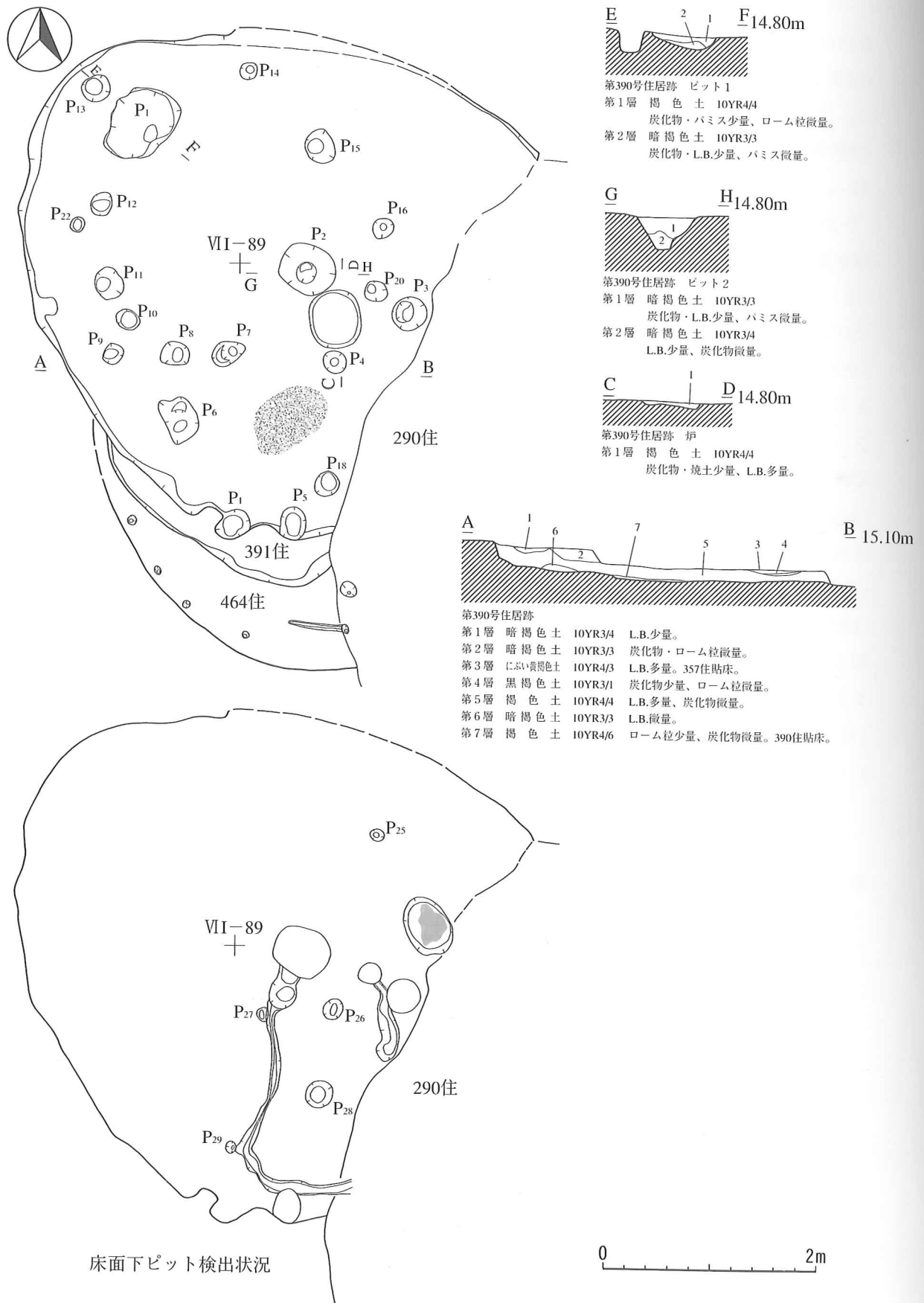
〔炉〕 残存しない。

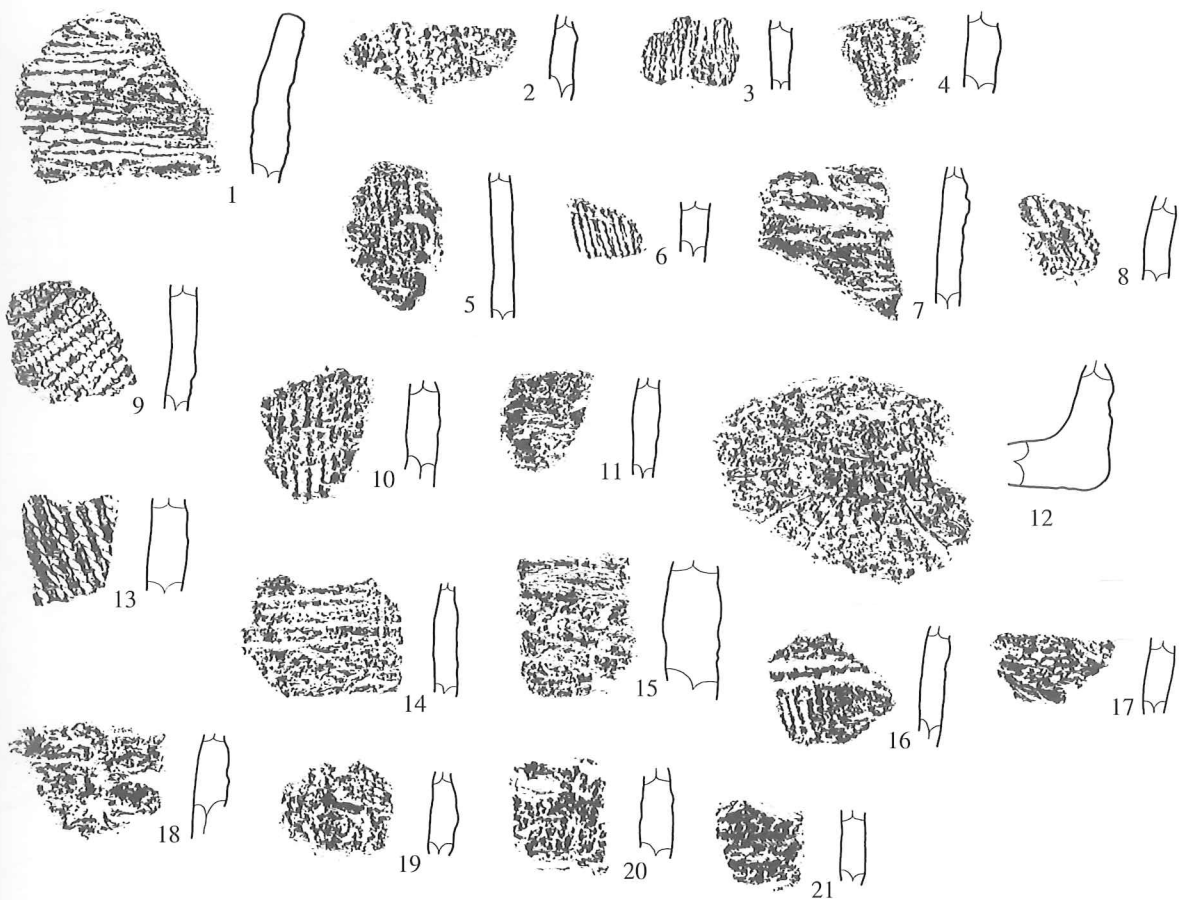
〔堆積土〕 なし。

〔出土遺物〕 堆積土から第Ⅱ群6類土器が出土した。

〔時期〕 堆積土出土遺物及び重複関係から縄文時代前期中葉と考えられる。

（岡田 康博）

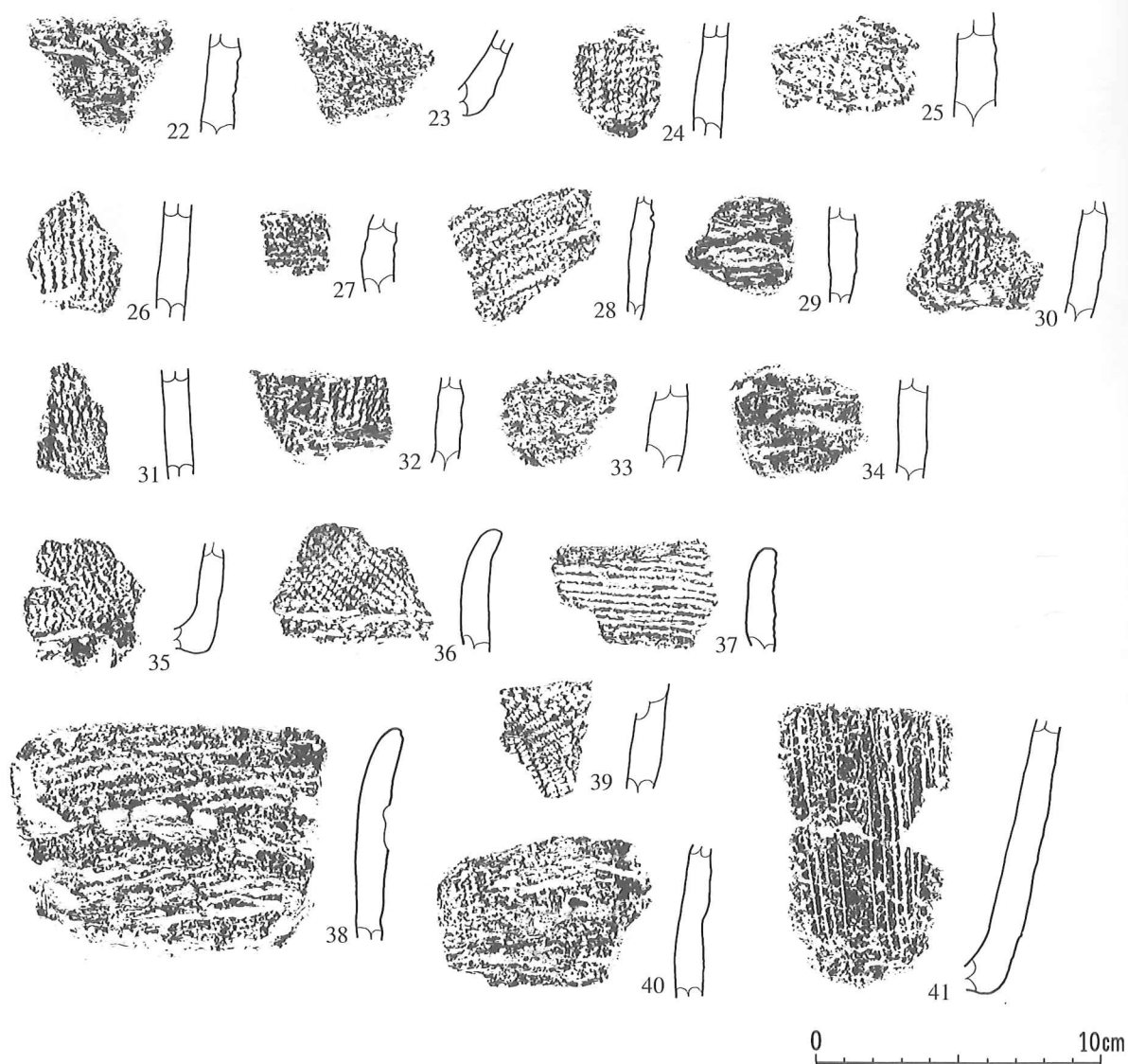




0 10cm

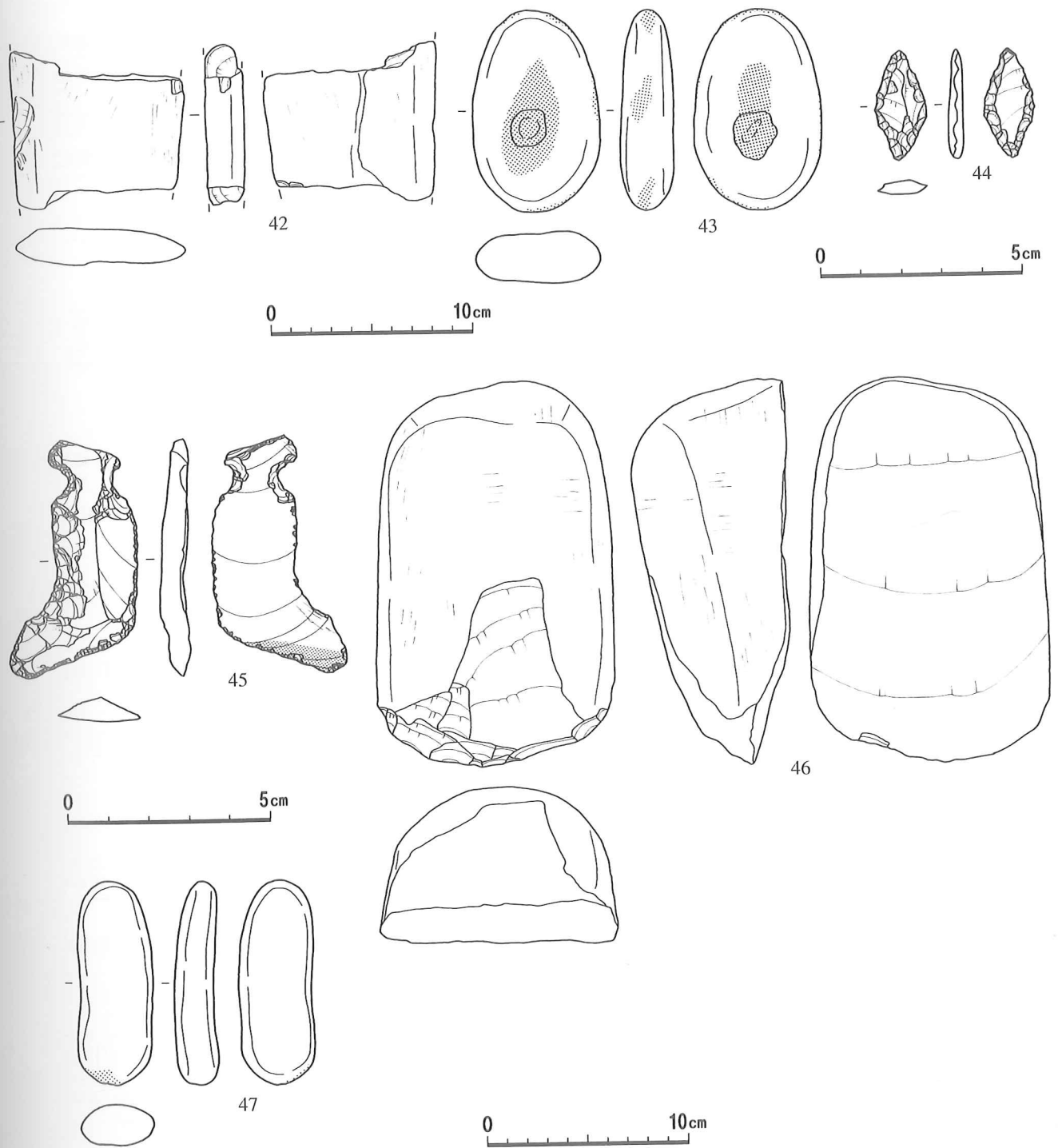
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	390住炉	堆積土	単絡1、LR押			ミガキ		II-3	
2	390住壁溝	〃		L単絡1		〃		II-6	
3	390住ピット1	〃		〃		〃			
4	〃	〃		LR?		〃			
5	390住ピット2	〃		不明		〃			
6	〃	〃		R単絡1?		〃			
7	390住ピット5	〃	R?押			〃			
8	〃	〃	RL? R押			〃			
9	〃	〃		LR		〃			
10	390住ピット6	〃		RLR		〃			
11	〃	〃		不明		〃			
12	〃	〃			不明	〃	縄文?		
13	390住ピット7	〃		R単絡1		〃			
14	390住ピット9	〃	縄文押?	RL?		〃		II-5-1?	
15	〃	〃		不明		〃		II-6	
16	390住ピット11	〃	R押?	単絡1?		〃			
17	〃	〃		RL?		〃			
18	〃	〃		不明		〃			
19	〃	〃		〃		〃			
20	〃	〃		〃		〃			
21	〃	〃		〃		〃			

209図 第390号住居跡出土遺物 (1)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
22	390住ビット12	堆積土		不明		ミガキ		Ⅱ-6	
23	〃	〃			不明	〃		〃	
24	390住ビット14	〃		RLR		〃		〃	
25	390住ビット15	〃		縄文		〃		〃	
26	〃	〃		LR単絡1		ミガキ		〃	
27	390住ビット16	〃	単絡1			〃		〃	
28	390住ビット19	〃		LR?		〃		〃	
29	〃	〃		不明		〃		〃	
30	390住ビット20	〃		R単絡1		〃		〃	
31	〃	〃		L単絡1		〃		〃	
32	390住ビット25	〃		〃		〃		〃	
33	390住ビット28	〃		不明		〃		〃	
34	〃	〃		〃		〃		〃	
35	〃	〃			単絡1?	ミガキ		〃	
36	390住	〃	RL、LR・RL押			〃		Ⅱ-3	
37	〃	〃	R単絡1			〃		〃	
38	〃	〃	L押			〃		Ⅱ-4?	
39	〃	〃		結束第一種 (LR、RL)		〃		Ⅱ-6	
40	〃	〃		不明		〃		〃	
41	〃	〃			条痕	〃		〃	

210図 第390号住居跡出土遺物 (2)



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
42	390住	床直	(78)	(86)	(19)	(174.8)	安	K		42613
43	390住ビツタ2	堆積土	99	63	26	228.6	〃	Ia		42508
44	〃	〃	27	13	5	1.2	珪頁	Ab		53006
45	390住	〃	59	33	8	9.1	〃	Cc		51897
46	〃	〃	191	118	77	2192.8	流	Q	石棒破片再加工	42615
47	〃	〃	101	38	21	116.0	凝	Ib		42612

211図 第390号住居跡出土遺物 (3)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	391住	堆積土		不明				Ⅱ-6	
2	〃	〃		〃				〃	
3	〃	〃		〃				〃	

212図 第391号住居跡出土遺物

第392号住居跡（184図・213図）

〔位置と確認〕 VI F・G-90に位置し、第385号住居跡精査中に床面の一部を確認した。

〔重複〕 第328・385・393・394・396号住居跡と重複し、第394号住居跡より新しく、第328・385・393・394・396号住居跡より古い。

〔平面形・規模〕 壁と柱穴しか残存していないため、全体の平面形は不明である。残存部分の規模は東西1 m70cm、南北1 m30cmである。

〔壁・床面〕 南壁しか残存しない。南壁は外傾しながら直線的に立ち上がる。壁高は3 cmである。床面はほぼ平坦であるが、貼り床は施されておらず、軟弱である。

〔柱穴〕 柱穴が確認されたが明確に主柱穴と判断できるものはない。ピットの深さは、P₁…47cm、P₂…27cm、P₃…39cm、P₄…30cmである。

〔炉〕 残存しない。

〔堆積土〕 なし。

〔出土遺物〕 堆積土から第Ⅱ群5類を主体とする土器が出土した。

〔時期〕 堆積土出土遺物及び重複関係から縄文時代前期末葉（円筒下層d₁式期）に近い時期と考えられる。

（岡田 康博）

第393号住居跡（184図・214図～216図）

〔位置と確認〕 VI F-90に位置し、第392・395号住居跡精査中に壁の一部を確認した。

〔重複〕 第359・392・394・395・396号住居跡と重複し、第392・394号住居跡より新しく、第359・395・396号住居跡より古い。

〔平面形・規模〕 南壁しか残存していないため、全体の平面形は不明である。残存部分の規模は東西3 m40cm、南北2 m70cmである。

〔壁・床面〕 南壁しか残存しない。南壁は外傾しながら直線的に立ち上がる。壁高は25cmである。床面はほぼ平坦であるが、貼り床は施されておらず、軟弱である。

〔柱穴〕 柱穴が確認されたが明確に主柱穴と判断できるものはない。ピットの深さは、P₁…11cm、P₂…22cmである。壁際のピットは壁柱穴の可能性はある。

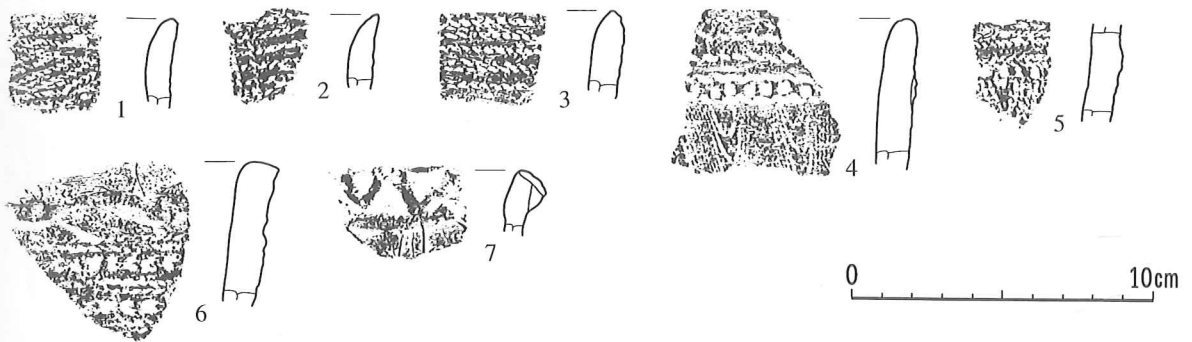
〔炉〕 残存しない。

〔堆積土〕 3層に分層した。人為堆積と考えられる。暗褐色土を基調とし、層全体にロームブロックを含む。

〔出土遺物〕 堆積土から第Ⅱ群2～5群を主体とする土器、円盤状土製品、スクレイパー類、敲磨器類、石刀などが出土した。

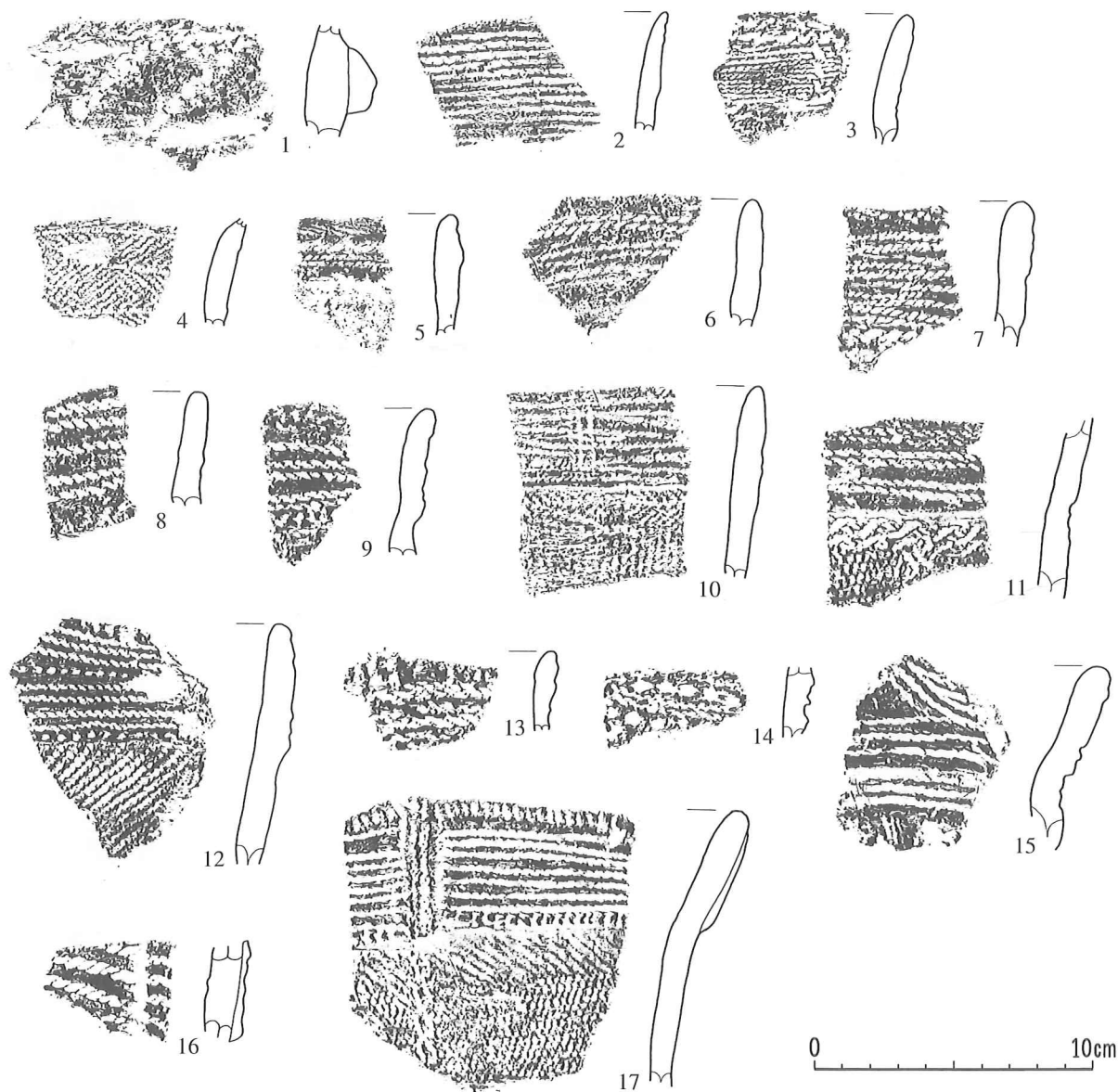
〔時期〕 堆積土出土遺物及び重複関係から縄文時代前期末葉に近い時期と考えられる。

(岡田 康博)



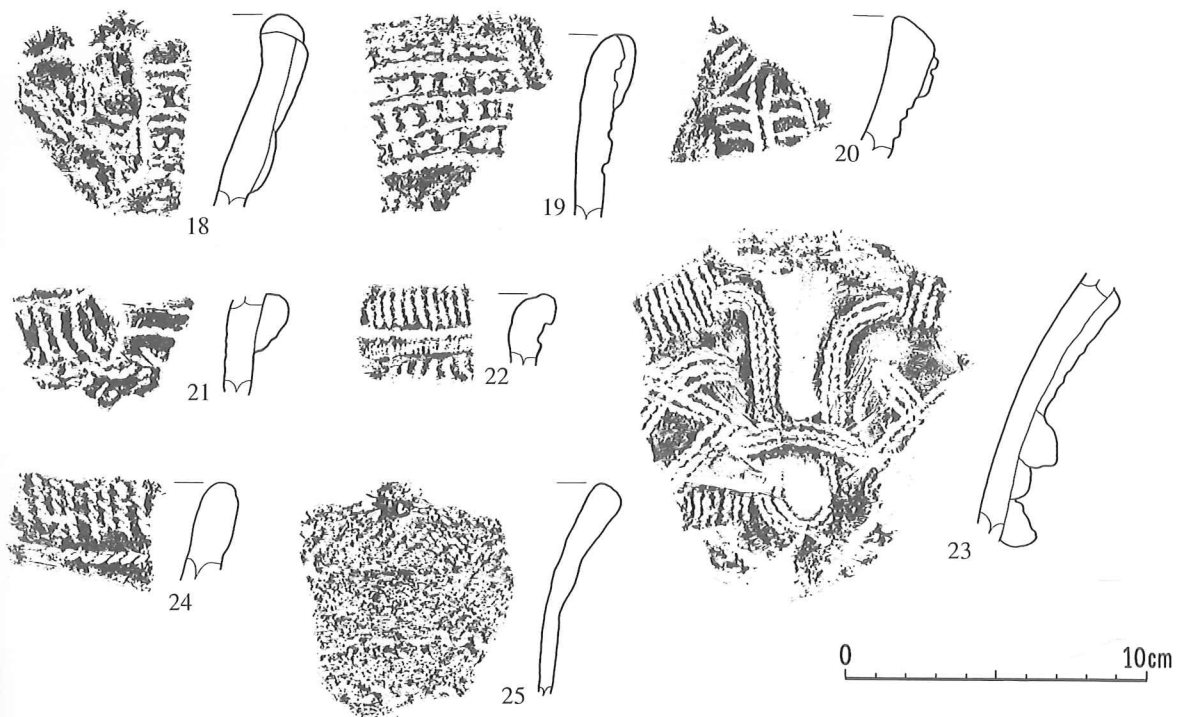
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	392住	堆積土	LR押			ミガキ		Ⅱ-5-1	
2	〃	〃	RL押			〃		〃	
3	〃	〃	LR押			〃		〃	
4	〃	〃	L押	微隆帯(刺突)、単絡IA		〃		〃	
5	〃	〃	LR・RL押、刺突	R単絡IA		〃		〃	
6	〃	〃	L押、刺突			〃		Ⅱ-5-2	
7	〃	〃	貼付			〃		Ⅲ-4	

213図 第392号住居跡出土遺物

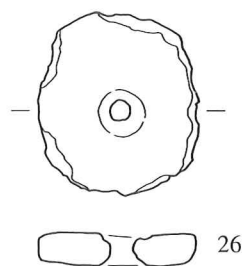


番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	393住	堆積土	隆帯 (RLR押)			ミガキ	Ⅱ-2		
2	〃	〃	単絡1			〃	Ⅱ-3		
3	〃	〃	R単絡1			〃	〃		
4	〃	〃	結束第一種、単絡1押			〃	Ⅱ-4・5		
5	〃	〃	LR押			〃	Ⅱ-5-1	表面大部分剥落	
6	〃	〃	R押			〃	Ⅱ-5-2		
7	〃	〃	〃、RL押			〃	〃		
8	〃	〃	LR押			〃	〃		
9	〃	〃	〃、刺突			〃	〃		
10	〃	〃	R押	結束第一種		〃	〃		
11	〃	〃	LR押	R結回、LR?		〃	〃		
12	〃	〃	〃、刺突	LR		〃	〃	口唇上面刻み	
13	〃	〃	〃、小突起状			〃	〃	〃 LR押	
14	〃	〃	〃、刺突			〃	〃		
15	〃	〃	LR押	R単絡1A		〃	〃	頸部くびれ	
16	〃	〃	貼付 (RL押)、RL押			〃	〃		
17	〃	〃	〃 (LR押)、LR押	結束第一種、LR? 結回		〃	〃	口唇上面刻み	

214図 第393号住居跡出土遺物 (1)

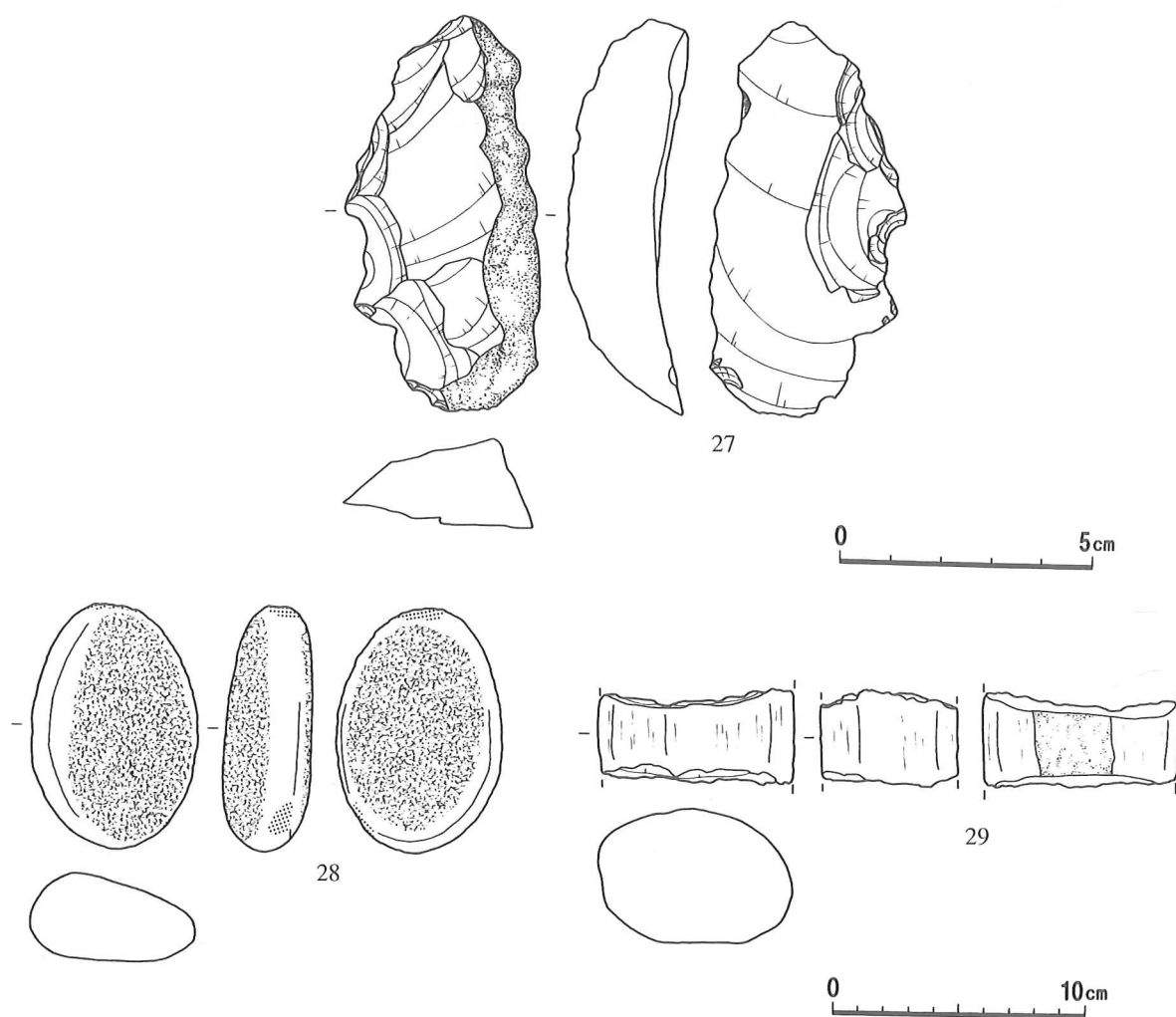


番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
18	393住	堆積土	貼付 (LR押)、LR押、刺突			ミガキ		Ⅱ-5-2	
19	〃	〃	〃 (〃)、〃、〃			〃		〃	
20	〃	〃	〃 (〃)、LR押			〃		〃	
21	〃	〃	〃 (〃)、〃	R結回		〃		〃	
22	〃	〃	L押、単絡1押、刺突			〃		Ⅲ-1	
23	〃	〃	貼付 (LR押)、LR押			〃		〃	
24	〃	〃	RL押			〃		〃	
25	〃	〃	小突起、LR、結回			〃		Ⅲ-1~3	



番号	出土地点	出土層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	種類	整理番号
26	393	堆積土	50	44	9	21	円盤状土製品	1231

215図 第393号住居跡出土遺物 (2)



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
27	393住	堆積土	79	39	24	63.6	珪頁	Ga		40219
28	〃	〃	97	65	35	257.6	安	Ic		42617
29	〃	〃	(38)	(78)	(54)	(244.6)	〃	Mb		42618

216図 第393号住居跡出土遺物 (3)

第394号住居跡 (184図・217図~219図)

〔位置と確認〕 VI F・G-88・89に位置し、第393号住居跡精査中に床面の一部を確認した。

〔重複〕 第392・393・395・451号住居跡と重複し、第451号住居跡より新しく、第392・393・395号住居跡より古い。

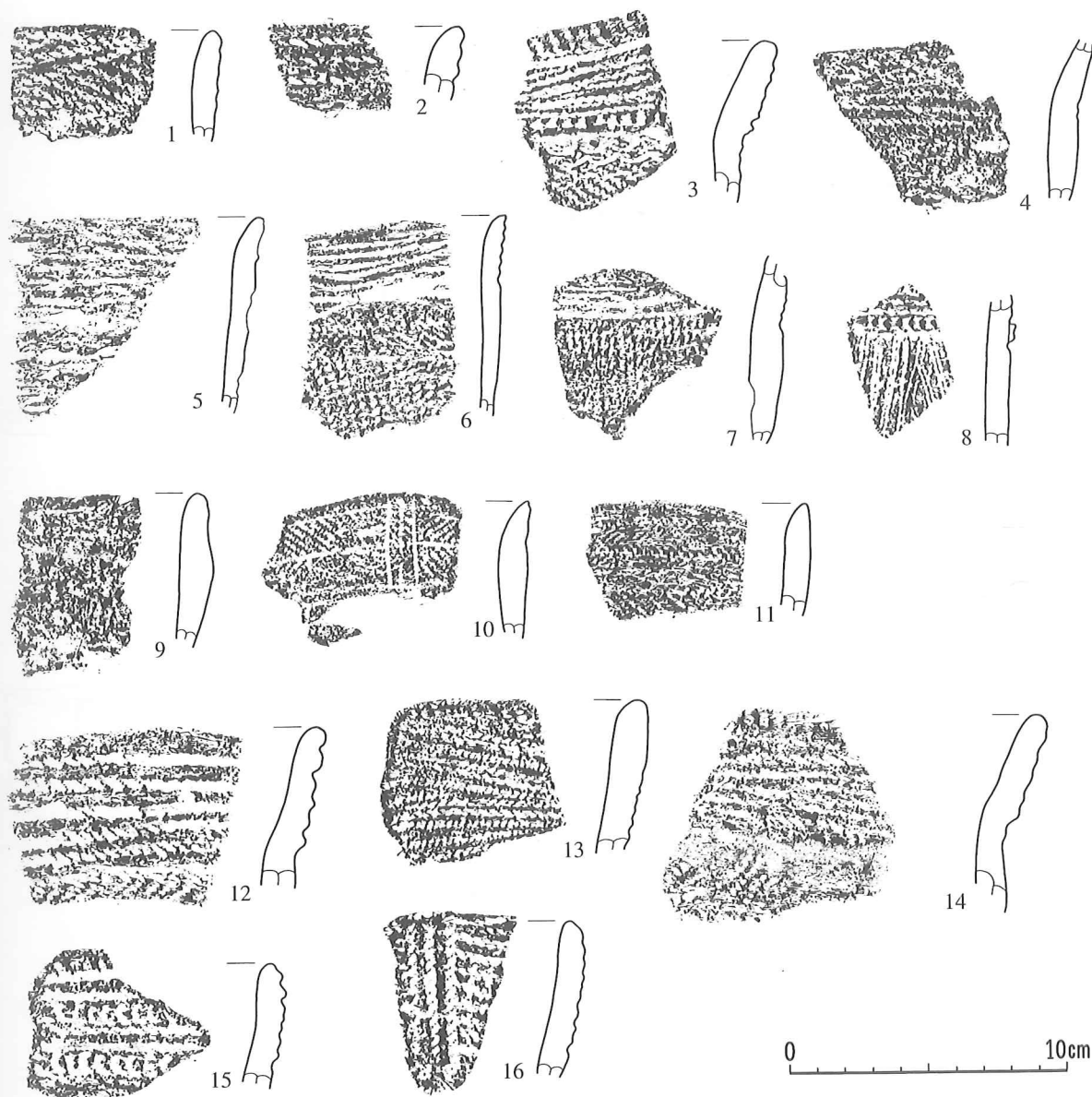
〔平面形・規模〕 壁と柱穴しか残存していないため、全体の平面形は不明である。残存部分の規模は東西3m35cm、南北1m20cmである。

〔壁・床面〕 南壁しか残存しない。南壁は外傾しながら直線的に立ち上がる。壁高は15cmである。床面はほぼ平坦であるが、貼り床は施されておらず、全体に軟弱である。

〔柱穴〕 明確に主柱穴と判断できるものはないもののP₁・P₂・P₃が可能性がある。ピットの深さは、P₁…11cm、P₂…6cm、P₃…17cmである。

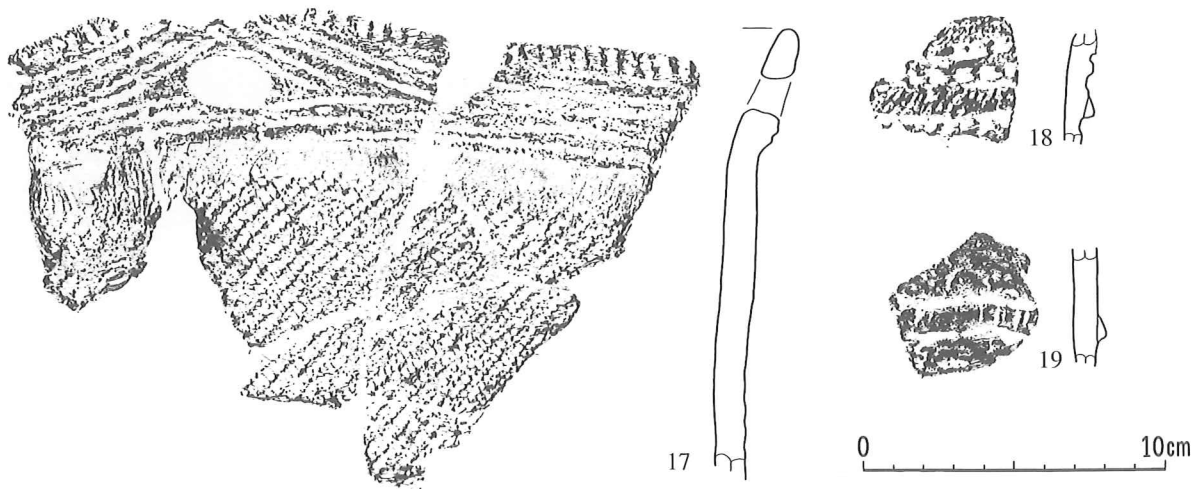
〔炉〕 残存しない。

〔堆積土〕 6層に分層した。人為堆積と考えられる。暗褐色土を基調とし、層全体にロームブロッ

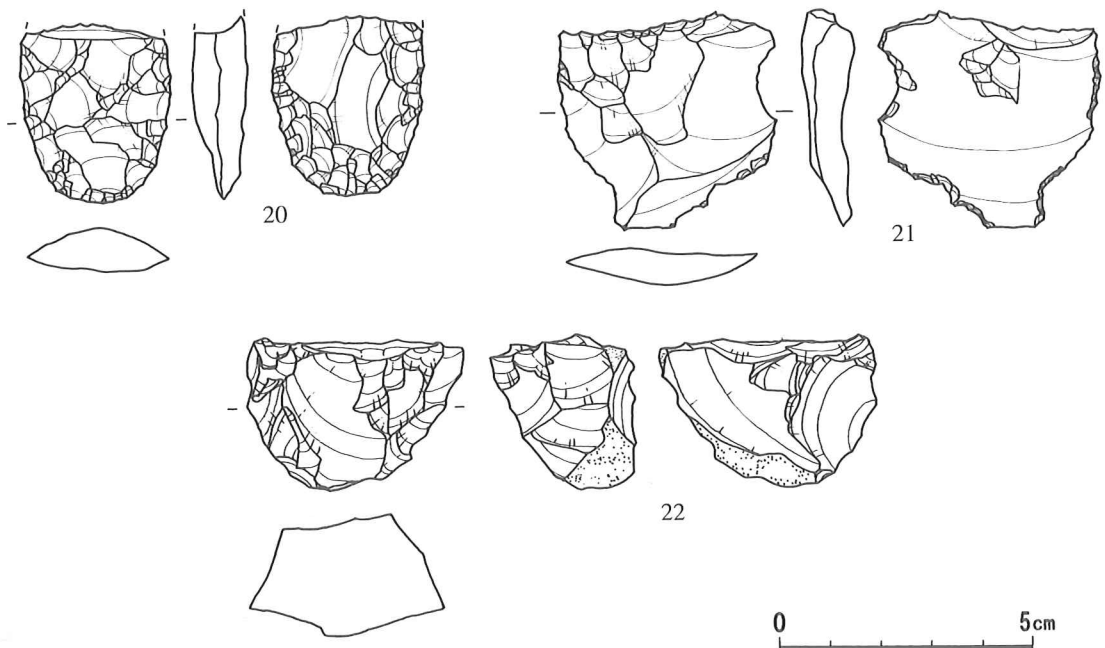


番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	394住	堆積土	LR押			ミガキ	II-5-1		
2	〃	〃	〃			〃	〃		
3	〃	〃	〃、刺突	結回		〃	〃		
4	〃	〃	LR押	不明		〃	〃		
5	〃	〃	単絡I押			〃	〃		
6	〃	〃	〃	結束第一種、RLR		〃	〃		
7	〃	〃	〃、R押	L単絡I		〃	〃		
8	〃	〃	LR押、刺突	微隆帯(刺突)、L・R単絡IA		〃	〃		
9	〃	〃	縄押?	不明		〃	〃	磨耗	
10	〃	〃	結束第一種、単絡I押			〃	〃		
11	〃	〃	結束第一種			〃	〃		
12	〃	〃	LR押			〃	II-5-2		
13	〃	〃	LR・R・R単絡I押			〃	〃		
14	〃	〃	LR押	LR		〃	〃		
15	〃	〃	〃、刺突			〃	〃		
16	〃	〃	LR押			〃	〃		

217図 第394号住居跡出土遺物(1)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
17	394住	堆積土	LR押	LR		ミガキ		II-5-2	
18	〃	〃		貼付 (L押)、刺突		〃		III-3	
19	〃	〃		貼付 (刻み)		〃		III-4	



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備 考	整理番号
20	394住	堆積土	(35)	29	(11)	(11.5)	珪頁	Ga	石匙破片? 石鏡破片?	52132
21	〃	〃	43	43	10	12.6	〃	Gb		52131
22	〃	〃	30	43	29	35.1	〃	Pa		41797

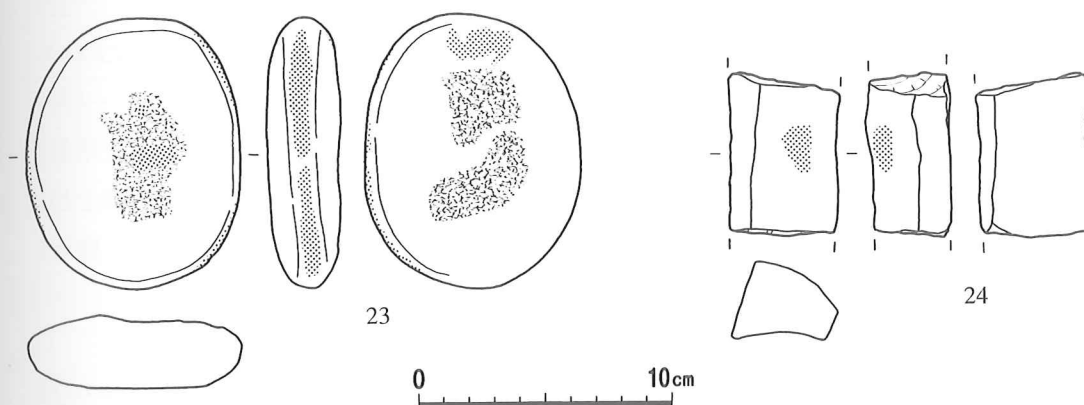
218図 第394号住居跡出土遺物 (2)

クを含む。

〔出土遺物〕 堆積土からスクレイパー類、R.フレイク、石核、敲磨器類、角柱状の礫石器などが出土した。

〔時期〕 堆積土出土遺物、重複関係から縄文時代前期末葉に近い時期と考えられる。

(岡田 康博)



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
23	394住	堆積土	107	84	30	369.3	安	Ib		42620
24	〃	〃	(65)	(44)	(34)	(121.0)	流	Ub		42509

219図 第394号住居跡出土遺物 (3)

第395号住居跡 (220図)

〔位置と確認〕 VI F-90に位置し、先行トレンチを入れたところ壁と床面の一部を確認した。

〔重複〕 第393・394・451号住居跡と重複し、これらの中で最も新しい。

〔平面形・規模〕 東側部分については精査を行っていないため、全体の平面形は不明である。残存部分の規模は東西1 m20cm、南北3 m95cmである。

〔壁・床面〕 西壁のみを確認した。西壁は緩やかに湾曲しながら立ち上がる。壁高は38cmである。床面はほぼ平坦で、全面貼り床が施され堅緻である。

〔柱穴〕 検出されなかった。

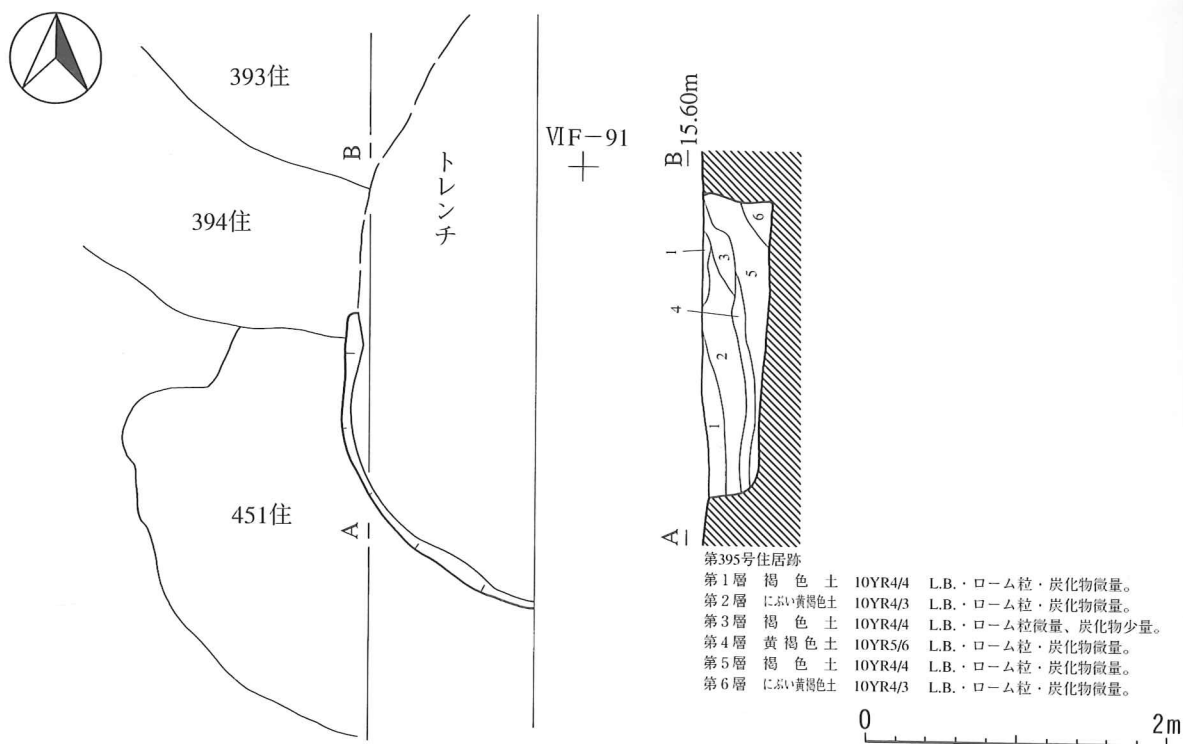
〔炉〕 残存しない。

〔堆積土〕 6層に分層した。人為堆積と考えられる。暗褐色土を基調とし、層全体にロームブロックを含む。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 遺構の重複関係から縄文時代前期と考えられる。

(岡田 康博)



220図 第395号住居跡

第396号住居跡 (184図)

〔位置と確認〕 VI F・G-90に位置し、第393号住居跡を精査中に壁溝の一部を確認した。

〔重複〕 第359・385・392・393号住居跡と重複し、第392・393号住居跡より新しく、第359・385号住居跡より古い。

〔平面形・規模〕 壁溝と柱穴しか残存していないため、全体の平面形は不明である。残存部分の規模は東西1 m80cm、南北70cmである。

〔壁・床面〕 壁は残存しない。床面はほぼ平坦で、貼り床が施されおり、堅緻である。

〔壁溝〕 南側の一部が残存していた。規模は幅5 cm～15cm、深さ2 cm～8 cmである。

〔柱穴〕 柱穴が2個確認されたが明確に主柱穴と判断できるものはない。ピットの深さはP₁…18cm、P₂…42cmである。

〔炉〕 残存しない。

〔堆積土〕 なし。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 遺構の重複関係から縄文時代中期と考えられる。

(岡田 康博)

第397号住居跡 (221図)

〔位置と確認〕 VI E-85・86に位置し、第IV層上面で黒褐色土の楕円形の落ち込みを確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は、南北に長軸のある楕円形である。規模は長径2 m65cm、短径1 m92cmである。床面積は9.01m²である。

〔壁・床面〕 各壁ともに緩やかに湾曲しながら立ち上がる。壁高は東壁12cm、西壁19cm、南壁19cm、北壁4 cmである。床面はほぼ平坦であり、堅緻である。

〔柱穴〕 南側の壁際から柱穴が検出された。ピットの深さは、P₁…5 cm、P₂…8 cm、P₃…4 cm、P₄…5 cm、P₅…7 cmである。

〔炉〕 検出されなかった。

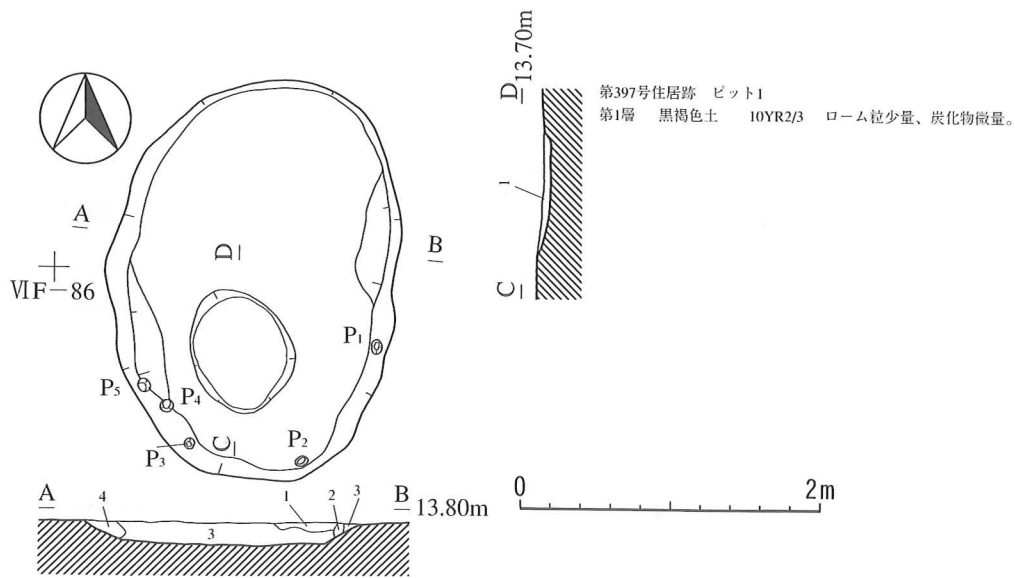
〔その他の施設〕 床面南寄りからピットが検出された。規模は80cm×70cm、深さ10cmである。堆積土に炭化物を少量含む。

〔堆積土〕 4層に分層した。自然堆積と考えられる。黒褐色土を基調とし、層全体にロームブロック・炭化物を微量に含む。

〔出土遺物〕 第3層から第II群3類土器が出土した。

〔時期〕 第3層出土遺物及び確認層位から縄文時代前期中葉(円筒下層b式期)に近い時期と考えられる。

(岡田 康博)



- 第397号住居跡
- 第1層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒中量、炭化物・パミス微量。
 - 第2層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒中量、炭化物・パミス微量。
 - 第3層 黒褐色土 10YR2/3 炭化物・ローム粒・パミス少量。
 - 第4層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒中量、炭化物・パミス少量。



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	397住	3	単絡1、R押	単絡1		ミガキ	II-3		
2	〃	〃		R?単絡1		〃	II-6		
3	〃	〃		LR単絡1		〃	〃		
4	〃	堆積土	R単絡6A			〃	II-3		
5	〃	〃	低隆帯 (R押)	R単絡1		〃	〃		

221図 第397号住居跡・出土遺物

第398号住居跡 (222図)

〔位置と確認〕 VI E・F-86・87に位置し、第388号住居跡を精査中に壁と床面の一部を確認した。

〔重複〕 第314・388号住居跡と重複し、本住居跡が最も古い。

〔平面形・規模〕 平面形は東西に長軸のある楕円形である。重複のため西壁は残存しない。残存部分の規模は長軸4m20cm、短軸3m75cmである。

〔壁・床面〕 各壁ともに緩やかに湾曲しながら立ち上がる。壁高は東壁11cm、南壁25cm、北壁10cmである。床面はほぼ平坦であるが、貼り床は施されていないものの堅緻である。

〔柱穴〕 柱穴は確認されたものの明確に支柱穴と断定できるものはない。しかし、炉の周囲を取り囲むように並ぶ比較的径の大きな柱穴はその可能性がある。直径は8cm～15cm、深さ8cm～11cmである。また壁際に壁柱穴が配置される。直径3cm～10cm、深さは4cm～8cmである。

〔炉〕 床面のほぼ中央から掘り方を持つ地床炉を検出した。掘り方は直径約75cm、深さ3cmである。堆積土には微細な炭化物、焼土を少量含んでいる。明確な火烧面は検出されなかった。

〔その他の施設〕 東壁外側に接するようにピットが検出された。本住居跡に伴うものか不明である。規模は南北1m50cm、東西65cm、深さ25cmである。

〔堆積土〕 3層に分層した。人為堆積と考えられる。暗褐色土を基調とし、層全体にロームブロックを含む。

〔出土遺物〕 堆積土からスクレイパー類などが出土した。

〔時期〕 遺構の重複関係から縄文時代前期と考えられる。

(岡田 康博)

第399号住居跡 (223図)

〔位置と確認〕 VI F-88・89に位置し、第Ⅲ層精査中に土器埋設炉を確認した。

〔平面形・規模〕 炉しか残存しないため、全体の形状は不明である。

〔壁・床面〕 壁・床面ともに残存しない。

〔柱穴〕 検出されなかった。

〔炉〕 土器埋設炉が検出された。二重になっており、両者ともに下半部を使用している。別個体である。掘り方の規模は直径40cm、深さ30cmである。堆積土には炭化物、焼土を含んでいる。

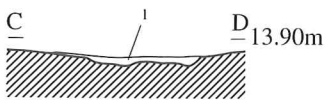
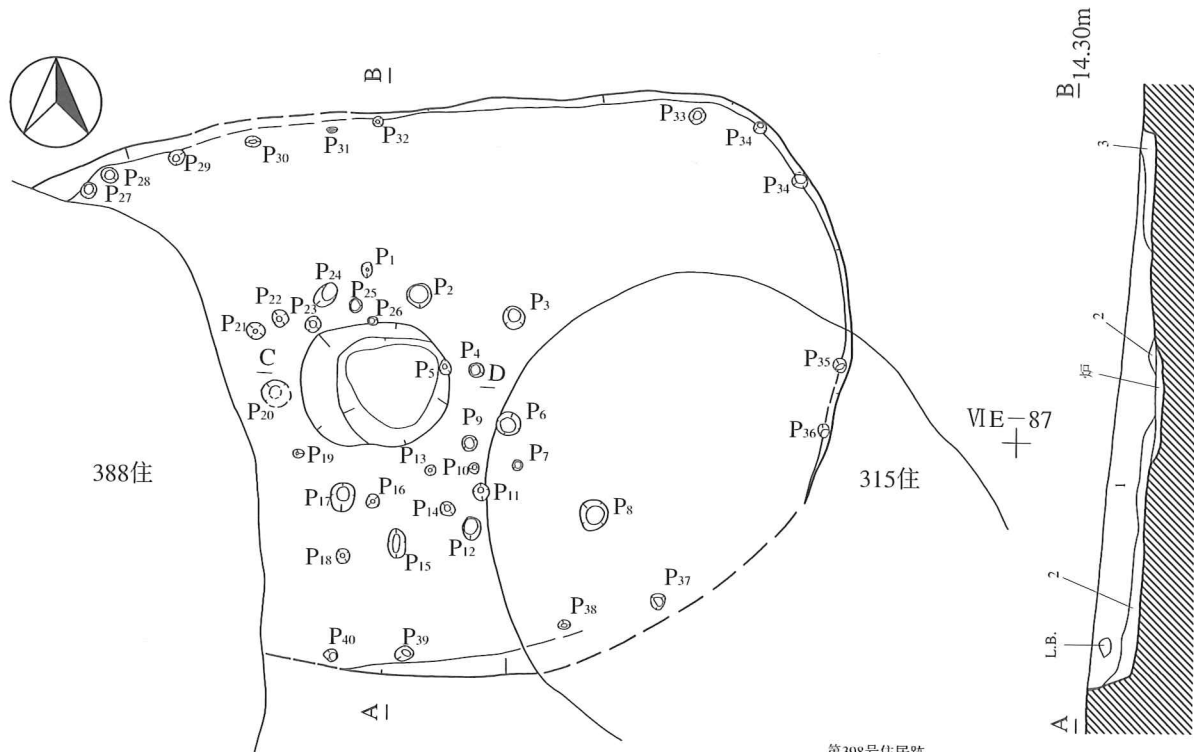
〔その他の施設〕 検出されなかった。

〔堆積土〕 なし。

〔出土遺物〕 埋設炉の土器は第Ⅲ群1・6類である。

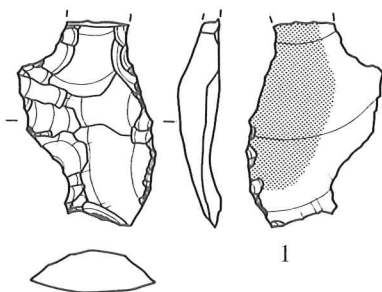
〔時期〕 炉に使用された土器から縄文時代中期初頭(円筒上層a式期)と考えられる。

(岡田 康博)



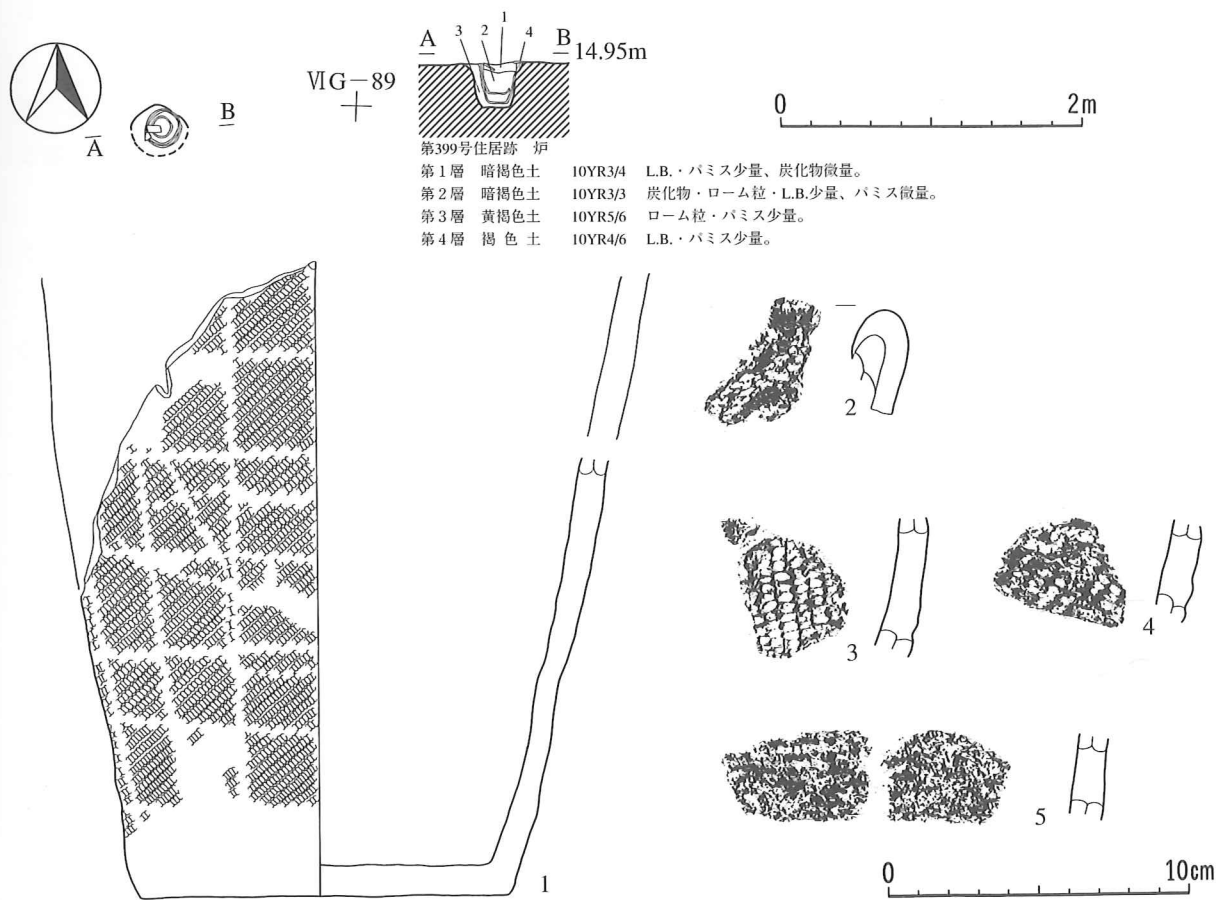
第398号住居跡 炉
 第1層 黒褐色土 10YR2/3 炭化物・L.B.・ローム粒少量。

第398号住居跡
 第1層 暗褐色土 10YR3/3
 炭化物・ローム粒少量、パミス微量。
 第2層 暗褐色土 10YR3/4
 炭化物・ローム粒少量、パミス微量、焼土粒極微量。
 第3層 黒褐色土 10YR2/3
 炭化物・パミス微量、ローム粒極微量。



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
1	398住	堆積土	(41)	(27)	(8)	(6.5)	珪頁	Ga	石匙?	52133

222図 第398号住居跡・出土遺物



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	399住	埋設炉			LR	ミガキ	無文	Ⅲ-6	
2	〃	〃	貼付 (LR押)			〃		Ⅲ-1	
3	〃	〃		RL		〃		Ⅲ-6	
4	〃	〃		LR、結回		〃		〃	
5	〃	〃		不明		〃		〃	

223図 第399号住居跡・出土遺物

第400号住居跡 (224図~231図)

〔位置と確認〕 VIF・H-90・91に位置し、第328号住居跡を精査中に床面の一部を確認した。

〔重複〕 第328・356・385・393・394・369号住居跡と重複し、本住居跡が最も古い。

〔平面形・規模〕 重複のため東壁が残存しないが平面形は南北に長軸のある楕円形と考えられる。東側が張り出し、一段高くテラス状となっている。規模は長軸 6 m46cm、短軸 5 m39cmである。

〔壁・床面〕 各壁ともに外傾しながら直線的に立ち上がる。壁高は西壁30cm、南壁46cm、北壁 8 cmである。床面はほぼ平坦であるが、貼り床は施されていない。東側の一段高くなっている箇所は、拡張した可能性が高いものと考えられる。

〔柱穴〕 主柱穴はP₁・P₂・P₃で、拡張前はP₁・P₂が、拡張後はP₁・P₃が主柱穴と考えられる。

ピットの深さは、P₁…36cm、P₂…53cm、P₃…46cmである。南側の壁際には壁柱穴が検出された。直径15cm～28cm、深さ8cm～27cmである。

〔炉〕 床面中央から南方向に若干寄って地床炉跡と考えられる円形の小ピットを検出した。掘り方の規模は30cm×40cm、深さ22cmである。堆積土には微細な炭化物、焼土を少量含んでいる。明確な火焼面は検出されなかった。

〔堆積土〕 5層に分層した。人為堆積と考えられる。褐色土を基調とし、層全体にロームブロックを含む。

〔出土遺物〕 堆積土から第Ⅱ群3～5、第Ⅲ群1～3類土器が出土した。石器は床面直上から先端部に丸い突起とひもかけ様の溝をもつ磨製石器が出土している。また、第4層から角柱状の礫石器などが、その他堆積土から石匙、スクレイパー類、磨製石斧、敲磨器類などが、ピット9堆積土から敲磨器類などが出土した。61は磨製石斧の刃部付近の欠損品に若干の剥離と研磨を施している。石製品素材への転用を図ろうとした可能性がある。

〔時期〕 ピット出土遺物及び重複関係から縄文時代前期中葉（円筒下層b式期）と考えられる。

（岡田 康博）

第401号住居跡（232図）

〔位置と確認〕 VO・P-121・122に位置する。第V層精査中に半円形に黒褐色土の落ち込みを確認した。

〔重複〕 第320号住居跡、第121・128号溝と重複し、本住居跡が最も古い。また北側は一部攪乱を受けている。

〔平面形・規模〕 推定径2m80cmほどの不整円形と思われる。

〔壁・床面〕 外傾しながら直線的に立ち上がる。壁高は東壁1cm、西壁13cm、北壁13cmである。床面はほぼ平坦で残存している部分は堅緻である。

〔柱穴〕 検出されなかった。

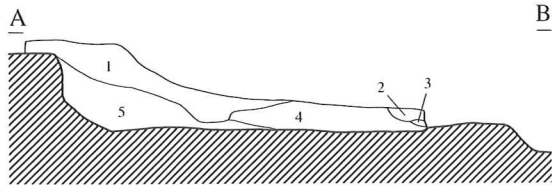
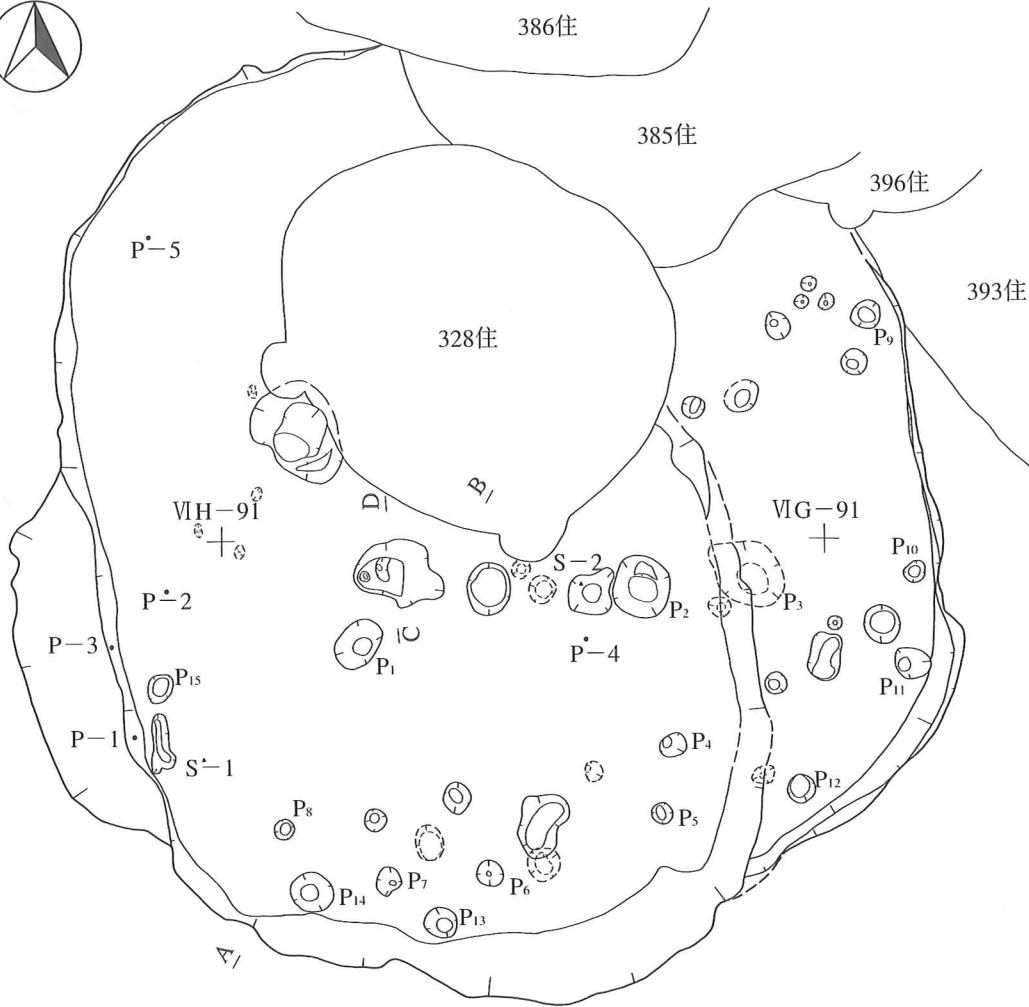
〔炉〕 土器片敷炉を検出した。掘り方規模は34cm×32cm、深さ3cmである。堆積土中には炭化物が含まれる。

〔堆積土〕 2層に分層した。黒褐色土を主体とし、層全体にローム粒・炭化物が含まれる。第2層は攪乱である。自然堆積と考えられる。

〔出土遺物〕 炉の土器は第Ⅲ群5類である。床面から敲磨器類などが出土した。

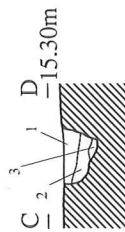
〔時期〕 床面及び堆積土出土遺物から、縄文時代中期中葉（円筒上層e式期）と思われる。

（小笠原 雅行）



- 第400号住居跡
- | | | | |
|-----|---------|---------|--------------------|
| 第1層 | 褐色土 | 10YR4/6 | ローム粒少量、炭化物・L.B.微量。 |
| 第2層 | 暗褐色土 | 10YR3/4 | ローム粒少量、炭化物・焼土微量。 |
| 第3層 | にぶい黄褐色土 | 10YR4/3 | L.B.少量、炭化物微量。 |
| 第4層 | 褐色土 | 10YR4/6 | ローム粒少量。 |
| 第5層 | 褐色土 | 10YR4/4 | ローム粒・L.B.少量、炭化物微量。 |

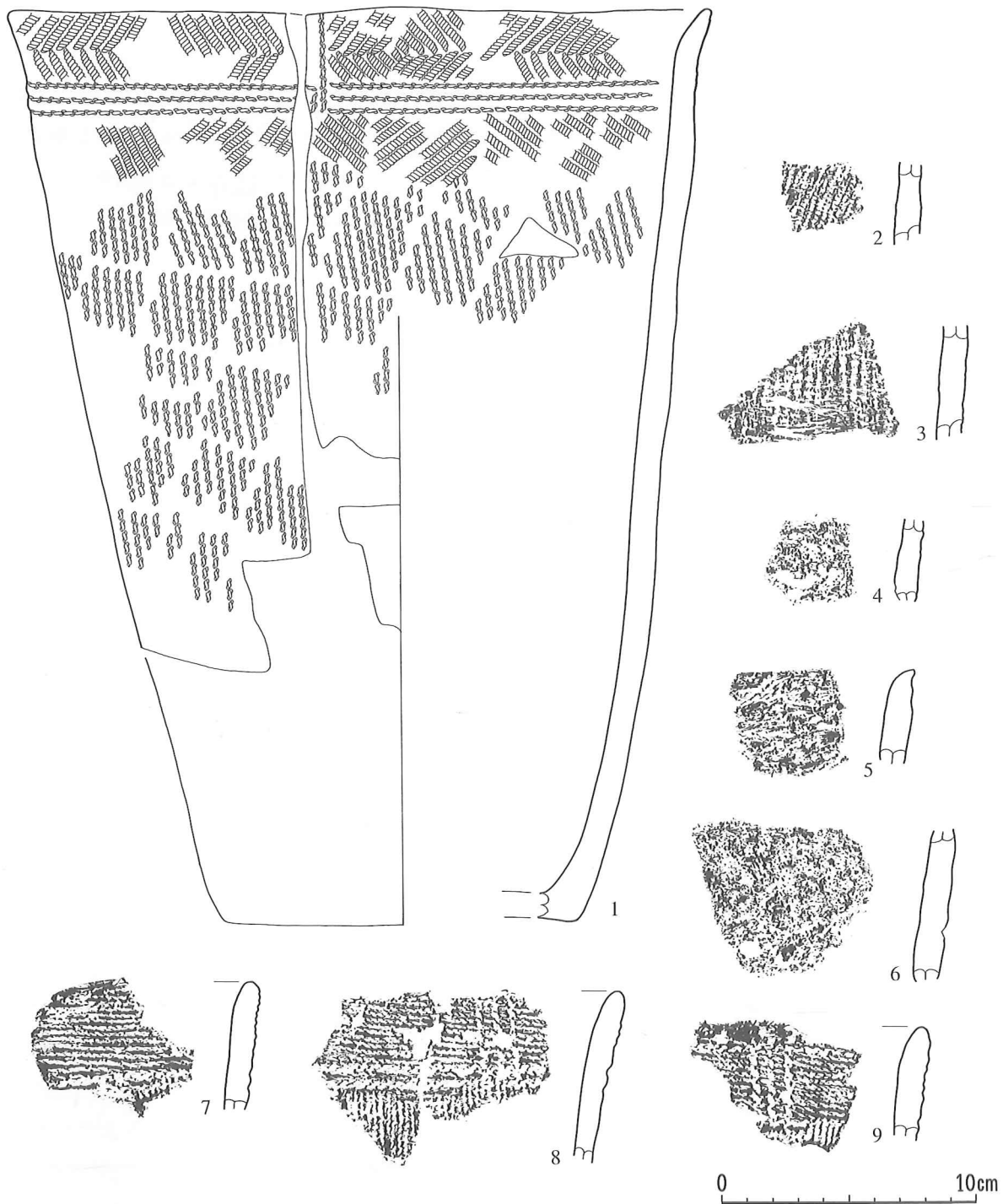
B 15.90m



- 第400号住居跡 炉
- | | | | |
|-----|---------|---------|----------------------|
| 第1層 | にぶい黄褐色土 | 10YR4/3 | 炭化物・ローム粒・焼土少量、パミス微量。 |
| 第2層 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | L.B.・炭化物少量、パミス微量。 |
| 第3層 | 褐色土 | 10YR4/4 | L.B.少量。 |

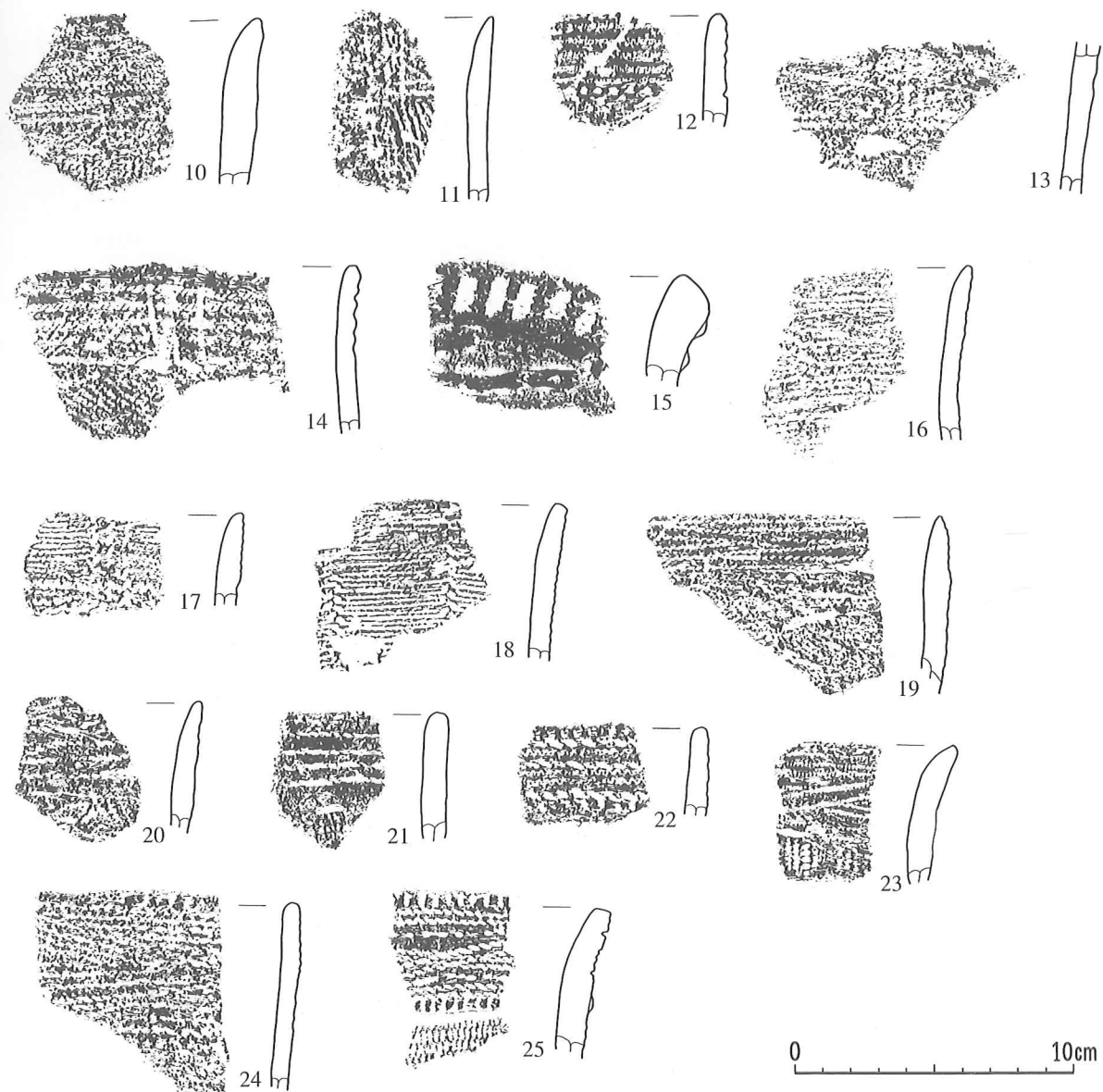


224図 第400号住居跡



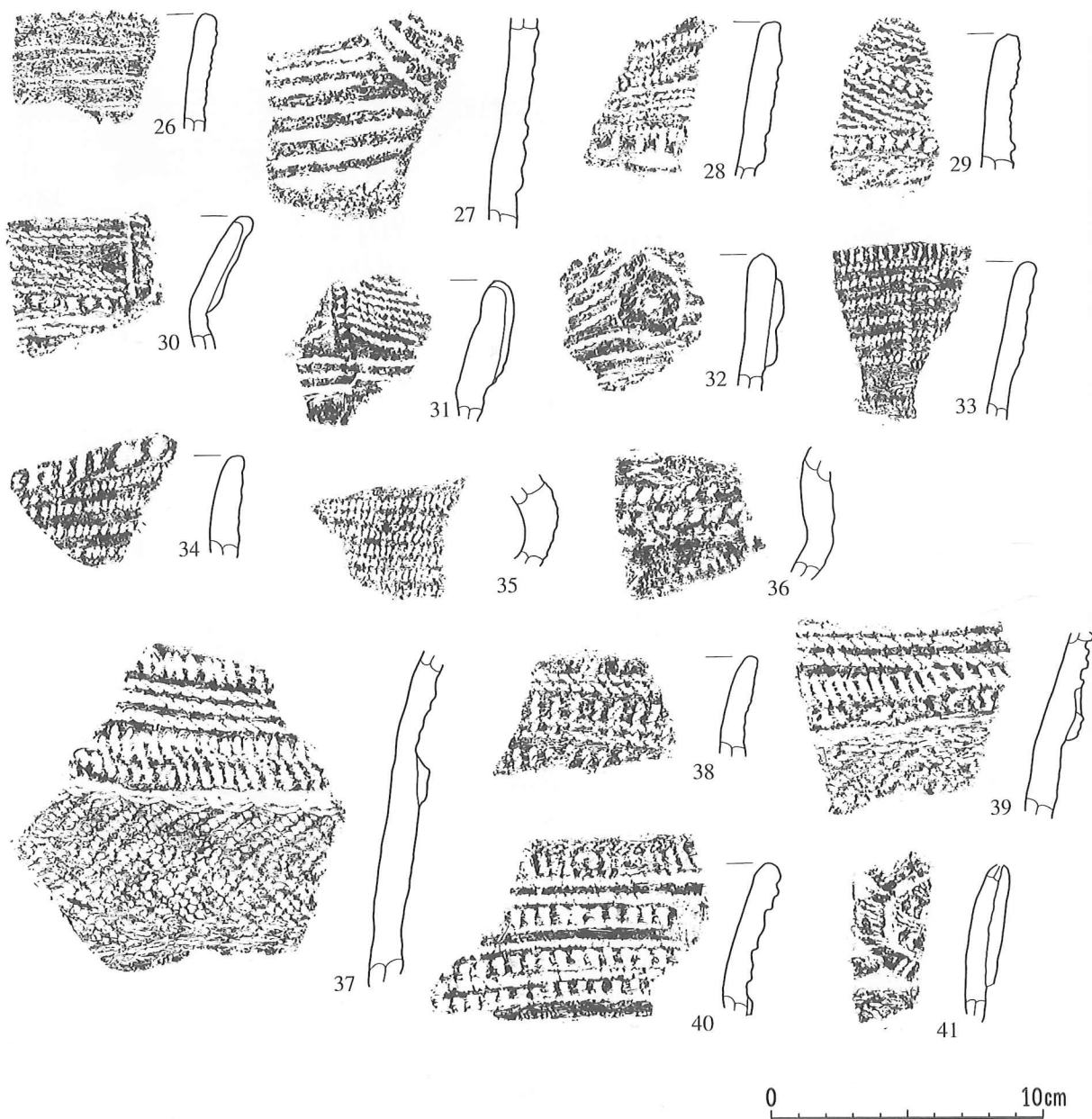
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	400住	4	結束第一種、LR押	RRL	RRL	ミガキ		II-4・5	
2	400住ビット2	堆積土		不明		〃		II-6	
3	400住ビット5	〃		R単絡1		〃		〃	
4	400住ビット7	〃		〃		〃		〃	
5	400住ビット9	〃		不明		〃		II-5-1?	
6	〃	〃		〃		〃		II-6	
7	400住	4	L単絡1、RL押			〃		II-3	
8	〃	〃	〃、〃	L単絡1		〃		〃	
9	〃	〃	〃、〃	〃		〃		〃	

225図 第400号住居跡出土遺物(1)



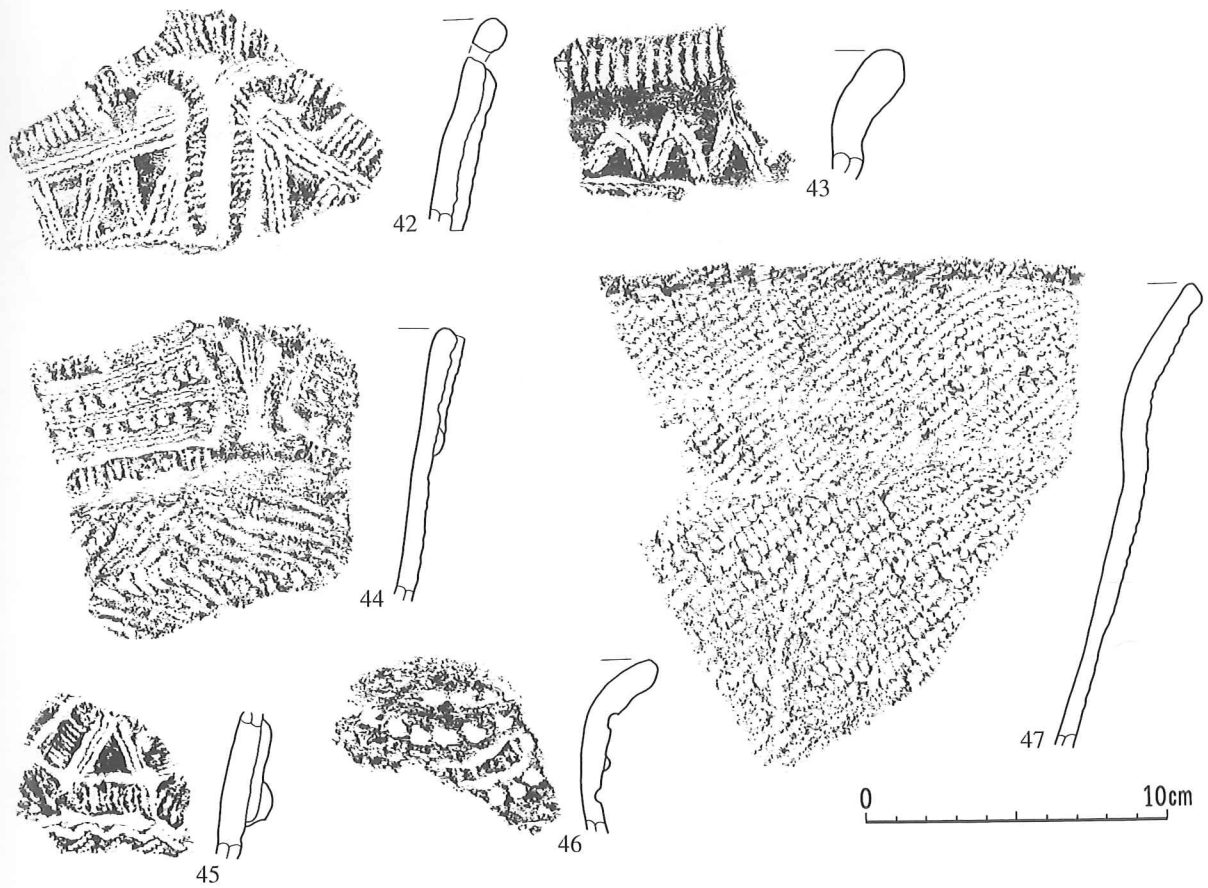
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
10	400住	4	L押	単絡1?		ミガキ		Ⅱ-5-1	
11	〃	〃	LR押	R単絡1		〃		〃	
12	〃	〃	R単絡1押、刺突	〃		〃		〃	
13	〃	〃	L押	不明		〃		〃	
14	〃	〃	RL押	RL		〃		〃	
15	〃	〃	〃、貼付			〃		Ⅲ-4	
16	〃	堆積土	R?単絡1			〃		Ⅱ-3	
17	〃	〃	R単絡1、LR押			〃		〃	
18	〃	〃	R単絡6A			〃		〃	
19	〃	〃	RL押	結束第一種		〃		Ⅱ-5-1	
20	〃	〃	LR押	RL		〃		〃	
21	〃	〃	〃			〃		〃	
22	〃	〃	〃、刺突			〃		〃	
23	〃	〃	単絡1押	RL		〃		〃	
24	〃	〃	LR押			〃		Ⅱ-5-2	
25	〃	〃	〃、刺突	貼付(刺突)、多軸絡?		〃		〃	口唇上面刻み

226図 第400号住居跡出土遺物 (2)



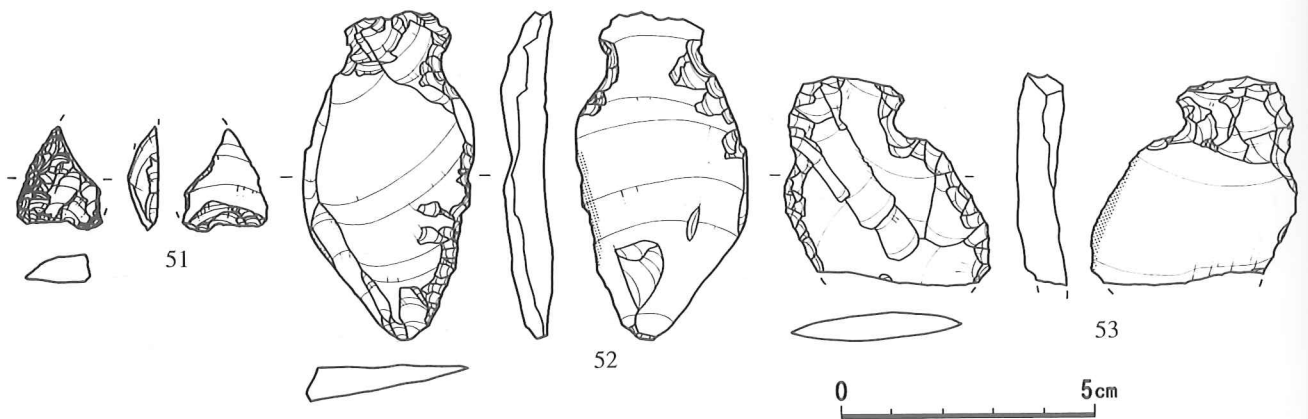
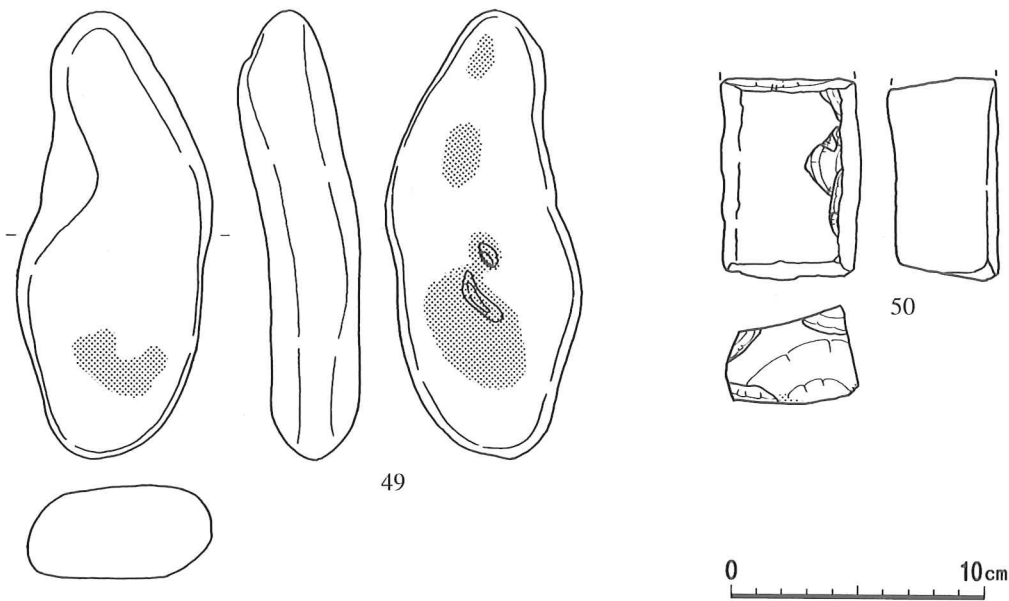
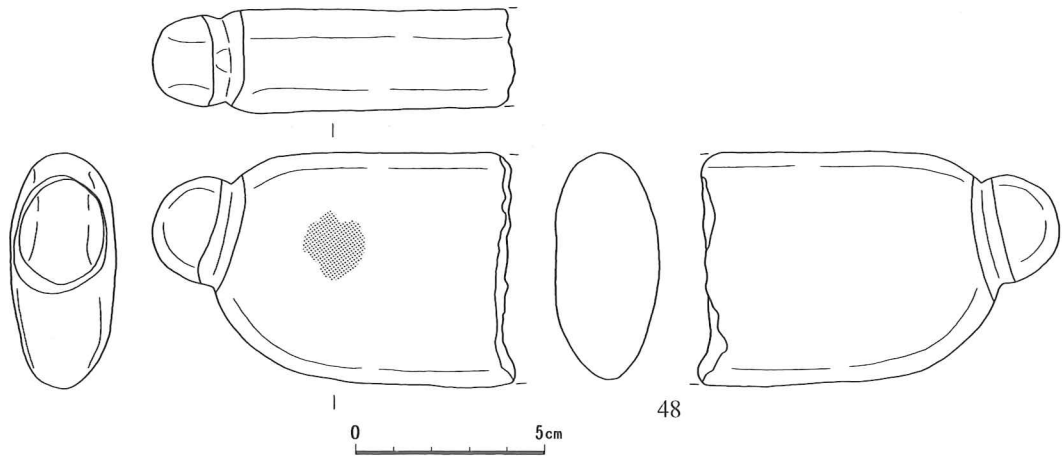
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
26	400住	堆積土	L押			ミガキ	II-5-2		
27	〃	〃	LR押			〃	〃		
28	〃	〃	L・R・R単絡1押			〃	〃		
29	〃	〃	RL押、刺突			〃	〃		
30	〃	〃	貼付(LR押)、LR押			〃	〃		
31	〃	〃	〃(刺突)、〃			〃	〃		
32	〃	〃	〃(縄押?)、〃			〃	〃		
33	〃	〃	R単絡1押			〃	〃		
34	〃	〃	〃			〃	〃		
35	〃	〃	〃			〃	〃	橋状把手	
36	〃	〃	〃			〃	〃		
37	〃	〃	貼付(L単絡1押、LR・L単絡押)	結束第一種(LR、RL)		〃	III-1		
38	〃	〃	LR押			〃	〃		
39	〃	〃	貼付(L押)、LR・L単絡1押			〃	〃		
40	〃	〃	L・RL単絡1押			〃	〃		
41	〃	〃	貼付(R押)、R押			〃	〃		

227図 第400号住居跡出土遺物(3)



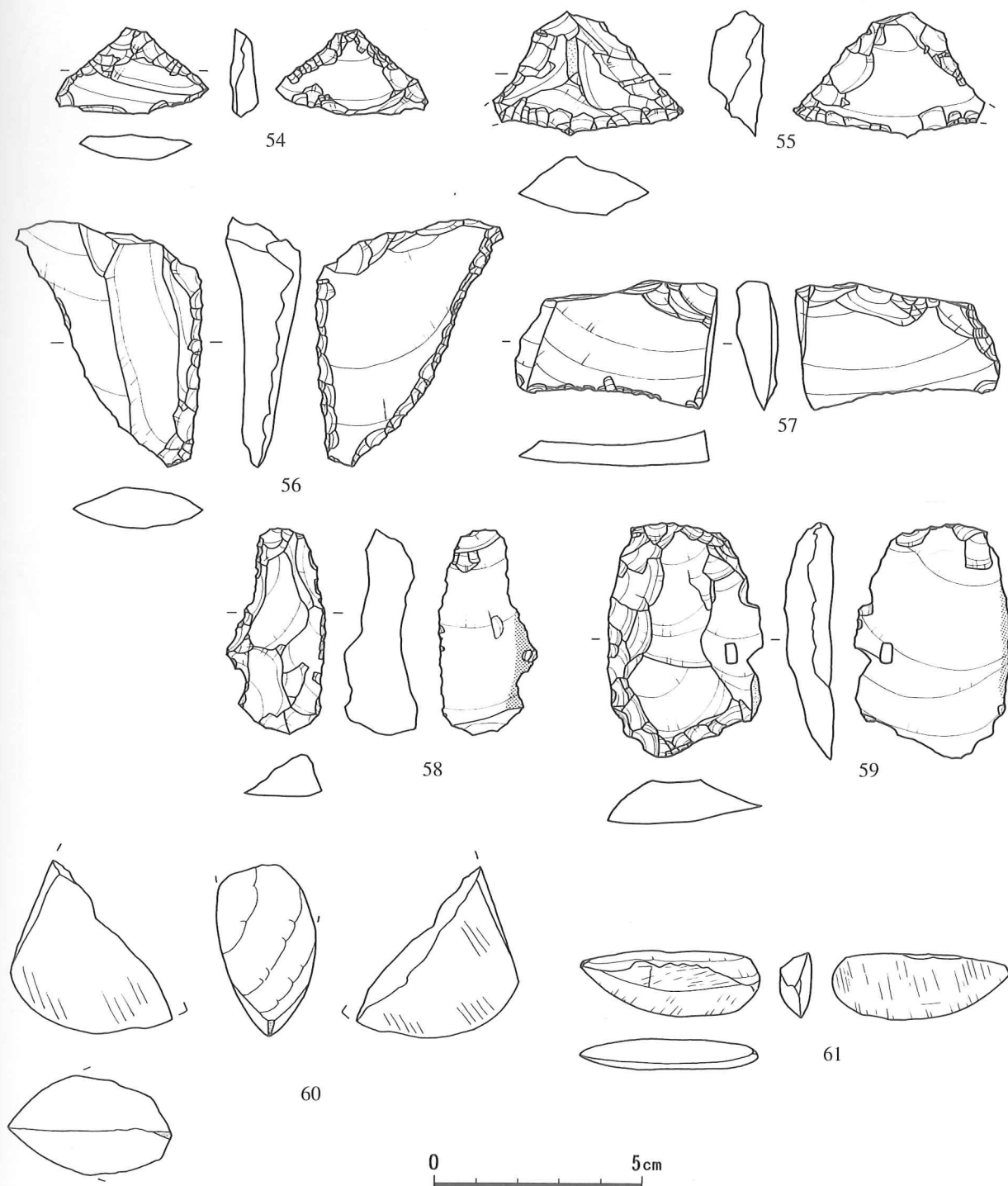
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
42	400住	堆積土	貼付(L押)、L・R押、貫通孔			ミガキ		Ⅲ-1	
43	〃	〃	LR押			〃		〃	
44	〃	〃	貼付(R押)、LR・RL押	結束第一種(LR、RL)		〃		Ⅲ-2	
45	〃	〃	〃(L押)、L押	結回、LR		〃		Ⅲ-1・2	
46	〃	〃	〃(縄押)、刺突			〃		Ⅲ-3	
47	〃	〃	結束第一種			〃		Ⅲ-6	

228図 第400号住居跡出土遺物(4)



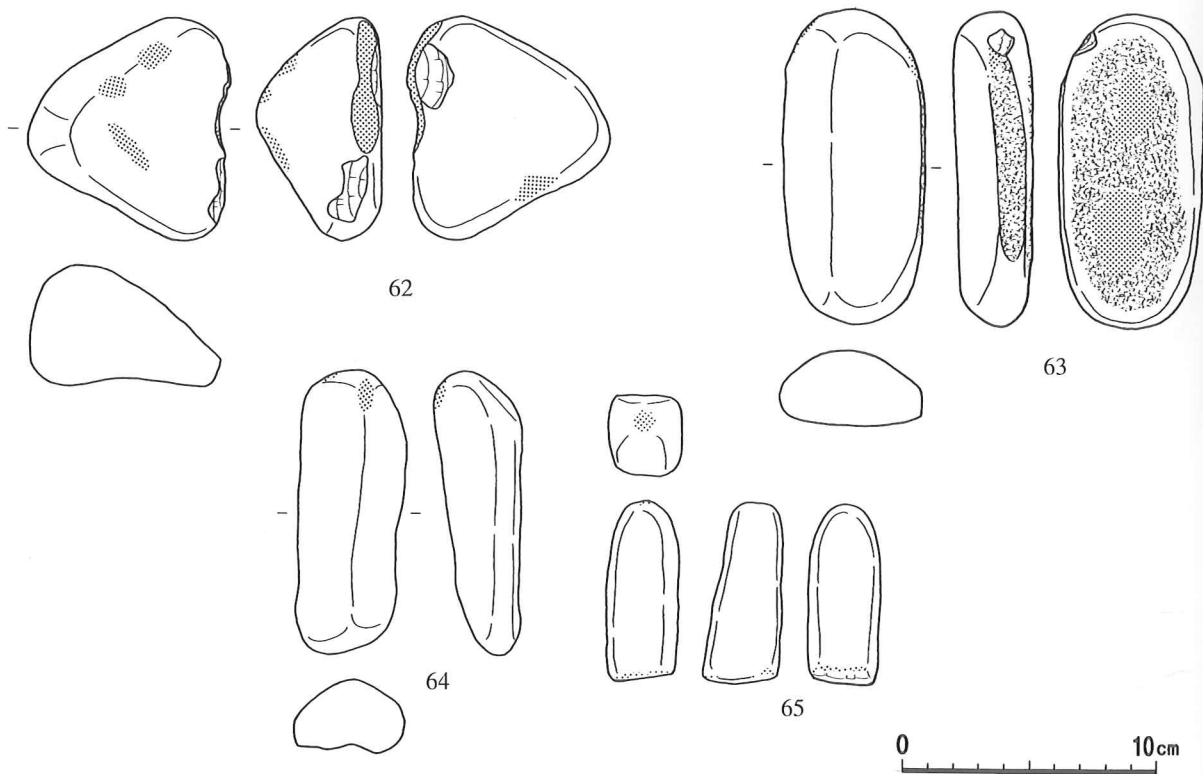
図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
48	400住	床直	63	(96)	28	(245.6)	安	Q	S-2	40411
49	400住ビット9	堆積土	178	77	48	626.1	〃	Ib		46336
50	400住	4	(80)	(55)	(43)	(277.5)	流	Ub	下面に敲打痕、S-1	42655
51	〃	堆積土	(20)	(16)	(6)	(1.2)	珪頁	Ga	石鏃未製品?	41821
52	〃	〃	65	34	10	17.0	〃	Ca		53007
53	〃	〃	(41)	40	(10)	(13.0)	〃	Cc		52138

229図 第400号住居跡出土遺物 (5)



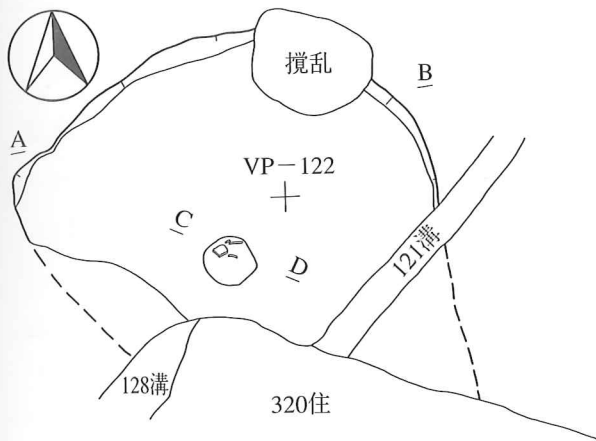
図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
54	400住	堆積土	20	36	7	3.7	珪頁	Ga		52137
55	〃	〃	30	(46)	13	(11.0)	〃	〃		52134
56	〃	〃	59	45	18	26.8	〃	〃		52135
57	〃	〃	31	48	10	13.0	〃	〃		41814
58	〃	〃	49	24	18	13.4	〃	〃		52136
59	〃	〃	51	37	12	21.2	〃	〃		53008
60	〃	〃	(41)	(39)	(24)	(29.7)	安	Ha		42625
61	〃	〃	43	16	8	13.0	珪頁	Q	磨製石斧欠損後再加工	52339

230図 第400号住居跡出土遺物 (6)

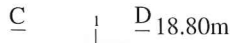


図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
62	400住	堆積土	88	80	49	326.9	安	Ib		42667
63	〃	〃	124	56	32	346.6	〃	Ic		42666
64	〃	〃	112	43	35	170.6	〃	Ib		42660
65	〃	〃	72	29	31	84.9	凝	〃		42626

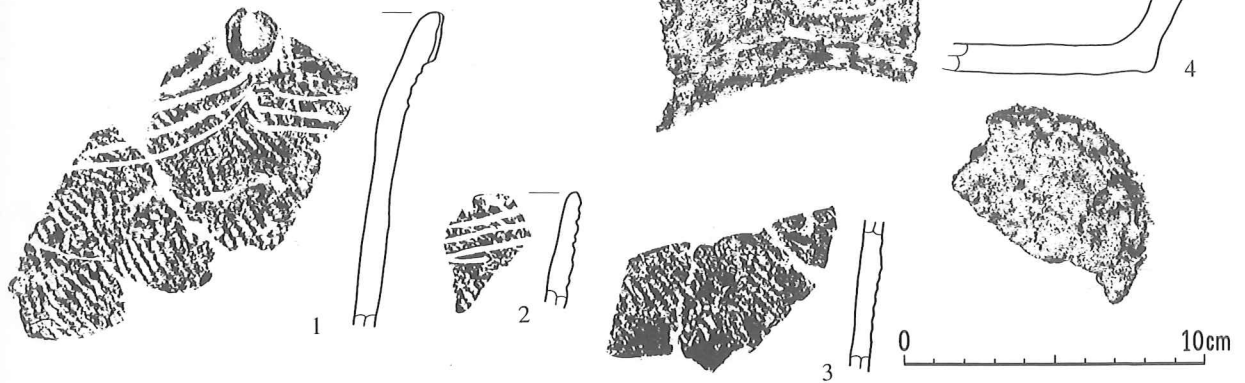
231図 第400号住居跡出土遺物 (7)



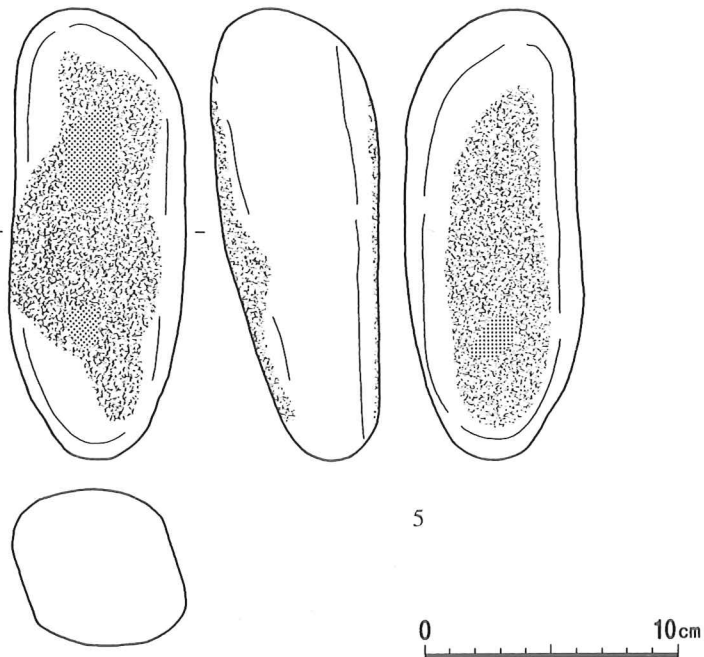
第401号住居跡
 第1層 黒褐色土 10YR2/3 炭化物微量。
 第2層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒少量、炭化物・浮石微量。



第401号住居跡 炉
 第1層 黒褐色土 10YR3/2 炭化物・ローム粒微量。



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	401住炉		貼付、RL、沈線			ミガキ		Ⅲ-5	
2	〃		刻み、〃、〃			〃		〃	
3	〃			RL		〃		〃	
4	〃	堆積土	無文		無文	〃	無文	Ⅲ-6	浅鉢形



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
5	401住	床面	177	70	67	1234.8	安	Ic	S-1	42670

232図 第401号住居跡・出土遺物 (1)

第402号住居跡 (233図)

〔位置と確認〕 VD・E-119・120に位置する。第V層精査中に円形に黒褐色土の落ち込みを確認した。

〔重複〕 第403・425号住居跡と重複し、第403号住居跡より古く、第425号住居跡より新しい。また、北東部・南東部は攪乱を受けている。

〔平面形・規模〕 東側一部と南側が削平により残存しないため、平面形は不明だが、径約2m90cmの円形と思われる。

〔壁・床面〕 外傾しながら直線的に立ち上がる。壁高は西壁4cm、北壁4cmである。床面はほぼ平坦で残存部分は堅緻である。

〔柱穴〕 床面中央部から5個のピットを確認した。深さはP₁…14cm、P₂…19cm、P₃…49cm、P₄…11cm、P₅…21cmである。P₃からは柱痕跡が確認された。

〔炉〕 検出されなかった。

〔堆積土〕 1層である。黒褐色土を主体とし、層全体にローム粒が微量に含まれる。自然堆積と考えられる。

〔出土遺物〕 堆積土から第II群2類、第III群1・6類が出土した。

〔時期〕 堆積土出土遺物から、縄文時代中期前半と思われる。

(小笠原 雅行)

第403号住居跡 (234図)

〔位置と確認〕 VIC・D-119・120に位置する。第V層精査中に半円形に黒褐色土の落ち込みを確認した。

〔重複〕 第402・425号住居跡と重複し、本住居跡が最も新しい。

〔平面形・規模〕 南側が削平により残存しないが、径約2m60cmの円形と思われる。

〔壁・床面〕 外傾しながら直線的に立ち上がる。壁高は東壁6cm、西壁9cm、北壁20cmである。床面はほぼ平坦で堅緻である。炉の南側で貼り床が確認された。

〔柱穴〕 4個のピットを確認した。深さはP₁…30cm、P₂…17cm、P₃…18cm、P₄…26cmである。

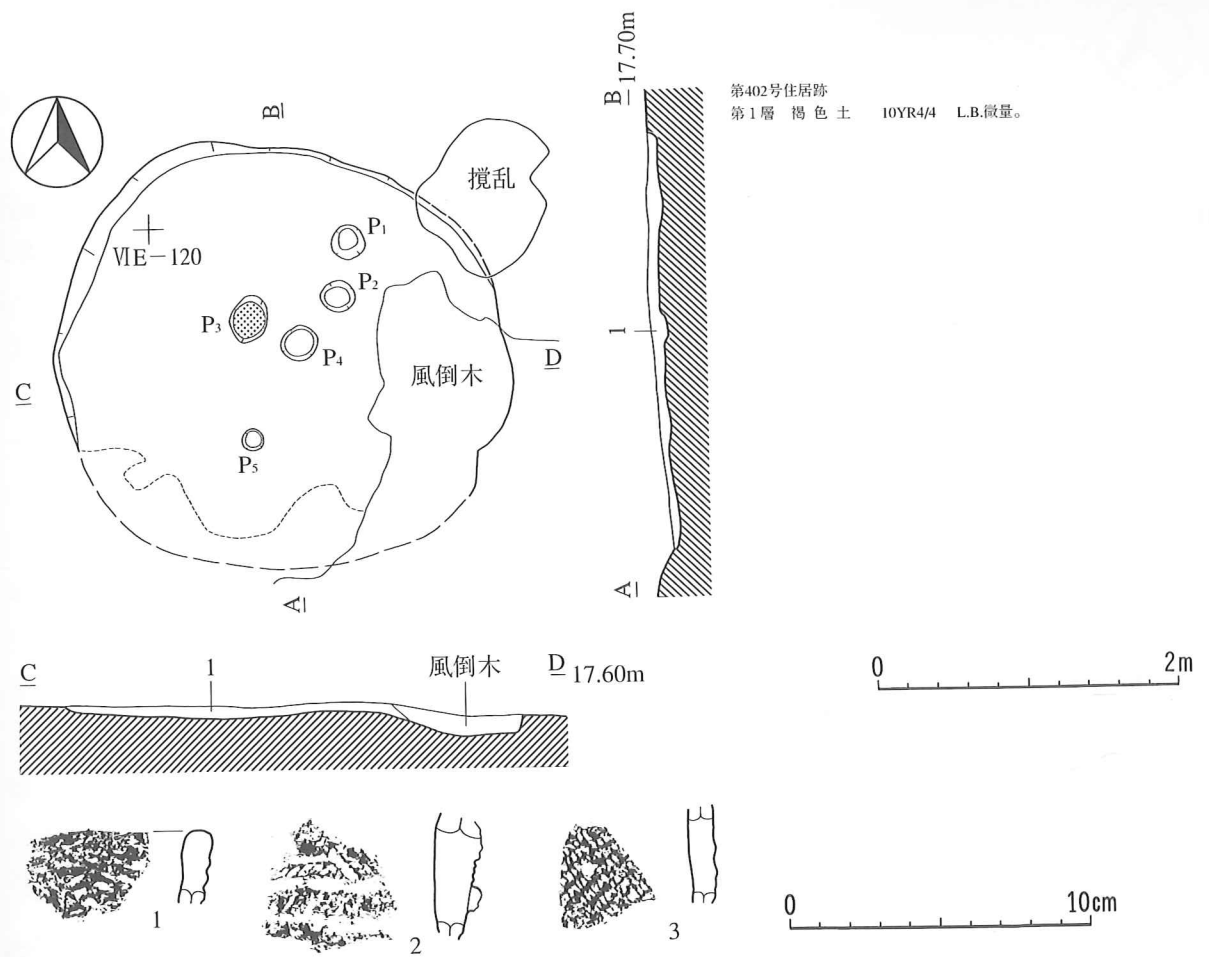
〔炉〕 土器埋設炉を検出した。掘り方の規模は25cm×21cm、深さ21cmである。堆積土中には微量の炭化物が含まれる。また掘り方堆積土中には焼土も含まれる。

〔堆積土〕 2層に分層した。暗褐色土を主体とし、層全体にローム粒・炭化物・焼土が含まれる。人為堆積の可能性が高いと思われる。

〔出土遺物〕 床面から第III群6類土器、敲磨器類、堆積土から第II群2類、第III群1類土器が出土した。埋設炉の土器は図示できなかった。

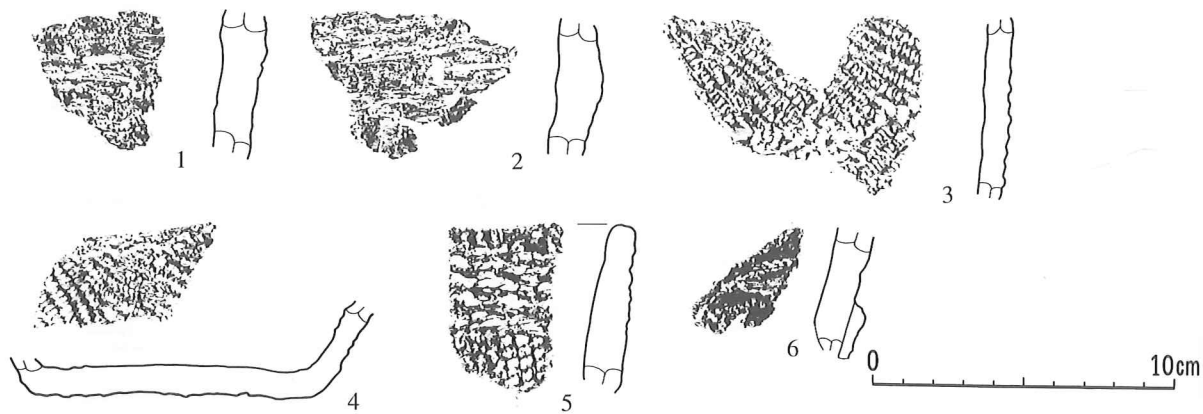
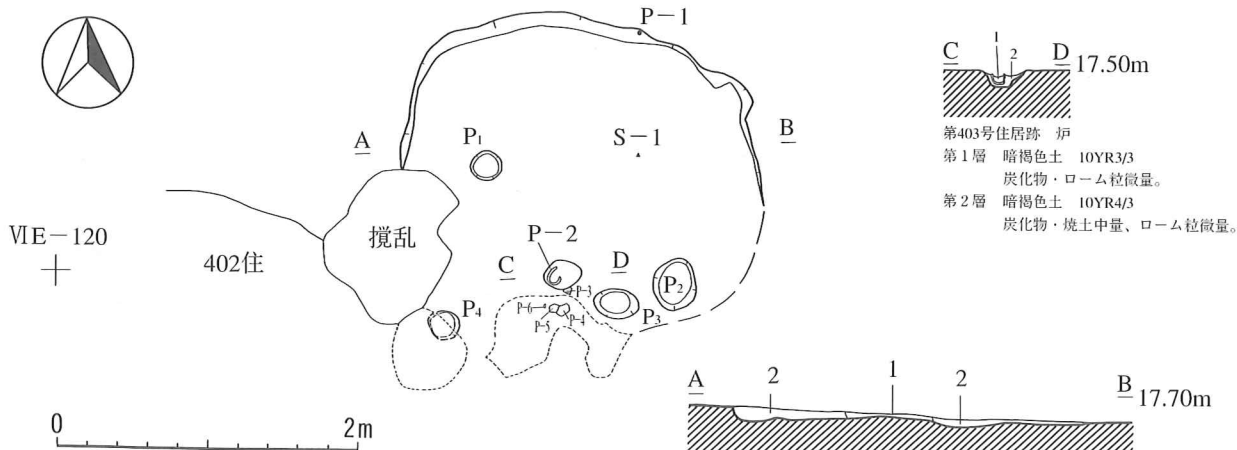
〔時期〕 床面及び堆積土出土遺物から、縄文時代中期前半と思われる。

(小笠原 雅行)

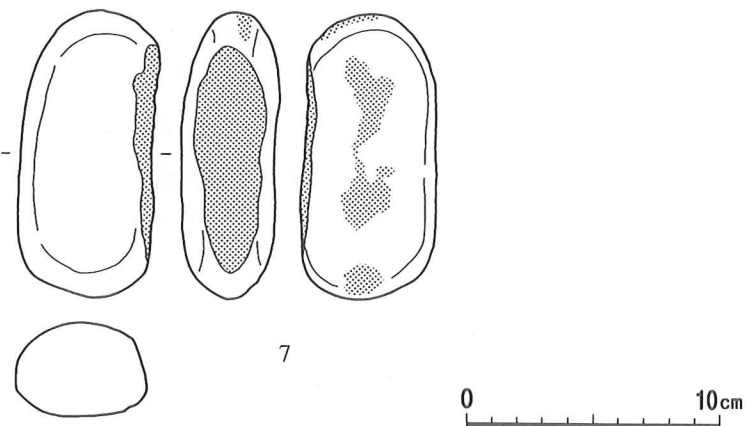


番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	402住	堆積土	L結回			ミガキ		Ⅱ-2	
2	〃	〃	貼付(L押)、L・R押			〃		Ⅲ-1	
3	〃	〃		LR		〃		Ⅲ-6	

233図 第402号住居跡・出土遺物



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	403住	床面		無文		ナデ		Ⅲ-6	
2	〃	〃		〃		〃		〃	
3	〃	〃		結束第一種(LR, RL)		ミガキ		〃	
4	〃	〃			RL	〃	無文	〃	
5	〃	堆積土	RLR、R結回			〃		Ⅱ-2	
6	〃	〃	貼付(縄?押)、L押			〃		Ⅲ-1	



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備 考	整理番号
7	403住	床面	114	53	38	347.2	流	Ib	S-1	42674

234図 第403号住居跡・出土遺物

第404号住居跡 (235図～239図)

〔位置と確認〕 VI C・D-123に位置する。第V層精査中に楕円形に黒褐色土の落ち込みを確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 長軸 3 m94cm、短軸 3 m18cmの楕円形である。床面積は9.27m²である。長軸方向は南北である。

〔壁・床面〕 壁は外傾しながら直線的に立ち上がる。壁高は東壁14cm、西壁20cm、南壁 6 cm、北壁29cmである。床面はほぼ平坦で堅緻である。

〔柱穴〕 精査後床面を何度か削り込み確認に努めたが、検出されなかった。

〔炉〕 床面の中央から地床炉を検出した。掘り方の規模は30cm×28cmで、深さ16cmに掘り込まれる。堆積土中には炭化物が含まれる。

〔堆積土〕 4層に分層した。黒褐色土を主体とし、層全体にローム粒が微量含まれる。自然堆積と考えられる。

〔出土遺物〕 床面直上から第Ⅲ群4類、堆積土からも第Ⅲ群4類を主体とする土器が出土した。石器は炉・第2層から敲磨器類などが、堆積土から砥石などが出土した。また、堆積土から石製品が出土した。

〔時期〕 床面直上の出土遺物から、縄文時代中期中葉（円筒上層d式期）と思われる。

(小笠原 雅行)

第405号住居跡 (240図～242図)

〔位置と確認〕 VI I-136に位置する。第V層精査中に円形に黒褐色土の落ち込みを確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 長軸 3 m98cm、短軸 2 m82cmの不整円形である。床面積は5.59m²である。

〔壁・床面〕 外傾しながら直線的に立ち上がる。壁高は東壁14cm、西壁22cm、南壁27cm、北壁19cmである。床面はほぼ平坦で堅緻である。

〔柱穴〕 6個のピットを確認した。深さはP₁…19cm、P₂…16cm、P₃…20cm、P₄…25cm、P₅…19cm、P₆…10cmである。主柱穴はP₁～P₃・P₅の4本と考えられる。

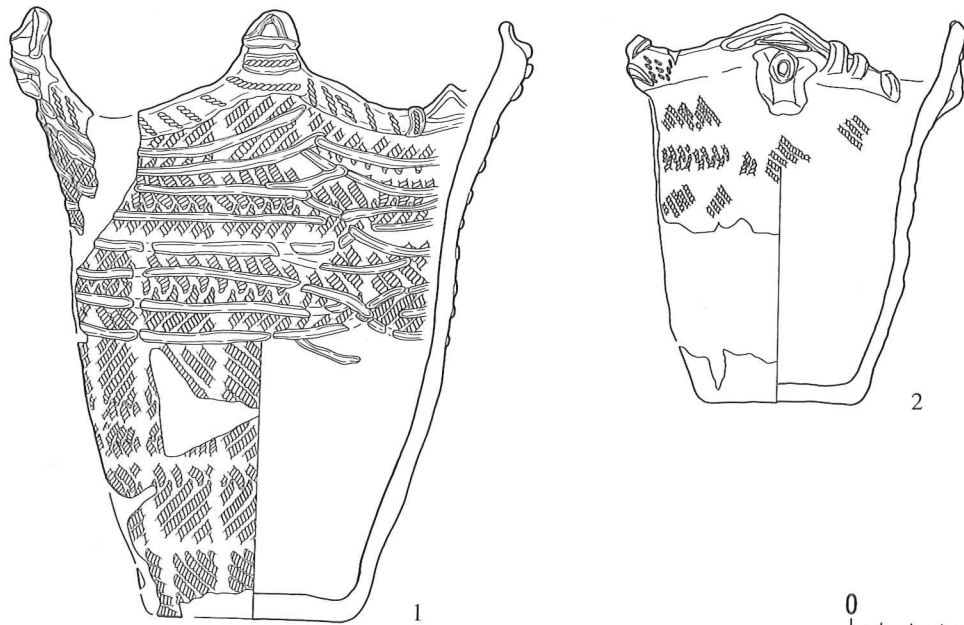
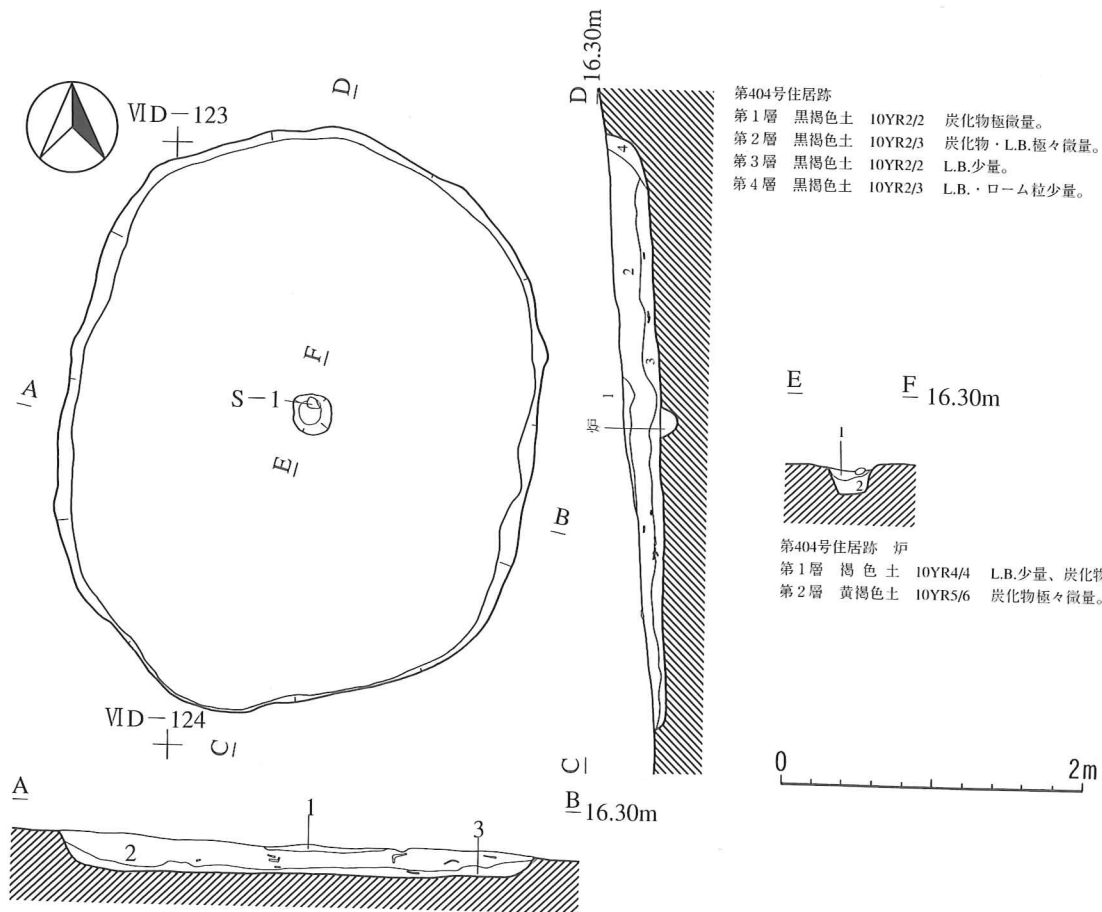
〔炉〕 ほぼ中央から、地床炉を検出した。掘り方の規模は25cm×21cmである。

〔堆積土〕 3層に分層した。黒褐色土を主体とし、第2層にはローム粒・炭化物が中量含まれる。人為堆積の可能性が高い。

〔出土遺物〕 床面直上から第Ⅲ群4類、堆積土から第Ⅲ群4・5類土器が出土した。石器はピット1堆積土から敲磨器類が出土した。また、堆積土から土偶胴部が出土した。

〔時期〕 床面直上及び堆積土出土遺物から、縄文時代中期中葉（円筒上層d式期）と思われる。

(小笠原 雅行)



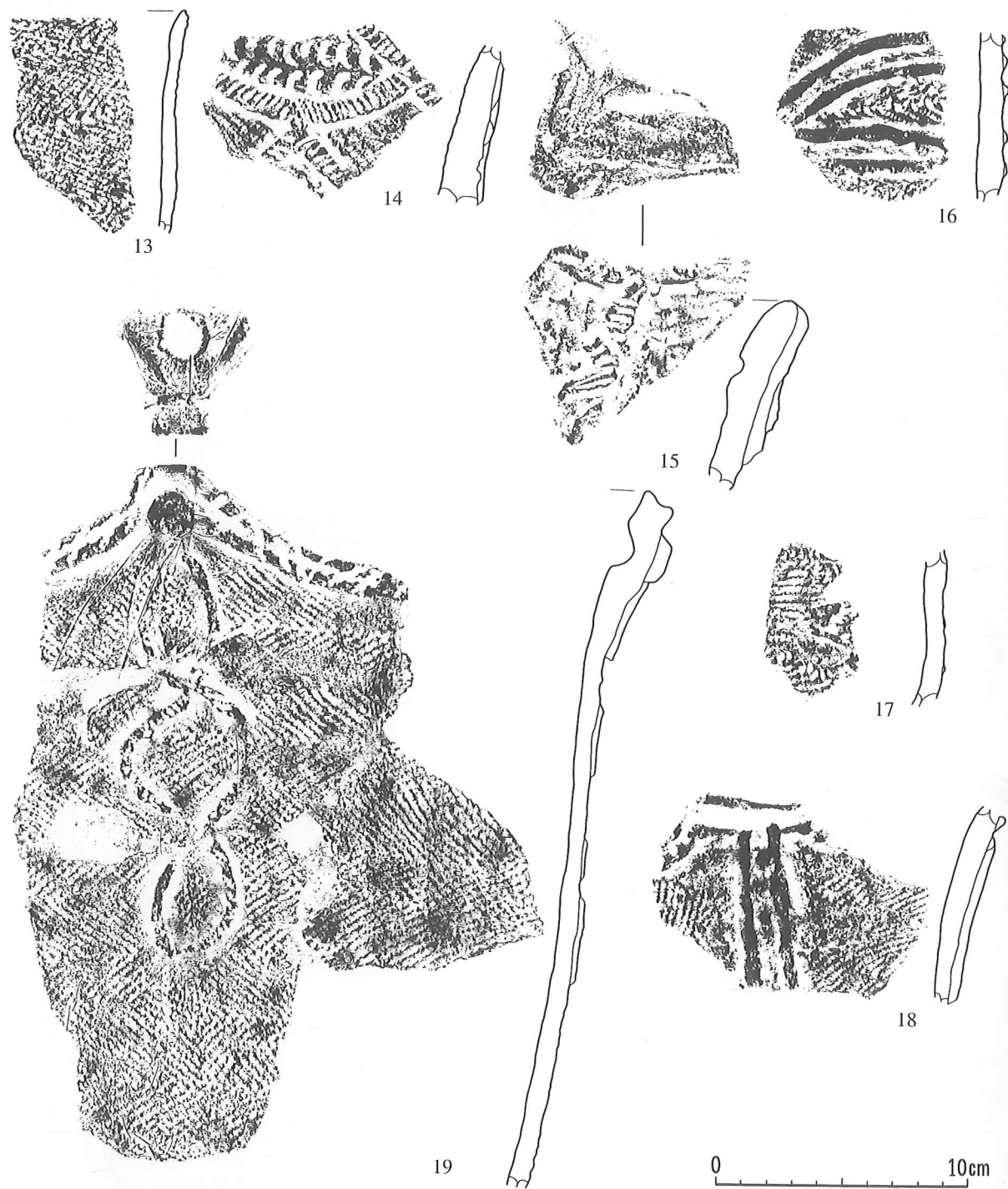
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胸部上半	胸部下半				
1	404住	床直	貼付(R押)、結束第一種、貼付	結束第一種、貼付	結束第一種 (LR, RL)	ミカキ	無文	Ⅲ-4	
2	〃	堆積土	貼付 (RL押)	結束第一種 (LR, RL)	〃 (〃)	〃	〃	Ⅲ-4・5	

235図 第404号住居跡・出土遺物 (1)



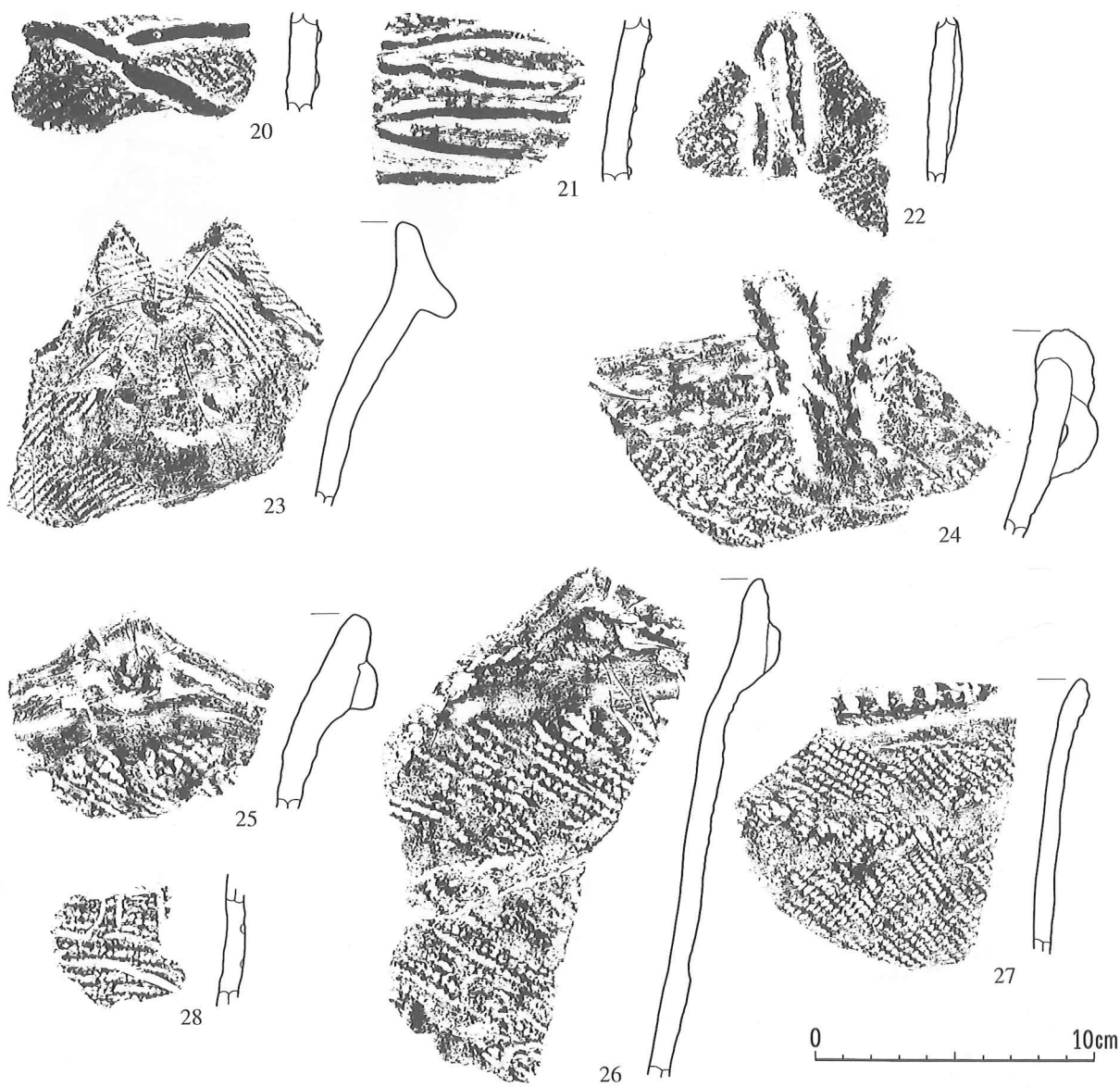
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
3	404住	床面	貼付			ミガキ	Ⅲ-4		
4	〃	〃	結束第一種、貼付			〃	〃		
5	〃	〃	R押、結束第一種、貼付	結束第一種、貼付		〃	〃		
6	〃	〃	貼付			〃	〃		
7	〃	〃	R押、RL?、貼付	RL?、貼付		〃	〃		
8	〃	床直	RL押、〃、〃			〃	〃		
9	〃	〃		RL?、貼付		〃	〃		
10	〃	〃		貼付(縄押)		〃	〃		
11	〃	〃	LR	LR		〃	Ⅲ-4・5		
12	〃	〃	貼付、LR押	LR、RL、結回		〃	〃		

236図 第404号住居跡出土遺物(2)



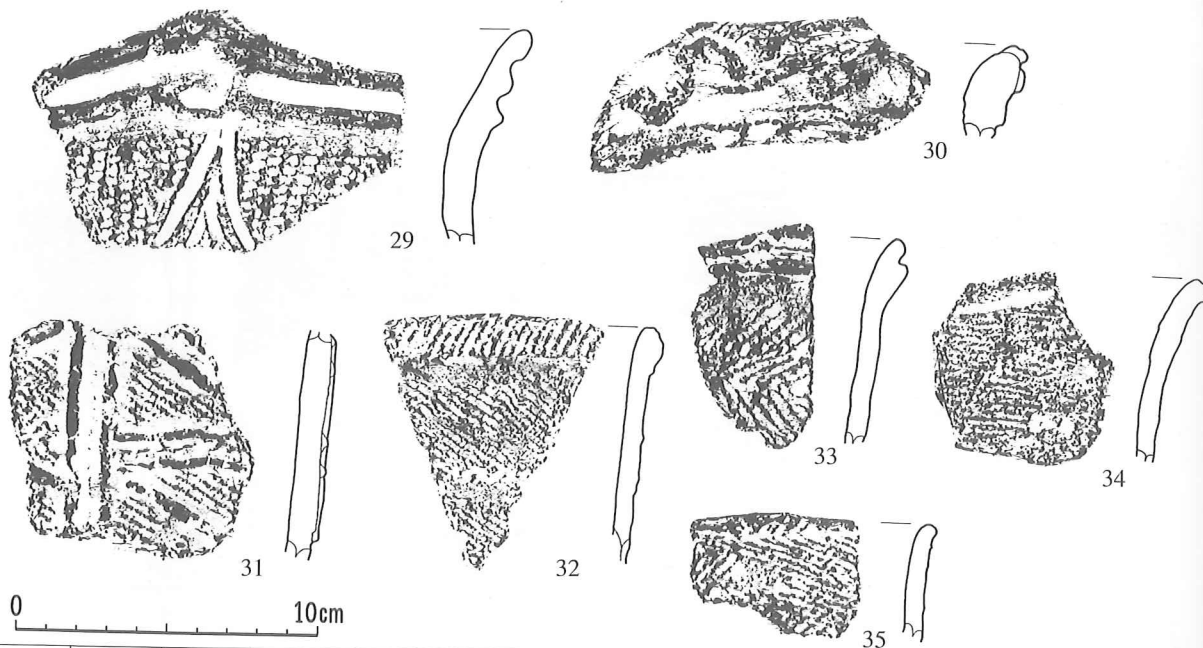
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胸部上半	胸部下半				
13	404住	床直	結束第一種(LR、RL)			ミガキ	Ⅲ-6		
14	〃	2	貼付(L?押)、L押	RL?		〃	Ⅲ-2		
15	〃	〃	貼付(L?押)、LR、貼付			〃	Ⅲ-4		
16	〃	〃	貼付(刻み)			〃	〃	内面に沈線	
17	〃	〃		結束第一種、貼付		〃	〃		
18	〃	〃		〃、〃		〃	〃		
19	〃	〃	RL押、貼付	〃、貼付(R押)		〃	〃		

237図 第404号住居跡出土遺物 (3)

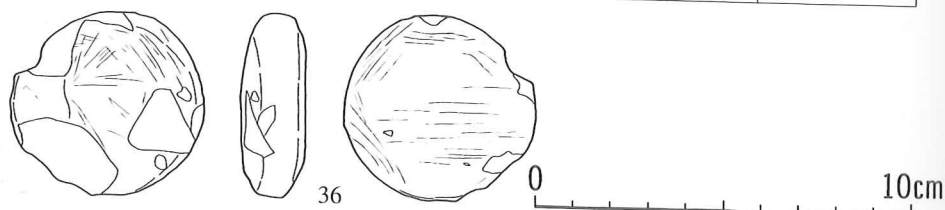


番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
20	404住	2		結束第一種、貼付		ミガキ	Ⅲ-4		
21	〃	〃		貼付		〃	〃		
22	〃	〃		LR、貼付		〃	〃		
23	〃	〃	LR			〃	〃		
24	〃	〃	貼付、結束第一種			〃	〃		
25	〃	〃	口唇上面RL押、RL、貼付			〃	〃		
26	〃	〃	貼付、RL押、RL	RL		〃	Ⅲ-4・5		
27	〃	〃	RL押	結束第一種(LR、RL)		〃	〃		
28	〃	〃		LR、沈線		〃	Ⅲ-8		

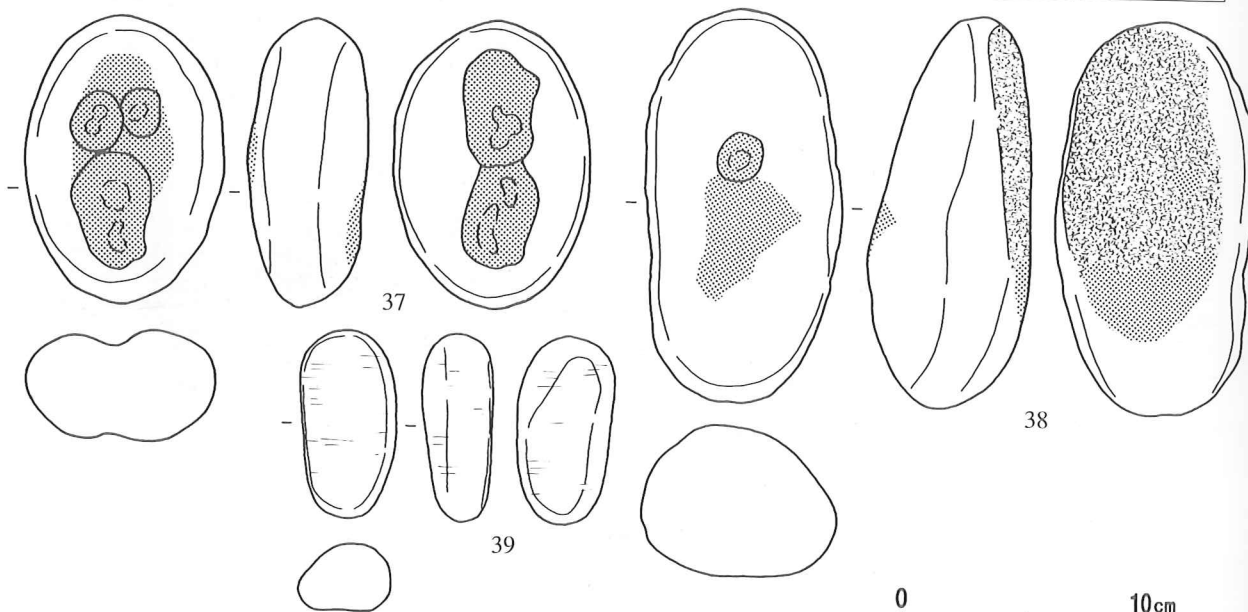
238図 第404号住居跡出土遺物(4)



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
29	404住	1	凹状沈線、RLR、沈線			ミガキ		Ⅲ-8	
30	〃	堆積土	貼付(刻み)、刺突			〃		Ⅲ-3	
31	〃	〃		RL、貼付		〃		Ⅲ-4	
32	〃	〃	L押、RL			〃		Ⅲ-4・5	
33	〃	〃	口唇に沿ってL押	結束第一種(LR、RL)		〃		〃	
34	〃	〃	RL			〃		〃	
35	〃	〃	結束第一種(LR、RL)			〃		〃	

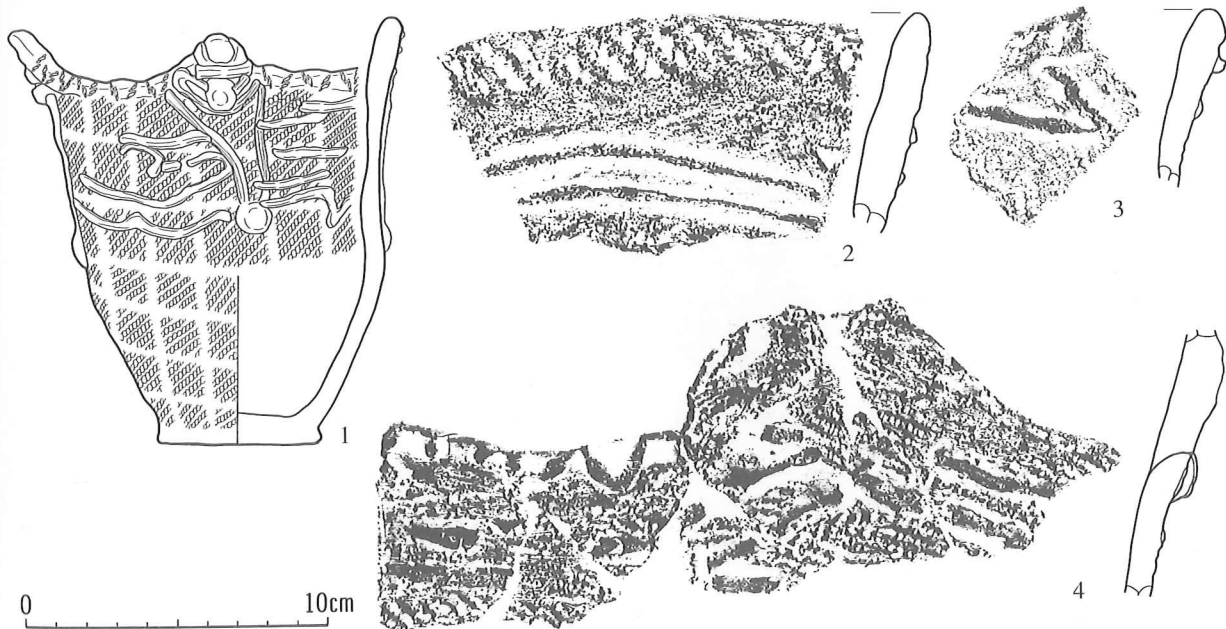
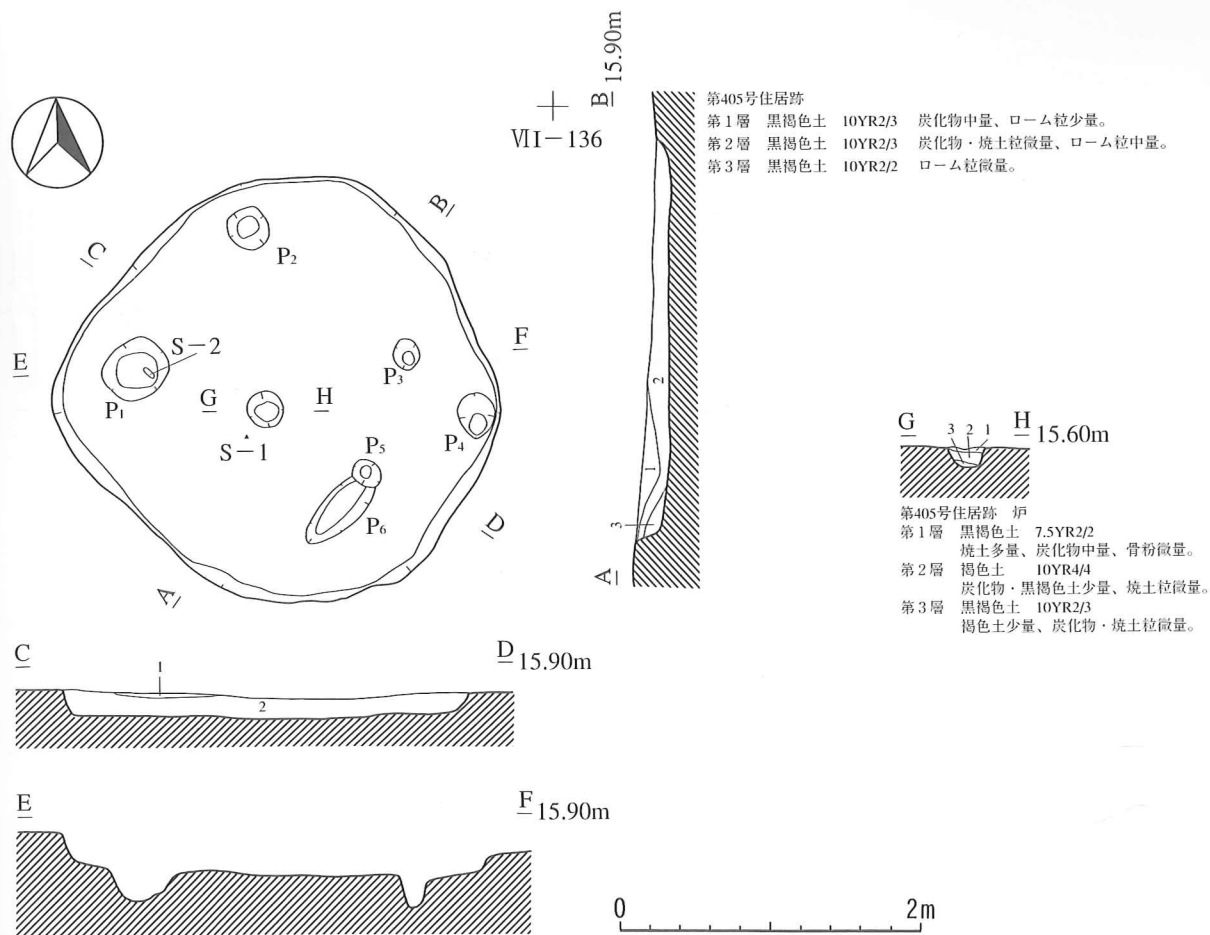


番号	出土地点	出土層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	種類	整理番号
36	404住	堆積土	51	50	17	18	凝	石製品	3798



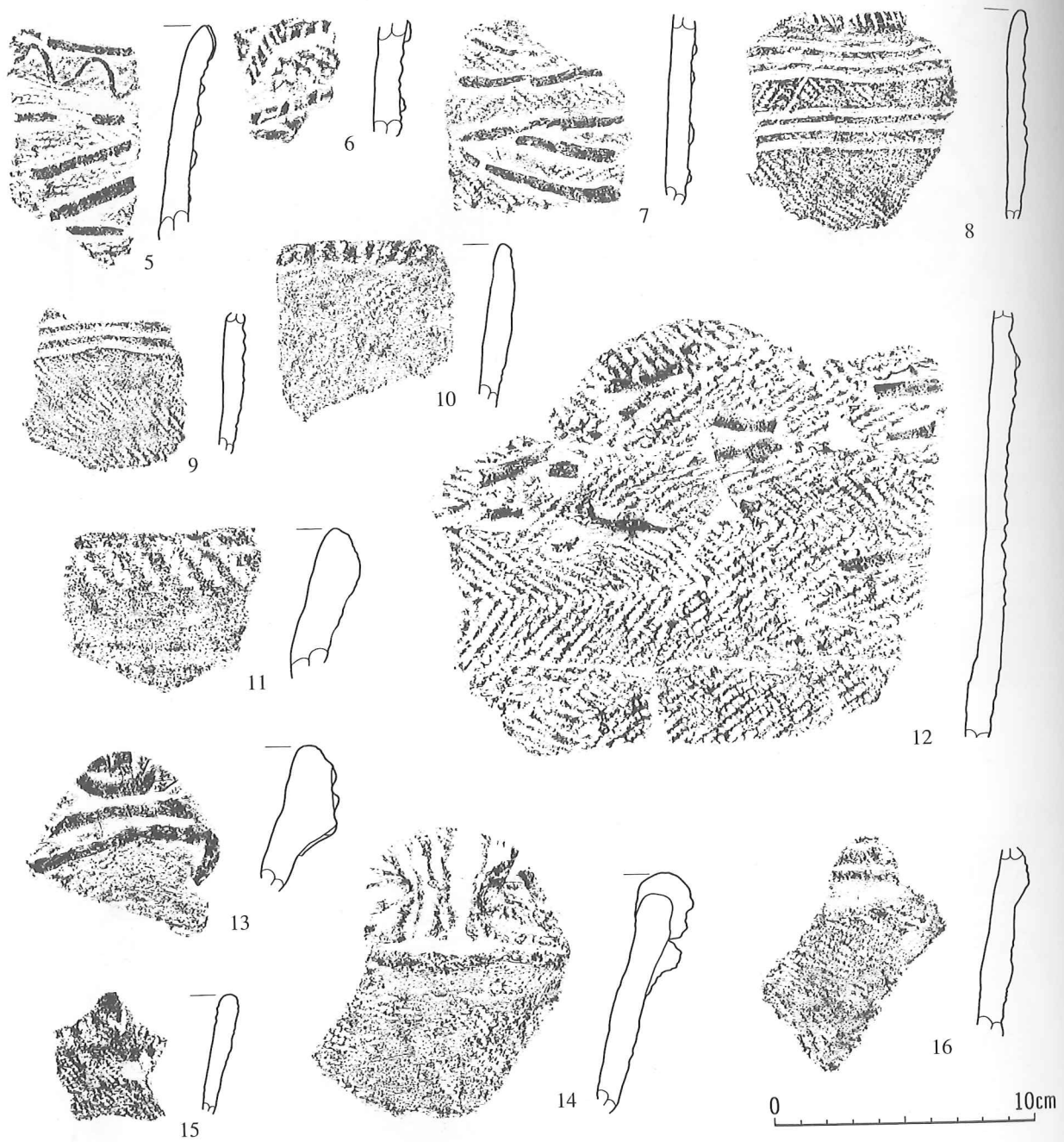
図版番号	出土地点	層位	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	石質	分類	備考	整理番号
37	404住炉		114	78	47	470.5	安	Ia	S-1	42676
38	404住	2	156	78	64	938.2	凝	Ic		42677
39	〃	堆積土	74	38	28	112.4	頁	Sa		42628

239図 第404号住居跡出土遺物(5)



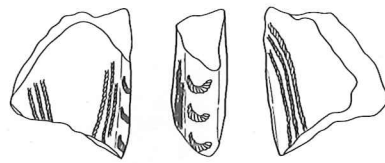
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	405住	床直	貼付、LR押	LR、貼付	LR	ミガキ	無文	Ⅲ-4	
2	〃	〃	〃、〃			〃		〃	
3	〃	堆積土	LR押	LR、貼付		〃		〃	
4	〃	〃	貼付	RL、〃		〃		〃	

240図 第405号住居跡・出土遺物(1)



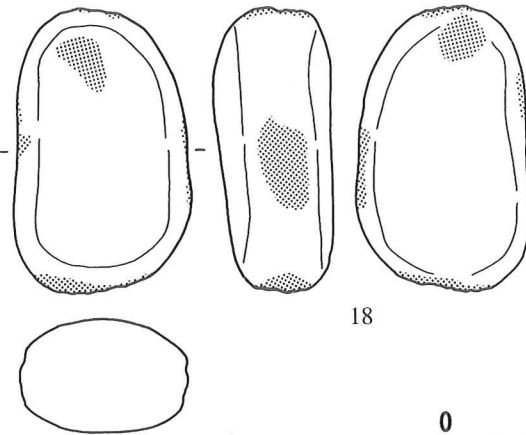
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
5	405住	堆積土	貼付	RL、貼付		ミガキ	Ⅲ-4		
6	〃	〃		結束第一種、貼付(刻み)		〃	〃		
7	〃	〃		〃、貼付		〃	〃		
8	〃	〃	刻み、RL、沈線			〃	Ⅲ-5		
9	〃	〃		RL、沈線		〃	〃		
10	〃	〃	R押	LR		〃	Ⅲ-4・5		
11	〃	〃	LR押			〃	〃		
12	〃	〃		結束第一種、貼付	結束第一種(LR、RL)	〃	Ⅲ-4		
13	〃	〃	貼付			〃	Ⅲ-4・5		
14	〃	〃	貼付(RL押)			〃	〃		
15	〃	〃	LR押	RL		〃	〃		
16	〃	〃	貼付(LR押)	〃		〃	〃		

241図 第405号住居跡出土遺物(2)



17

番号	出土地点	層位	計測値 (cm)			文様		種類	備考
			長さ	幅	厚さ	表面	裏面		
17	405住	堆積土	(4.0)	(3.4)	(1.2)	L押	L押	土偶胴部	



18



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
18	405住ピット1	堆積土	112	69	47	520.6	流	lb	S-2	42679

242図 第405号住居跡出土遺物 (3)

第407号住居跡 (243図~244図)

〔位置と確認〕 VM-117・VN-116・117に位置する。第Ⅲ層中で黒褐色土の落ち込みを確認した。

〔重複〕 なし。ただし上部はかなり攪乱を受けている。

〔平面形・規模〕 平面形は不整な円形である。規模は長軸 3 m24cm、短軸 2 m76cm、床面積が7.12 m²である。長軸方向は北東—南西である。

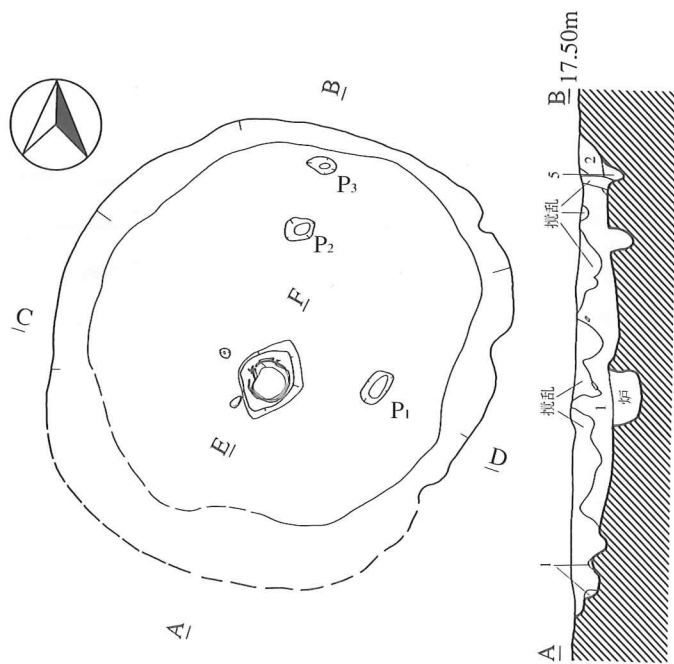
〔壁・床面〕 第Ⅵ層を掘り込んで壁と床にしている。壁は一部攪乱を受けているが、床から緩やかに立ち上がるらしい。床面は堅緻である。

〔柱穴〕 3個検出された。深さはそれぞれP₁…13cm、P₂…17cm、P₃…12cmである。柱痕跡は検出されなかった。

〔炉〕 床面中央、やや南寄り土器埋設炉が検出された。深鉢土器の上半部を用いたもので、径約35cm、深さ約20cmの掘り方に、正立させて埋設している。上半部は土器片を二重に埋設している。掘り方の堆積土上面は、床面より若干盛り上がった周堤状となる。土器内に焼土は形成されていなかった。

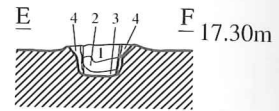
〔堆積土〕 暗褐色土を基調とする堆積である。比較的均質だが、自然・人為の判別はつかなかった。

〔出土遺物〕 埋設炉の土器は第Ⅲ群4・5類である。また、堆積土から第Ⅲ群4・5、9類土器が



第407号住居跡

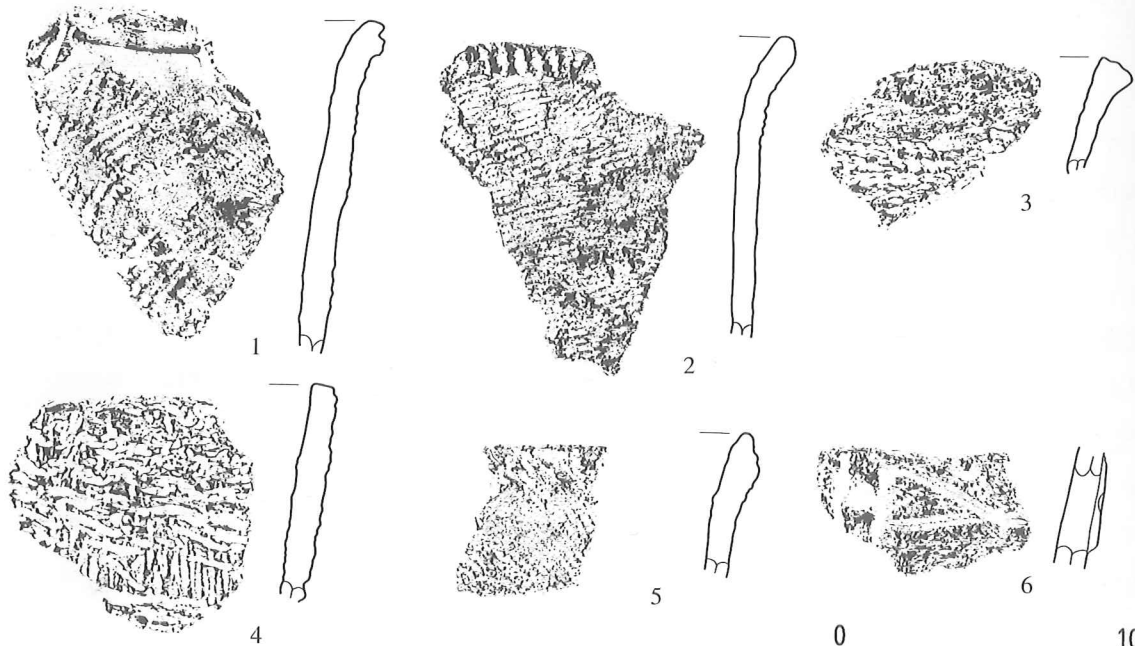
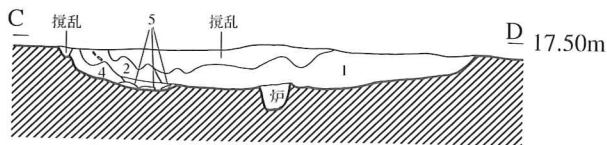
- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 □-△粒少量、炭化物・浮石微量、焼土極微量。
- 第2層 暗褐色土 10YR3/3 □-△粒少量、浮石微量、炭化物、焼土極微量。
- 第3層 暗褐色土 10YR3/3 □-△粒少量、炭化物極微量。
- 第4層 暗褐色土 10YR3/3 □-△粒少量、炭化物・浮石微量、焼土極微量。
- 第5層 暗褐色土 10YR3/3 □-△粒少量、焼土・浮石極微量。



第407号住居跡 炉

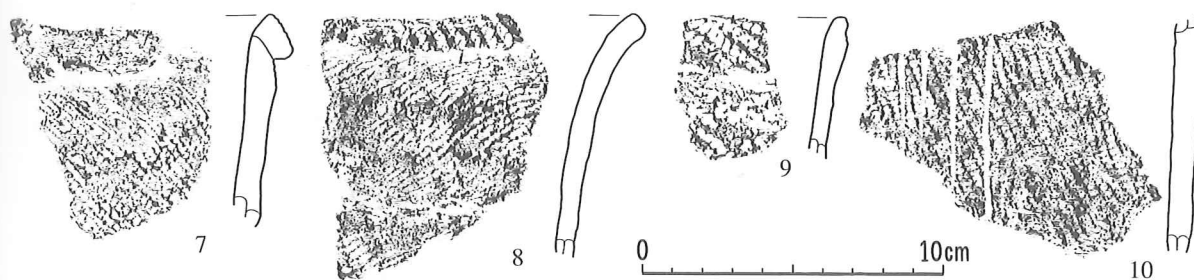
- 第1層 暗褐色土 10YR3/4 焼土少量、炭化物微量。
- 第2層 暗褐色土 7.5YR3/4 焼土少量、炭化物微量。
- 第3層 褐色土 7.5YR4/6 炭化物・焼土微量。
- 第4層 掘り方。

VN-118



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	407住炉		貼付(LR押)	LR		ミガキ		Ⅲ-4・5	
2	〃		LR押	〃		〃		〃	
3	〃		RLR			〃		〃	
4	407住	2	I単絡I、RL結回			〃		Ⅱ-3	
5	〃	I	RL押、RL			〃		Ⅲ-4・5	
6	〃	堆積土		LR? 貼付(刺突)、沈線		〃		Ⅲ-5	

243図 第407号住居跡・出土遺物(1)



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
7	407住	堆積土	RL押、RL			ミガキ		Ⅲ-4・5	
8	〃	〃	LR押、LR			〃		〃	
9	〃	〃	RL			〃		〃	
10	〃	〃		RL、沈線		〃		Ⅲ-9	

244図 第407号住居跡・出土遺物(2)

出土した。

〔時期〕 炉に使用された土器から縄文時代中期中葉（円筒上層 d～e 式期）と思われる。

（秦 光次郎）

第408号住居跡（245図）

〔位置と確認〕 V K・M-117・118に位置する。第Ⅲ層中より黒色土の落ち込みを確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は長楕円形で、規模は長軸 3 m76cm、短軸 2 m53cmである。長軸方向はほぼ南北である。

〔壁・床面〕 第Ⅵ層を掘り込んで壁・床としている。壁は 6～18cm残存し、床面からは若干緩やかに立ち上がる。床は凹凸が多く、軟弱である。北東側の床面は、攪乱を受けている。

〔柱穴〕 長軸上に 2 個検出された。ともに支柱穴と思われる。深さは P₁…26cm、P₂…30cmである。柱痕跡は確認できなかった。

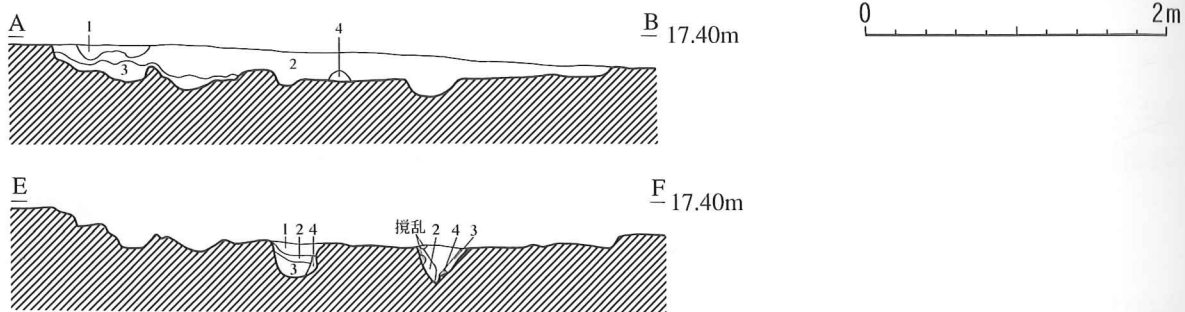
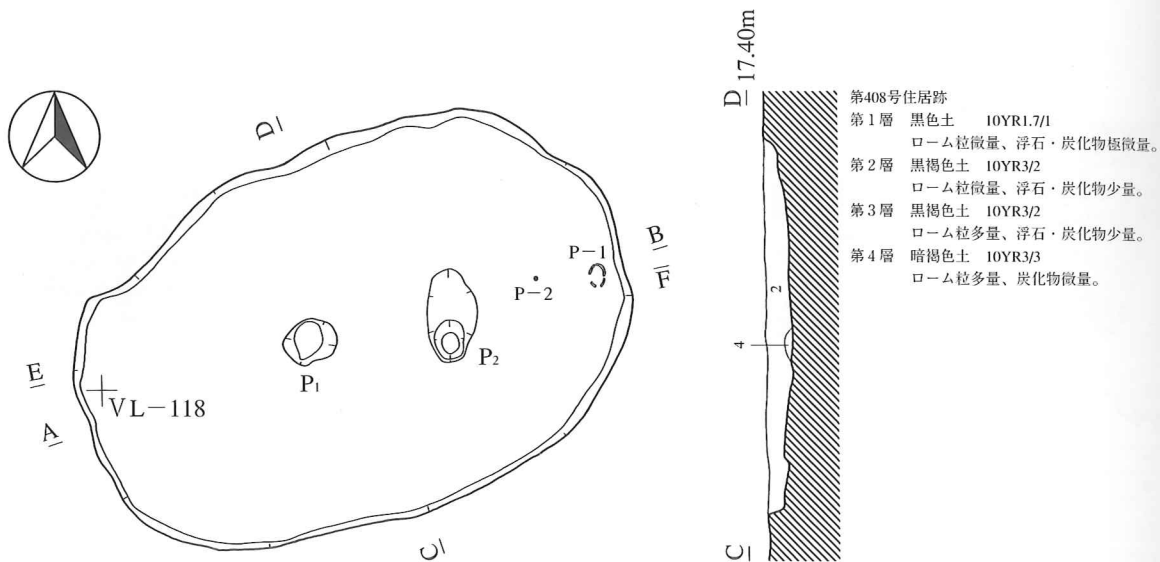
〔炉〕 確認されなかった。図示していないが、床面中央の浅い窪みが炉となる可能性がある。踏み締めたような堅さがあるが、焼土は形成されていない。

〔堆積土〕 黒褐色土主体の堆積である。攪乱が多く、人為か自然かの判別はできなかった。

〔出土遺物〕 床面から第Ⅲ群 1 類土器が出土した。

〔時期〕 床面出土遺物から、縄文時代中期前葉（円筒上層 a 式期）と思われる。

（秦 光次郎）

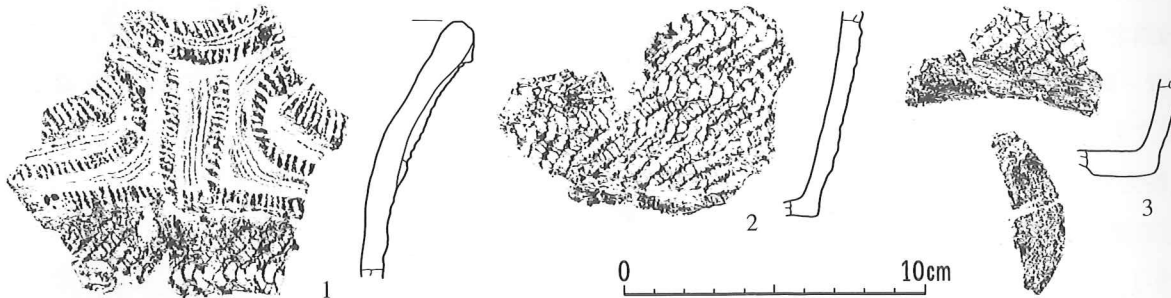


第408号住居跡 ビット1

- 第1層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒少量、浮石微量。
- 第2層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒微量、浮石極微量。
- 第3層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒少量、浮石極微量、炭化物微量。
- 第4層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒微量、浮石極微量。

第408号住居跡 ビット2

- 第1層 黒色土 10YR1.7/1 ローム粒・浮石少量。
- 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒多量、炭化物極微量。
- 第3層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒・炭化物極微量。
- 第4層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒多量。



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	408住	床面	貼付 (L押)、L押	結束第一種 (LR、RL)		ミガキ		III-1	1~3同一個体
2	"	"			結束第一種 (LR、RL)	"		"	
3	"	"			"	"	無文	"	

245図 第408号住居跡・出土遺物

第409号住居跡 (246図～247図)

〔位置と確認〕 VP・Q-118に位置する。第Ⅲ層中で黒褐色土の落ち込みを確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は楕円形である。規模は長軸3m64cm、短軸2m80cm、床面積7.9m²と推定される。長軸方向はほぼ南北である。

〔壁・床面〕 第Ⅲ層を掘り込んで壁とし、第Ⅵ層中に床を構築している。壁は明瞭に識別できなかった。確認面から床面までは深さ約10cmである。床面は炉の周辺部のみ固く、平坦である。

〔柱穴〕 18個検出された。深さはP₁…49cm、P₂…23cm、P₃…5cm、P₄…20cm、P₅…22cm、P₆…9cm、P₇…6cm、P₈…9cm、P₉…32cm、P₁₀…36cm、P₁₁…6cm、P₁₂…30cm、P₁₃…30cm、P₁₄…35cm、P₁₅…25cm、P₁₆…33cm、P₁₇…64cm、P₁₈…22cmである。

〔炉〕 中央から土器埋設炉と土器片敷炉が検出された。土器片敷炉は、長軸85cm、深さ13cmの規模で不整形に掘り込み、P₁₈の上に土器片を敷き詰めている。土器片は殆どが内面を上向きにし、被熱によってか、器面が荒れている。土器埋設炉は、底を欠く深鉢の上半部を埋め込んでいる。埋め込まれている部分より、突き出ている部分の方が多い。土器埋設炉の南には短い溝状の掘り込みがある。何れも構築順は不明だが、堆積土の観察から埋没はほぼ同時期と思われる。

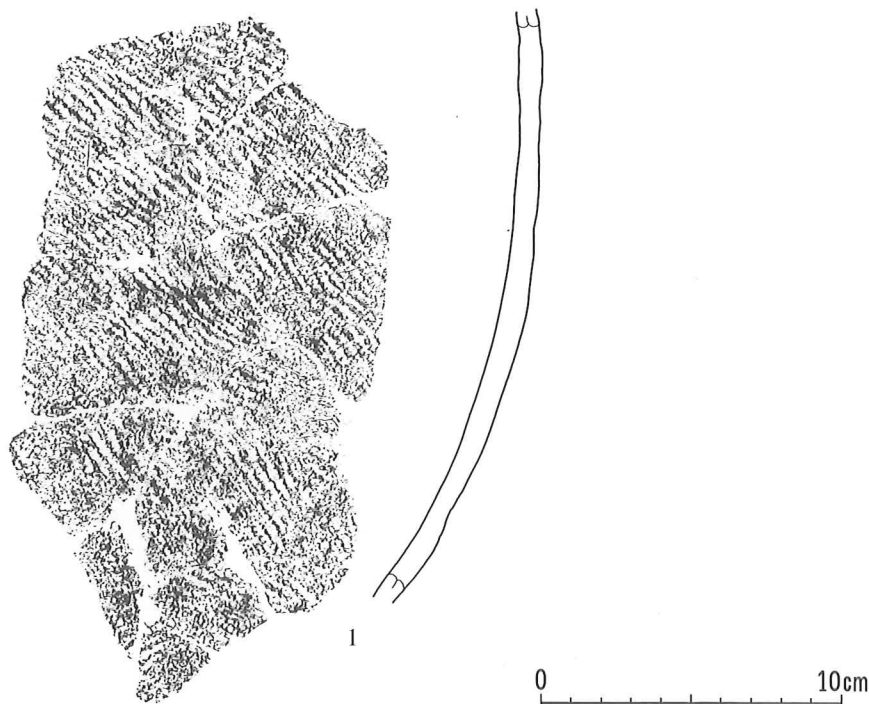
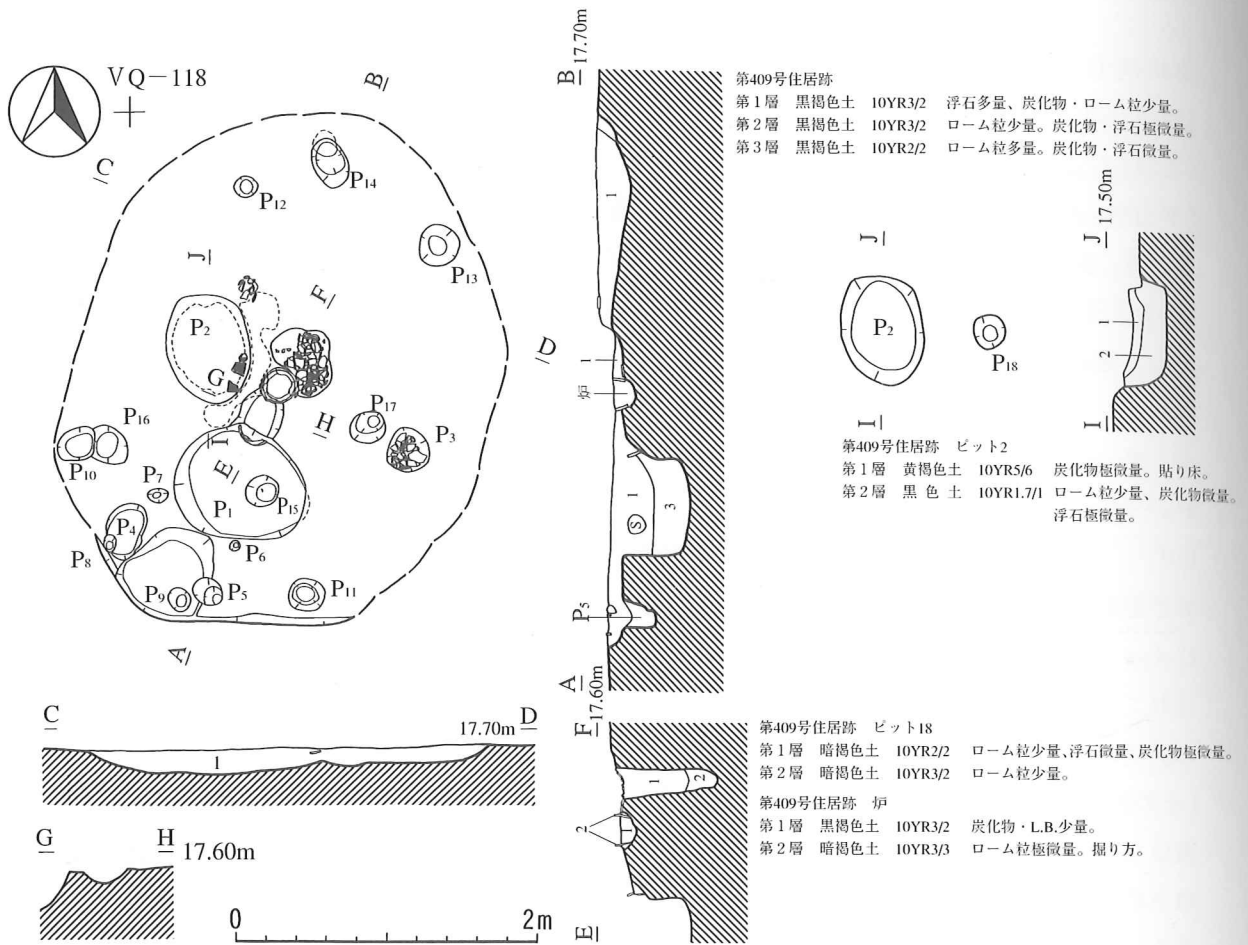
〔その他の施設〕 南西壁から若干張り出した付属施設が確認された。堆積土、遺物等の目立った特徴はない。床面は形成されていない。他に土坑が2基検出された。P₁としたものは、長径約90cm、深さ約50cmで、炉に関わる施設の可能性がある。P₂としたものは、上面に貼り床が施された土坑である。黒色土で埋めた後、炉側にはみ出す形で第Ⅵ層を貼り付けている。貼り床上面は比較的堅緻だが、床面より10cm近く下がっている。P₁との構築時期の差は不明だが、埋没はこちらが早いものと思われる。

〔堆積土〕 黒褐色土主体の堆積土である。人為・自然の判別はつかなかった。

〔出土遺物〕 堆積土から第Ⅲ群11類土器が出土した。石器は床面直上・第1層から敲磨器類などが出土した。炉に使用された土器は図示できなかった。

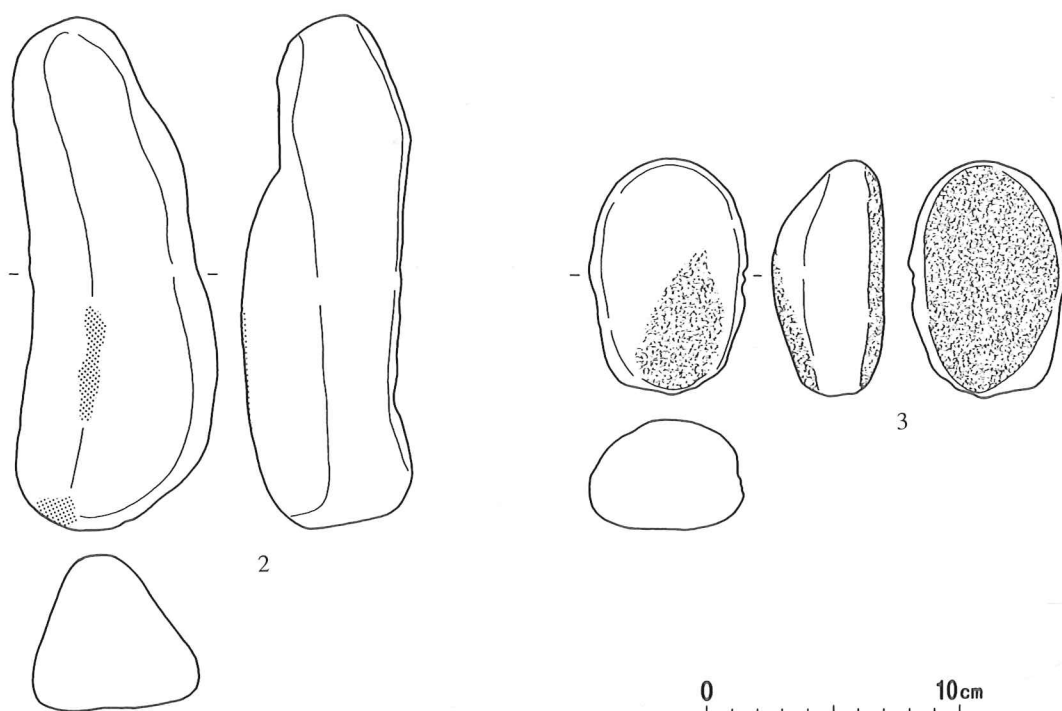
〔時期〕 炉及び床面出土遺物から、縄文時代中期後葉と思われる。

(秦 光次郎)



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	409住	堆積土		RL		ミガキ		III-11	

246図 第409号住居跡・出土遺物(1)



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
2	409住	床直	202	80	67	1386.5	安	Ib	S-1	43805
3	〃	1	93	62	44	354.3	〃	Ic		43804

247図 第409号住居跡出土遺物 (2)

第410号住居跡 (248図)

〔位置と確認〕 VR・S-116・117に位置する。第Ⅲ層中より黒褐色土の落ち込みを確認した。

〔重複〕 第133号溝跡と重複し、本住居跡が古い。

〔平面形・規模〕 平面形は楕円形で、規模は長軸 2 m92cm、短軸 2 m20cmで床面積が5.53㎡である。長軸方向は北東-南西である。

〔壁・床面〕 第Ⅵ層を掘り込み、壁・床としている。壁・床ともに攪乱を受けている。床は凹凸があり、軟弱である。

〔柱穴〕 なし。

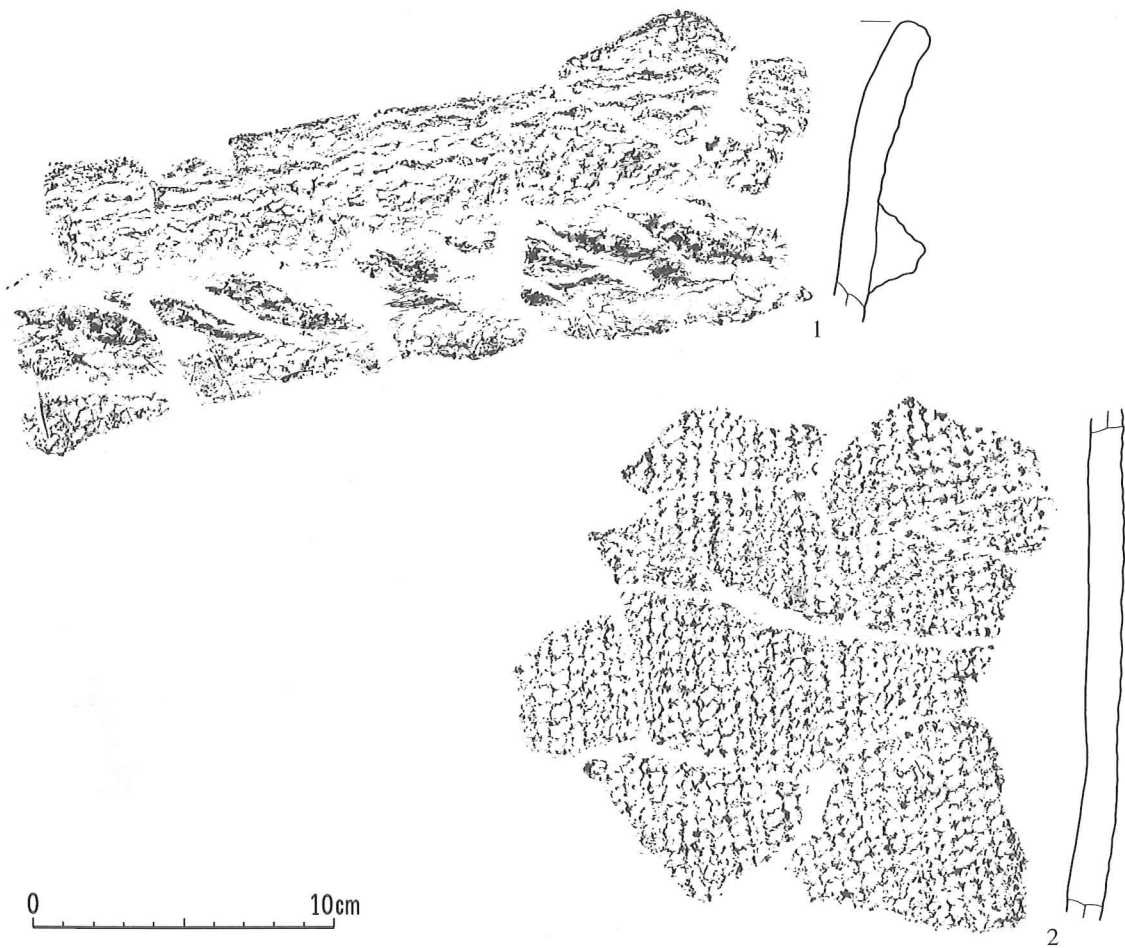
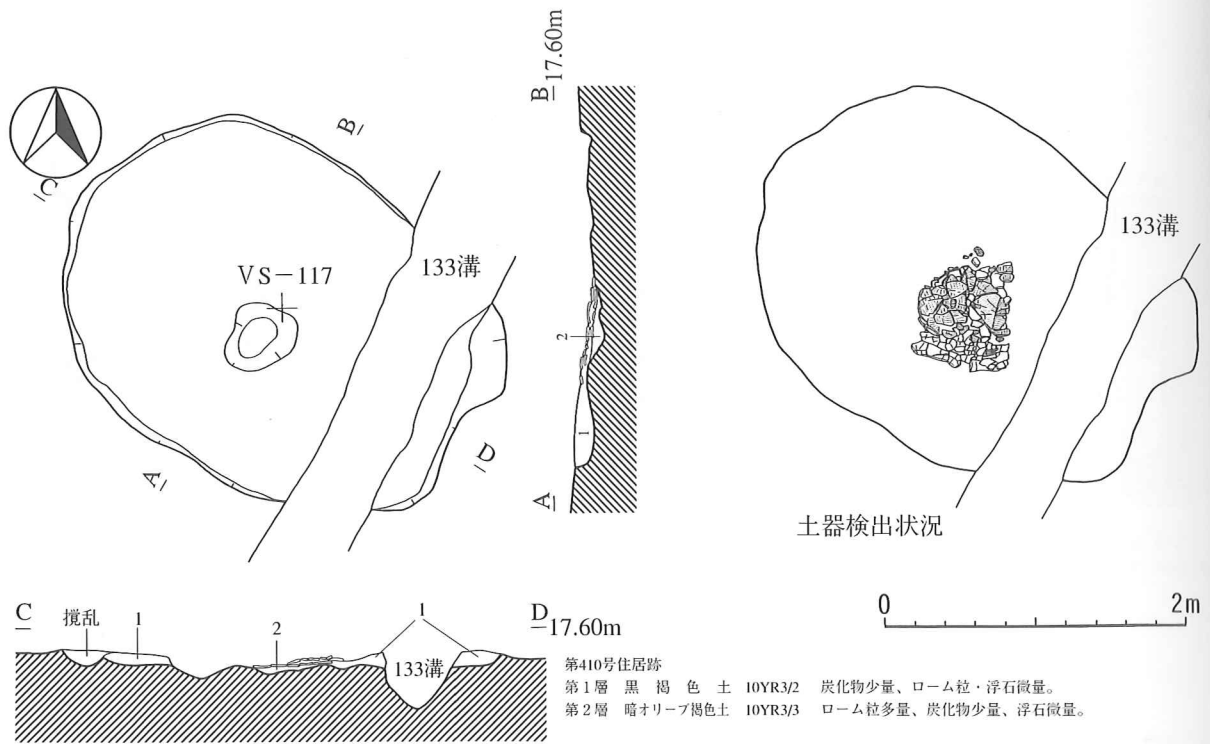
〔炉〕 中央部で掘り込みによる地床炉が確認された。鍋底上の断面形で、最大長50cm、深さ約10cmの浅い掘り込みである。焼土は形成されていなかった。

〔堆積土〕 黒褐色土を基調とする堆積である。自然堆積の可能性が高い。

〔出土遺物〕 堆積土から第Ⅱ群3類土器が出土した。

〔時期〕 堆積土出土遺物から、縄文時代前期中葉 (円筒下層 b 式期) に近い時期と思われる。

(秦 光次郎)



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	410住	堆積土	RLR、R結回	隆帯(RLR押)、RLR		ミガキ		II-3	1・2同一個体
2	〃	〃		RLR		〃		〃	

248図 第410号住居跡・出土遺物

第411号住居跡 (249図～250図)

〔位置と確認〕 VM・N-118・119に位置する。第Ⅲ層中で黒褐色土の落ち込みを確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は円形で、規模は長軸 3 m32cm、短軸 2 m98cm、床面積は7.74m²である。長軸方向はほぼ南北である。

〔壁・床面〕 第Ⅲ層から第Ⅵ層にかけて掘り込み、第Ⅵ層を壁・床としている。掘り込みが浅いため、壁・床ともに残存状態が悪い。壁の最大高は12cmである。床面は軟弱である。

〔壁溝〕 東側で一部途切れるが、ほぼ全周する。幅約15cm、深さ約5～18cmである。

〔柱穴〕 8個検出された。主柱穴の配置は不明である。深さはP₁…28cm、P₂…17cm、P₃…7cm、P₄…13cm、P₅…17cm、P₆…16cm、P₇…8cm、P₈…6cmである。P₇～P₈は壁柱穴になると思われる。

〔炉〕 長軸上3分の1程北東寄りの攪乱の下で1基検出した。大部分が破壊されているため、全体形は不明である。焼土面は残存しなかった。

〔堆積土〕 黒褐色土を基調とする堆積土である。床面直上では第Ⅵ層土のブロック・粒を多く含み、人為堆積の可能性が高い。

〔出土遺物〕 炉から第Ⅱ群5-2類、床面から第Ⅱ群6類、堆積土から第Ⅱ群2、3、5、9類土器が出土した。

〔時期〕 炉の出土遺物から、縄文時代前期末葉（円筒下層d₂式期）と思われる。

(秦 光次郎)

第412号住居跡 (251図)

〔位置と確認〕 VIH-95に位置する。第Ⅲ層精査中、土器埋設炉を確認した。

〔重複〕 第95号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。

〔平面形・規模〕 炉のみの確認であるため不明である。

〔壁・床面〕 不明である。

〔柱穴〕 不明である。

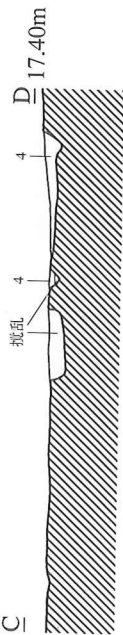
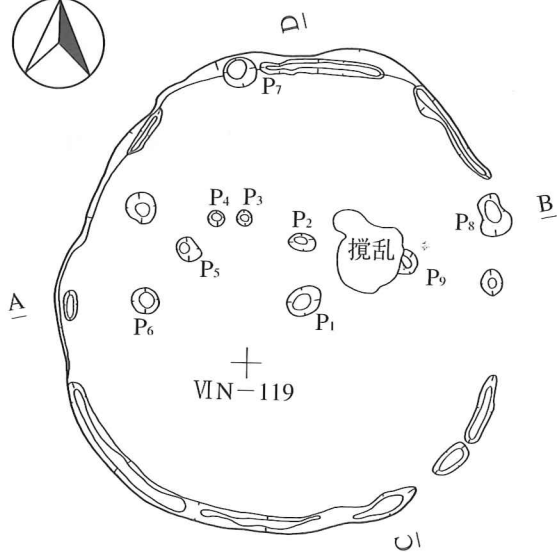
〔炉〕 土器埋設炉である。約40cm×30cmの掘り方に、土器の下半部を埋設している。土器残存部の最大径は20cm程度である。堆積土には焼土・炭化物が多量に含まれる。

〔堆積土〕 不明である。

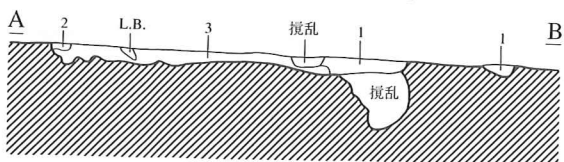
〔出土遺物〕 埋設炉に使用された土器は第Ⅲ群6類であるが、図示できなかった。

〔時期〕 炉に使用された土器から縄文時代中期前半と思われる。

(中村 美杉)

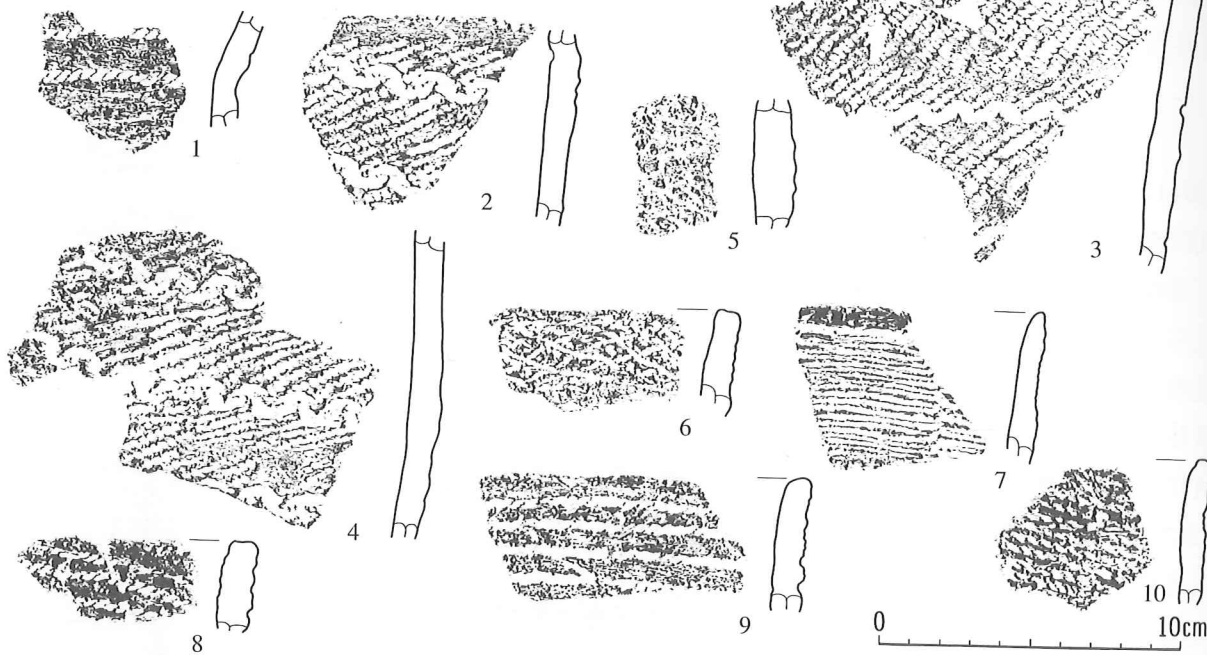


第411号住居跡
 第1層 黒褐色土 10YR2/2 炭化物・ローム粒少量。
 第2層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒少量、炭化物・焼土粒極微量。
 第3層 黄褐色土 10YR4/3 炭化物・L.B.少量、焼土微量。
 第4層 暗褐色土 10YR3/3 炭化物・ローム粒微量。



17.40m

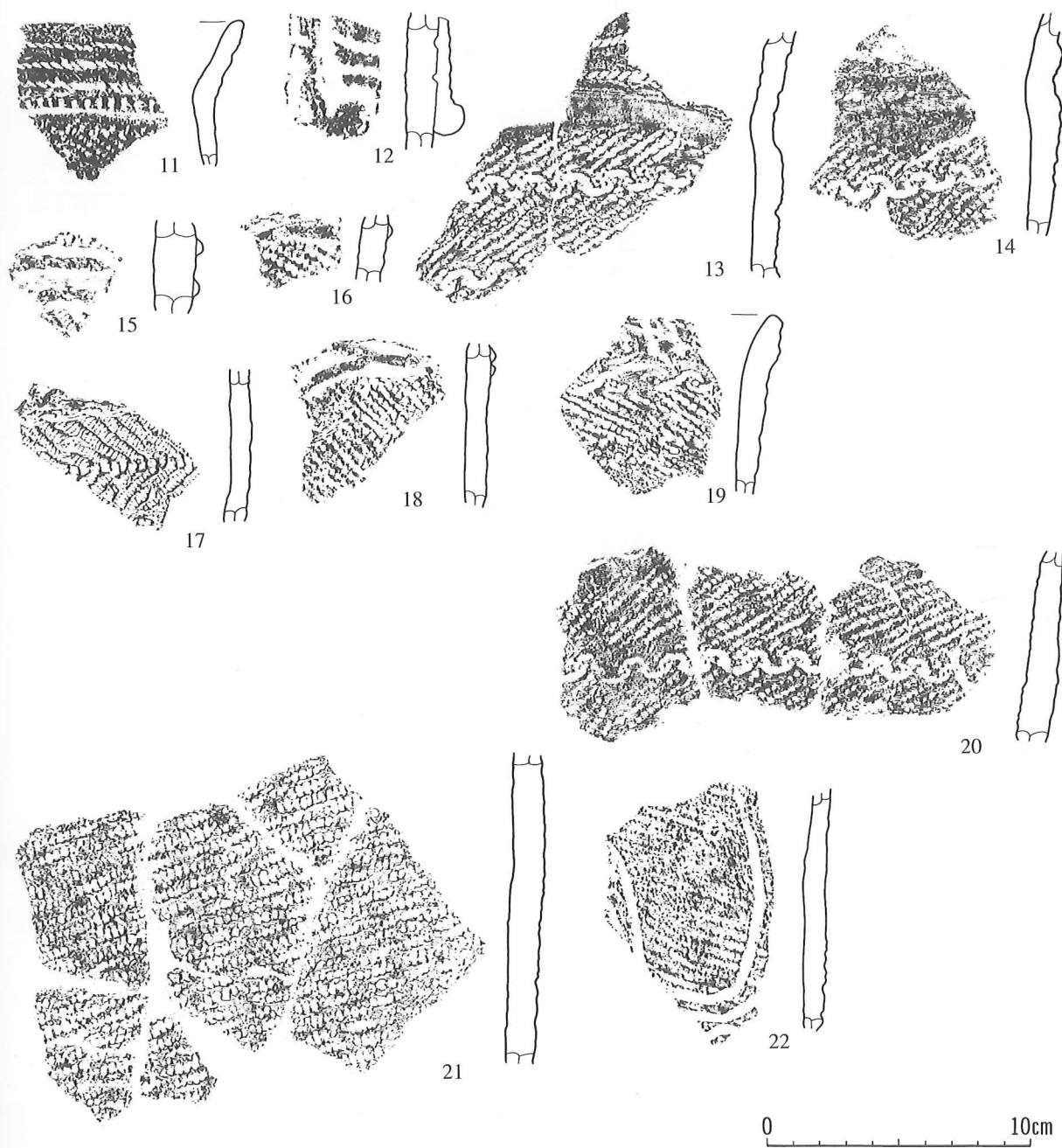
第411号住居跡 ビット8
 第1層 褐色土 10YR4/4
 ローム粒少量、炭化物極微量。



0 10cm

番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	411住	炉	R押			ミガキ	II-5-2	頸部くびれ	
2	〃	〃		LR、R結回		〃	〃		
3	〃	〃		〃		〃	〃		
4	〃	〃		〃		〃	〃	1~4同一個体	
5	〃	床面		RL?		〃	〃	剥落	
6	〃	堆積土	R単絡5			〃	II-6		
7	〃	〃	R単絡1			〃	II-2		
8	〃	〃	L単絡1			〃	II-3		
9	〃	〃	R押			〃	〃		
10	〃	〃	RL押			〃	II-5-2		

249図 第411号住居跡・出土遺物 (1)



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
11	411住	堆積土	LR押、刻み	RL		ミガキ		Ⅱ-5-2	
12	〃	〃	R押	LR、R結回		〃		〃	頸部くびれ
13	〃	〃	〃	〃、〃		〃		〃	12と同一個体
14	〃	〃	貼付、LR押			〃		〃	
15	〃	〃		RL、貼付、刺突		〃		Ⅲ-3	
16	〃	〃		RL、貼付		〃		Ⅲ-4	17と同一個体
17	〃	〃		〃、〃		〃		〃	
18	〃	〃	R押、RL			〃		Ⅲ-4・5	
19	〃	〃		結束第一種(LR、RL)		〃		Ⅲ-6	
20	〃	〃			LR、R結回	〃		〃	
21	〃	〃		LR		〃		〃	
22	〃	〃		RL?、沈線		〃		Ⅲ-9	

250図 第411号住居跡・出土遺物(2)



251図 第412号住居跡

第413号住居跡 (252図)

〔位置と確認〕 VIH・I-94・95に位置する。Ⅲ層精査中に落ち込みを確認した。

〔重複〕 第453・457号住居跡、第9640～9642号・10851号ピットと重複し、本住居跡が最も古い。

〔平面形・規模〕 不明である。

〔壁・床面〕 西壁のみ残存していた。高さは7cmである。床は平坦で堅緻である。

〔柱穴〕 ピットを3個確認した。深さはP₁…15cm、P₂…7cm、P₃…11cmである。主柱穴は不明である。

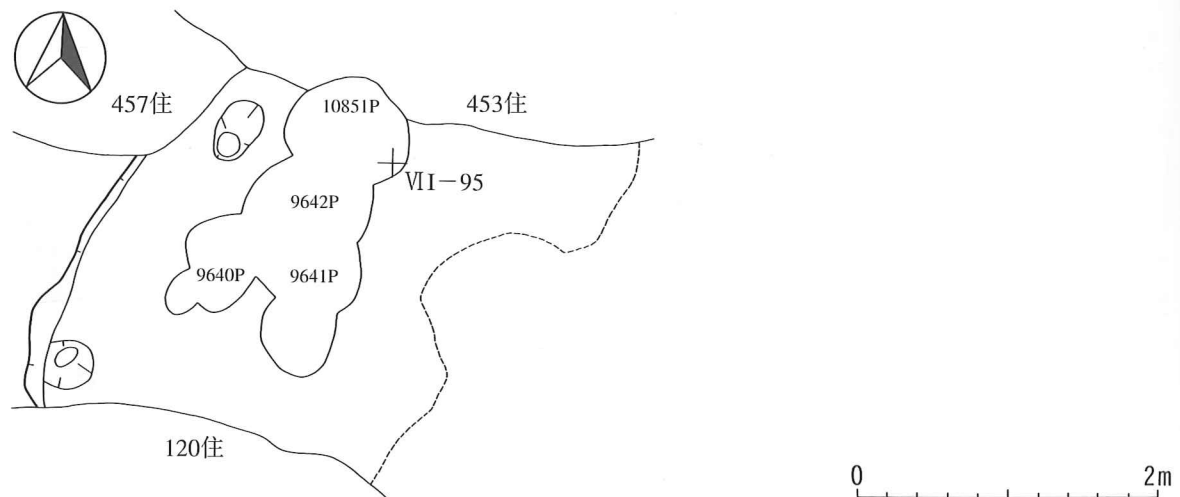
〔炉〕 不明である。

〔堆積土〕 断面図を作成できなかったため、不明である。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 遺構の重複関係から、縄文時代前期と思われる。

(中村 美杉)



252図 第413号住居跡

第415号住居跡 (253図～256図)

〔位置と確認〕 VO・P-113～115に位置する。第V層で黒褐色土の落ち込みとピットを確認した。拡張の痕跡が認められた住居跡である。改築前を第1期、改築後を第2期として記述する。

〔重複〕 第164号溝跡と重複し、本住居跡が古い。

第1期

〔平面形・規模〕 平面形は、各時期を通して俵形に近い楕円形になるようである。規模は長軸6m70cm、短軸5m60cmと推定される。

〔壁・床面〕 壁は南側に残存し、第2期の貼り床の下で確認した。床面は、壁際が1段高くなったテラス状施設を伴っている。第VI層の削り出しによって作出される。北側では確認できなかったが、これは後世の削平によるもので、本来は全周していたものと思われる。テラス状施設以外の床面は若干凹凸がある。硬化面の形成は確認できなかった。

〔壁溝〕 確認した3条の内、内側の2条が第1期に伴うものと思われる。外側から2番目の壁溝(壁溝B)は西側と北側に部分的に確認されている。最大幅は14cmである。最も内側の壁溝(壁溝A)は、北側のテラス状施設と床面中央部との境に痕跡が残っている。壁溝Aは第2期にも伴うものと思われる。

〔柱穴〕 第1期と第2期あわせて73個確認された。径8～60cm、深さ7～81cmである。第1期に伴うものは支柱穴の6個と壁溝Bに沿う29個である。支柱穴はP1～P6で構成されていたものと思われる。深さは34～75cmである。壁溝Bに沿うピットは、径8～40cm、深さ7～57cmである。床面には、他にも同規模のピットが検出されたが、第2期に伴うものか、別遺構に伴うものかは不明である。

〔炉〕 床面中央とやや東寄りの2箇所に焼土を確認した。地床炉になると思われるが、それぞれが第1期と第2期のどちらに伴うかの確認はできなかった。

第2期

〔平面形・規模〕 規模は長軸7m56cm、短軸約7m、床面積は41.69m²である。

〔壁・床面〕 壁は南側に残存している。第1期より60cmから1m外側に拡張が見られた。第1期同様、床面にテラス状施設が伴っている。南側では第1期の壁・テラス状施設の上に貼り床がつくられ、第2期にテラス状施設を拡張した形となっている。焼土の形成位置から別住居として登録したが、第416号住居跡はこの拡張時の貼り床の一部であった可能性がある。

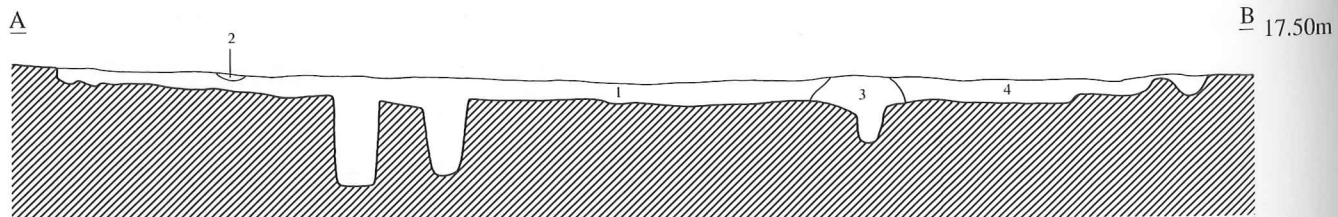
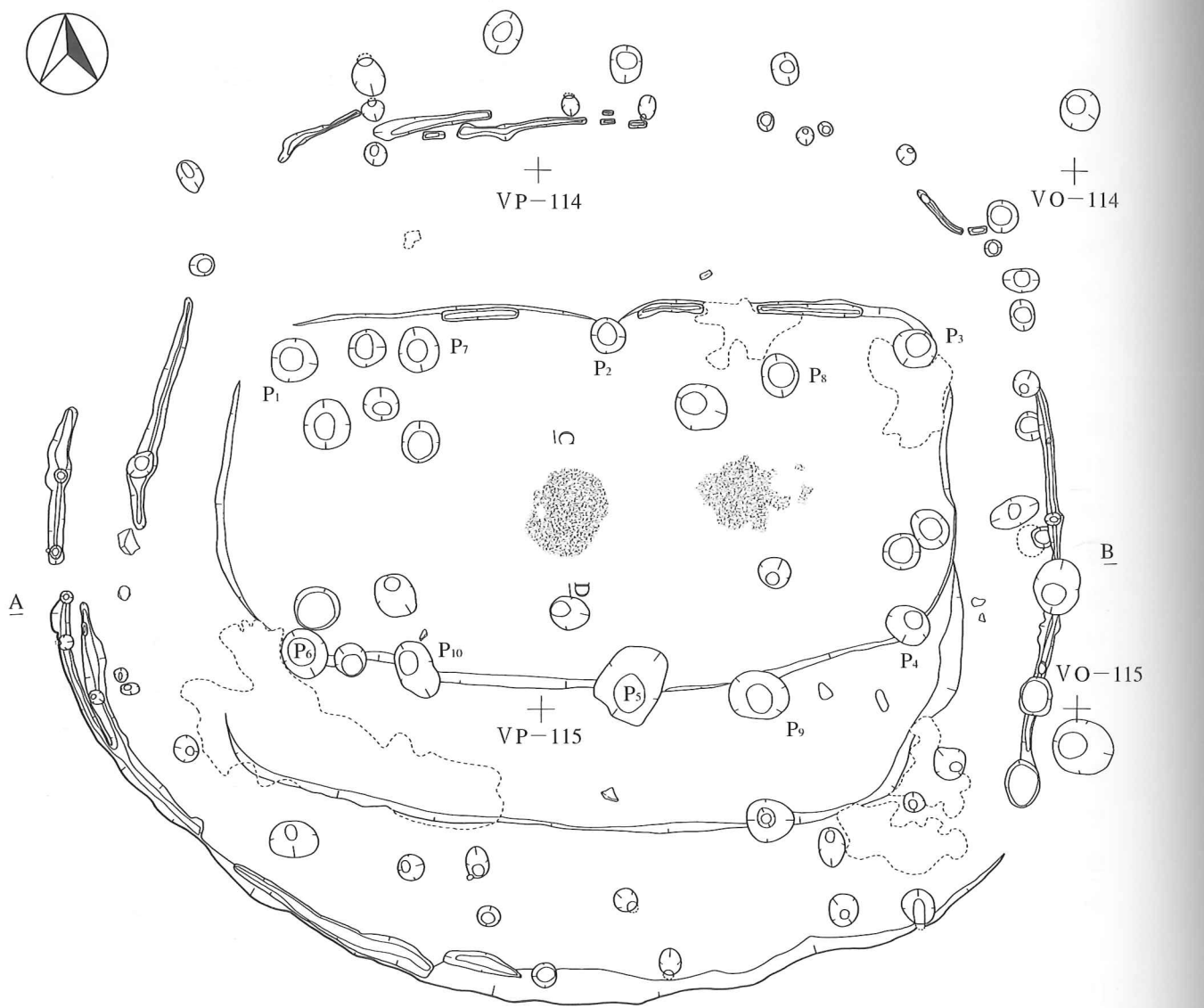
〔壁溝〕 確認した3条の内、壁溝Bを除く2条が第2期に伴うと思われる。最も外側の壁溝(壁溝C)は南側と西側、東側に検出されている。最大幅は20cmである。

〔柱穴〕 支柱穴は第1期同様、P1～P6で構成されていたものと思われる。壁溝Cに沿うピットは、径10～30cm、深さ10～50cmで、16個確認された。その他のピットで第2期に伴うものの識別はできなかった。

〔堆積土〕 暗褐色土主体の層で、比較的均質な堆積である。

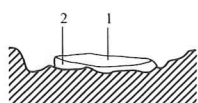
〔出土遺物〕 第3層から第II群3、6類、第III群4、6、9、10類土器が、第II群5-1、6類、第III群4、11類土器が出土した。石器は堆積土から石槍、U.フレイク、敲磨器類、石皿・台石類などが出土した。

〔時期〕 堆積土内の出土遺物及び住居形態より、縄文時代前期末葉と思われる。(秦 光次郎)



第415号住居跡
 第1層 黑褐色土 10YR3/2 ローム粒・炭化物微量。
 第2層 黒色土 10YR1.7/1 浮石少量、炭化物微量。
 第3層 黑褐色土 10YR2/3 浮石・炭化物・焼土微量。
 第4層 黑褐色土 10YR2/3 炭化物・ローム粒微量。

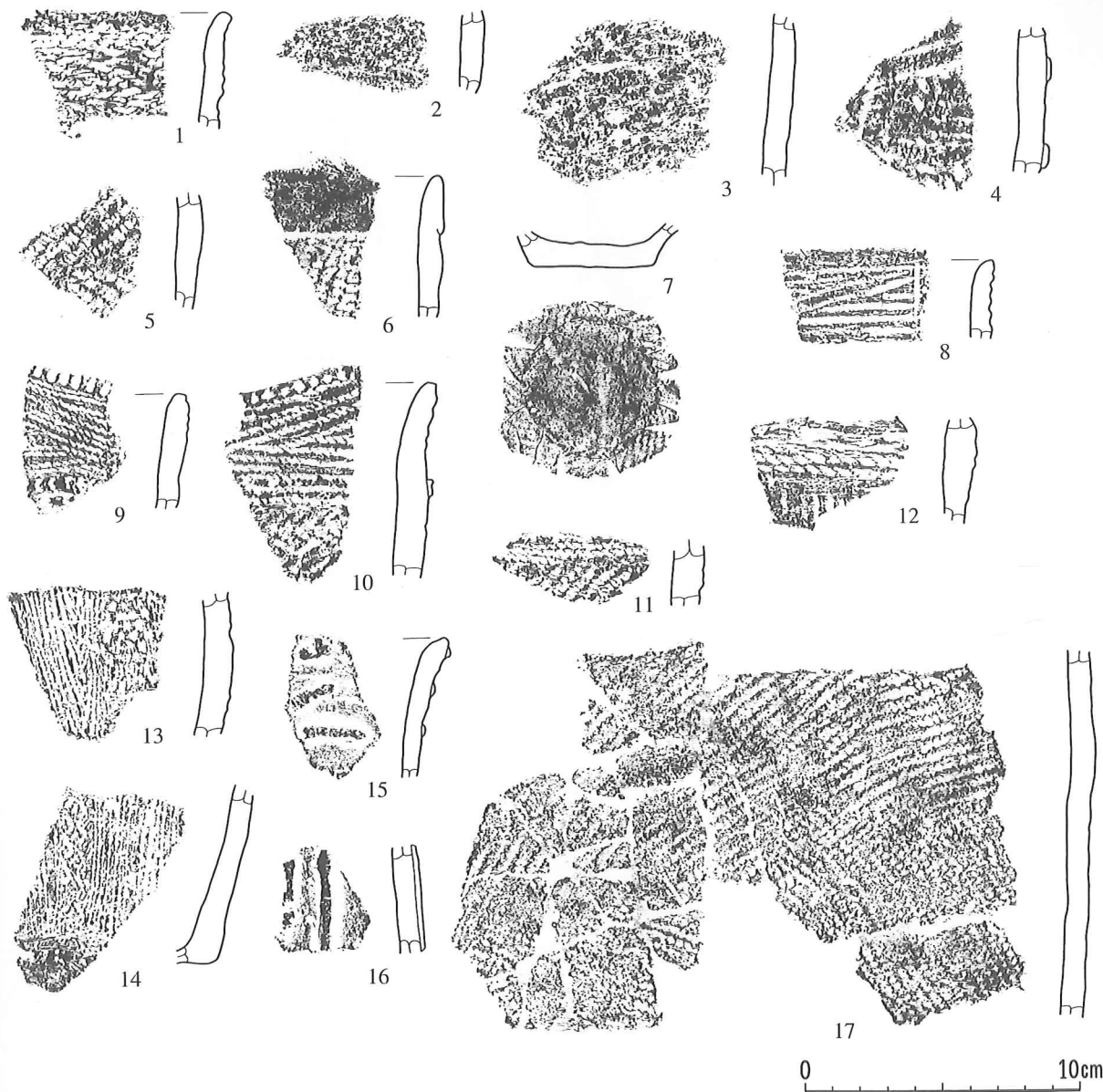
C D 17.50m



第415号住居跡 炉
 第1層 明赤褐色土 5YR5/8 焼土。
 第2層 黑褐色土 10YR2/3 浮石・炭化物微量。

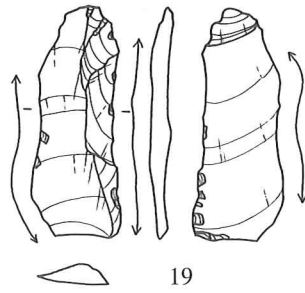
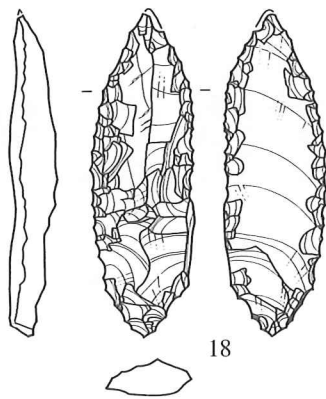
0 2m

253図 第415号住居跡

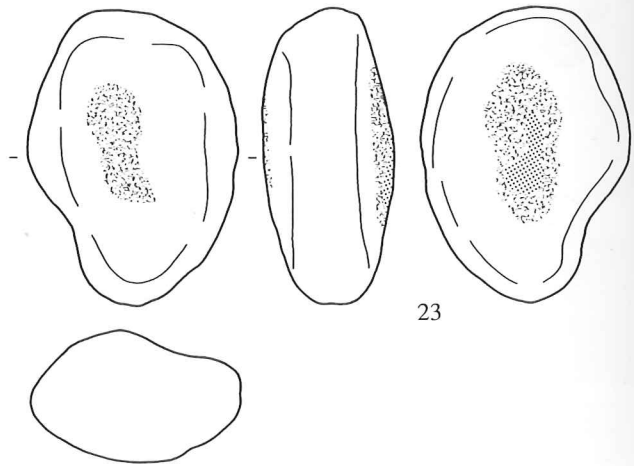
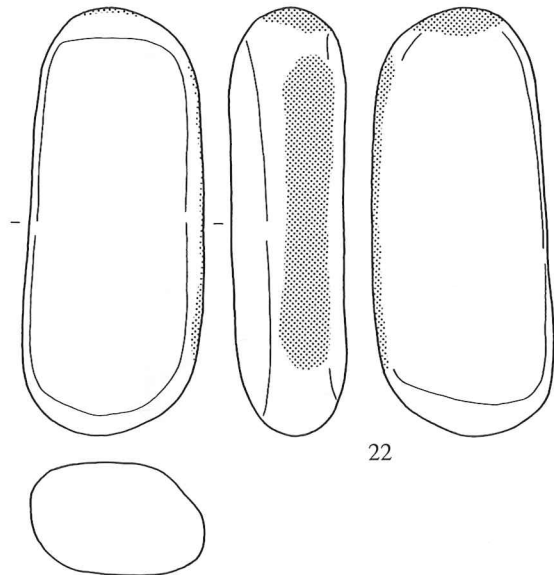
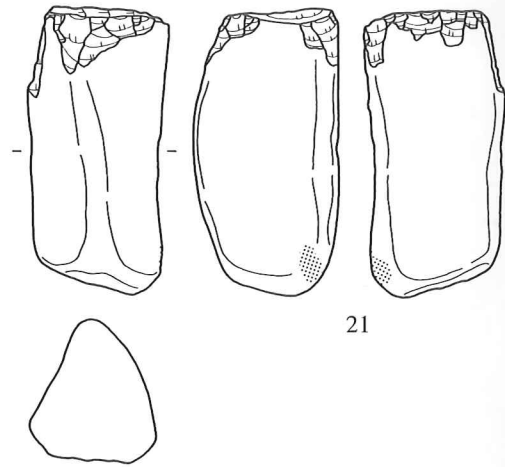
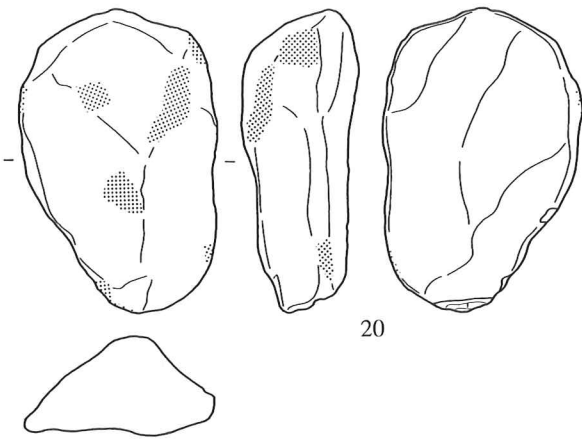


番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	415住	3	R結回、RLR押			ミガキ		Ⅱ-3	
2	〃	〃		不明		〃		Ⅱ-6	磨耗
3	〃	〃		〃		〃		〃	〃
4	〃	〃		結束第一種? 貼付		〃		Ⅲ-4	
5	〃	〃		結束第一種(LR, RL)		〃		Ⅲ-6	
6	〃	〃	折返口縁、RL			〃		Ⅲ-9・10	
7	〃	〃			LR	〃	無文	Ⅲ-11	
8	〃	堆積土	単絡1押			〃		Ⅱ-5-1	
9	〃	〃	LR押、刻み			〃		〃	口唇上に刻み
10	〃	〃	LR押、貼付(LR押)	結束第一種		〃		〃	口唇部に刺突
11	〃	〃	LR押	LR		〃		〃	
12	〃	〃	L押			〃		〃	
13	〃	〃		L単絡1A、多軸絡		〃		Ⅱ-6	
14	〃	〃			条痕、R結回	〃		〃	
15	〃	〃	貼付			〃		Ⅲ-4	16と同一個体
16	〃	〃		貼付		〃		〃	
17	〃	〃		LR		〃		Ⅲ-11	

254図 第415号住居跡出土遺物(1)



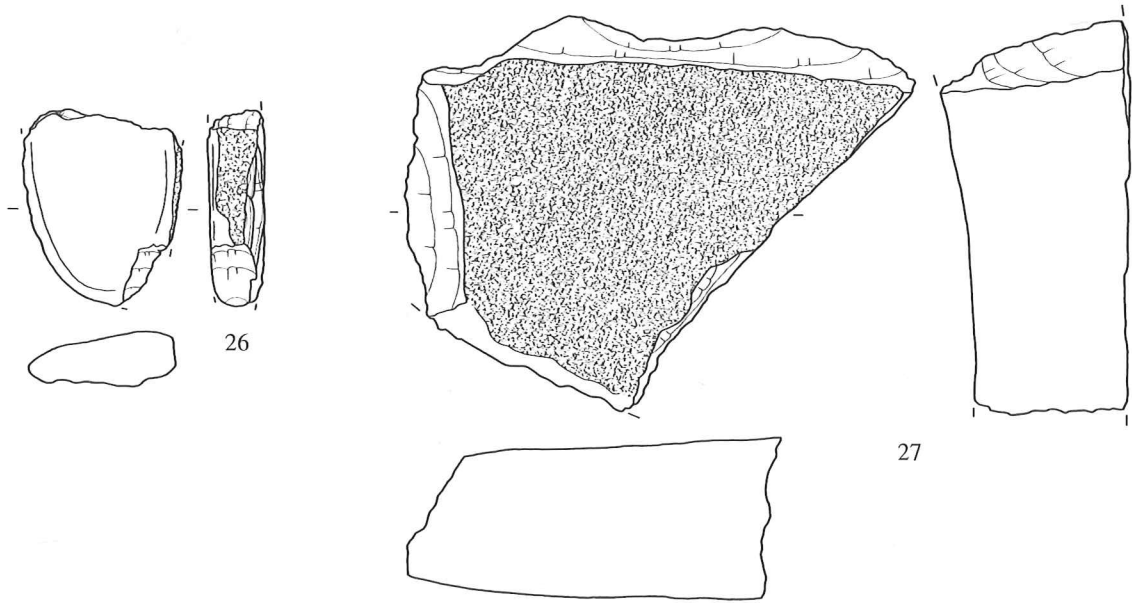
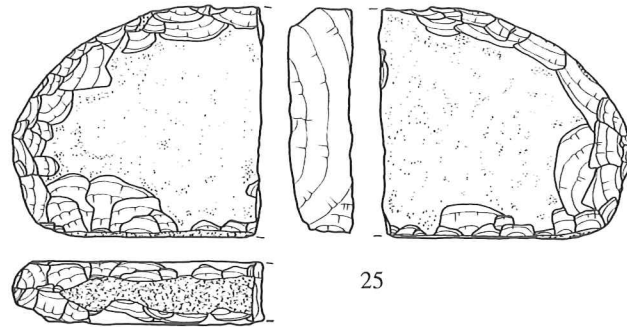
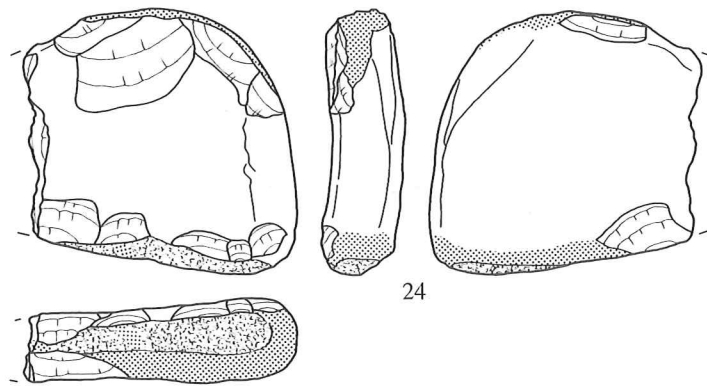
0 5cm



0 10cm

図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備	考	整理番号
18	415住	堆積土	(63)	22	9	(9.4)	珪頁	Ba			52287
19	〃	〃	46	18	4	3.0	〃	Gc			40234
20	〃	〃	120	78	46	472.2	安	Ib	S-8		43813
21	〃	〃	114	55	57	493.0	〃	〃	S-10		43815
22	〃	〃	170	72	47	864.7	流	〃	S-6		43810
23	〃	〃	117	84	52	650.0	安	Ic	S-9		43814

255図 第415号住居跡出土遺物 (2)



0 10cm

図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
24	415住	堆積土	105	(107)	33	(519.1)	安	Ic		43818
25	〃	〃	91	(99)	25	(383.9)	〃	〃	半円状肩平打製石器?、S-7	43811
26	〃	〃	(77)	(62)	(22)	(113.9)	〃	〃		43812
27	〃	〃	(156)	(201)	(74)	(2277.5)	〃	L	S-1	43806

256図 第415号住居跡出土遺物 (3)

第416号住居跡 (257図)

〔位置と確認〕 VO-115に位置する。第415号住居跡の堆積土を精査中に、硬化した貼り床と焼土を確認した。炉の位置から別住居としたが、第415号住居跡の貼り床の一部である可能性がある。

〔重複〕 第415号住居跡より新しい。

〔平面形・規模〕 壁が消失しているため、平面形は不明である。貼り床の残存最大長は1 m70cmである。

〔壁・床面〕 壁は残存しない。床は第VI層土を主に用いた貼り床がなされていた。硬化面は確認できなかった。

〔柱穴〕 確認されなかった。ただし、第415号住居跡に伴うと判断したものの中に含まれている可能性がある。

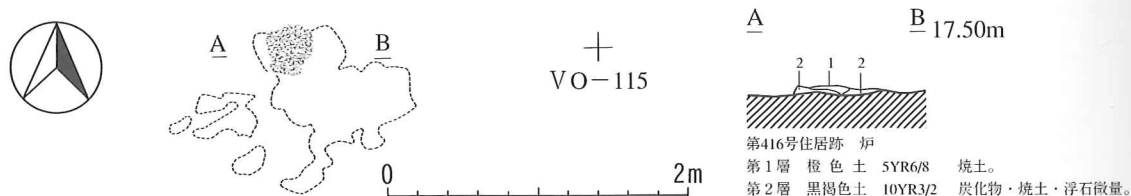
〔炉〕 貼り床の上に焼土が形成されていた。地床炉になるものと思われる。

〔堆積土〕 確認できなかった。

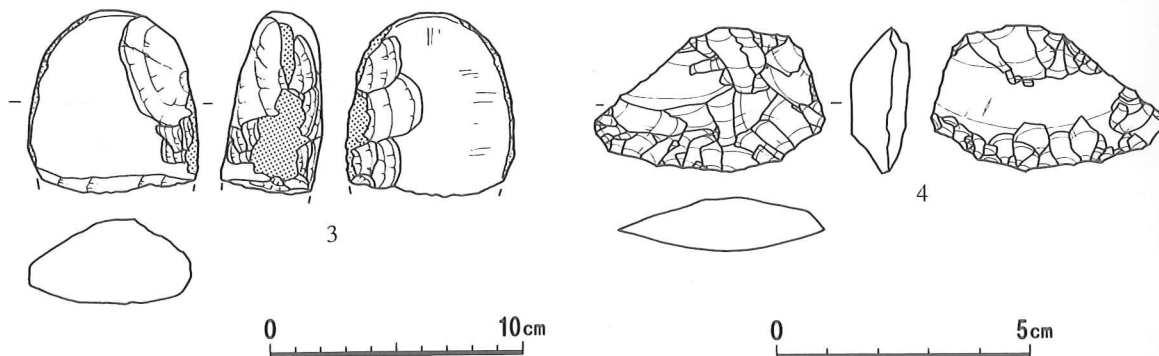
〔出土遺物〕 炉から第Ⅲ群10類土器、敲磨器類が、堆積土からスクレイパー類などが出土した。

〔時期〕 炉の出土遺物及び重複関係から、縄文時代中期後葉から末葉と思われる。

(秦 光次郎)



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	416住	炉	円形貼付、周囲に刺突	LR、沈線		ミガキ		Ⅲ-10	
2	〃	〃	RL、沈線、端部に刺突			〃		〃	



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
3	416住炉		(72)	(66)	(39)	(237.1)	安	Ib		43831
4	416住	堆積土	29	45	11	12.1	珪頁	Ga		52140

257図 第416号住居跡・出土遺物

第417号住居跡 (258図~259図)

〔位置と確認〕 VJ-118に位置する。第VI層まで下げたところで確認した。

〔重複〕 第339号住居跡と重複し、本住居跡が古い。

〔壁・床面〕 攪乱によって壁・床ともに残存状態が悪い。

〔平面形・規模〕 第339号住居跡と重複しているため、平面形は不明である。残存長 2 m 8 cmである。

〔柱穴〕 確認されなかった。第339号住居跡に伴うと判断したものの中に含まれている可能性もある。

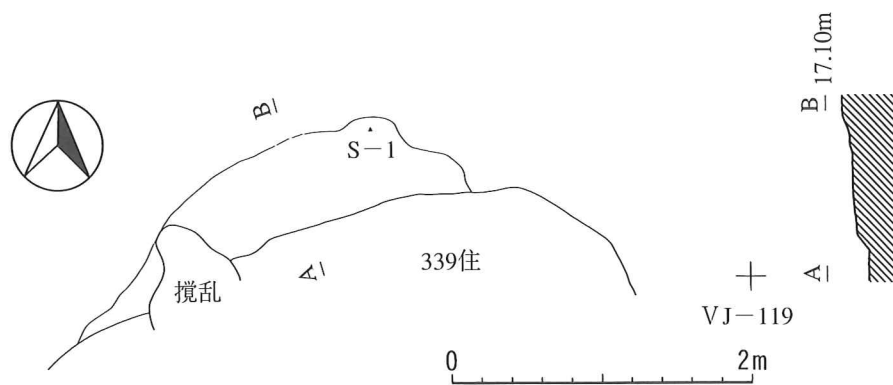
〔炉〕 確認できなかった。

〔堆積土〕 暗褐色土主体の堆積である。

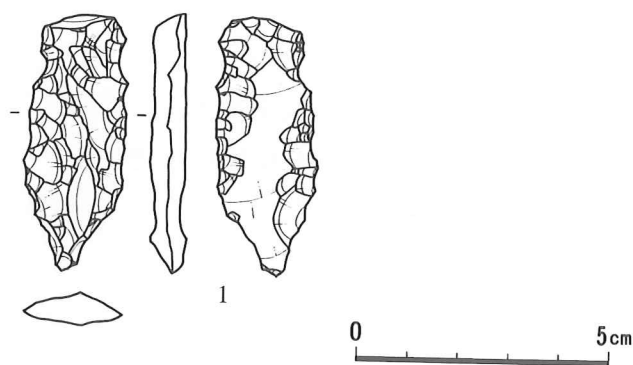
〔出土遺物〕 堆積土から石匙などが出土した。

〔時期〕 遺構の重複関係から、縄文時代前期と思われる。

(秦 光次郎)



258図 第417号住居跡



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
1	417住	堆積土	51	20	7	7.3	珪頁	Ca		52139

259図 第417号住居跡出土遺物

第420号住居跡 (260図~262図)

〔位置と確認〕 VQ・R-117、VR-118に位置する。第V層において確認した。

〔重複〕 第130号溝跡と重複し、本住居跡が古い。

〔平面形・規模〕 平面形は洋梨形に近い楕円形である。規模は長軸 3 m84cm、短軸 3 m30cm、床面積は10.43m²である。長軸方向は北東-南西である。

〔壁・床面〕 壁は床面から比較的直に立ち上がり、最高で18cm残存する。床面は、炉を中心とした半径 1 mの範囲が、平坦で堅緻である。他の部分では凹凸が目立ち、軟弱である。

〔柱穴〕 12個確認された。それぞれの深さはP₁…22cm、P₂…49cm、P₃…17cm、P₄…53cm、P₅…63cm、P₆…32cm、P₇…39cm、P₈…25cm、P₉…33cm、P₁₀…30cm、P₁₁…69cm、P₁₂…16cmである。P₂からは柱痕跡が確認されている。

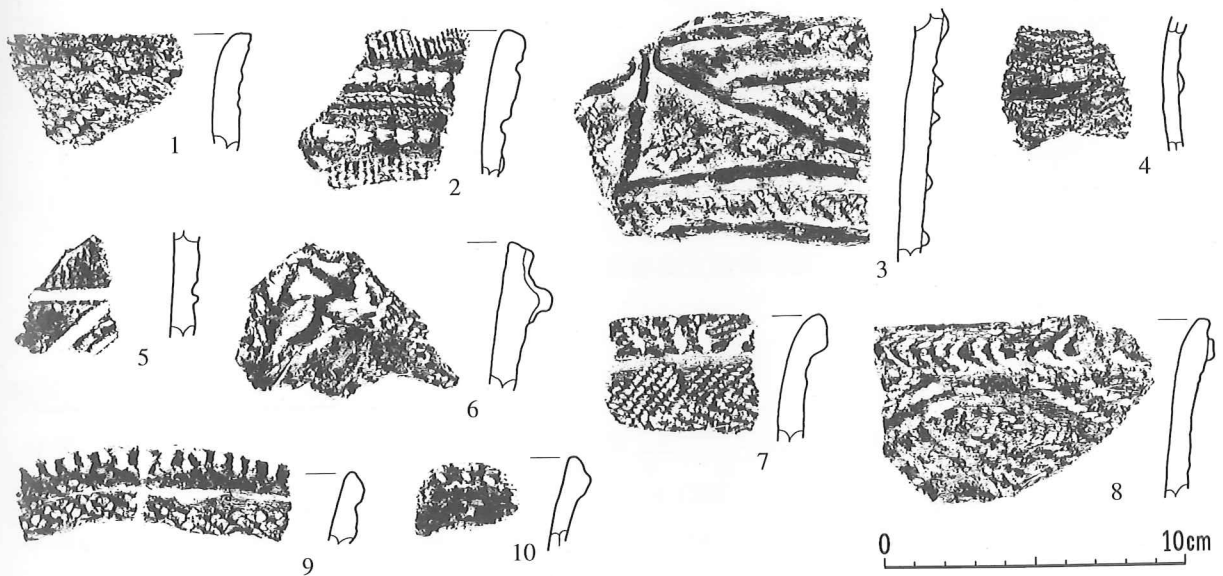
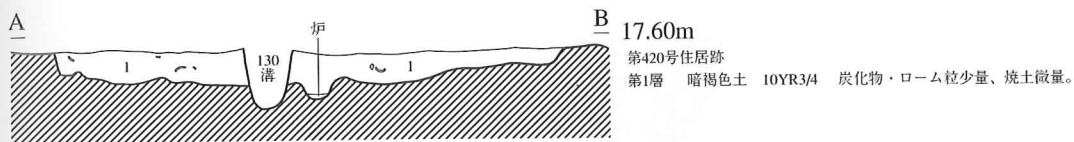
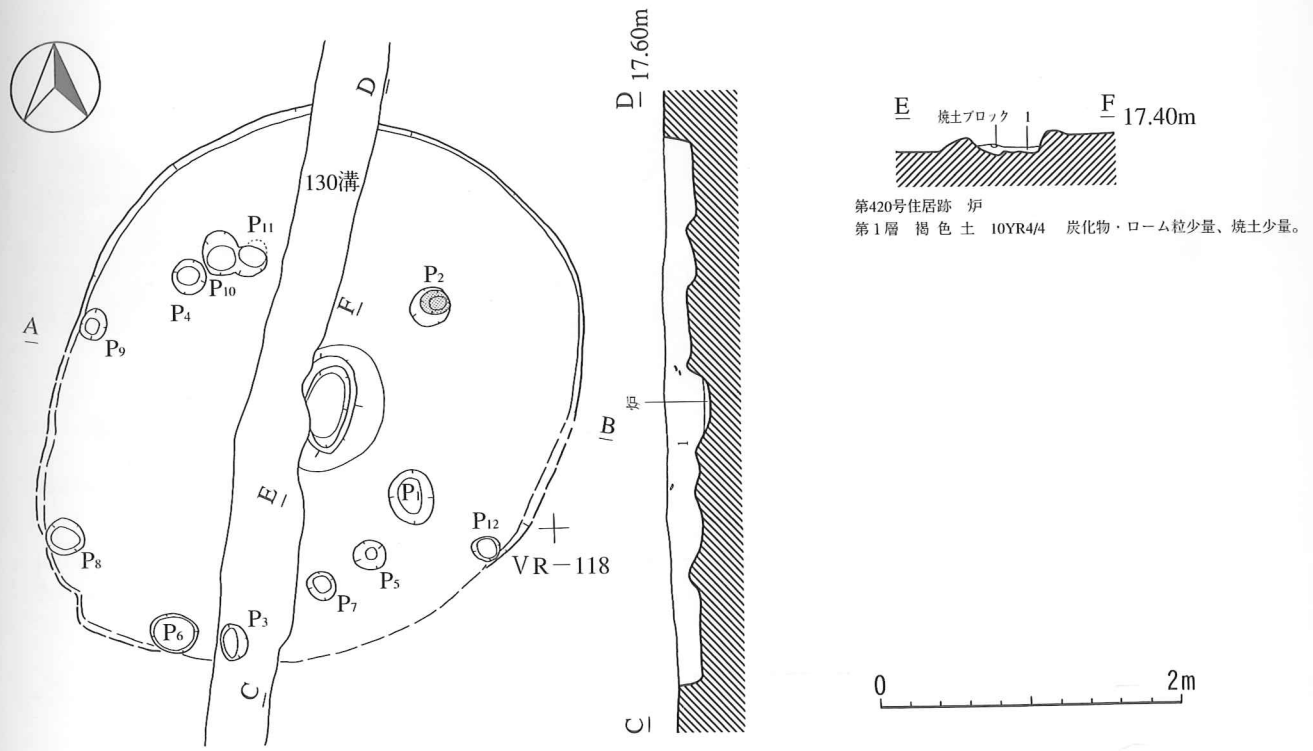
〔炉〕 中央から周堤炉が確認された。規模は径88cm、深さ約 8 cmで、第VI層を削り出して周堤を構築しており、床面との比高差は約 9 cmである。周堤内には焼土が見られた。

〔堆積土〕 暗褐色土主体の堆積である。比較的多くの土器片を含む。人為堆積と思われる。

〔出土遺物〕 第1層から第III群 4・5類を主体とする土器が、その他の堆積土から石匙などが出土した。

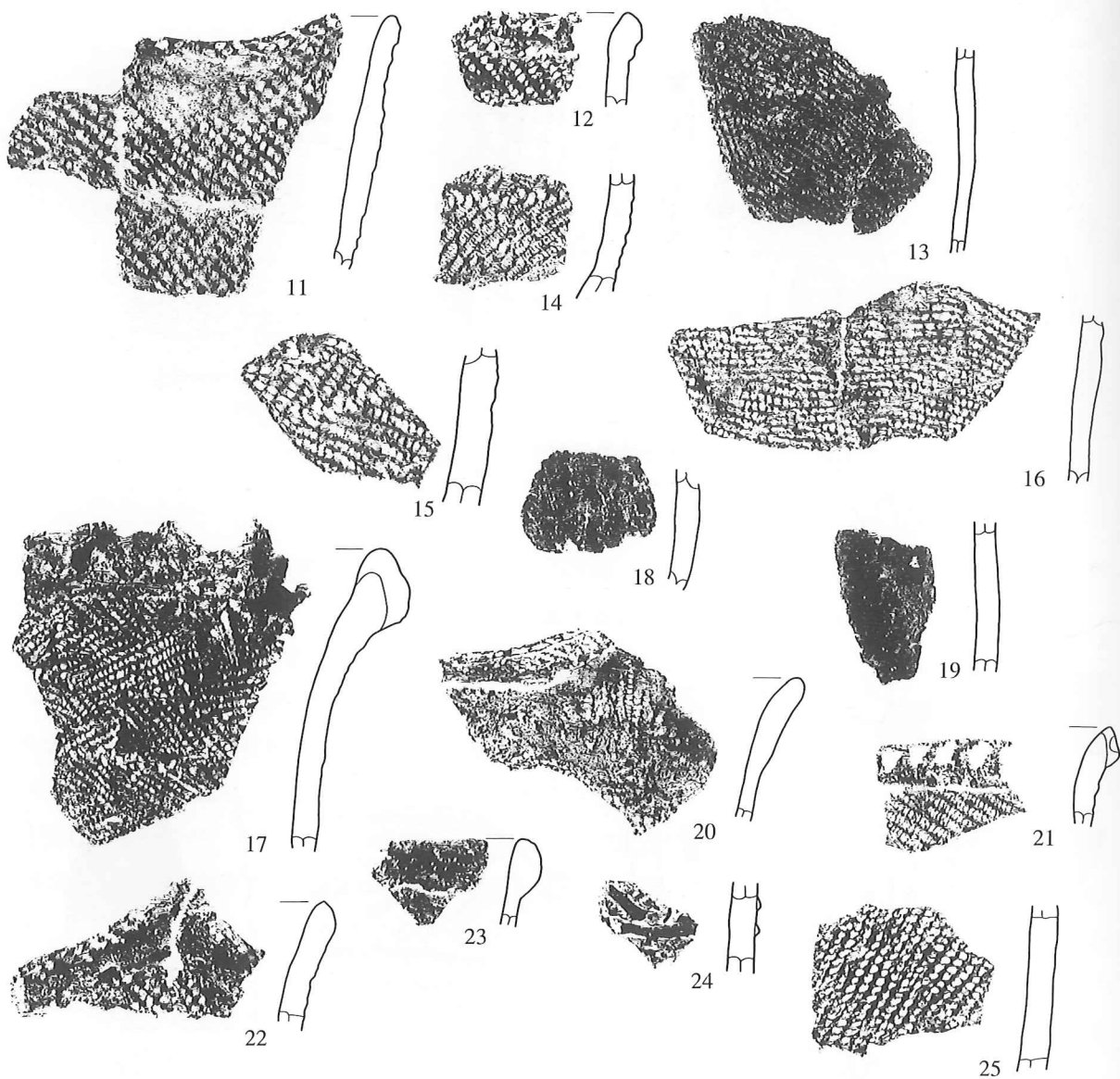
〔時期〕 第1層出土遺物から、縄文時代中期中葉(円筒上層e式期)と思われる。

(秦 光次郎)



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	420住	1	LR結回、LR			ミガキ		II-2	
2	〃	〃	L押、刺突、貼付(L押)			〃		II-5-2	
3	〃	〃		結束第一種、貼付		〃		III-4	
4	〃	〃		RL、貼付		〃		〃	
5	〃	〃		沈線		〃		III-5	
6	〃	〃	貼付(R押)、RL			〃		III-6	
7	〃	〃	LR押、結束第一種			〃		〃	
8	〃	〃	貼付(縄押)、RL押			〃		〃	
9	〃	〃	口唇刻み、RL?			〃		〃	
10	〃	〃	RL押、RL			〃		〃	

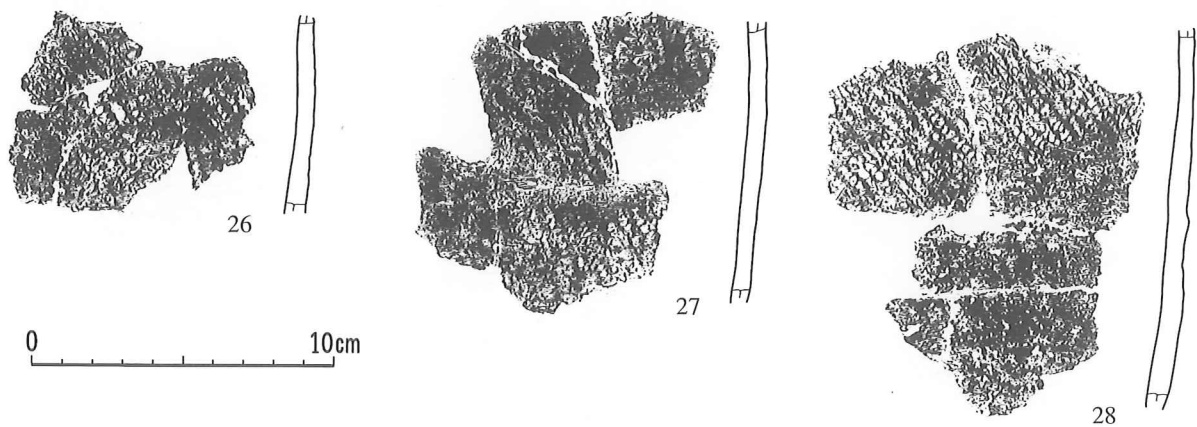
260図 第420号住居跡・出土遺物(1)



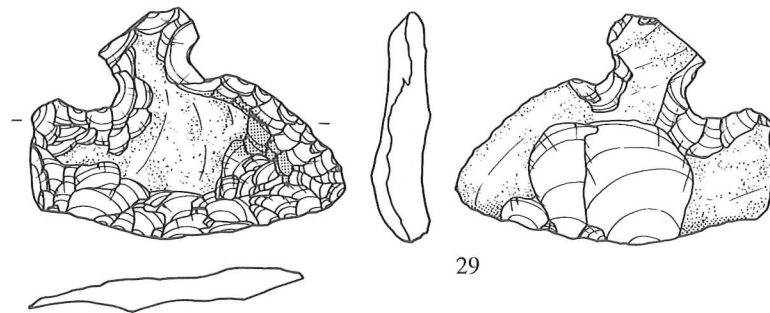
0 10cm

番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
11	420住	1	RL押、RL			ミガキ		Ⅲ-6	
12	〃	〃	LR押、〃			〃		〃	
13	〃	〃		RL		〃		〃	
14	〃	〃		〃		〃		〃	
15	〃	〃		結束第一種		〃		〃	
16	〃	〃		〃		〃		〃	
17	〃	〃		無文		〃		Ⅲ	
18	〃	〃		〃		〃		〃	
19	〃	確認面	貼付、結束第一種			〃		Ⅲ-4・5	
20	〃	〃	〃(RL)、〃			〃		〃	
21	〃	〃	〃(刺突)、RL			〃		〃	
22	〃	〃	LR押、RL			〃		〃	
23	〃	堆積土	無文			〃		〃	
24	〃	〃		LR、貼付		〃		Ⅲ-4	
25	〃	〃		L単絡I		〃		Ⅱ-6	

261図 第420号住居跡出土遺物(2)



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
26	420住	堆積土		RL		ミガキ		Ⅲ-6	
27	〃	〃		〃		〃		〃	
28	〃	〃		〃		〃		〃	



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
29	420住	堆積土	46	62	12	24.3	珪頁	Cb		40261

262図 第420号住居跡出土遺物 (3)

第421号住居跡 (263図~265図)

〔位置と確認〕 VQ-116・117に位置する。第V層上面で、暗褐色土の落ち込みを確認した。

〔重複〕 第156号溝跡と重複し、本住居跡が古い。

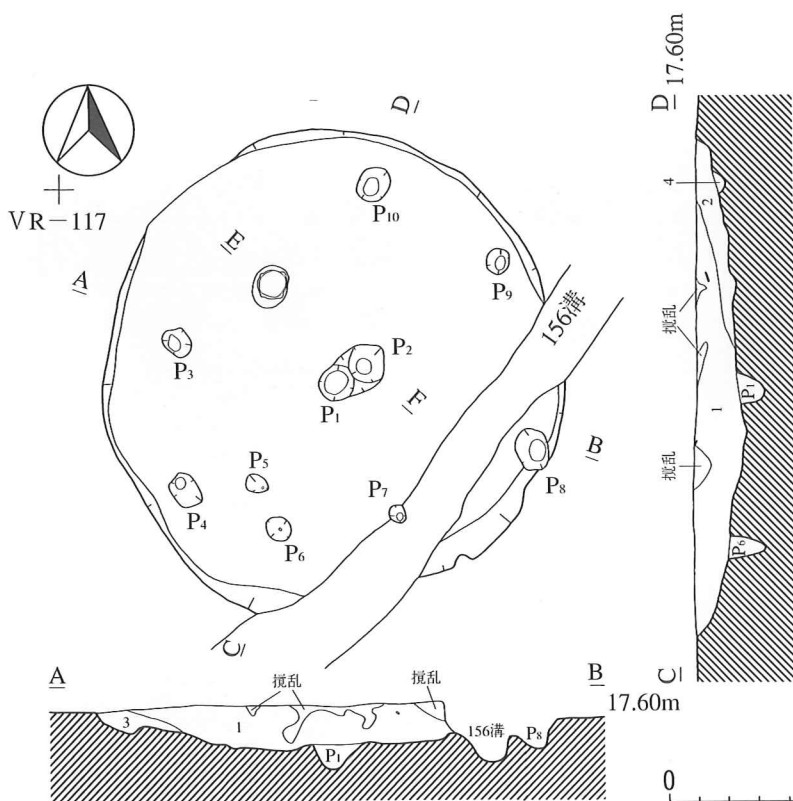
〔平面形・規模〕 平面形はほぼ円形で、規模は長軸3m28cm、短軸3m、床面積が7.53㎡である。長軸方向はほぼ南北である。

〔壁・床面〕 第V・VI層を掘り込んで、壁・床がえられる。残存する壁高は4~19cmで、床面から、緩やかに立ち上がる。床面は平坦で、堅緻である。

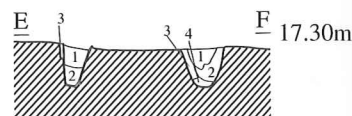
〔柱穴〕 10個検出された。深さはそれぞれP₁…19cm、P₂…27cm、P₃…26cm、P₄…58cm、P₅…28cm、P₆…31cm、P₇…23cm、P₈…25cm、P₉…47cm、P₁₀…22cmである。

〔炉〕 中央から北西よりに、土器埋設炉が1基確認された。完形の深鉢形土器を、正立させて埋設している。内部に焼土面は確認されなかった。

〔堆積土〕 黒褐色土主体の堆積土である。斑状に暗褐色土のブロックが入り込んでおり、人為堆積

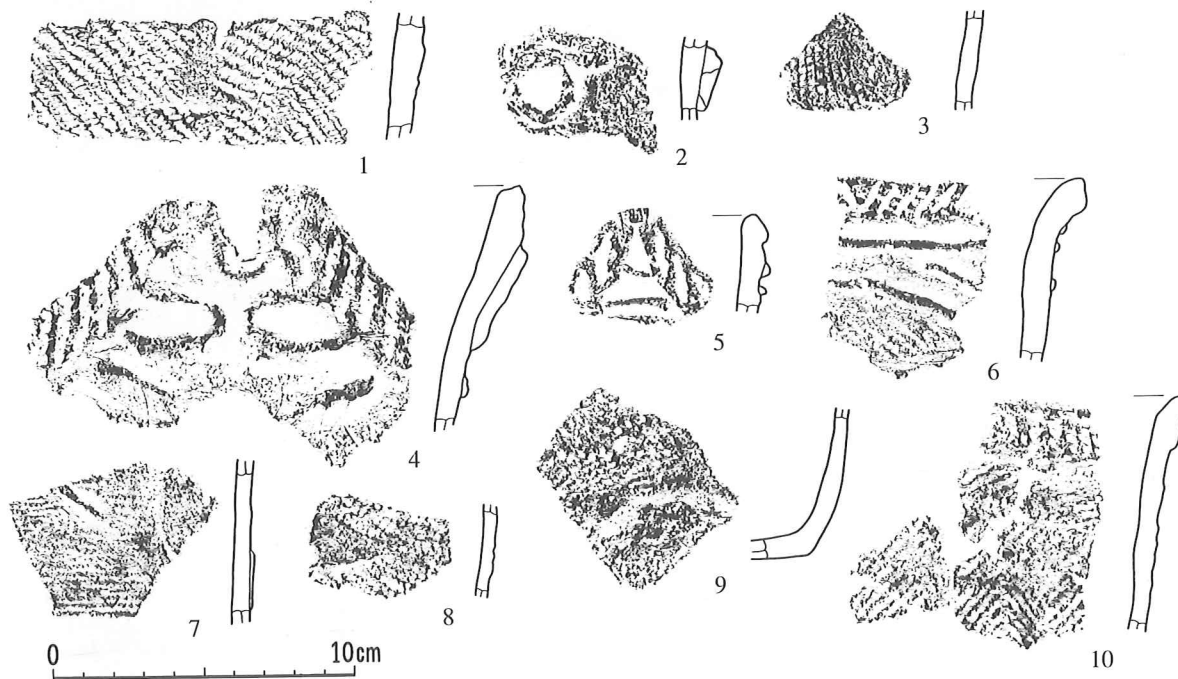


- 第421号住居跡
 第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒・浮石多量、炭化物少量、
 焼土粒極微量。
 第2層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒多量、浮石少量、
 炭化物微量、小礫極微量。
 第3層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒・浮石多量、
 炭化物・焼土粒極微量。
 第4層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒多量、浮石極微量。



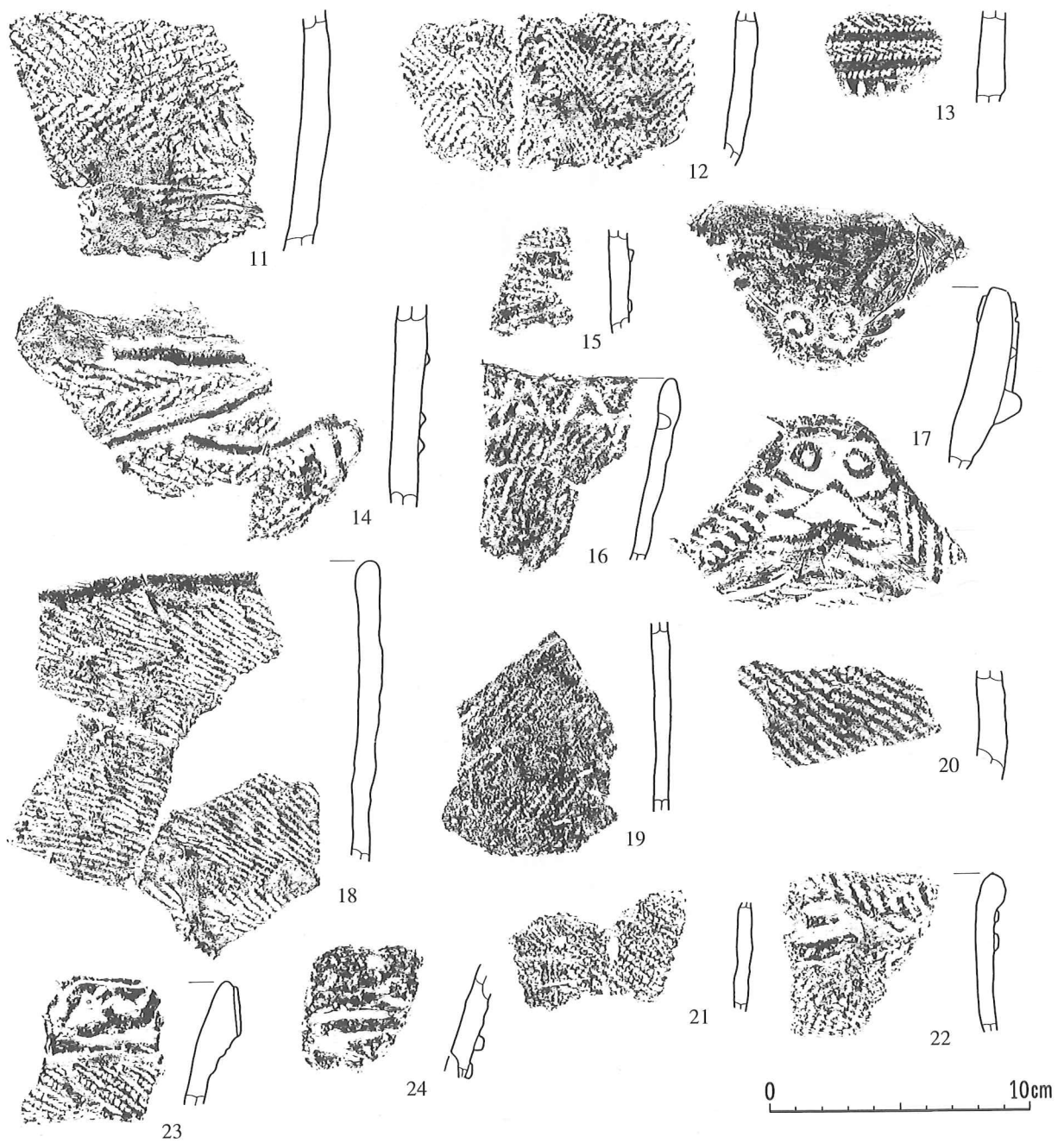
- 第421号住居跡 炉
 第1層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒少量・炭化物微量。
 第2層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒微量。
 第3層 掘り方。

- 第421号住居跡 ビット2
 第1層 暗褐色土 10YR3/4 炭化物・ローム粒少量、
 焼土微量。
 第2層 褐色土 10YR4/4 ローム粒中量、炭化物少量、
 焼土極微量。
 第3層 褐色土 10YR4/4 炭化物・ローム粒少量、
 焼土極微量。
 第4層 黄褐色土 10YR5/6 柱の埋め土。



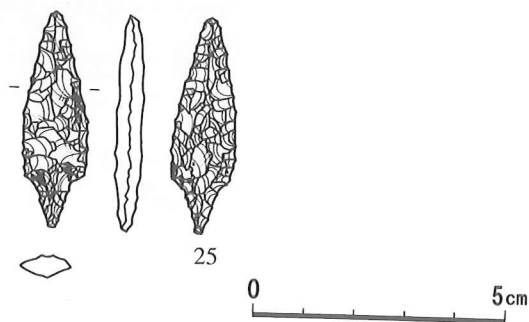
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	421住	床直		RL		ミガキ		Ⅲ-6	
2	421住の1	堆積土	貼付			〃		Ⅲ-4	
3	〃	〃		RL		〃		Ⅲ-6	
4	421住	3	貼付 (R? LR押)			〃		Ⅲ-4	
5	〃	〃	貼付			〃		〃	
6	〃	〃	口唇刻み	RL、貼付		〃		〃	
7	〃	〃		結束第一種、貼付		〃		〃	
8	〃	〃	LR押	結束第一種		〃		Ⅲ-4・5	
9	〃	〃		RL		〃		Ⅲ-6	
10	〃	〃			LR?	〃	無文	〃	

263図 第421号住居跡・出土遺物 (1)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
11	421住	2		結束第一種(LR, RL)		ミガキ	Ⅲ-6		
12	〃	〃		〃		〃	〃	縦位	
13	〃	1	単絡1・LR押			〃	Ⅱ-5-1		
14	〃	〃		結束第一種、貼付		〃	Ⅲ-4		
15	〃	〃		縄文、貼付		〃	〃		
16	〃	〃	貼付			〃	〃	内面にも貼付	
17	〃	〃	LR押、LR			〃	Ⅲ-4・5		
18	〃	〃	RL			〃	〃		
19	〃	〃		RL		〃	Ⅲ-6		
20	〃	〃		LR		〃	〃		
21	〃	〃		RL		〃	〃		
22	〃	堆積土	R押	RL、貼付		〃	Ⅲ-4		
23	〃	〃	貼付	RL		〃	〃		
24	〃	〃		縄文、貼付			〃		

264図 第421号住居跡出土遺物(2)



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
25	421住	堆積土	43	13	6	2.6	珪頁	Ab		52305

265図 第421号住居跡出土遺物 (3)

と思われる。

〔出土遺物〕 床面直上から第Ⅲ群 6 類、3 層から第Ⅲ群 4・5 類を主体とする土器が出土した。また、その他の堆積土から石鏃などが出土した。

〔時期〕 炉の土器より、縄文時代中期中葉（円筒上層 d 式期）と思われる。

（秦 光次郎）

第422号住居跡（266図～304図）

〔位置と確認〕 VT～VID-113・114、VIB・C-112、VT～VIC-115に位置する。第Ⅲ層精査中に、遺物包含層の落ち込みとして確認した。2 回の拡張の痕跡が確認された。古い時期から第 1 期、第 2 期、第 3 期として記述する。ただし、第 2 期の貼り床より下は、遺跡保存のため精査を行っていないので、第 1 期の状況については不明な部分が多い。

〔重複〕 第426・428号住居跡より新しく、第427・555号住居跡より古い。

第 1 期

〔平面形・規模〕 平面形は各時期を通して小判形に近い楕円形で、長軸方向は北西-南東である。規模は長軸約 13m、短軸約 7 m30cm である。

〔壁・床面〕 壁は不明である。床面は第 V・VI 層土中につくられ、第 VI 層土と暗褐色土を用いて貼り床がなされていた。第 1 期～3 期を通じて、面的に確認できたのは主に第 VI 層土によるもので、4 回以上貼り床が施された部分もある。それぞれ厚さ 1 cm ほどで、硬化の度合いもまちまちである。面的には大きく 2 枚に識別できる。第 1 期～2 期の支柱穴を覆う貼り床を貼り床 A、その下から確認された貼り床を貼り床 B とした。貼り床 A は第 3 期に、貼り床 B は第 1 期または第 2 期に伴うものと考えられる。

〔柱穴〕 支柱穴は、P₇・P₂₀・P₂₁・P₂₃・P₁₂₀・P₁₃₆の 6 本で、径 50～74cm、深さ 70～117cm である。

P₁₃₆は上面のみの精査のため、深さ等は不明である。P₇を除いて、何れも第3期に伴う貼り床Aに覆われており、拡張の新旧を決定する根拠となった。P₁₂₀・P₁₃₆は、上面に第VI層を用いた貼り床が貼られ、床面から若干沈み込んでいた。平面配置は2本×3本の長方形で、桁行き7m40~48cm、梁行き3m28~42cmである。壁柱穴と思われるものはP₁₂・P₂₂・P₅₀~P₅₇・P₆₂・P₁₀₆~P₁₀₈・P₁₁₁・P₁₁₄・P₁₁₅・P₁₁₇・P₁₁₈・P₁₂₁・P₁₂₂・P₁₂₇・P₁₃₀・P₁₃₁の24個である。

〔炉〕 貼り床Bの下にあると思われ、不明である。

〔その他の施設〕 第1期~第2期では、並列する溝状の付属施設が伴う。長さ約60cm、幅約20cm、深さ約4cmの浅く短い溝が、11本並列している。P₂₀の北から、南東に長さ約3m確認された。硬化面は形成されていなかった。第1期には、南側の貼り床下に2本の溝も伴う様である。

第2期

〔平面形・規模〕 規模は長軸約14m10cm、短軸約9m50cmである。

〔壁・床面〕 第2期の壁は第3期への拡張時にほぼ消失し、東側の壁が僅かに残存する。貼り床Bは第1期または第2期に伴うものとする。

〔柱穴〕 主柱穴は第1期と同じと考えられる。壁柱穴はP₂₇・P₂₈・P₃₁・P₃₄・P₃₆・P₃₉~P₄₆・P₄₈・P₄₉・P₅₈~P₆₁・P₆₃・P₇₁・P₇₂・P₇₈・P₈₅・P₈₈・P₈₉・P₉₂・P₉₅~P₉₈・P₁₁₀・P₁₁₃・P₁₁₆・P₁₂₈・P₁₂₉・P₁₃₃・P₁₃₄の40個が確認された。

〔炉〕 床面中央部から炉1が確認された。平面形は1m×65cmの楕円形で、深さ約30cmである。少なくとも第2期から住居廃絶まで存続していたと思われる。

〔その他の施設〕 第1期に確認されるものの他、第2期には北側の床面に2本の溝が伴っていた。

第3期

〔平面形・規模〕 規模は長軸15m12cm、短軸10m40cm、床面積136.41m²である。

〔壁・床面〕 新期の壁は、第V・VI層を掘り込んでつくられる。北壁は確認できなかった。貼り床Aは主に第3期に伴うものと思われる。

〔柱穴〕 主柱穴はP₁~P₆の6本である。深さは65~87cmで、斜面上方にあたる南東側が深くなる。何れも貼り床A・Bを切るか、覆われていないもののみである。平面配置形は2本×3本の長方形で、桁行き9m40cm、梁行4m20cmから4m40cmの規模である。壁柱穴は、P₁₀・P₁₈・P₁₉・P₂₉・P₃₀・P₃₂・P₃₃・P₃₅・P₃₇・P₃₈・P₅₉・P₆₃・P₆₄・P₇₀・P₇₃~P₇₇・P₇₉・P₈₁~P₈₄・P₈₆・P₈₇・P₉₀~P₉₄・P₁₀₄・P₁₀₅・P₁₀₉・P₁₁₀・P₁₁₂・P₁₈₀の37個が検出された。

〔炉〕 住居長軸上の炉1、炉2が該当すると思われる。いずれも焼土は確認できなかった。

〔その他の施設〕 第3期では、炉1の東側に溝を伴う。幅、深さともに約20cmで、V字状の平面形である。

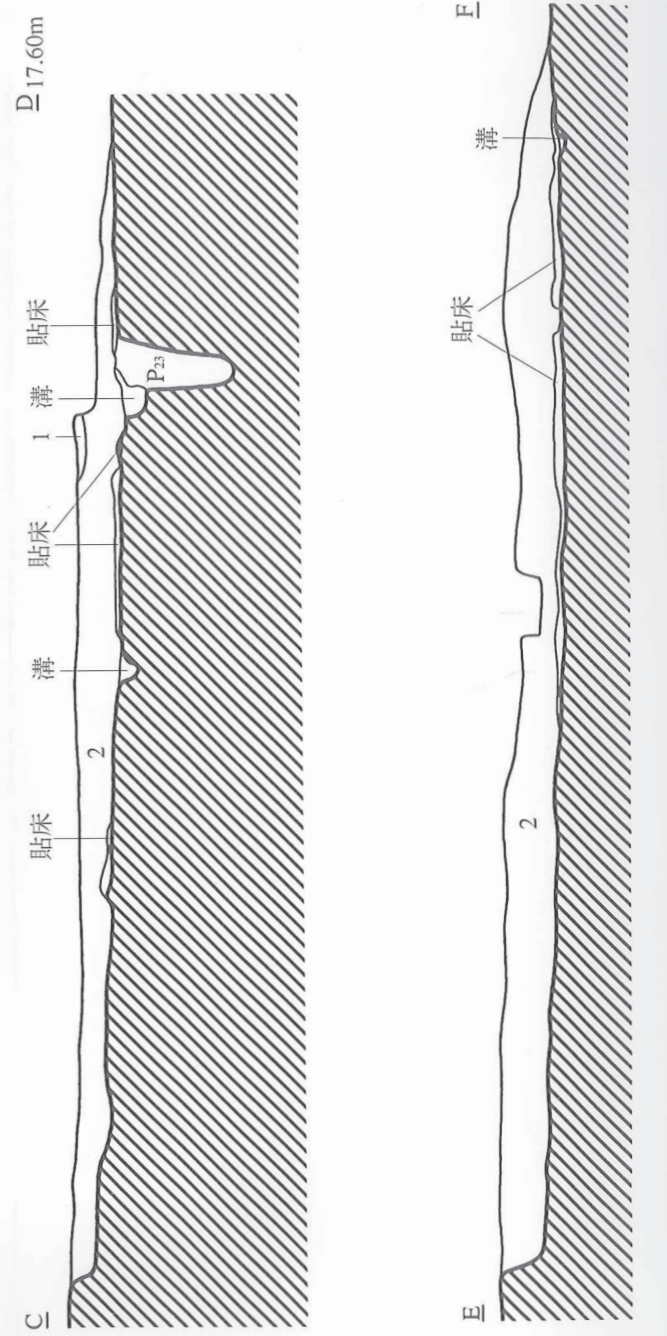
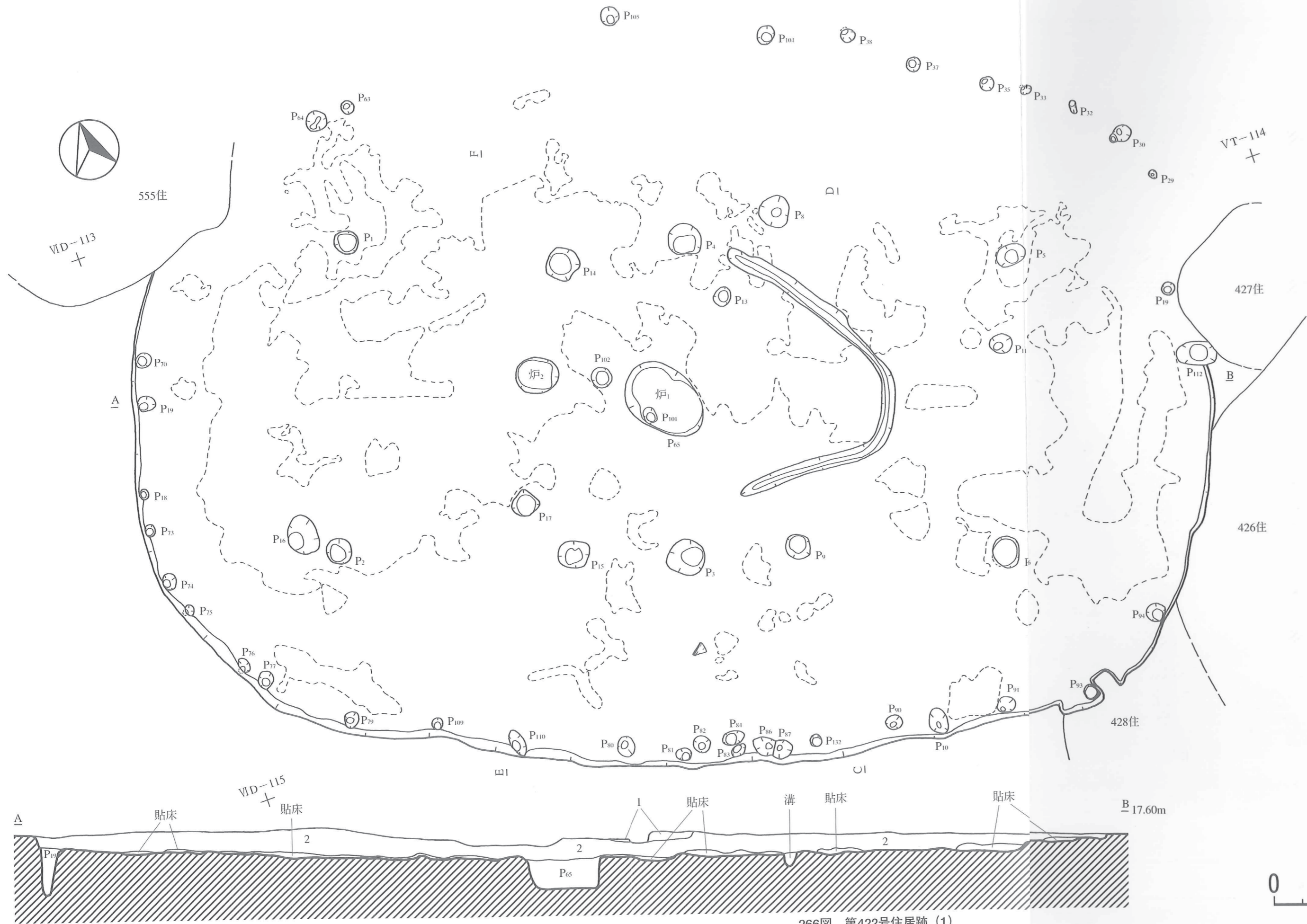
〔堆積土〕 黒褐色を基調とする。2層に分層した。遺物の出土状態より、第1層は住居廃絶後から榎木林式期まで連続して廃棄層が形成されたものと考えられる。

〔出土遺物〕 床面から第II群2、3、5、6類、第2層から第III群4、5、6、8類、その他の堆積土から第II群5類、第III群2、4、5、8、11類土器が出土した。石器は床面から敲磨器類、石皿・台石類などが、貼り床から石鏃、石匙、石錐、敲磨器類、抉入扁平磨製石器などが、床面直上から石鏃、スクレイパー類、玉髓原石、敲磨器類、半円状扁平打製石器、角柱状の礫石器などが、

第3層から石鏃、石匙、石錐、スクレイパー類、石核、敲磨器類などが、第2層から石鏃、石槍、石匙、石錐、石篋、スクレイパー類、R. フレイク、異形石器、磨製石斧、敲磨器類、半円状扁平打製石器、石皿・台石類、砥石などが、第1層から石核、半円状扁平打製石器、石皿・台石類などが、その他の堆積土から石鏃、石匙、石錐、スクレイパー類、R. フレイク、石核、敲磨器類、半円状扁平打製石器、石棒、角柱状の礫・礫石器などが、確認面から石棒類などが出土、ピット7の柱痕跡から石錐、堆積土から石鏃などが出土した。なお238は欠損部分が大きく、器種認定を保留したが、半円状扁平打製石器やその素材である可能性がある。また、堆積土からミニチュア土器、石製品、土偶が出土した。

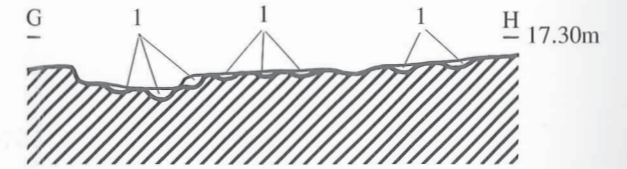
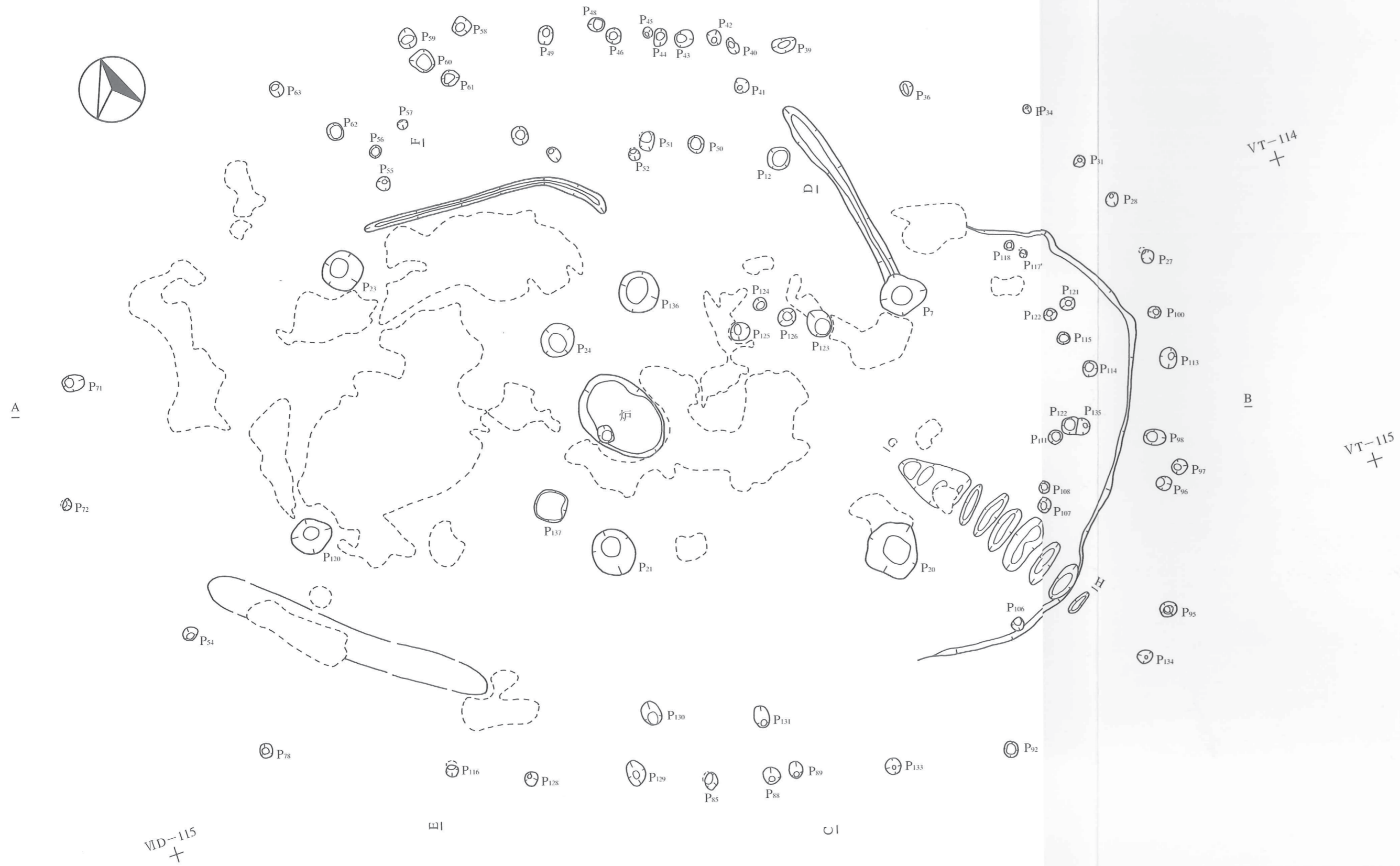
〔時期〕 床面、貼り床中、ピット堆積土出土遺物から、縄文時代前期末葉（円筒下層d₁式期）と思われる。

（秦 光次郎）



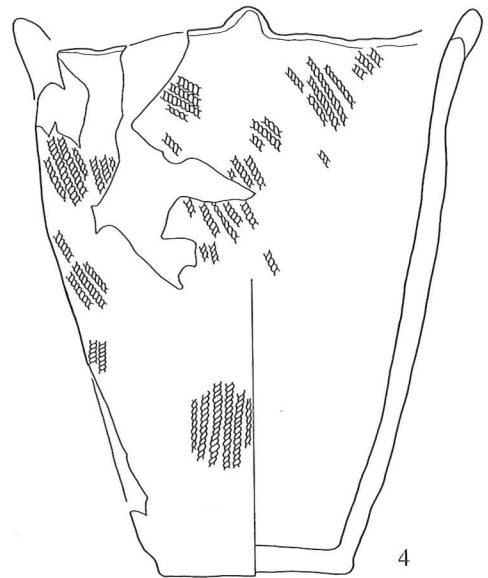
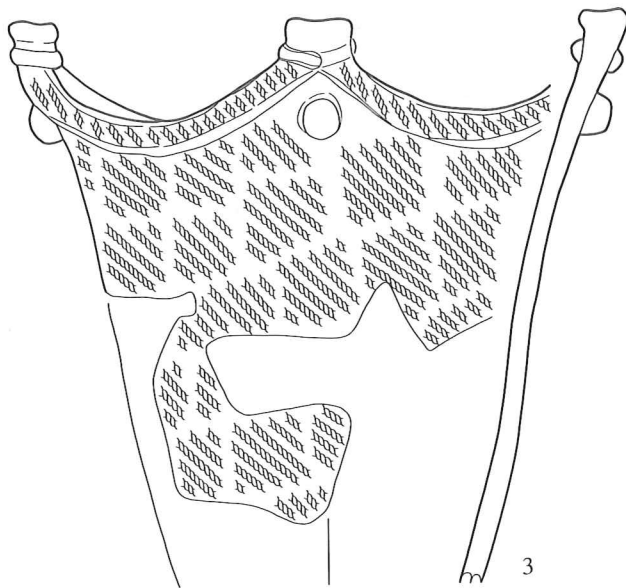
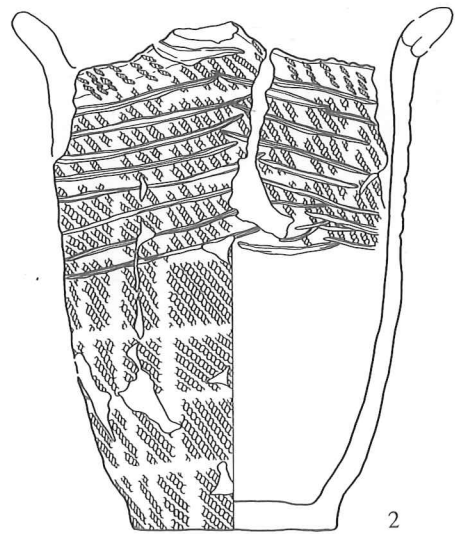
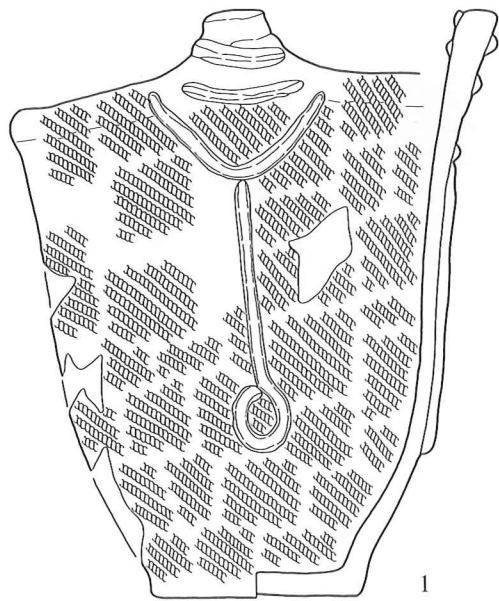
第422号住居跡
 第1層 黑褐色土 10YR3/2 炭化物・褐色土少量、燒土微量。
 第2層 黑褐色土 10YR2/2 炭化物少量、燒土・褐色土・明黄褐色土微量。

266图 第422号住居跡 (1)



第422号住居跡 付属施設
 第1層 黑褐色土 10YR2/3 ローム粒多量、炭化物少量、浮石極微量。

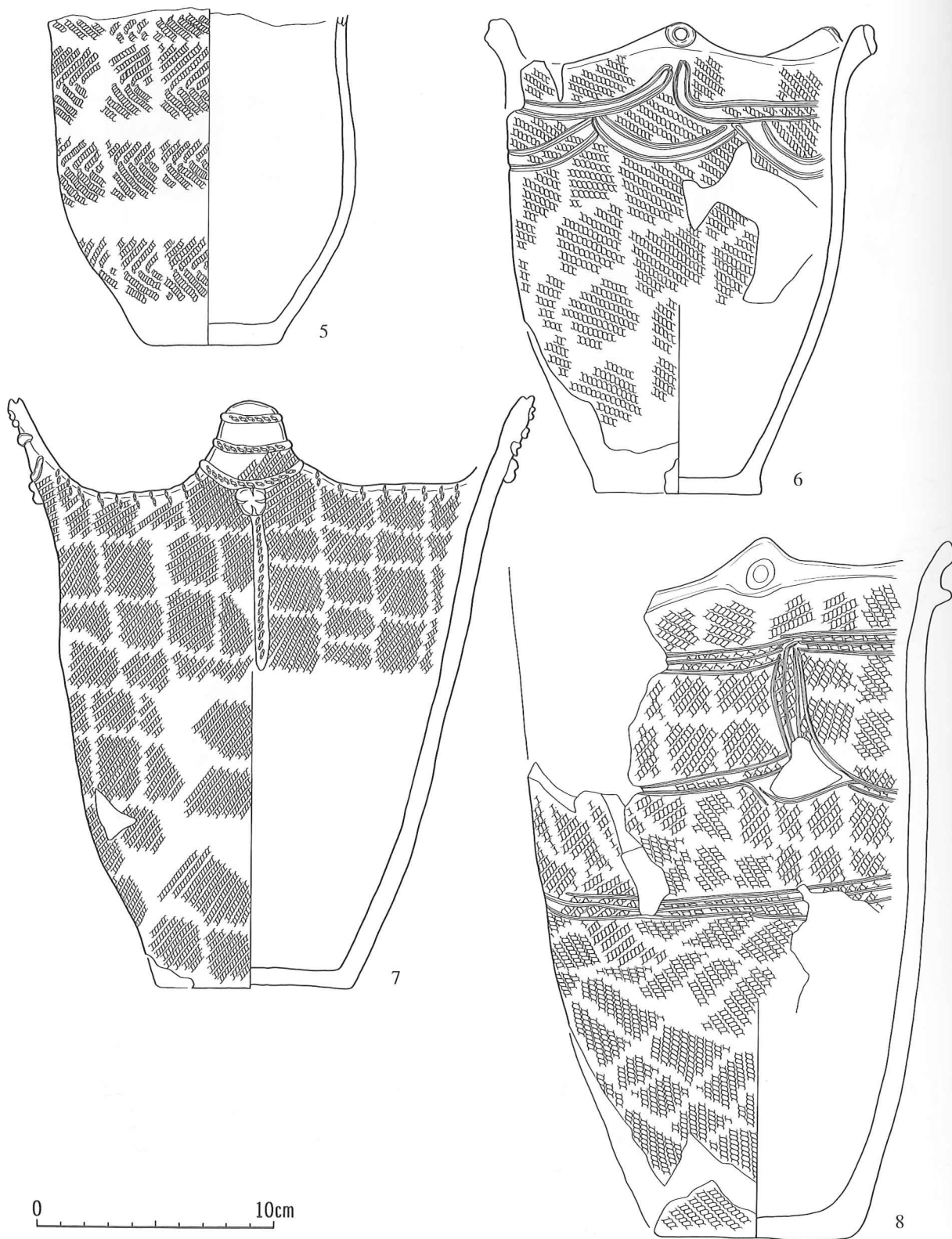
267图 第422号住居跡 (2)



0 10cm

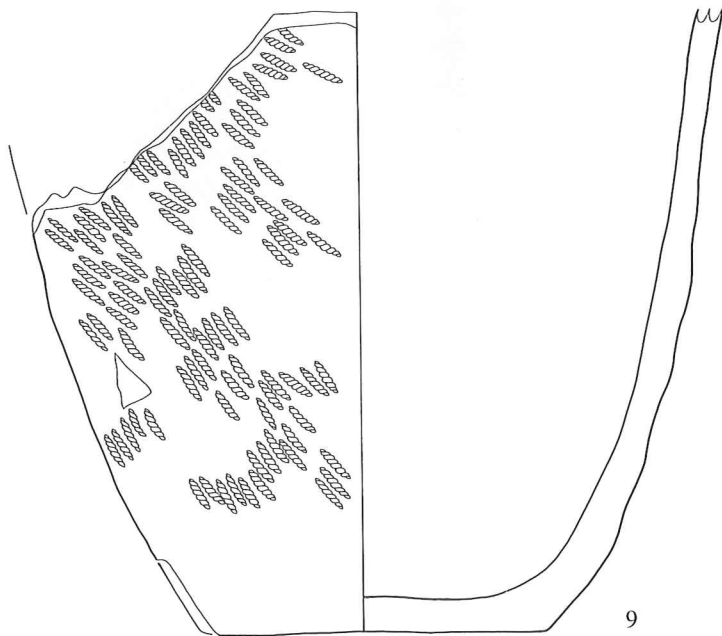
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胸部上半	胸部下半				
1	422住	2	貼付	RL、貼付	RL	ナデ	無文	Ⅲ-4	突起は2箇所のみ
2	〃	〃	突起部に貼付、RL押	〃、沈線	〃	ミガキ	〃	Ⅲ-5	
3	〃	〃	RL、貼付	RL		〃		Ⅲ-6	
4	〃	〃	RL	〃	RL	ナデ	無文	〃	

268図 第422号住居跡出土遺物 (1)

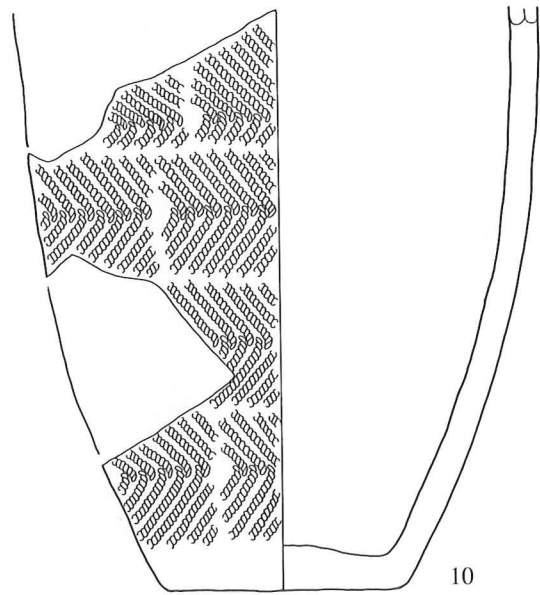


番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胸部上半	胸部下半				
5	422住	2			結束第一種(LR, RL)	ミガキ	無文	Ⅲ-6	
6	〃	〃	貼付、RL	RL、沈線	RL	〃	〃	Ⅲ-8	3単位の波状口縁
7	〃	1	〃(LR押)、LR押	LR	LR	〃	〃	Ⅲ-6	
8	〃	確認面	円形の凹み	〃、沈線	〃	〃	〃	Ⅲ-8	3単位の波状口縁

269図 第422号住居跡出土遺物(2)



9

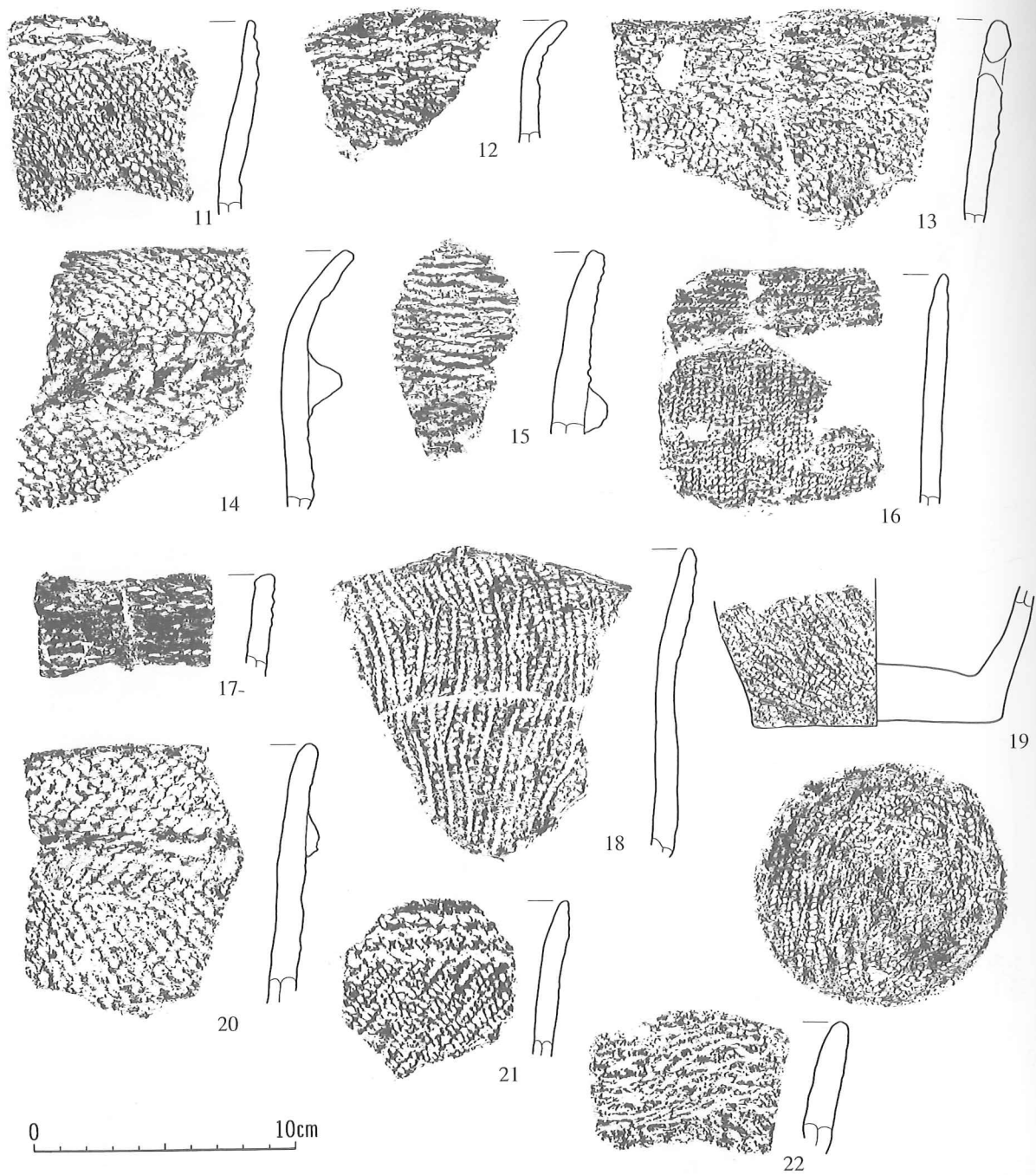


10

0 10cm

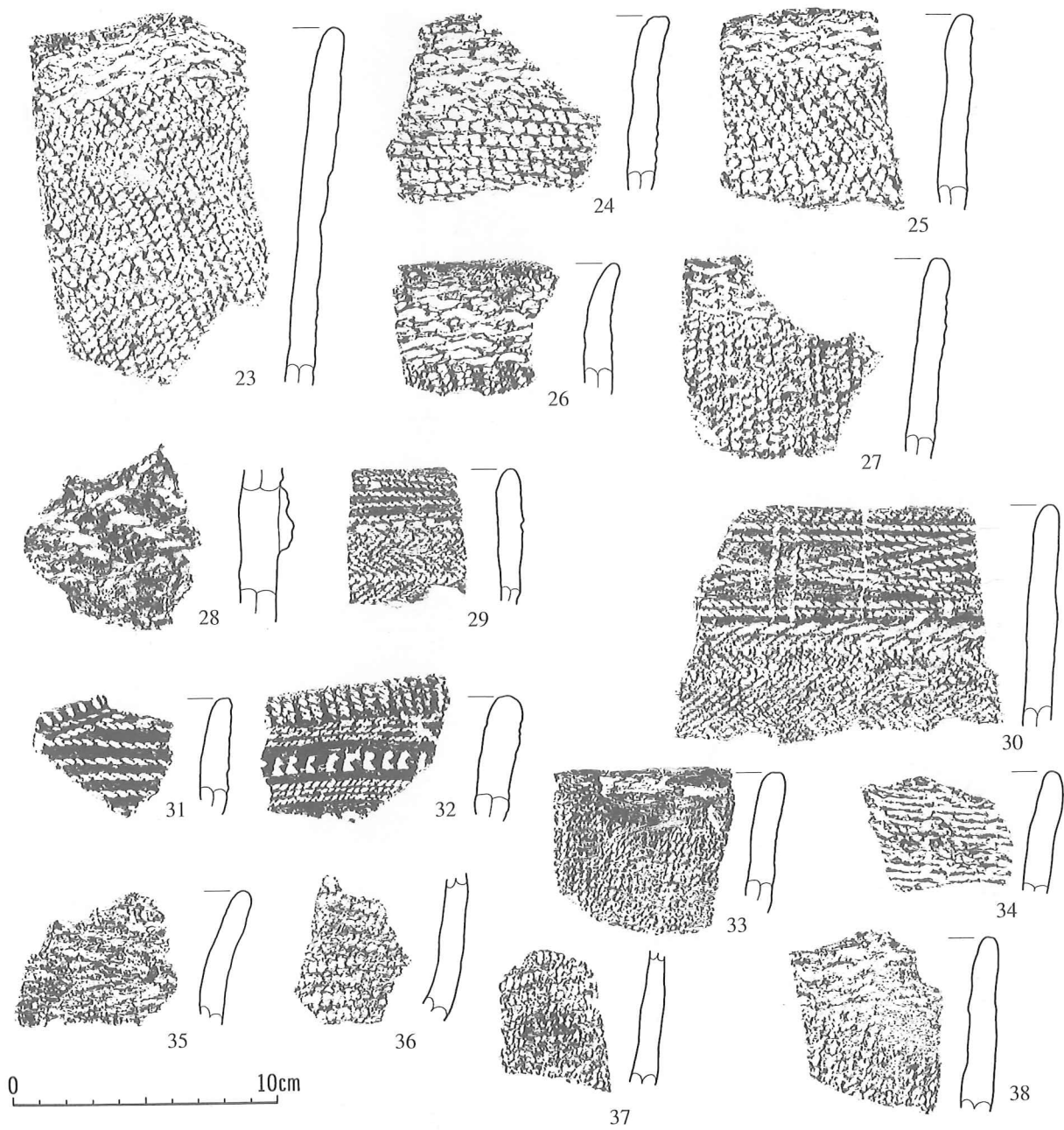
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
9	422住	確認面			LR	ミガキ	無文	Ⅲ	
10	〃	堆積土			結束第一種(LR, RL)		〃	Ⅲ-6	

270図 第422号住居跡出土遺物 (3)



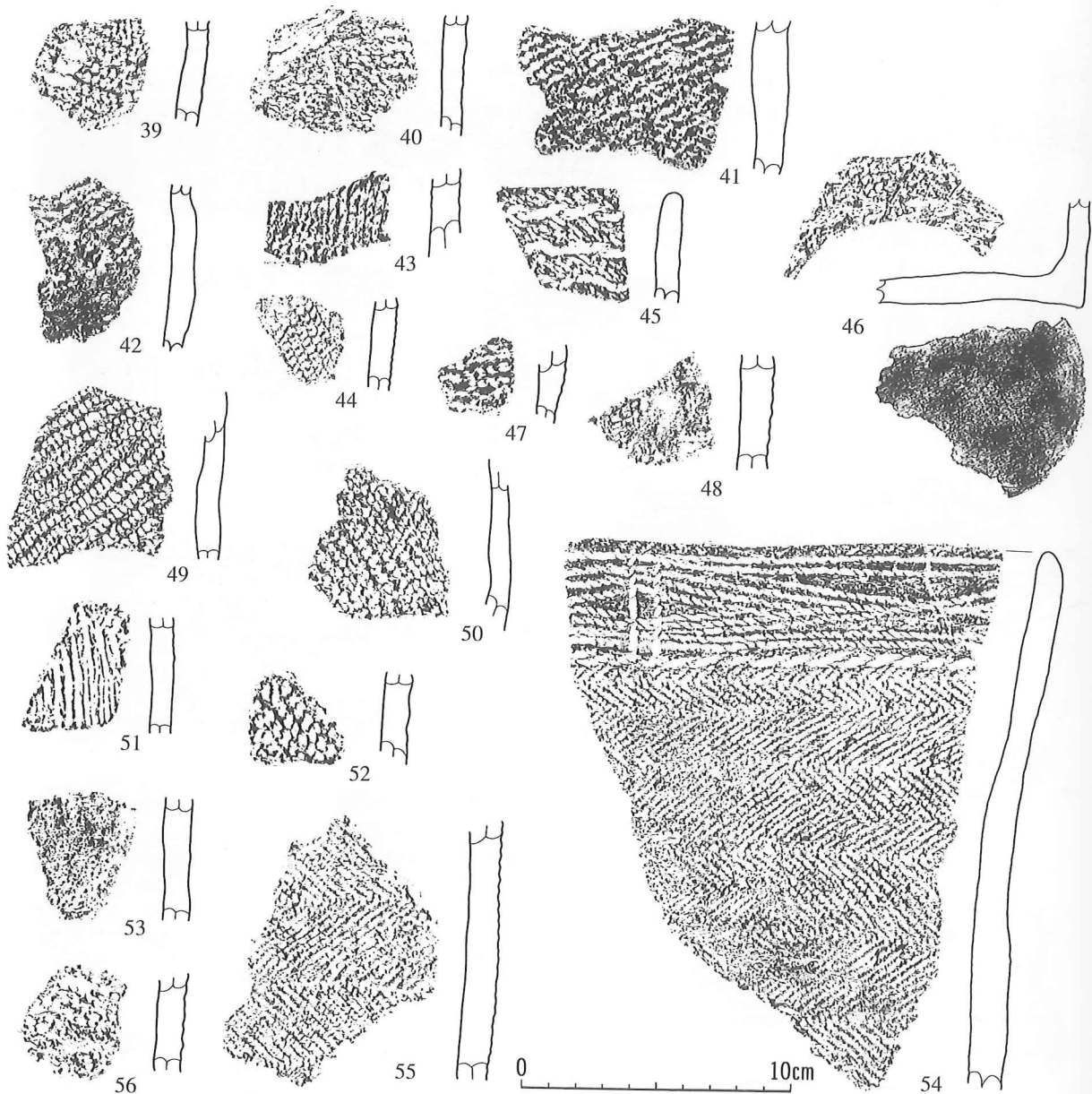
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
11	422住	床面	R結回	RLR		ミガキ		Ⅱ-2	
12	〃	〃	〃	〃		〃	〃	〃	口縁部くびれ
13	〃	〃	LR結回			〃	〃	〃	補修孔
14	〃	〃	RLR	隆帯(RLR押)、RLR		〃	〃	Ⅲ-3	
15	〃	〃	R単絡1			〃	〃	〃	
16	〃	〃	R押	結束第一種、RL		〃	〃	Ⅱ-5-1	
17	〃	〃	LR押			〃	〃	〃	
18	〃	〃	LR+RLR			〃	〃	〃	
19	〃	〃			RRL	〃	RRL	Ⅱ-6	
20	〃	床直	RLR	隆帯、RLR		〃	〃	Ⅱ-2	
21	〃	〃	LR、LR押			〃	〃	〃	
22	〃	〃	R結回			〃	〃	〃	

271図 第422号住居跡出土遺物(4)



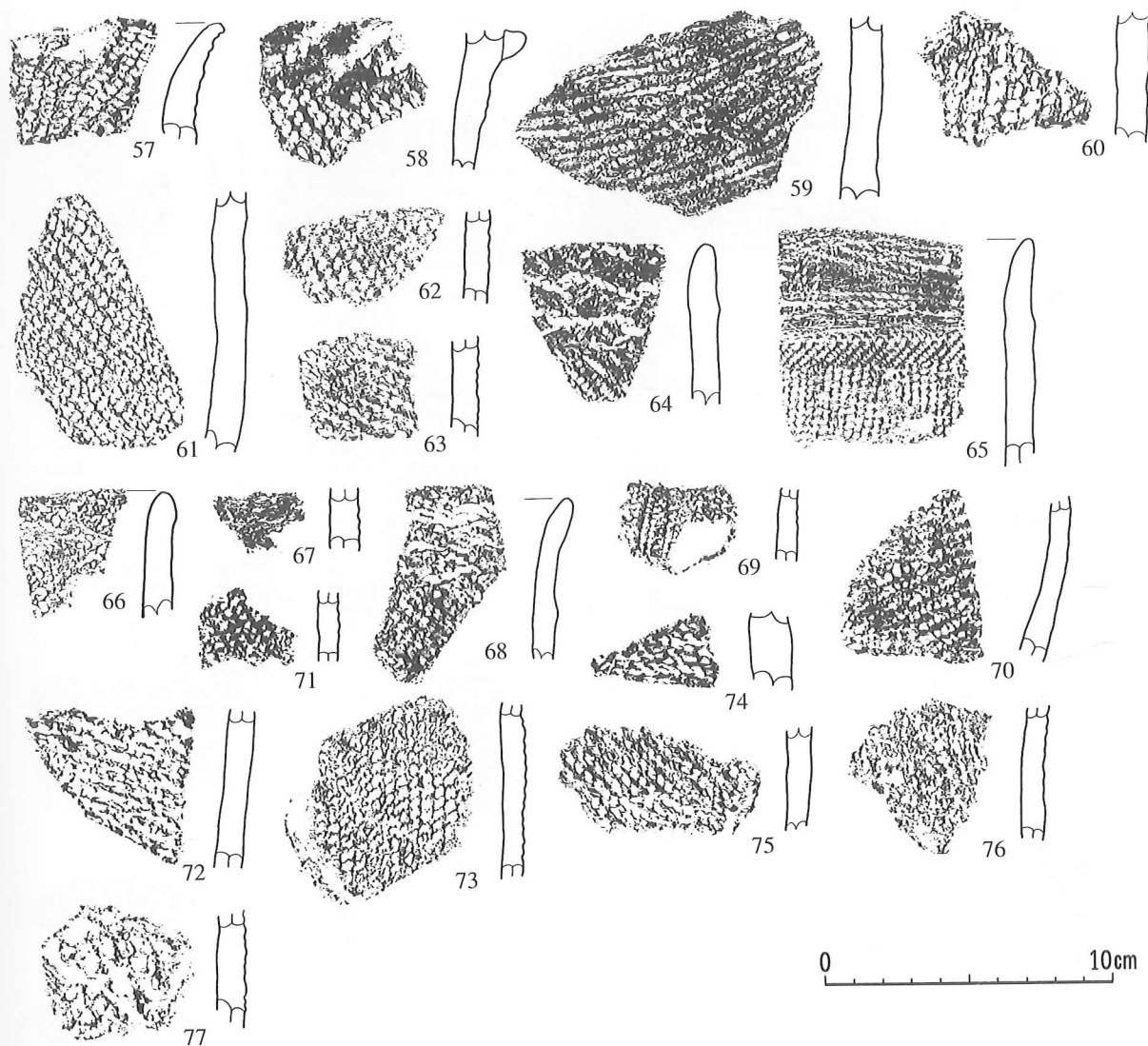
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
23	422住	床直	RLR、R結回			ミガキ	II-2		
24	〃	〃	〃			〃	〃		
25	〃	〃	R結回	RLR		〃	〃		
26	〃	〃	〃	L単絡1		〃	II-3		
27	〃	〃	〃	RLR		〃	〃		
28	〃	〃		隆帯 (RL押)		〃	〃		
29	〃	〃	LR押、刺突	結束第一種		〃	II-5-1		
30	〃	〃	L押	〃		〃	〃		
31	〃	〃	LR押			〃	〃	口唇部上面刻み	
32	〃	〃	R押、刺突			〃	II-5-2	〃 R押	
33	〃	〃	L単絡1			〃	II-5		
34	422住外1	堆積土	R単絡6A			〃	II-3	P-5	
35	〃	〃	単絡1?			〃	〃	P-1	
36	〃	〃			LR	〃	II-6	P-2	
37	〃	〃			LR?	〃	〃	P-3	
38	422住外2	〃	R結回	RLR		〃	II-3	P-1	

272図 第422号住居跡出土遺物 (5)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴上半	胴下半				
39	422住跡72	堆積土	R結回	RLR		ミガキ	II-6		
40	〃	〃		単絡1?		〃	〃		
41	422住跡73	〃		LR		〃	〃	P-14	
42	〃	〃		LR?		〃	〃		
43	〃	〃		LR単絡1		〃	〃	P-15	
44	〃	〃		〃		〃	〃	P-10	
45	422住跡74	〃	撚糸縄文? R結回			〃	〃	P-10	
46	422住跡76	埋め土			単絡1	〃	無文	II-2 P-1	
47	〃	〃		L単絡1		〃	〃	P-1	
48	〃	堆積土		単絡1		〃	〃	P-2	
49	422住跡77	柱痕跡		LR		〃	〃	P-10	
50	〃	〃		RLR		〃	〃	P-4	
51	422住跡78	埋め土		R単絡1		〃	〃	P-3	
52	〃	柱痕跡		RLR		〃	〃	P-14	
53	〃	〃		不明		〃	〃	P-12	
54	〃	堆積土	L押、頸部RL押	結束第一種(LR, RL)		〃	〃	P-13	
55	〃	〃		〃 (〃)		〃	〃	II-5-1 55と同一個体	
56	〃	〃		RLR		〃	〃	P-4	
							II-6	P-11	

273図 第422号住居跡出土遺物 (6)



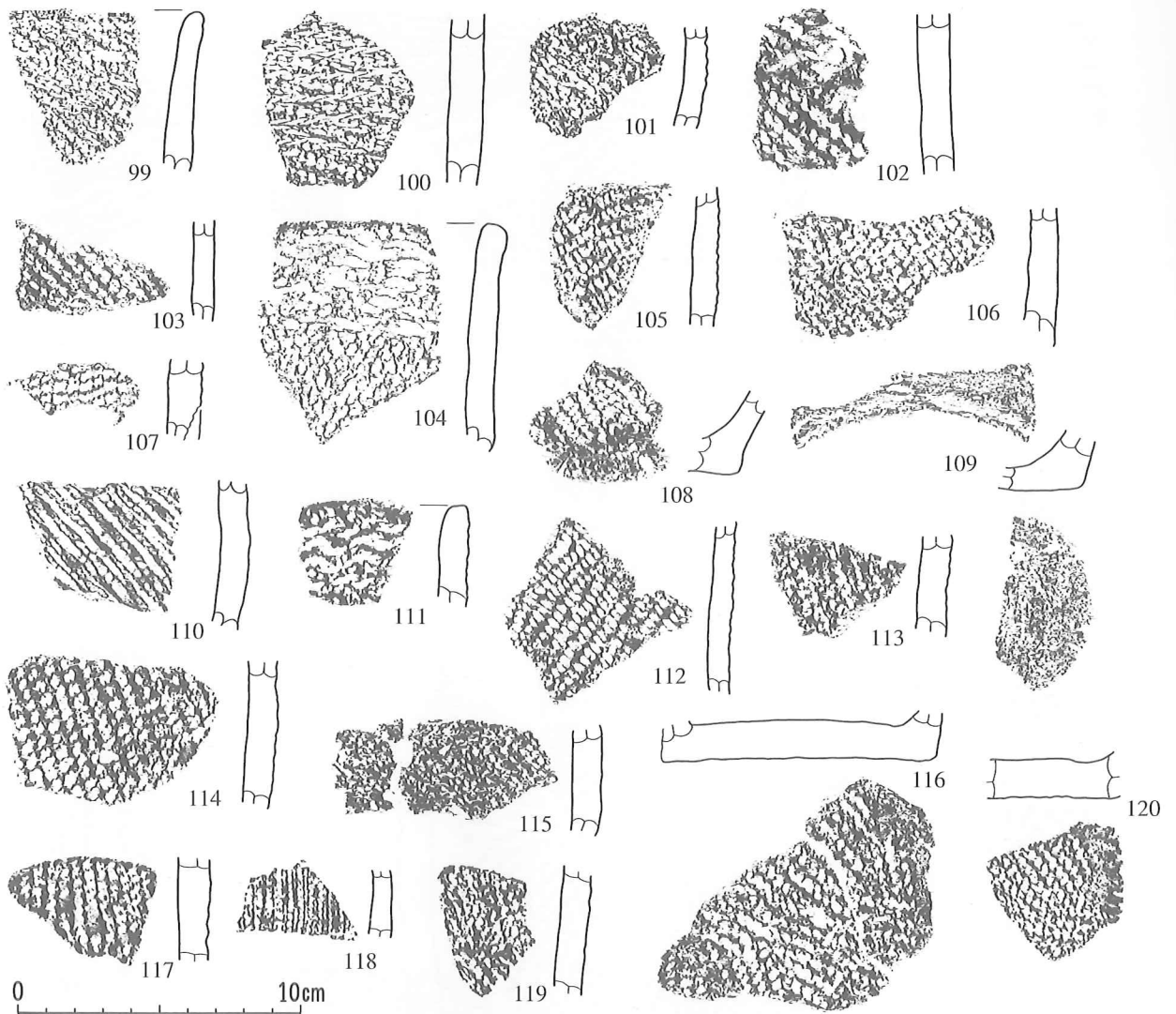
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
57	422住跡外11	堆積土	LR			ミガキ	II-3		
58	422住跡外14	〃		隆帯(RLR押)、RLR		〃	II-6		
59	〃	〃		LR		〃	〃		
60	〃	〃		RLR		〃	〃		
61	〃	〃		〃		〃	〃		
62	422住跡外17	〃		〃		〃	〃		
63	〃	〃		〃		〃	〃		
64	422住跡外18	〃	RRL、L結回			〃	II-2		
65	〃	〃	LR押	結束第一種、RLR		〃	II-5-1	P-3	
66	〃	〃	LR?			〃	II-6	P-1	
67	〃	〃		縄文		〃	〃	P-2	
68	422住跡外20	〃	RLR、R結回			〃	II-3	P-15	
69	〃	〃		LR		〃	II-6	P-11	
70	〃	〃			LR	〃	〃	P-16	
71	〃	〃		RLR		〃	〃	P-12	
72	〃	〃		〃		〃	〃	P-9	
73	〃	〃		〃		〃	〃	P-6	
74	〃	〃		〃		〃	〃	P-7	
75	〃	〃		〃		〃	〃	P-1	
76	〃	〃		単絡1?		〃	〃	P-14	
77	〃	〃		〃		〃	〃	P-10	

274図 第422号住居跡出土遺物 (7)



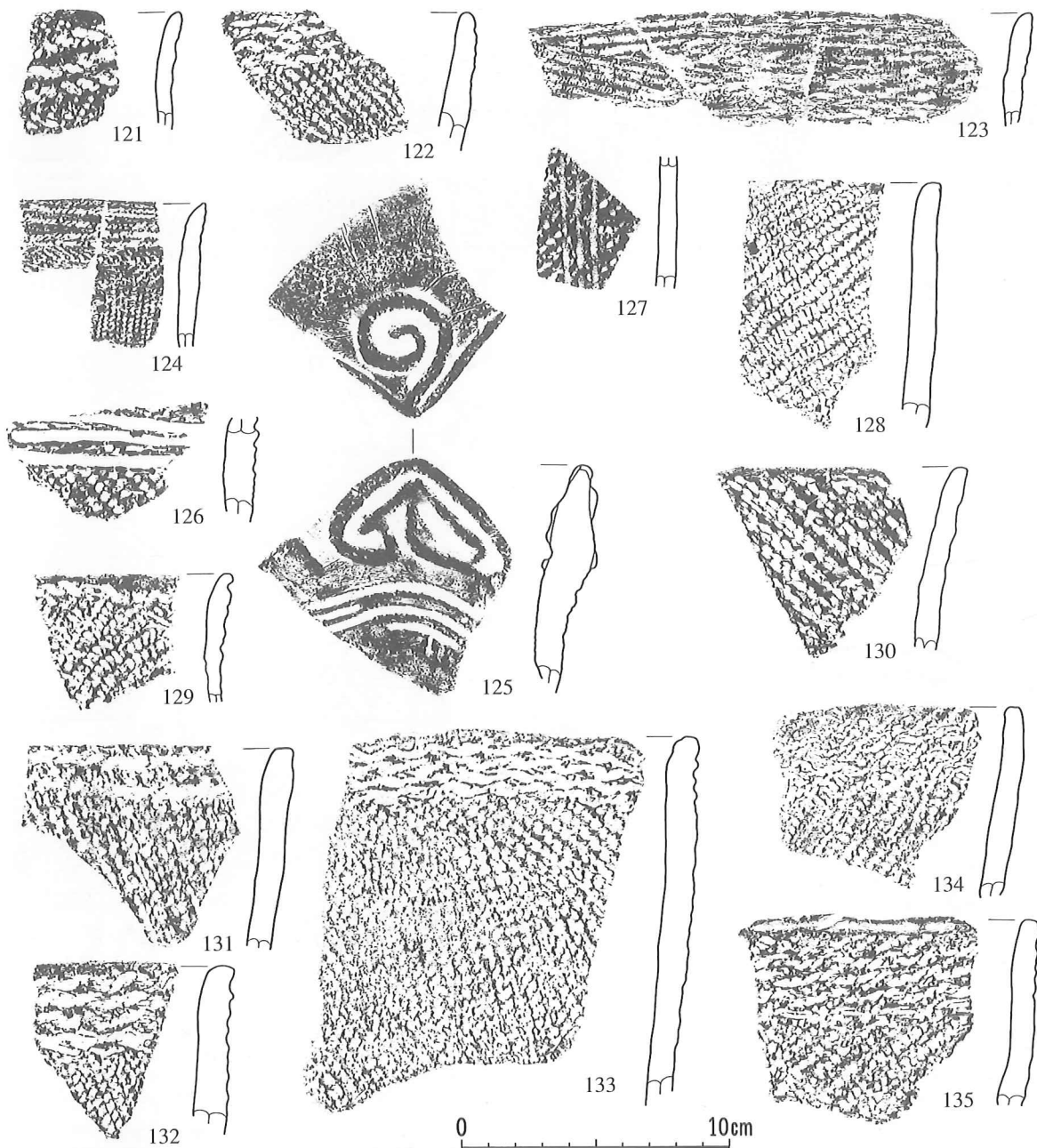
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
78	422住跡ノ121	柱痕跡	結回			ミガキ	Ⅱ-2	P-1	
79	〃	〃		RLR		〃	Ⅱ-6	P-2	
80	〃	〃		〃		〃	〃	P-5	
81	〃	堆積土		RLR?		〃	〃	P-4	
82	422住跡ノ123	〃	RLR、1?結回			〃	Ⅱ-2	P-5	
83	〃	〃	R単絡5? RL押			〃	Ⅱ-3	P-7	
84	〃	〃		RLR		〃	Ⅱ-6	P-2	
85	〃	〃		〃		〃	〃	P-3	
86	〃	〃		単絡1		〃	〃	P-4	
87	〃	〃		〃		〃	〃	〃	
88	422住跡ノ127	〃		RLR		〃	〃		
89	422住跡ノ141	〃		LR		〃	〃		
90	422住跡ノ149	〃		RLR		〃	〃		
91	〃	〃		〃		〃	〃		
92	422住跡ノ150	〃		LR		〃	〃		
93	422住跡ノ152	〃					LR		
94	422住跡ノ153	〃		RLR		ミガキ	〃		
95	422住跡ノ156	〃	RLR			〃	〃		
96	422住跡ノ162	〃			RLR	〃	〃		
97	422住跡ノ164	〃	貼付 (L単絡1)			〃	Ⅲ-4		
98	〃	〃		RL、L結回		〃	Ⅲ-6		

275図 第422号住居跡出土遺物 (8)



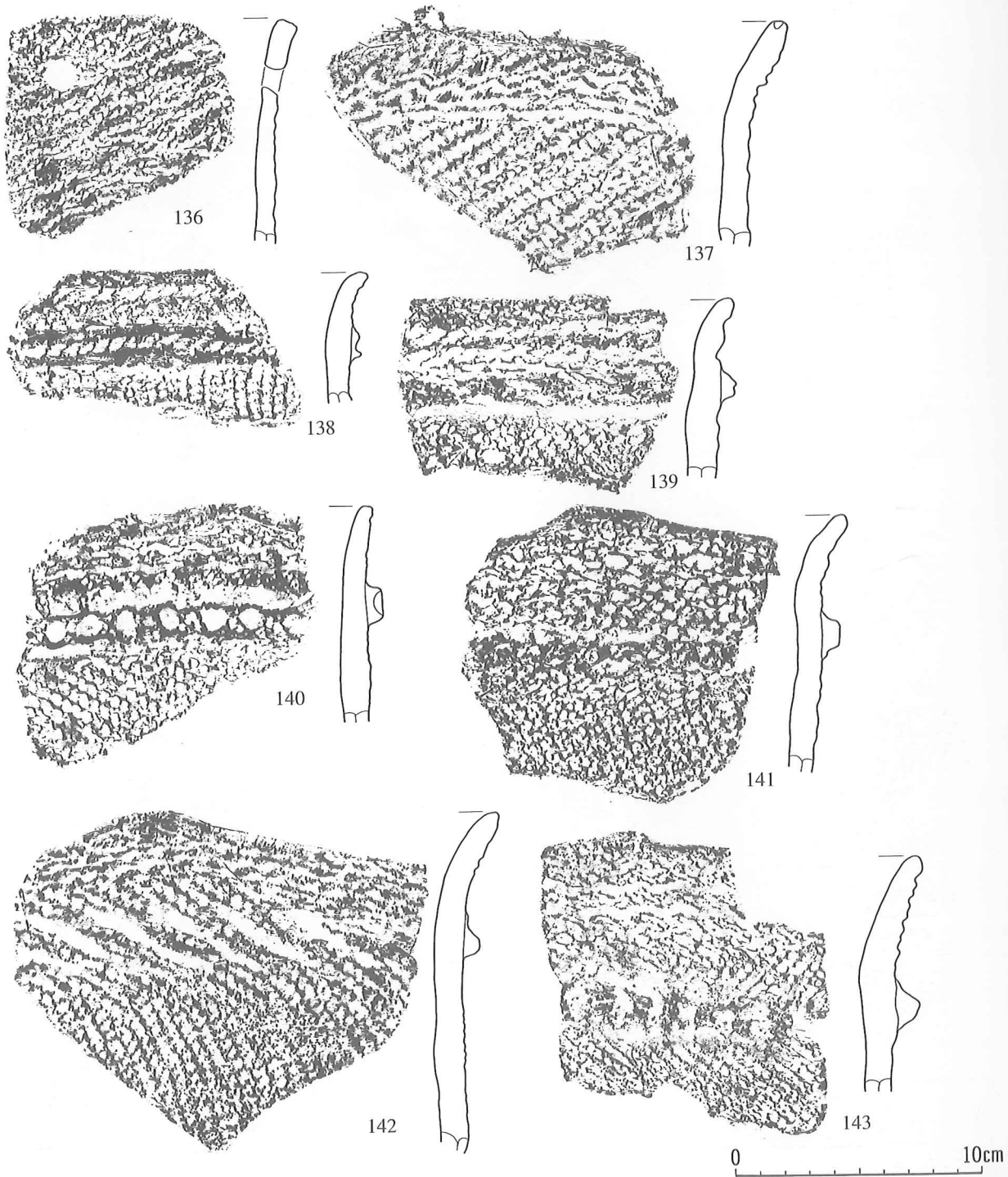
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
99	422住' 102	堆積土	RRL、LR押			ミガキ	II-2		
100	422住' 104	柱痕跡		RLR、R単絡5		〃	II-6	P-2	
101	〃	〃		RLR		〃	〃	P-4	
102	〃	〃		〃		〃	〃	P-1	
103	〃	〃		〃		〃	〃	P-1	
104	422住' 120	〃	RLR、R結回			〃	II-2	P-1	
105	〃	〃		LR		〃	II-6	P-3	
106	〃	〃		RLR		〃	〃	P-2	
107	〃	〃		〃		〃	〃	P-4	
108	〃	〃			RLR	〃	〃		
109	422住' 129	〃			無文?	〃	無文	P-1	
110	422住' 136	堆積土		単絡1		〃	〃	P-1	
111	422住	貼床	RLR、R結回			〃	II-2	P-30	
112	〃	〃		LR		〃	II-6	P-34	
113	〃	〃		L単絡1		〃	〃	P-53	
114	〃	〃		RLR		〃	〃	P-45	
115	〃	〃			LR単絡1	〃	〃	P-36	
116	〃	〃				〃	RLR	P-7	
117	〃	1		RLR		ミガキ	〃	P-40	
118	〃	〃		R単絡1		〃	〃	P-140	
119	〃	〃		LR単絡1		〃	〃	P-40	
120	〃	〃				〃	RLR	〃	

276図 第422号住居跡出土遺物 (9)



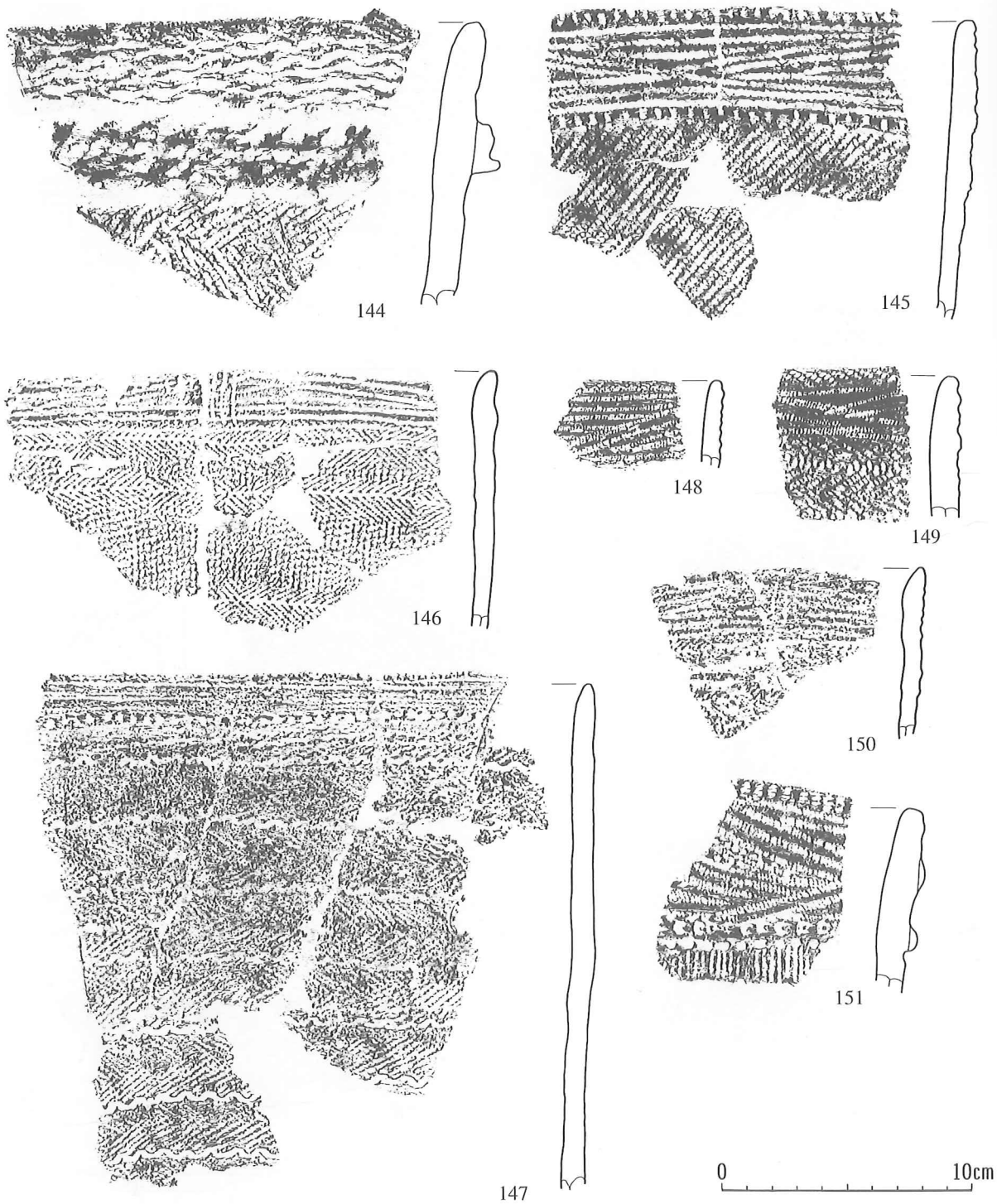
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
121	422住	貼床内	LR押			ミガキ	Ⅱ-2		
122	〃	〃	RLR、R結回			〃	〃		
123	〃	〃	単緒I押			〃	Ⅱ-5-1		
124	〃	〃	R押	結束第一種、RL		〃	〃		
125	〃	〃	貼付、沈線			〃	Ⅲ-5	内面にも渦巻状貼付	
126	〃	〃		RL、沈線		〃	〃		
127	〃	〃		〃		〃	Ⅲ-9		
128	〃	2	LR			〃	Ⅱ-2		
129	〃	〃	RLR、LR押			〃	〃		
130	〃	〃	LR、〃			〃	〃		
131	〃	〃	RLR、RLR押			〃	〃		
132	〃	〃	〃、R結回			〃	〃		
133	〃	〃	〃			〃	〃		
134	〃	〃	LR、R結回			〃	〃		
135	〃	〃	〃			〃	〃		

277図 第422号住居跡出土遺物 (10)



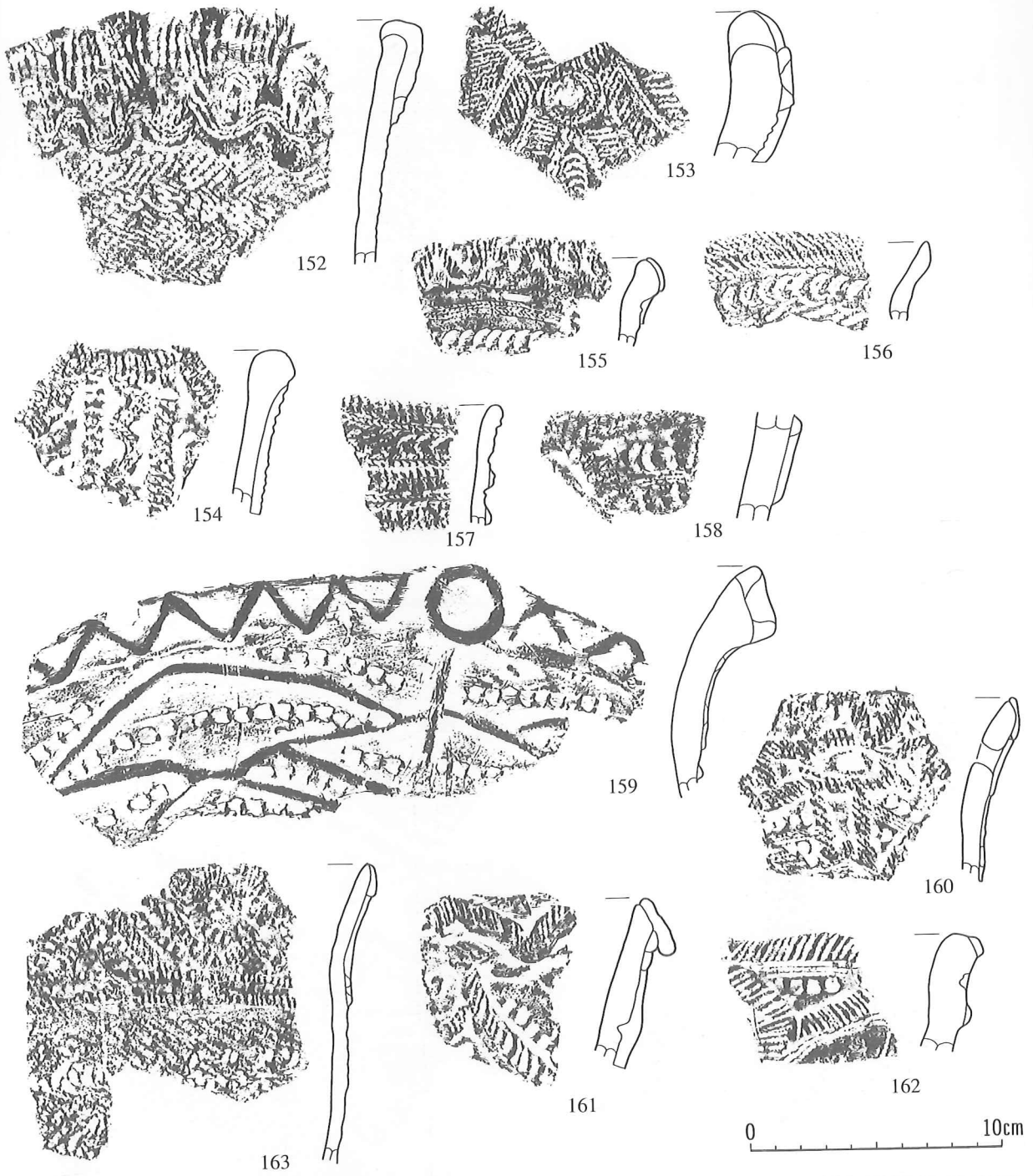
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
136	422住	2	R結回、補修孔			ミガキ		II-2	
137	〃	〃	LR、R結回、LR押			〃		〃	波頂部に円孔
138	〃	〃	LR単絡I、RLR押	隆帯 (RLR押)、LR単絡I		〃		〃	
139	〃	〃	RLR、RLR押	〃 (〃)、RLR		〃		〃	
140	〃	〃	RL結回	〃 (刺突)、 〃		〃		〃	
141	〃	〃	LR結回	〃		〃		〃	刺突は指頭、爪跡有
142	〃	〃	RLR、結回	〃 (RLR押)、 〃		〃		〃	
143	〃	〃	L結回	〃 (RL押)、 〃		〃		〃	隆帯上端に原体刺突

278図 第422号住居跡出土遺物 (11)



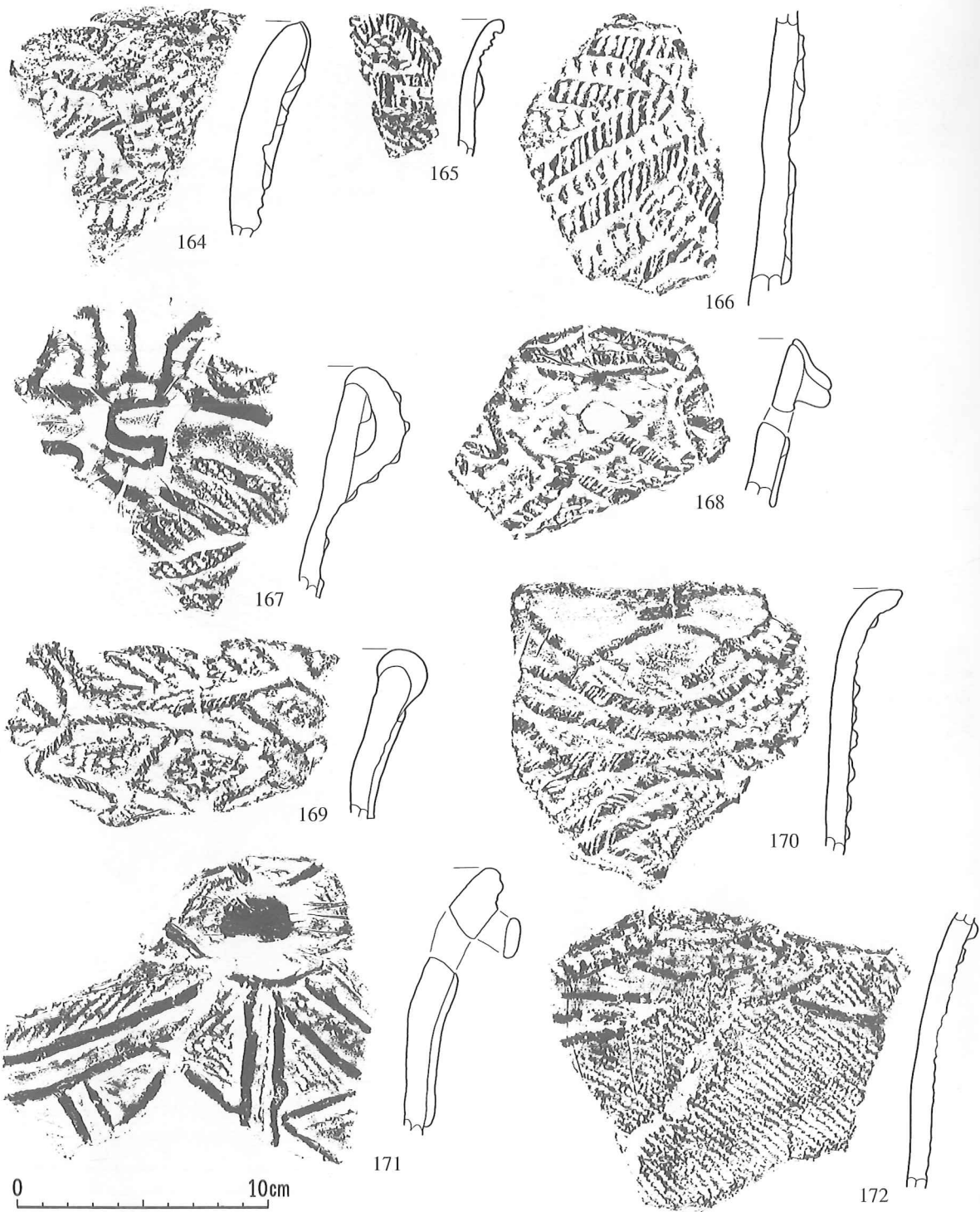
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
144	422住	2	R結回	隆帯(RLR押)、RL		ミガキ	Ⅱ-3	地文は同一原体の羽状	
145	〃	〃	LR押、頸部に刺突	LR		〃	Ⅱ-5-1		
146	〃	〃	R押	結束第一種、LR単絡I		〃	〃		
147	〃	〃	L押、刺突	〃、L結回		〃	〃		
148	〃	〃	R単絡I押			〃	〃		
149	〃	〃	〃	結束第一種		〃	〃		
150	〃	〃	R押	〃		〃	〃		
151	〃	〃	R単絡I押、貼付(刺突)	微隆帯(刺突)、L単絡I		〃	Ⅱ-5-2		

279図 第422号住居跡出土遺物 (12)



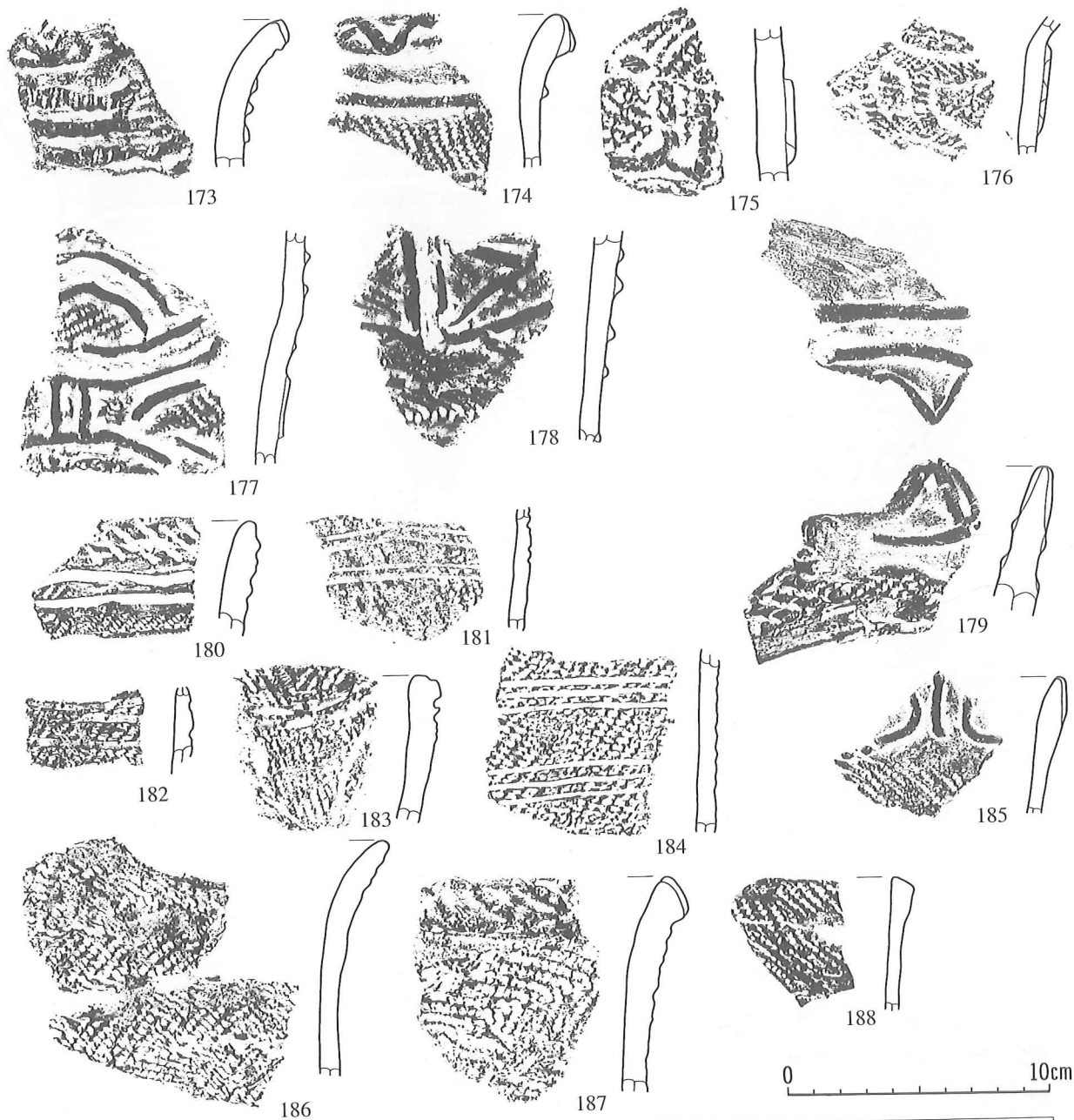
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
152	422住	2	貼付 (R押)、R押	結束第一種		ミガキ		Ⅲ-1	
153	〃	〃	〃 (R単絡1)、L・R押			〃		Ⅲ-2	
154	〃	〃	〃 (L押)、L押			〃		〃	
155	〃	〃	〃 (L単絡1)、〃			〃		〃	
156	〃	〃	L単絡1、L押			〃		〃	
157	〃	〃	貼付 (R単絡1)、〃			〃		〃	
158	〃	〃	貼付、L押			〃		〃	
159	〃	〃	〃、刺突			〃		Ⅲ-3	
160	〃	〃	貼付 (L単絡1)、L押、刺突			〃		貫通孔	
161	〃	〃	〃 (〃)、刺突	結束第一種		〃		〃	
162	〃	〃	〃 (刻み)			〃		〃	
163	〃	〃	〃 (L押)、L・R押			〃		〃	

280図 第422号住居跡出土遺物 (13)



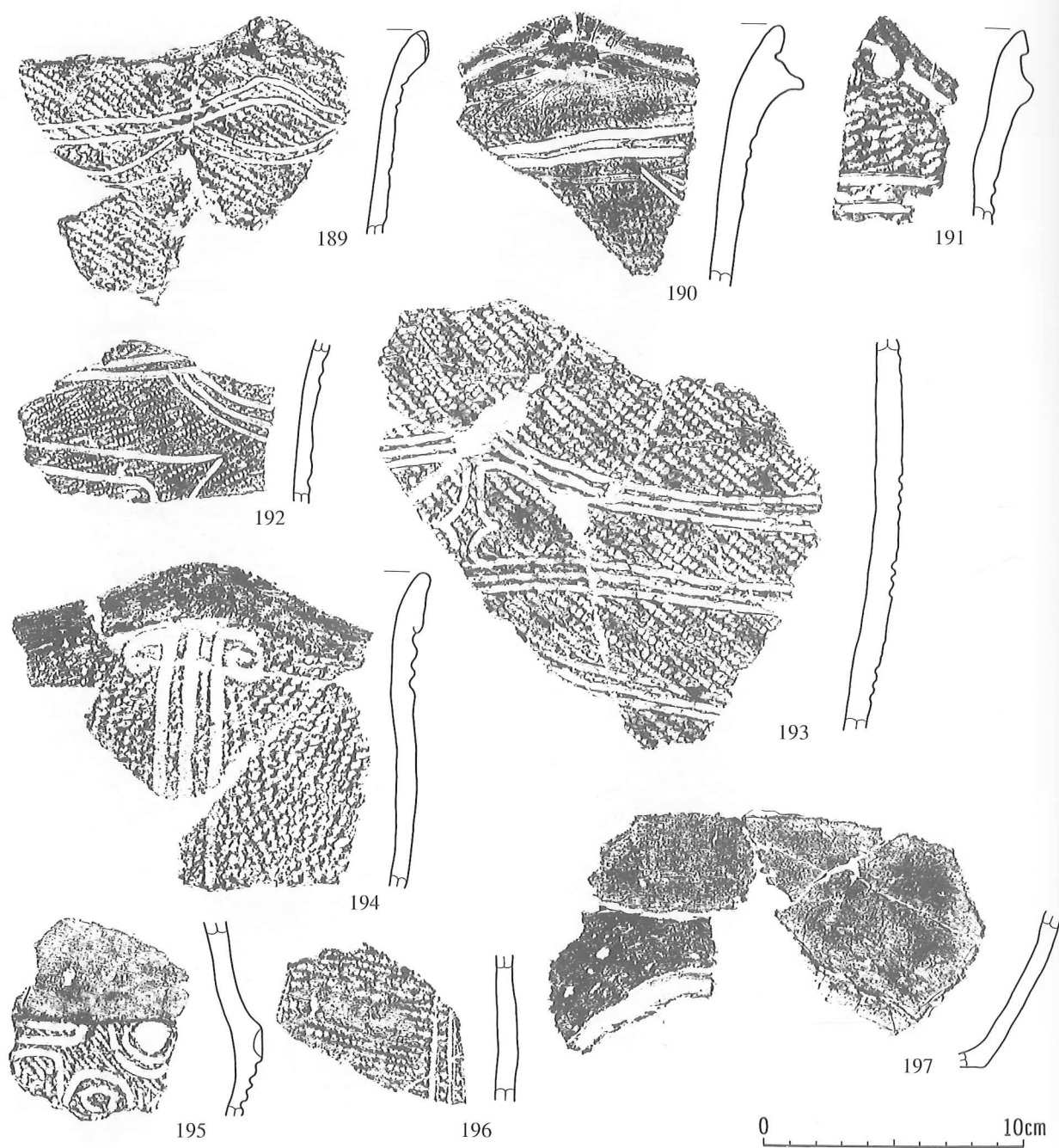
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
164	422住	2	貼付(刻み)、刺突			ミガキ	Ⅲ-3		
165	〃	〃	〃(L単絡1)、〃	RL?		〃	〃		
166	〃	〃	〃(刻み)、〃			〃	〃		
167	〃	〃	〃(RL)、RL	RL、貼付		〃	Ⅲ-4		
168	〃	〃	〃(L押)、貫通孔			〃	〃		
169	〃	〃	〃(刻み)			〃	〃		
170	〃	〃	〃(RL?)	結束第一種、貼付		〃	〃		
171	〃	〃	結束第一種、貼付			〃	〃	貫通孔	
172	〃	〃	RL押、RL、貼付	RL		〃	〃		

281図 第422号住居跡出土遺物 (14)



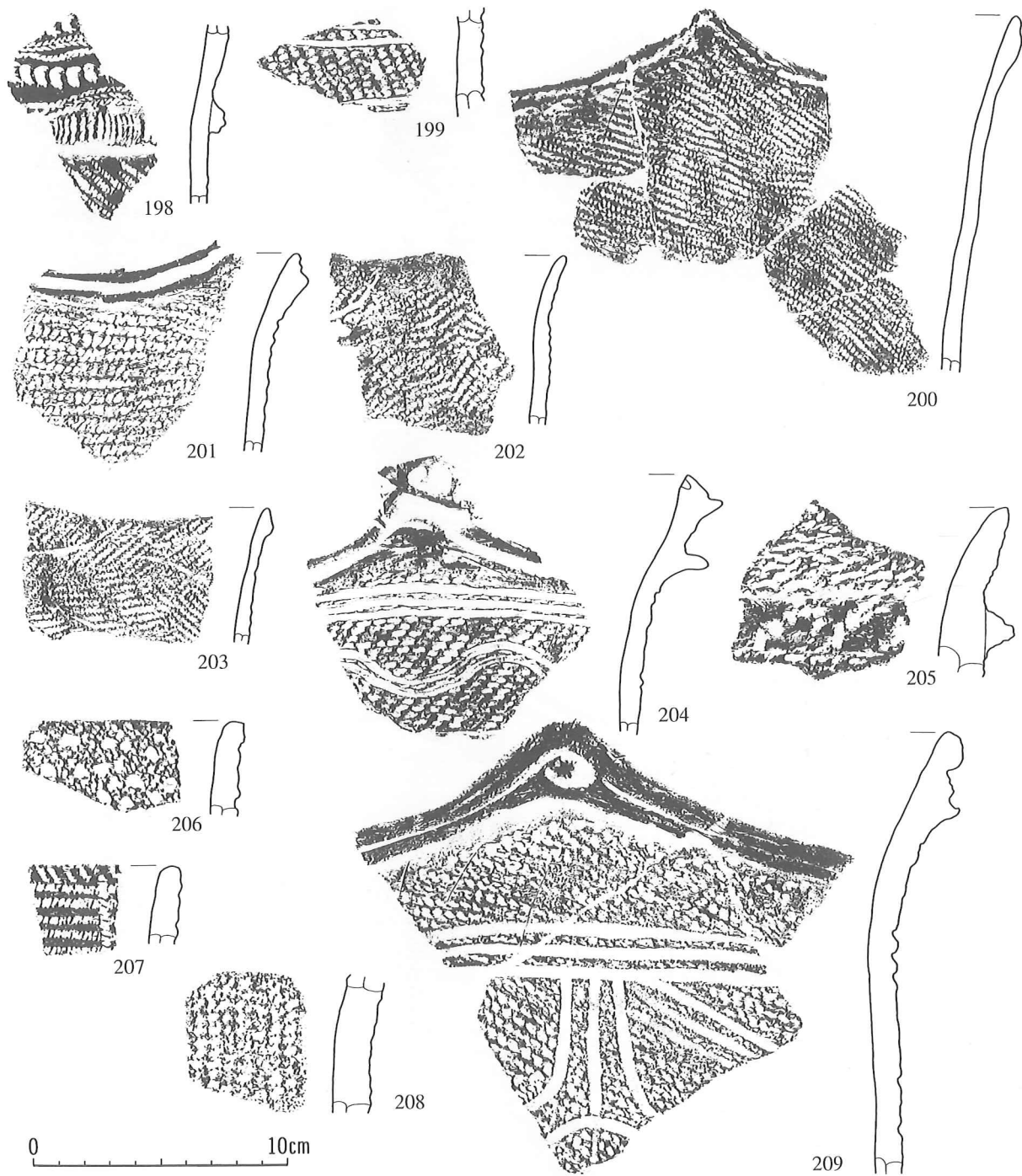
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
173	422住	2	貼付 (L押)			ミガキ	Ⅲ-4		
174	〃	〃	貼付	RL、貼付		〃	〃		
175	〃	〃		結束第一種、貼付(刻み)		〃	〃		
176	〃	〃		LR? 貼付 (R単絡I)		〃	〃		
177	〃	〃		結束第一種、貼付		〃	〃		
178	〃	〃		〃		〃	〃		
179	〃	〃	貼付、R押、LR、沈線			〃	Ⅲ-5	内面にも貼付	
180	〃	〃	LR押、LR、沈線			〃	〃		
181	〃	〃		RL、沈線		〃	〃		
182	〃	〃		〃		〃	〃		
183	〃	〃	繩押、RL、沈線			〃	〃		
184	〃	〃		RL、沈線		〃	〃		
185	〃	〃	貼付、RL			〃	Ⅲ-6		
186	〃	〃	結束第一種 (LR, RL)			〃	〃		
187	〃	〃	〃			〃	〃		
188	〃	〃	RL			〃	〃		

282図 第422号住居跡出土遺物 (15)



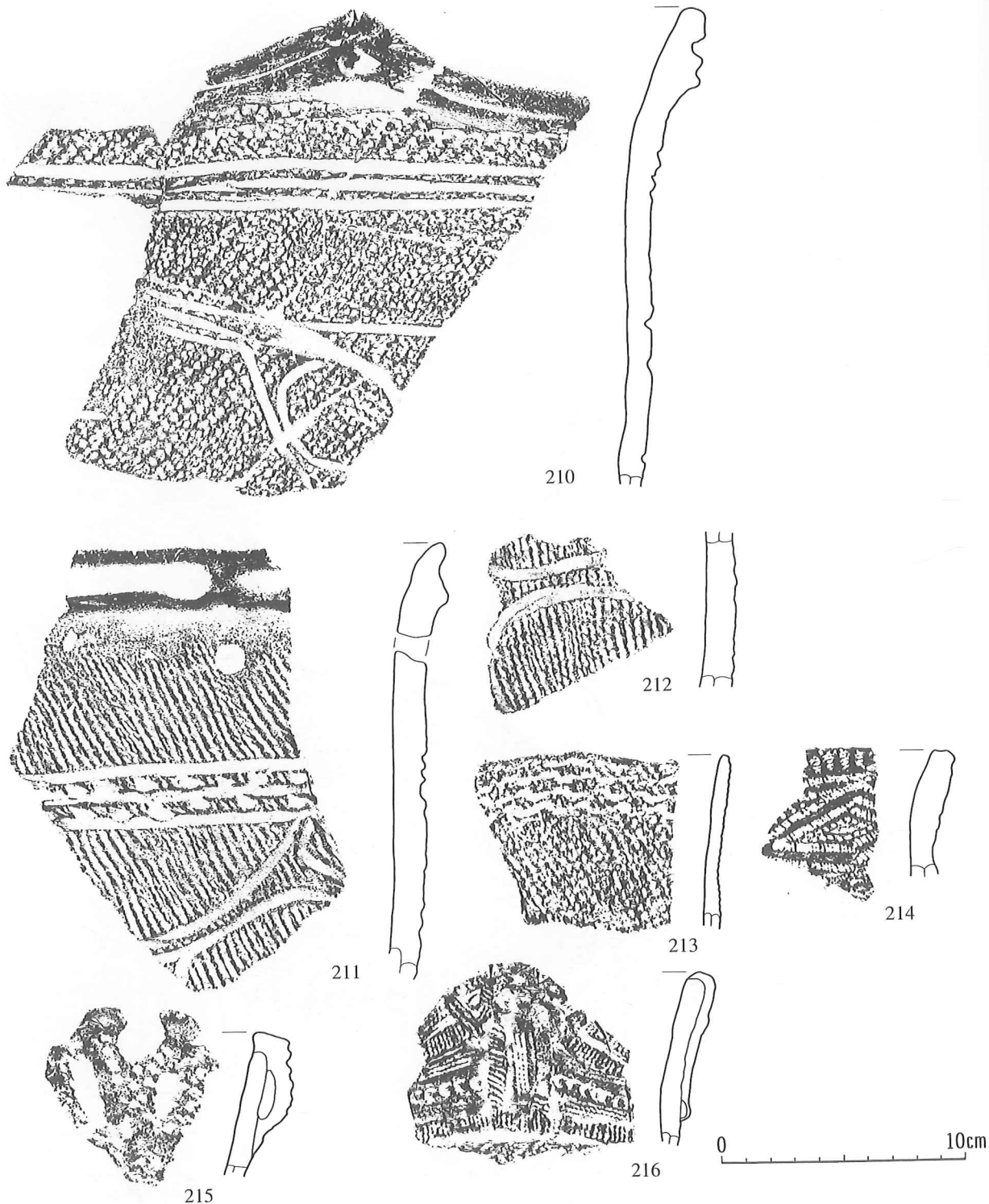
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
189	422住	2	貼付、RL、沈線	RL、沈線		ミガキ	Ⅲ-5		
190	〃	〃	凹状沈線	縄文? 沈線		〃	Ⅲ-8		
191	〃	〃	〃	RL、沈線、刺突		〃	〃		
192	〃	〃		〃、沈線		〃	〃		
193	〃	〃		LR、〃		〃	〃		
194	〃	〃	無文帯	RL、〃		〃	Ⅲ-9		
195	〃	〃	〃	LR、沈線、円形刺突		〃	〃		
196	〃	〃		縄文、沈線		〃	〃		
197	〃	〃			無文	〃	Ⅲ-11		

283図 第422号住居跡出土遺物 (16)



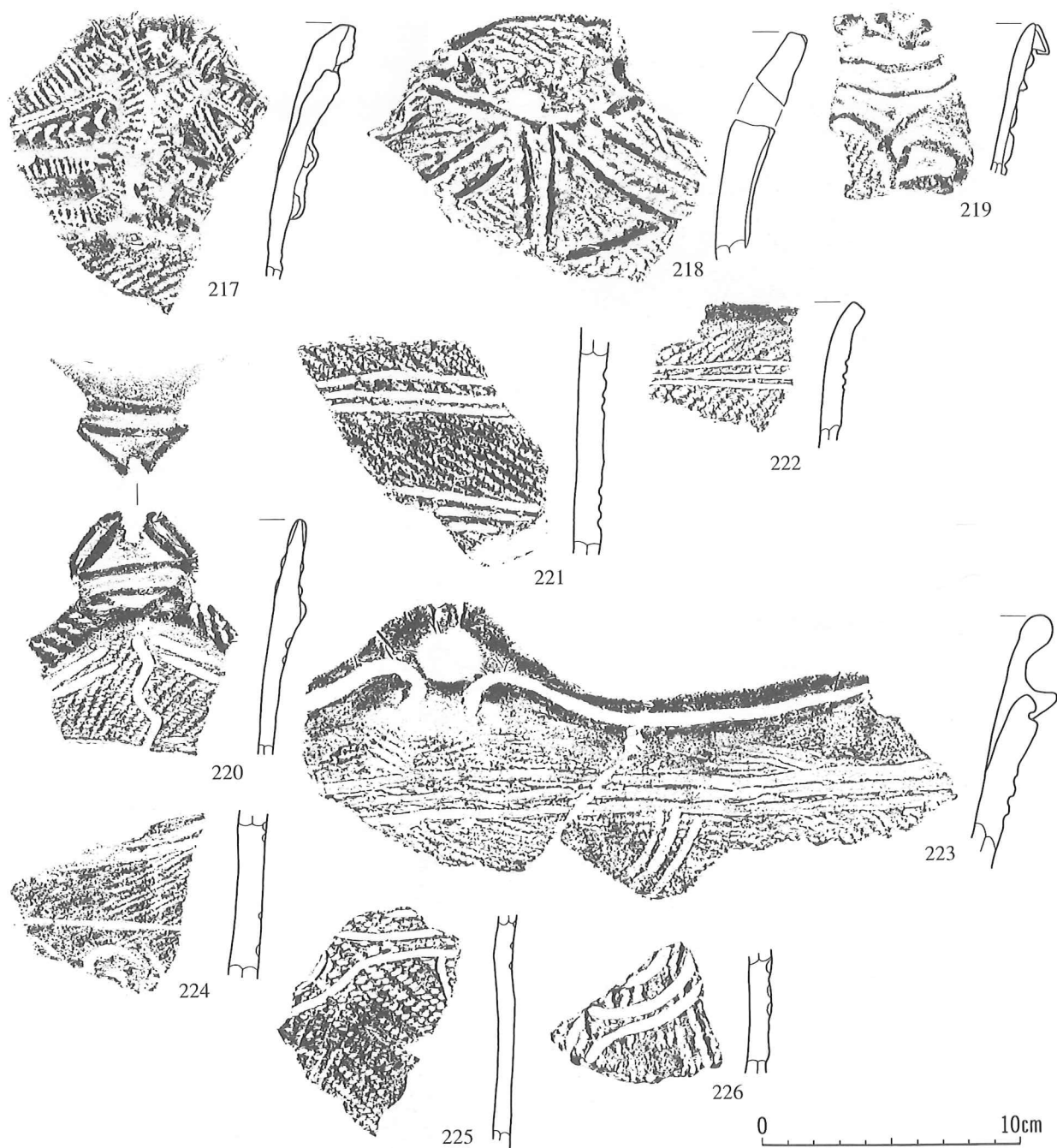
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
198	422住	I	貼付(L単緒1)、L・R押	RL?		ミガキ	Ⅲ-2		
199	〃	〃		RL、沈線		〃	Ⅲ-5		
200	〃	〃	RL押、RL	RL		〃	Ⅲ-6		
201	〃	〃	沈線、LR	LR		〃	〃		
202	〃	〃	〃	〃		〃	〃		
203	〃	〃	LR			〃	〃		
204	〃	〃	凹状沈線	RL、沈線		〃	Ⅲ-8	波頂部内面に刺突	
205	〃	確認面	R結回	隆帯 (RLR押)		〃	Ⅱ-3		
206	〃	〃	RLR、原体末端刺突			〃	〃		
207	〃	〃	R単緒1押			〃	Ⅱ-5-1		
208	〃	〃		RLR		〃	Ⅱ-6		
209	〃	〃	凹状沈線	〃、沈線		〃	Ⅲ-8		

284図 第422号住居跡出土遺物 (17)



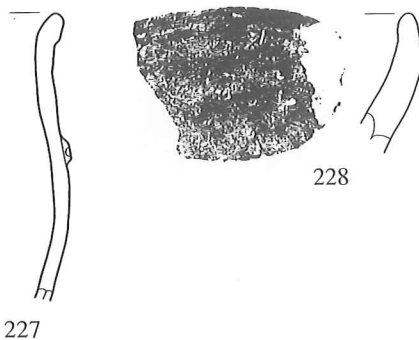
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
210	422住	確認面	凹状沈線	RLR、沈線		ミガキ		Ⅲ-8	
211	〃	〃	〃	R単絡I、沈線、刺突		〃		〃 補修孔	
212	〃	〃	〃	〃、沈線		〃		〃	
213	〃	堆積土	RL、R結回			〃		Ⅱ-2	
214	〃	〃	R単絡I押、刺突			〃		Ⅱ-5-1	
215	〃	〃	橋状把手、〃			〃		Ⅱ-5-2	
216	〃	〃	貼付(L単絡I)、L押			〃		Ⅲ-2	

285図 第422号住居跡出土遺物 (18)



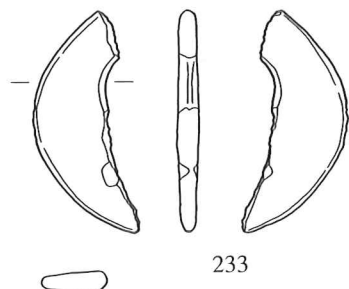
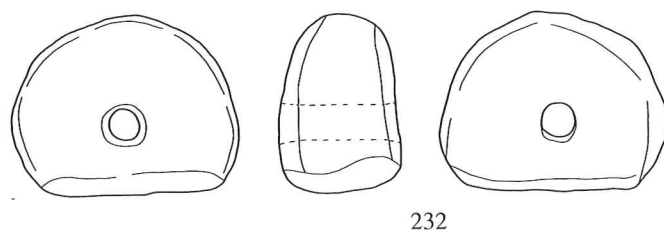
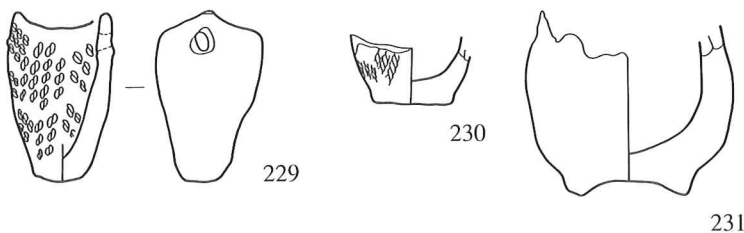
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
217	422住	堆積土	貼付(L単絡1)、L・R押			ミガキ		Ⅲ-2	
218	〃	〃	結束第一種、貼付、貫通孔			〃		Ⅲ-4	
219	〃	〃	LR? 貼付			〃			
220	〃	〃	貼付、RL押	RLR、沈線		〃		Ⅲ-5	
221	〃	〃		RL、〃		〃		〃	
222	〃	〃	LR、沈線			〃		〃	
223	〃	〃	凹状沈線	LR、沈線		〃		Ⅲ-8	
224	〃	〃		〃		〃		〃	
225	〃	〃				〃		〃	
226	〃	〃		LR単絡1、沈線		〃		〃	

286図 第422号住居跡出土遺物(19)



0 10cm

番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
227	422住	堆積土	LR、貼付(刺突)	LR		ミガキ		Ⅲ-11	波状口縁
228	〃	〃	無文			〃		Ⅲ	碗形

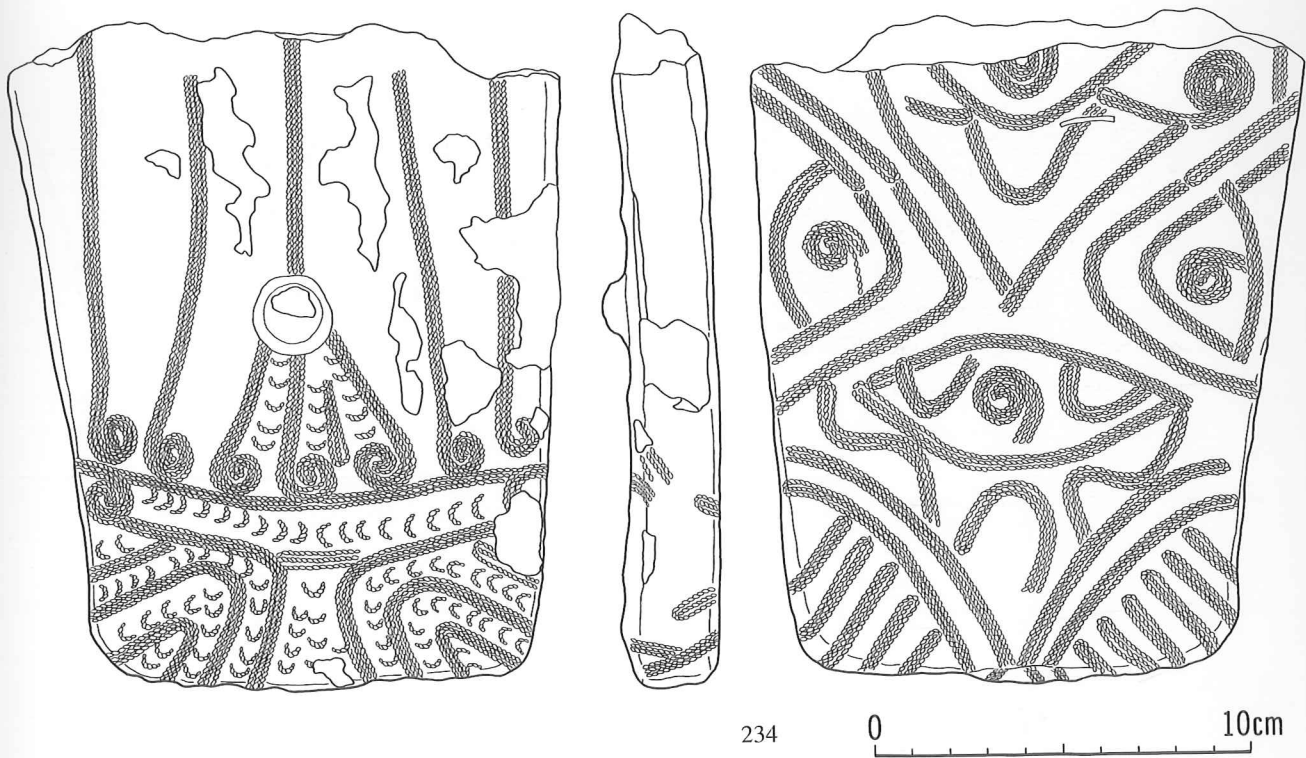


0 10cm

番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
229	422住	堆積土	RLR、貫通孔		RLR		丸底状	ミニチュア	横断面楕円形
230	〃	〃			LR		無文	〃	
231	〃	〃			無文	〃	〃	〃	台付状

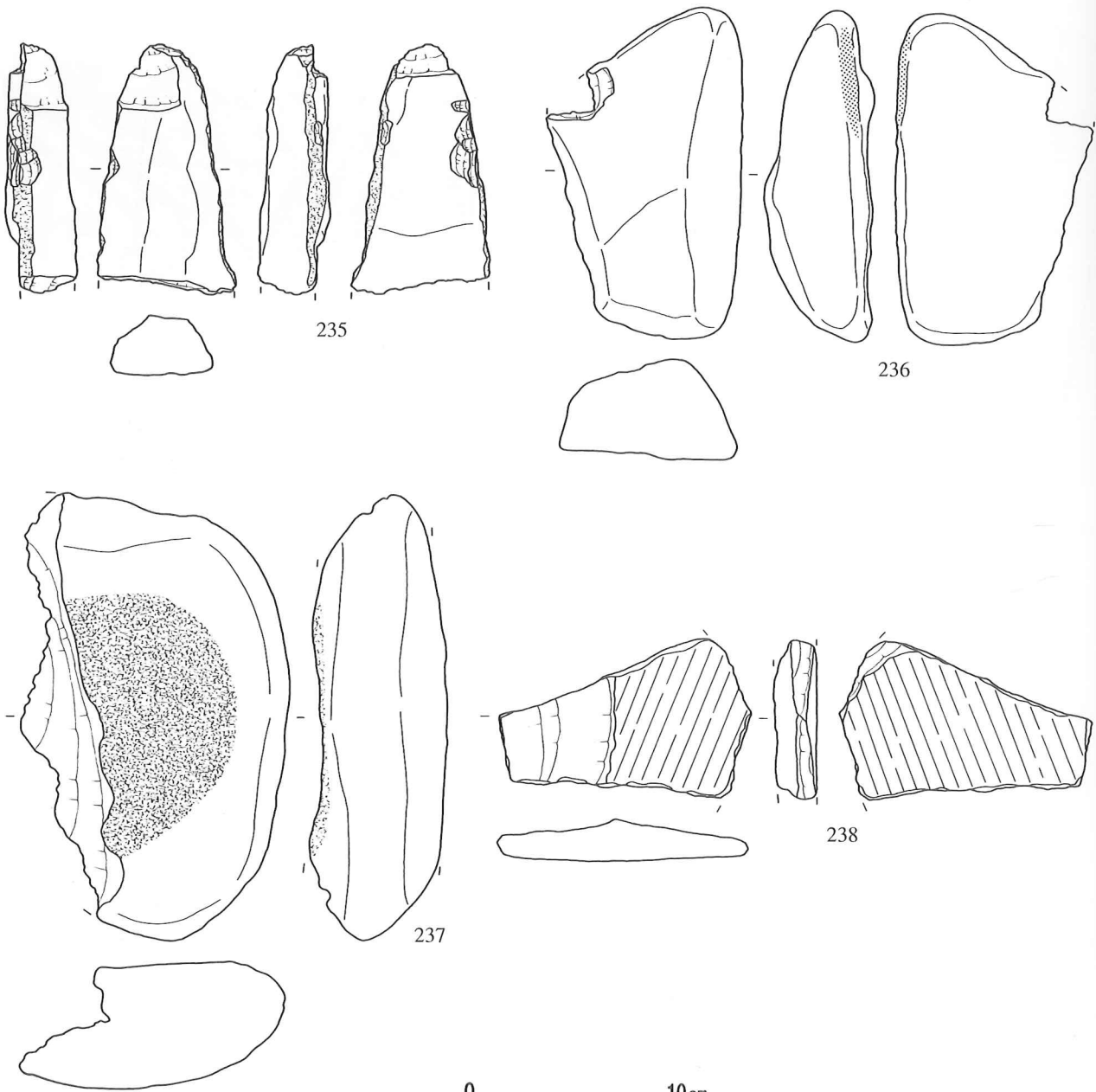
番号	出土地点	出土層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	種 類	整理番号
232	422住	堆積土	49	61	32	24	軽	有孔石製品	2828
233	〃	〃	60	26	6	11	凝	垂飾?	3697

287図 第422号住居跡出土遺物 (20)



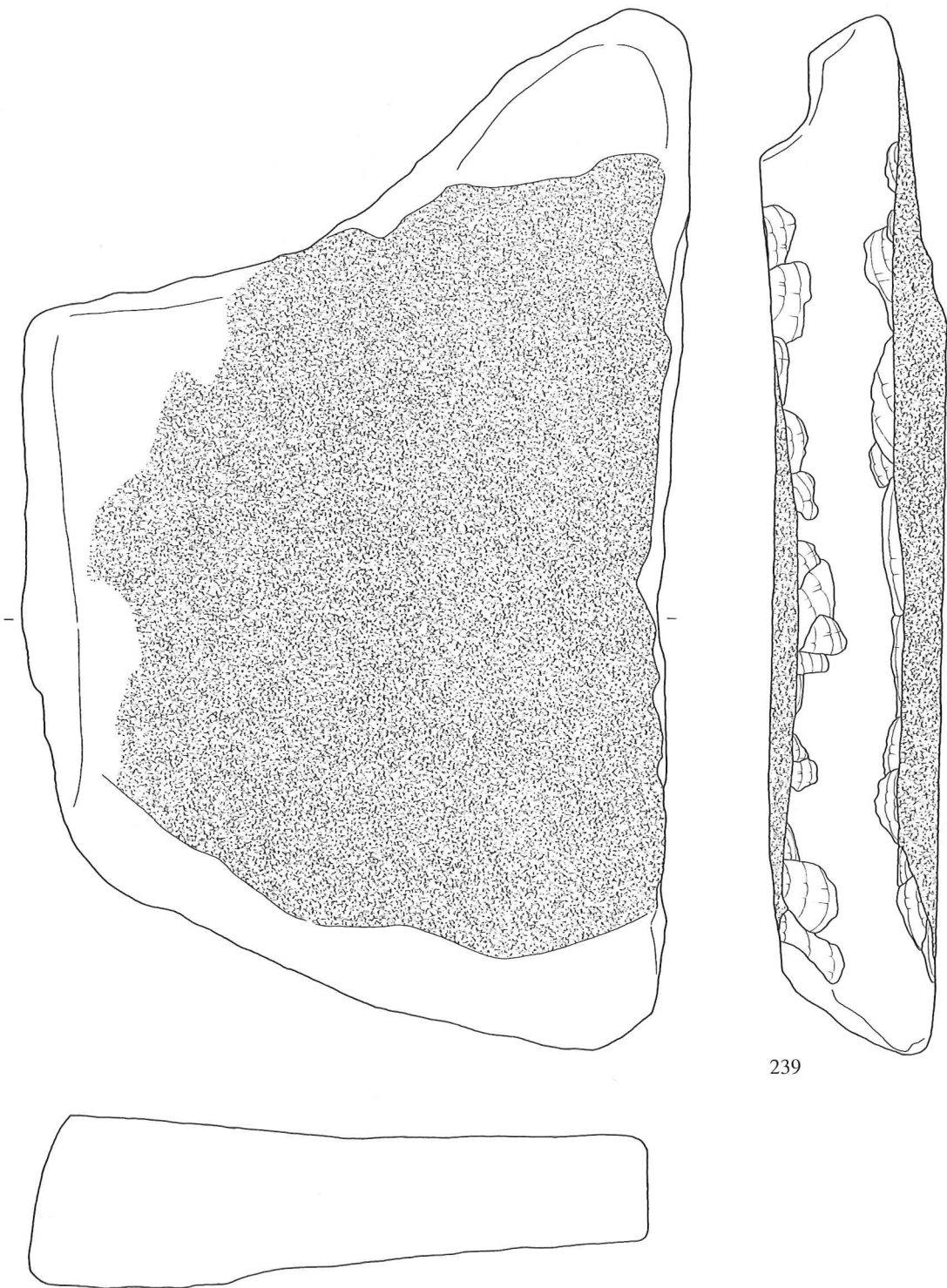
番号	出土地点	層位	計測値 (cm)			文様		種類	備考
			長さ	幅	厚さ	表面	裏面		
234	405住	堆積土	(4.0)	(3.4)	1.2	L押	L押	土偶脚部	

288図 第422号住居跡出土遺物 (21)



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備 考	整理番号
235	422住	床面	(114)	(68)	(33)	(202.8)	凝	Ic	ⅤB-114、S-246	43967
236	〃	〃	152	(90)	49	(709.4)	安	Ib	ⅤA-114、S-233	44029
237	〃	〃	(203)	(123)	(63)	(1000.0)	〃	L	ⅤB-114、S-219	44028
238	〃	〃	(72)	(115)	(20)	(175.9)	〃	Q	ⅤC-113、S-204	43932

289図 第422号住居跡出土遺物 (22)

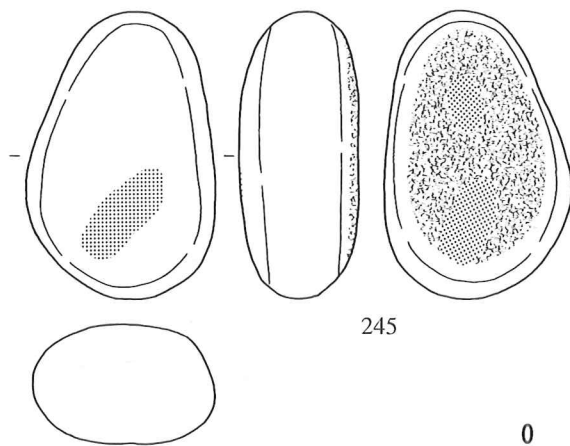
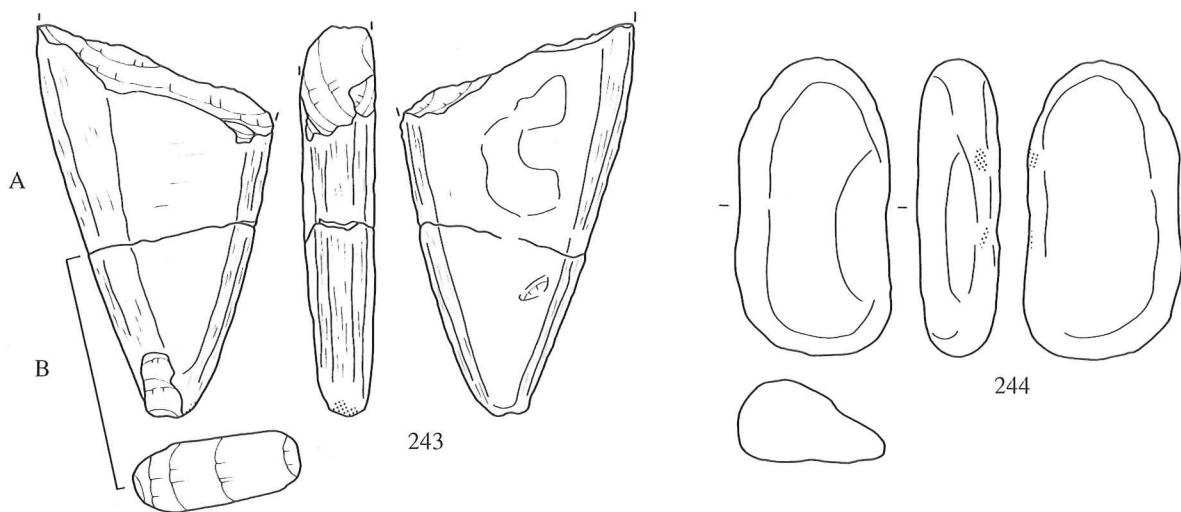
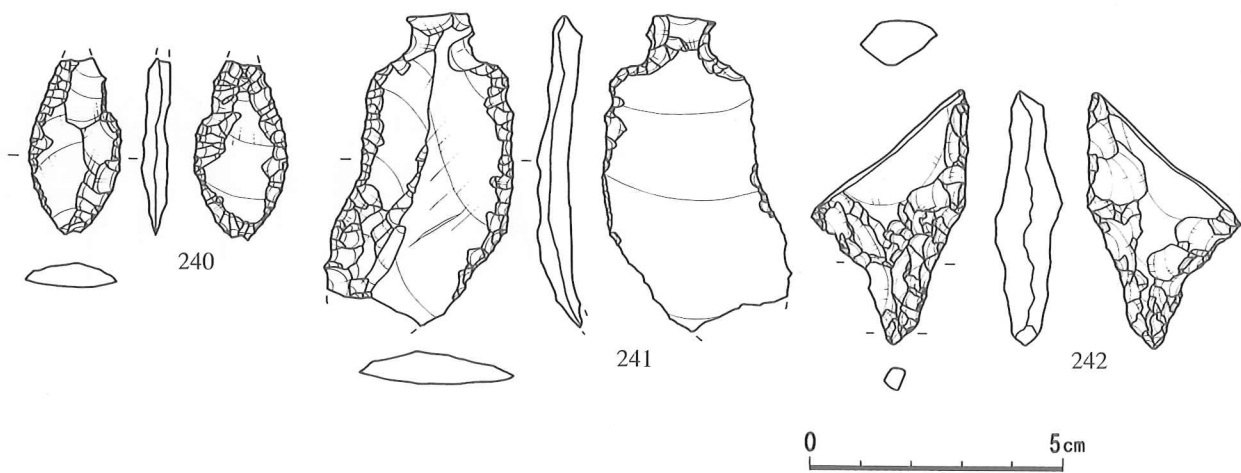


239

0 10cm

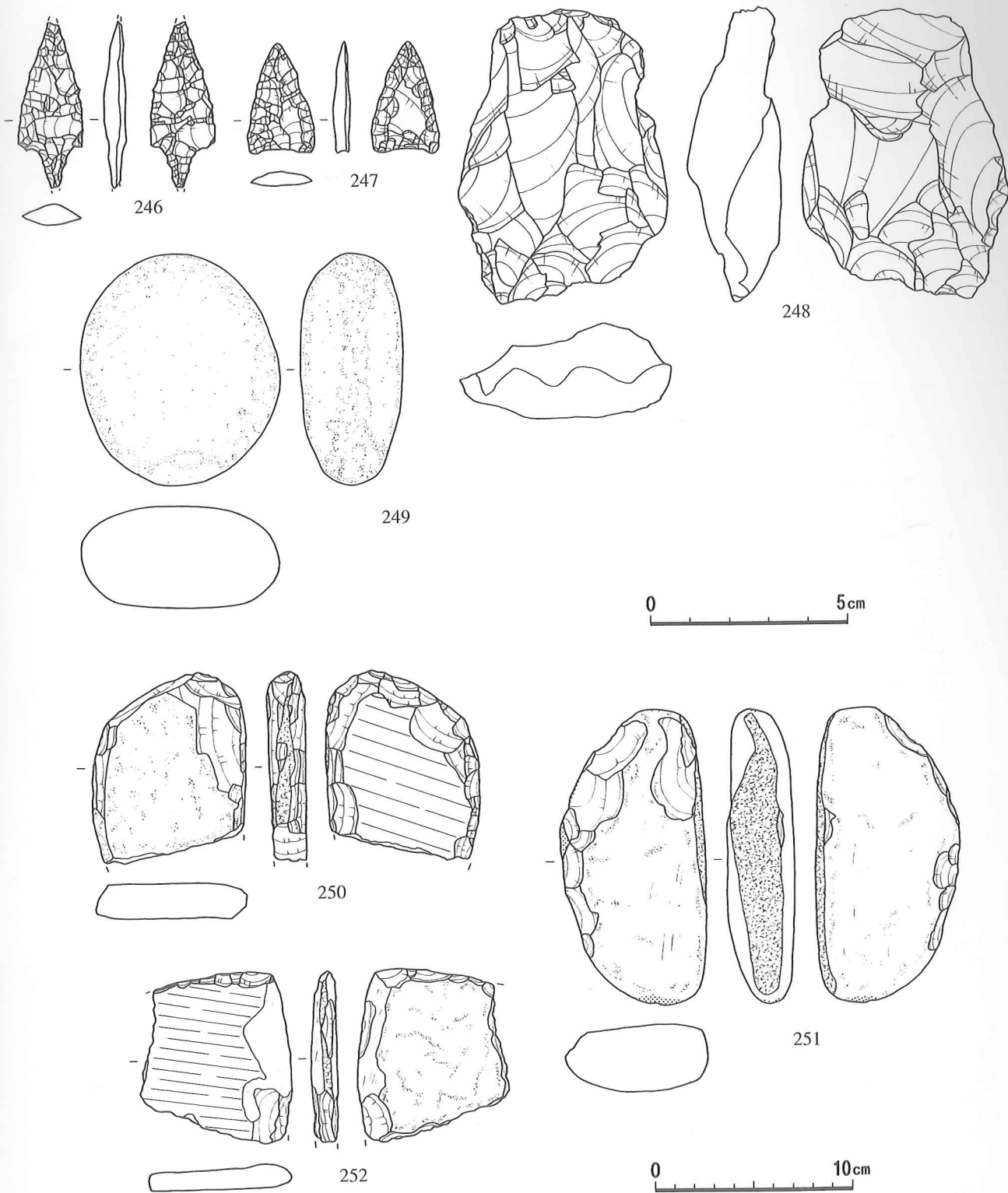
图版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備	考	整理番号
239	422住	床面	467	300	87	14200	安	L			41979

290图 第422号住居跡出土遺物 (23)



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
240	422住	貼床下	(35)	18	5	(2.4)	珪頁	Ac	VI C-114, S-15	52164
241	〃	〃	(62)	37	(9)	(13.3)	〃	Cc	VI A-114, S-6	52165
242	〃	〃	50	31	13	12.7	〃	Db	VI B-113	52990
243 A	〃	堆積土	(156)	(93)	(29)	(338.0)	安	K	VI B-113, S-7	43742
243 B	〃	貼床下								169.5
244	〃	〃	117	62	32	321.0	流	Ib	VI B-114, S-16	43905
245	〃	〃	114	75	47	609.5	安	〃	VI A-114, S-17	43972

291 図 第422号住居跡出土遺物 (24)



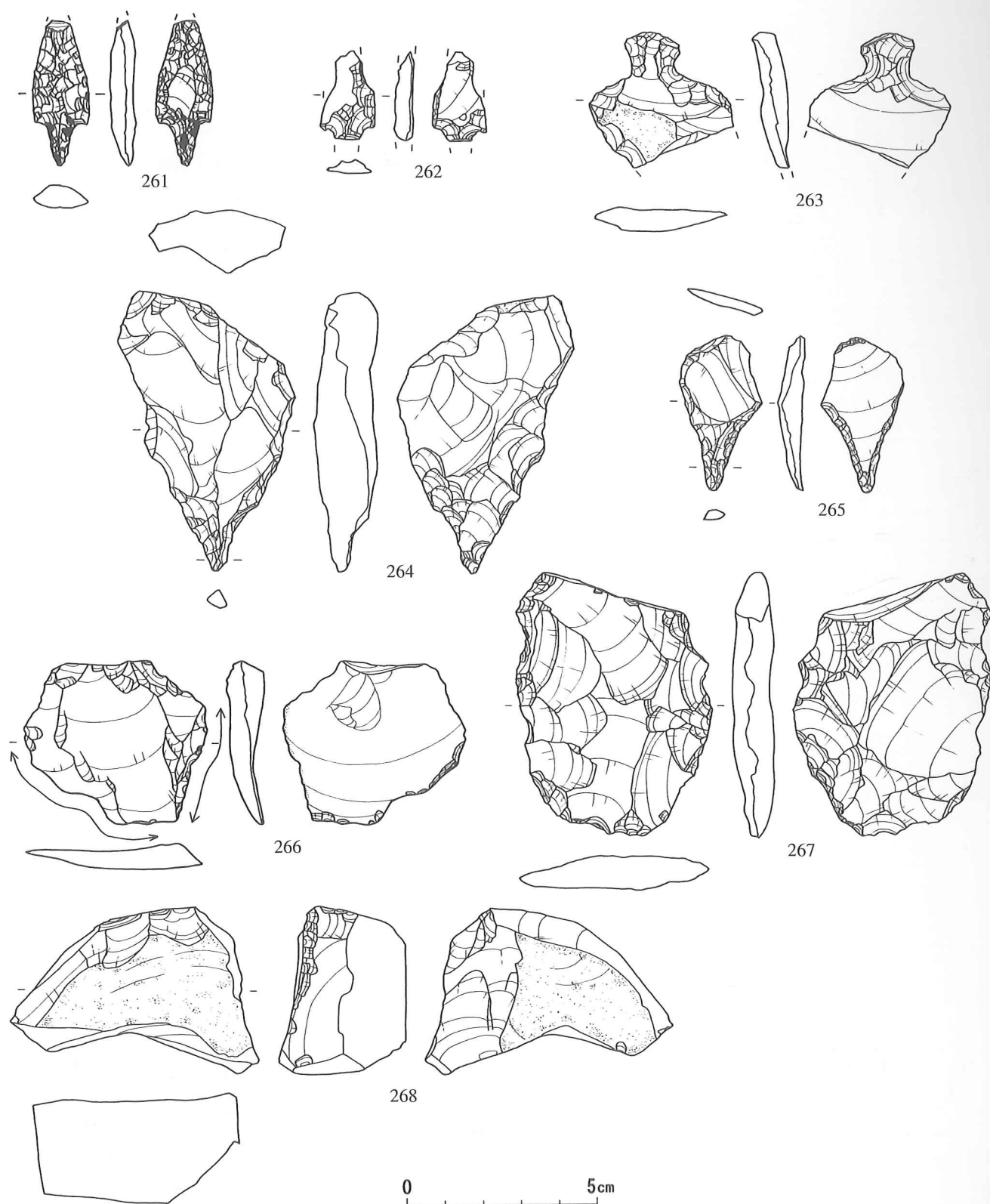
図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
246	422住	床直	(42)	16	6	(2.6)	珪頁	Aa	VIB-113, S-114	52152
247	〃	〃	28	17	4	1.5	〃	Af	VIA-115	52167
248	〃	〃	76	54	24	88.3	〃	Ga	石籠? VIC-114, S-184	49004
249	〃	〃	59	51	26	114.4	玉	Pb	VIB-115, S-210	43925
250	〃	〃	(93)	81	19	(231.3)	安	J	VIA-113, S-161	44027
251	〃	〃	150	74	34	576.4	〃	lc	VT-115, S-83	43900
252	〃	〃	(88)	(77)	(13)	(126.6)	〃	Q	K京 群衆認定報告, VIB-114, S-197	43963

292図 第422号住居跡出土遺物 (25)



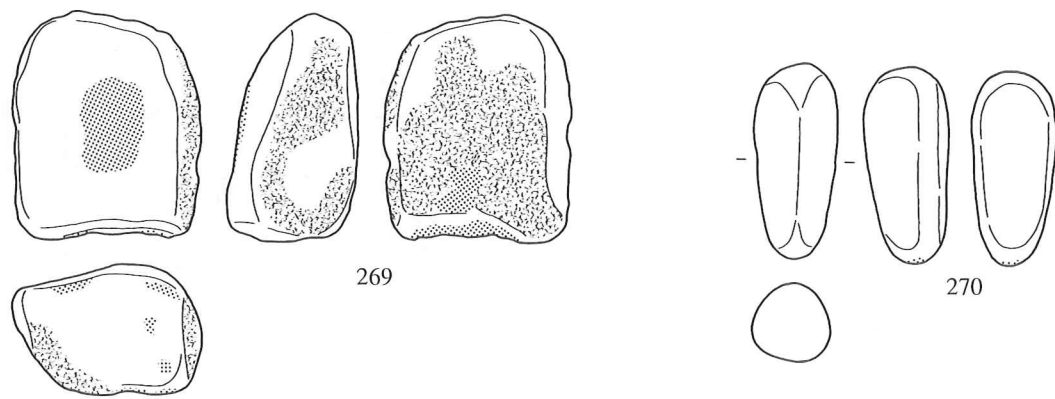
図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
253	422住	床直	(94)	(51)	(18)	(122.7)	安	J	VIB-115、S-211	43931
254	〃	〃	105	53	38	236.3	〃	Ib	VIA-114、S-96	49022
255	〃	〃	(82)	(57)	(39)	(157.4)	凝	Ia	VIB-114、S-245	43906
256A	〃	2	135	62	(49)	(184.8)	安	Ib	〃、S-290	43897
256B	〃	床直				(216.1)			〃、S-228	43930
257	〃	〃	(128)	(56)	(50)	(517.9)	凝	Ub	VIA-114、S-53	43899
258	〃	〃	(56)	(39)	(34)	(73.1)	安	Ib	VIC-114、S-296	43917
259	422住ビット7	堆積土	29	16	4	1.8	珪頁	Af	VIA-114、S-1	52166
260	〃	柱痕	51	44	18	27.0	〃	Db	〃	49007

293図 第422号住居跡出土遺物 (26)

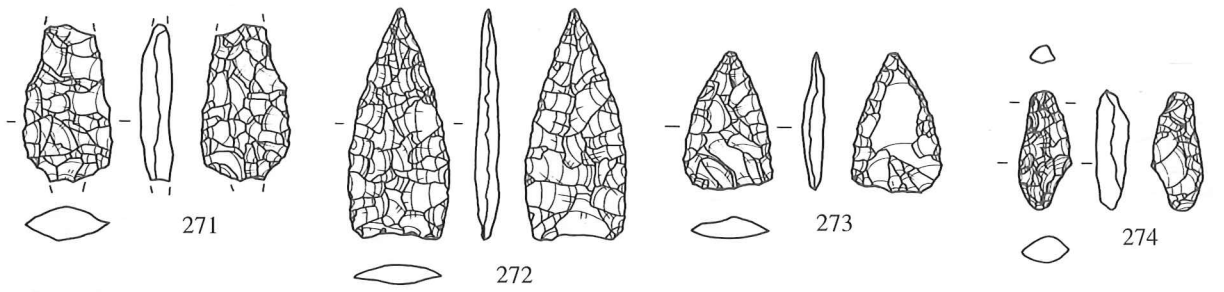


図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
261	422住	3	(38)	15	7	(3.3)	珪頁	Aa	VIB-113	52156
262	〃	〃	(23)	(14)	(5)	(1.4)	〃	〃	〃、焼付	40317
263	〃	〃	(36)	(38)	(9)	(7.5)	〃	Cc	〃	52155
264	〃	〃	73	46	16	38.1	〃	Db	〃	40336
265	〃	〃	41	22	7	2.9	〃	〃	〃	40361
266	〃	〃	43	48	10	14.7	〃	Ga	〃	40230
267	〃	〃	69	52	11	44.2	〃	〃	VIB-113、石籠? 上面から加工	40339
268	〃	〃	44	65	33	92.5	〃	Pa	〃	40282

294図 第422号住居跡出土遺物 (27)



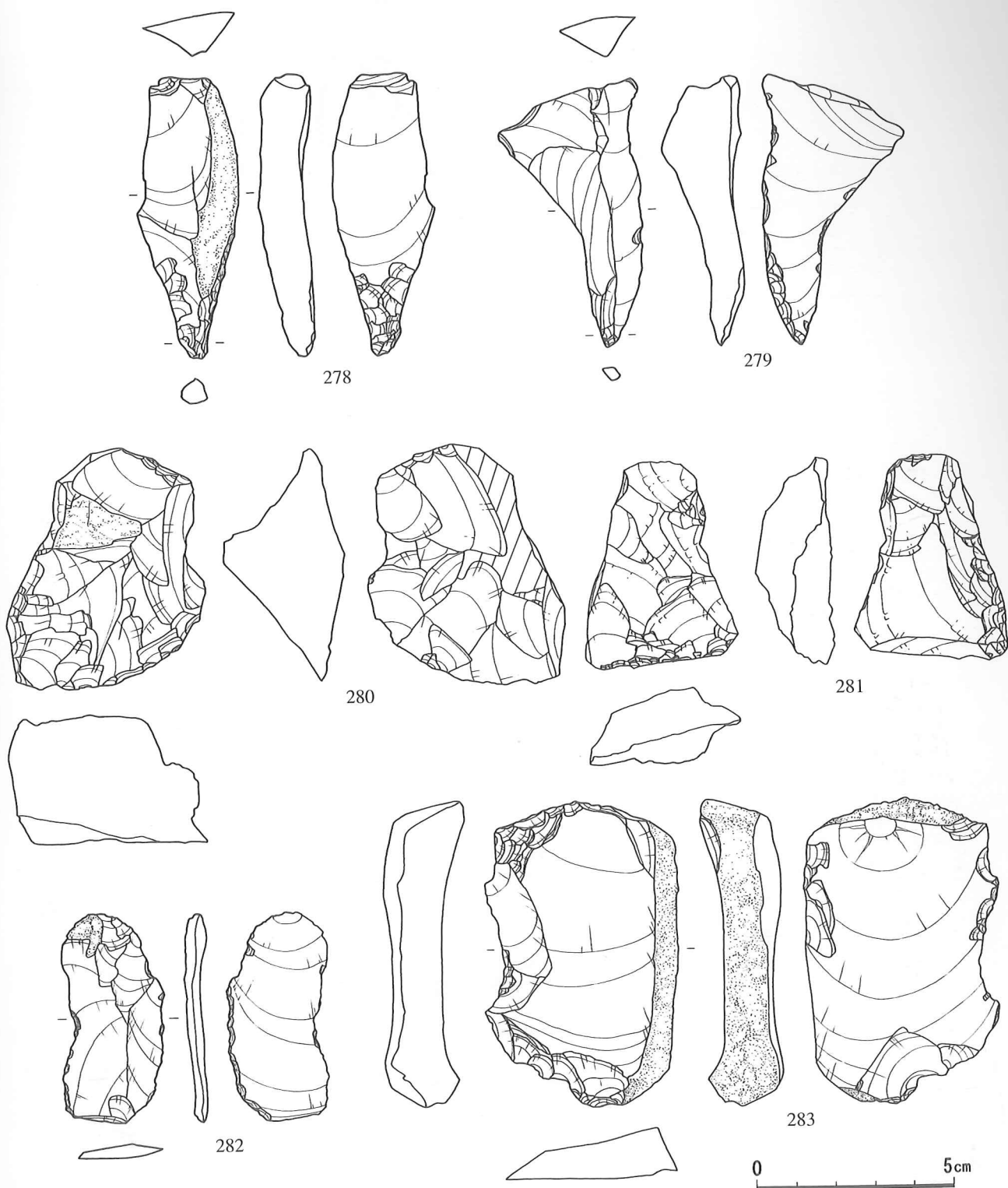
0 10cm



0 5cm

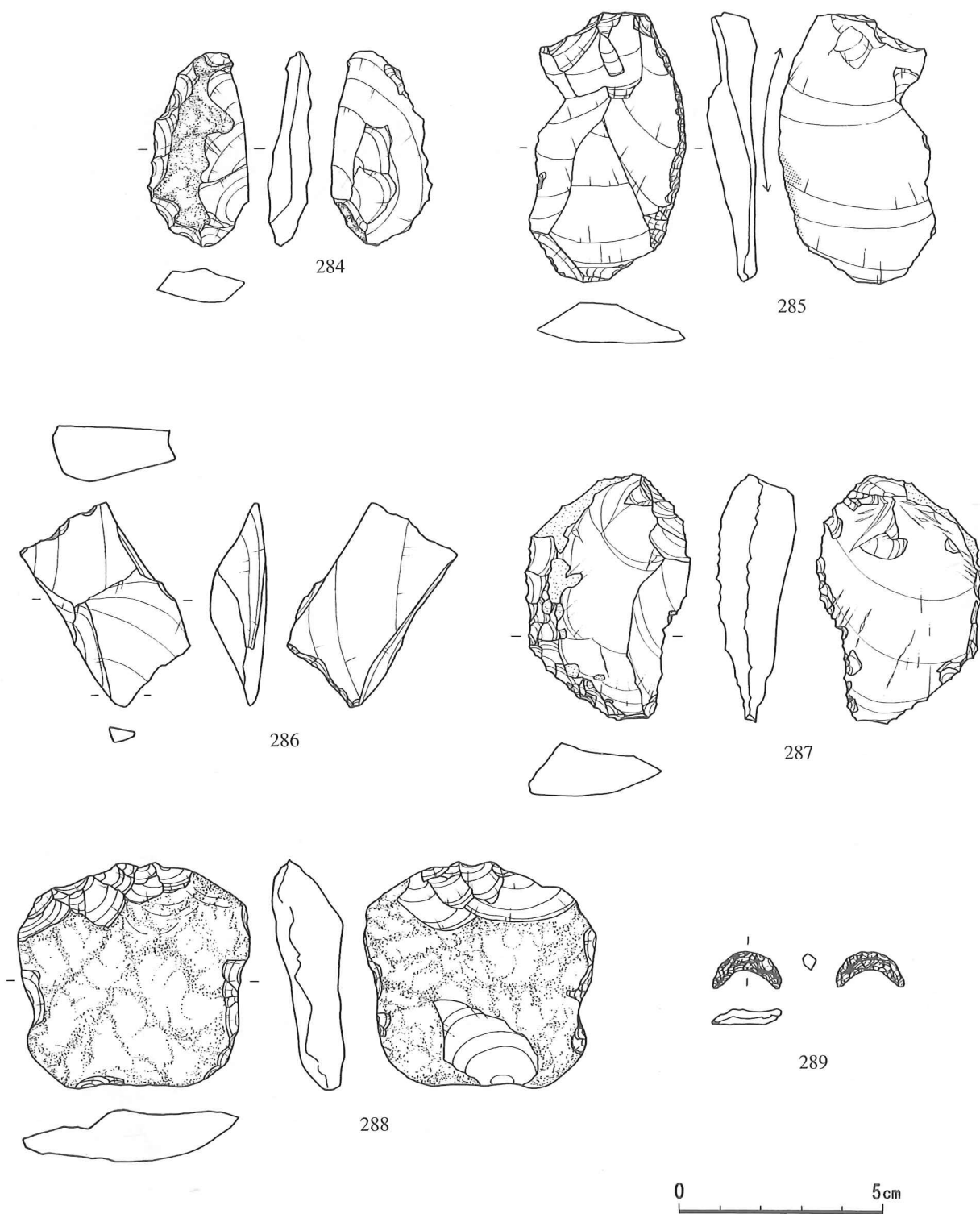
図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備 考	整理番号
269	422住	3	90	74	51	512.9	安	Ib		44021
270	〃	〃	77	33	33	109.7	〃	〃	VIB-113	44020
271	〃	2	(31)	17	6	(3.9)	珪頁	Ab	VIB-114, S-218	52163
272	〃	〃	46	20	5	3.8	〃	Af	VIC-113, S-207	52154
273	〃	〃	27	18	5	1.7	〃	Ae	〃	52151
274	〃	〃	23	10	7	1.4	〃	Da	VIB-113, S-133	52149
275	〃	〃	(80)	24	(13)	(27.6)	〃	Ba	VIB-114, S-66	52160
276	〃	〃	(38)	(36)	8	(8.7)	〃	Cb	〃, S-11	52292
277	〃	〃	37	15	9	4.5	〃	Ga	〃, 石錐?	40296

295図 第422号住居跡出土遺物 (28)



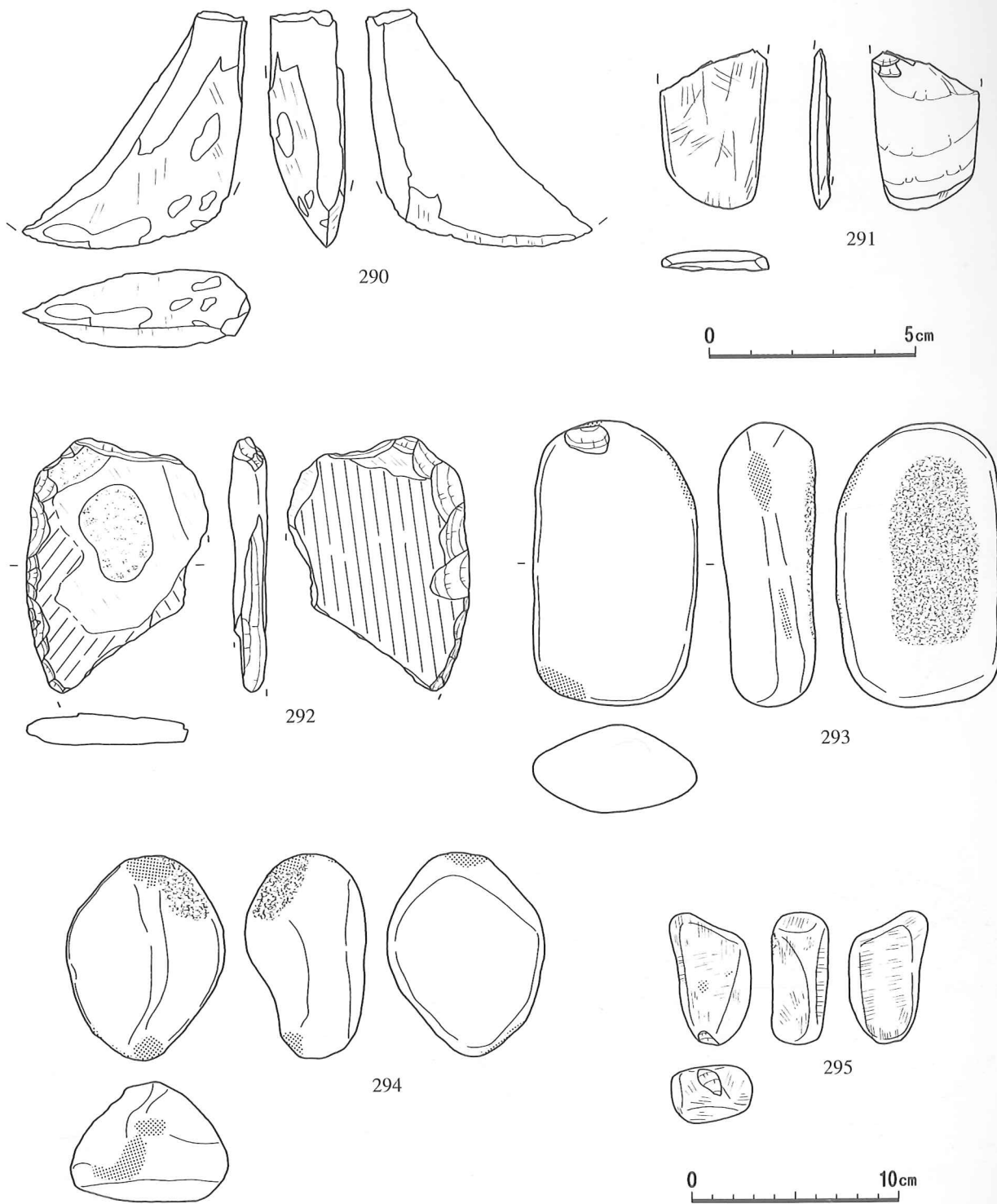
図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
278	422住	2	72	26	14	19.0	珪頁	Db	VIB-113, S-253	52153
279	〃	〃	69	36	20	19.0	〃	Dc	VIC-113, S-206	49006
280	〃	〃	61	50	34	80.6	〃	Eb	VIB-114	40351
281	〃	〃	53	39	19	30.0	〃	Ga	石籠?, 〃, S-2	40335
282	〃	〃	53	26	6	6.9	〃	〃	VIC-114	40233
283	〃	〃	78	50	21	76.9	〃	〃	VIA-114, S-86	40341

296図 第422号住居跡出土遺物 (29)



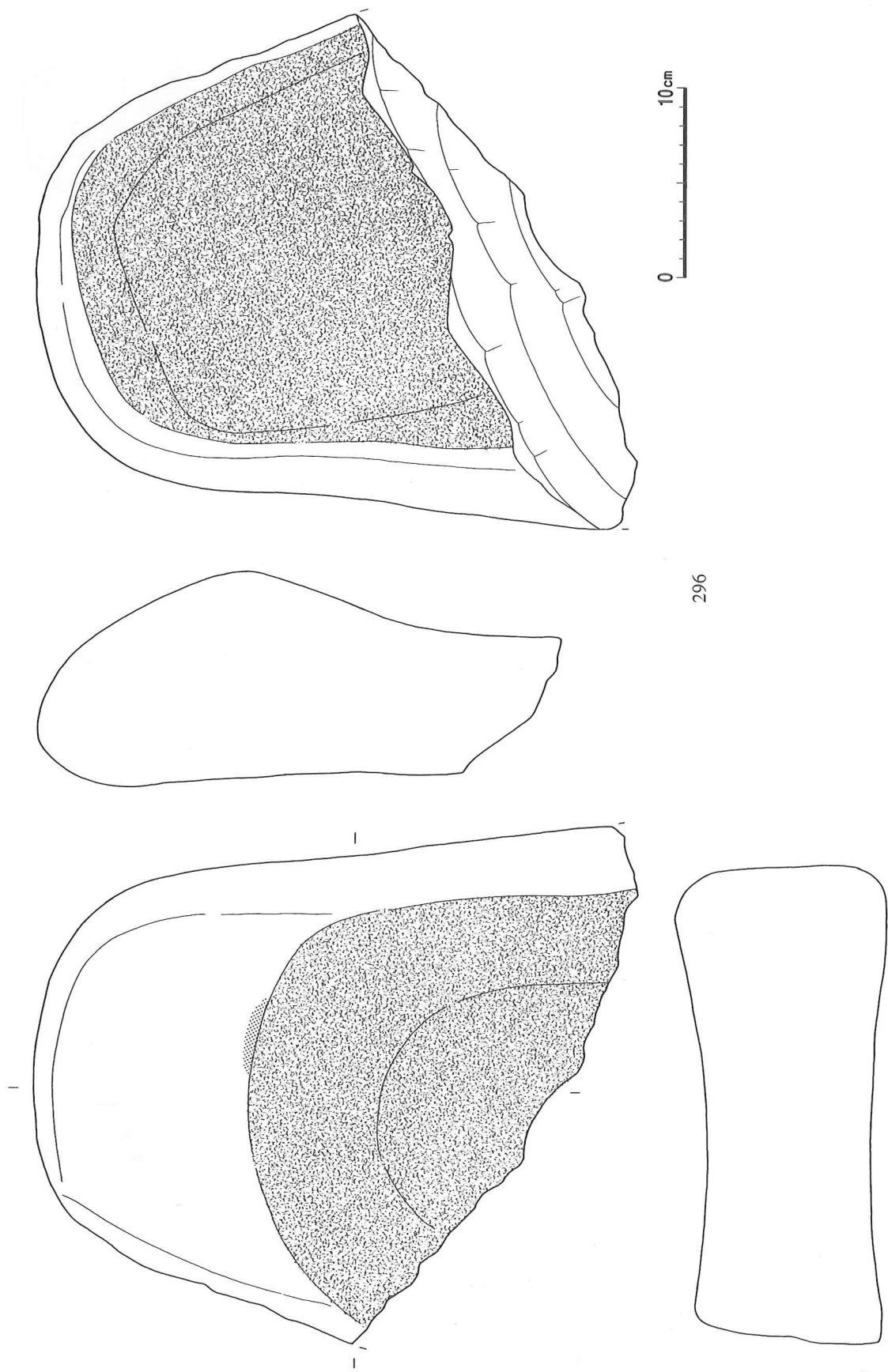
図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
284	422住	2	48	25	10	10.8	珪頁	Ga	VIC-114	40272
285	〃	〃	66	39	12	22.8	〃	〃	VIA-113	40340
286	〃	〃	50	42	13	18.3	〃	Gb	石錐?, VIA-113, S-303	49005
287	〃	〃	60	41	19	40.4	〃	Ga	VIB-113, S-108	52329
288	〃	〃	56	57	18	56.1	〃	Gb	石核?, VIC-114, S-194	40358
289	〃	〃	9	17	4	0.3	黒	R	VIC-114	52452

297図 第422号住居跡出土遺物 (30)



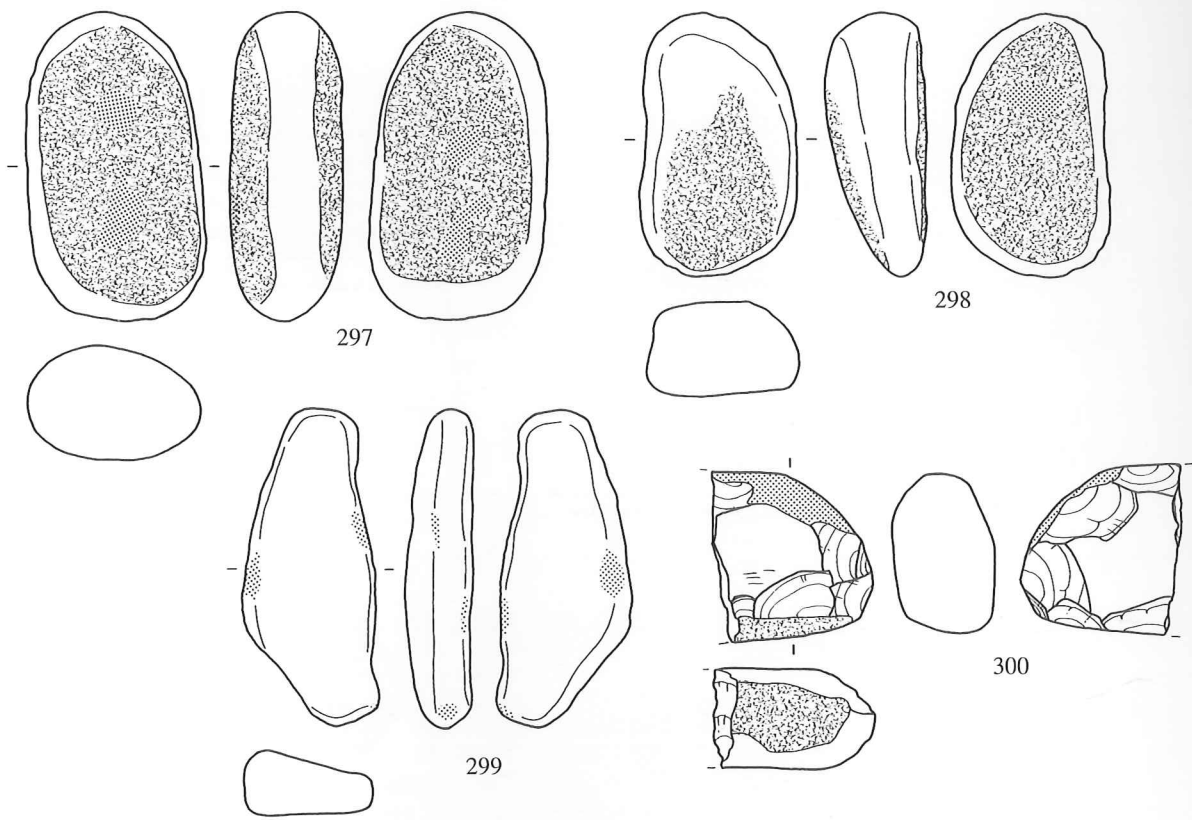
図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
290	422住	2	(58)	(55)	(18)	(43.2)	細凝	Ha	VIB-115	40221
291	〃	〃	(39)	(26)	(5)	(7.0)	粘	〃	VIB-114, S-289	43903
292	〃	〃	(124)	(88)	18	(221.4)	安	J	VIA-114, S-235	44009
293	〃	〃	138	80	47	790.8	〃	Ib	VIC-114, S-187	44011
294	〃	〃	100	76	56	458.8	〃	〃	VIB-114, S-242	43957
295	〃	〃	64	39	28	91.5	流	Sa	VIB-113, S-303	49026

298図 第422号住居跡出土遺物 (31)

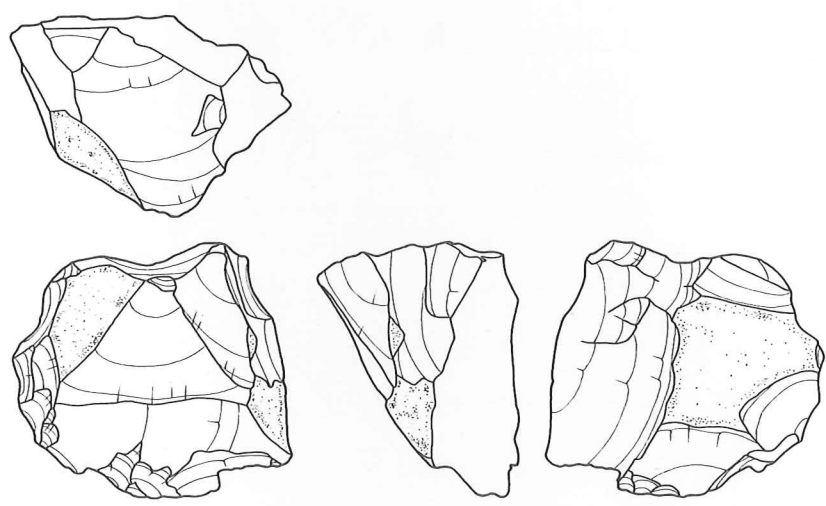


299图 第422号住居跡出土遺物 (32)

図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
296	422住	2	(316)	(272)	(116)	(10863)	安	L	VIB-115、C-3	46393



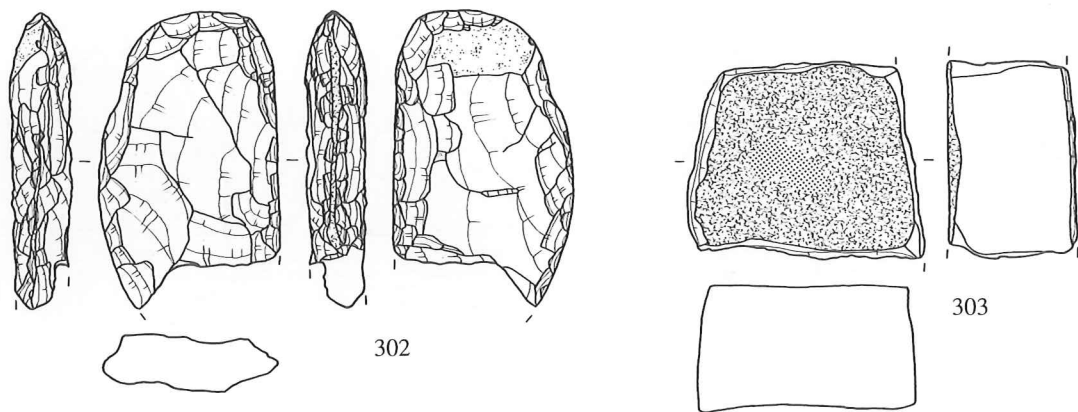
0 10cm



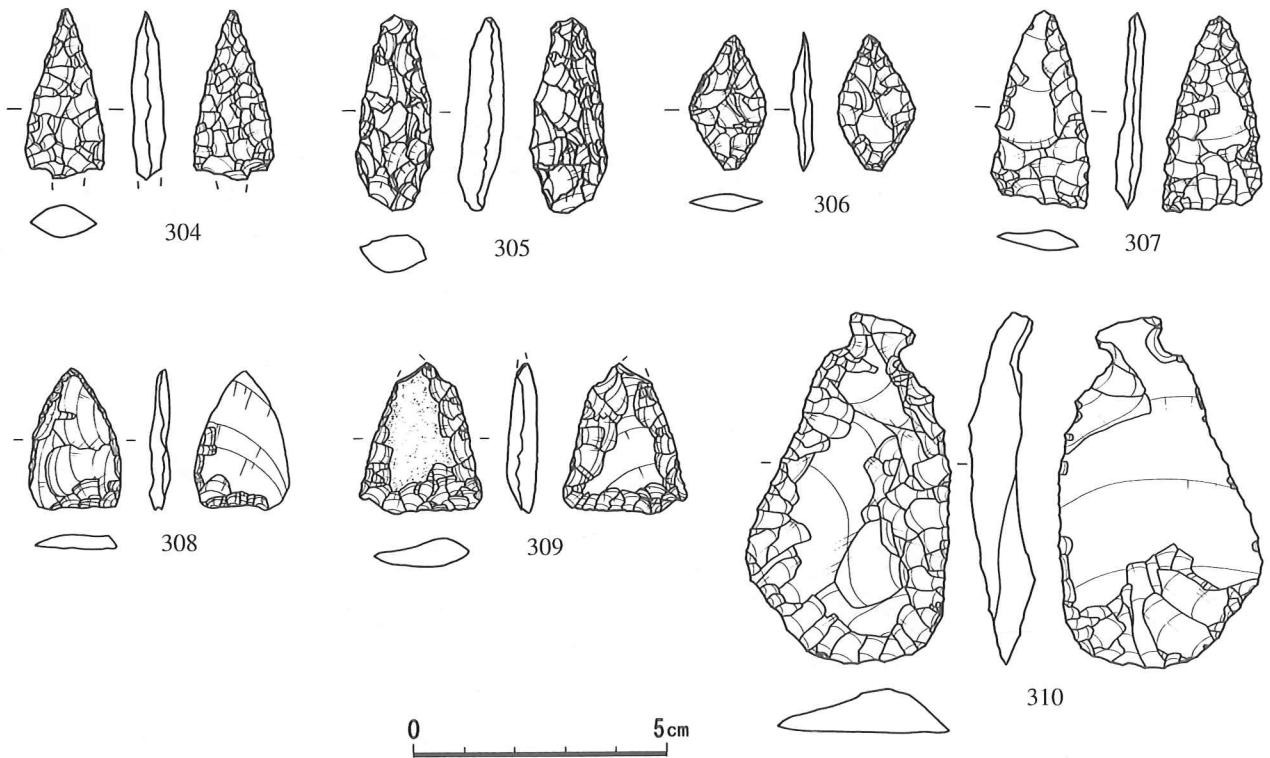
0 5cm

図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
297	422住	2	122	71	44	559.5	流	Ic	VIB-114, S-35	49025
298	〃	〃	104	62	40	394.7	安	〃	VIB-113, S-98	49024
299	〃	〃	126	54	27	235.7	〃	Ib	VIB-115, S-40	49027
300	〃	〃	(68)	(65)	(41)	(267.5)	〃	Ic	石冠? VIB-113, S-302	43942
301	〃	1	51	55	40	89.4	珪頁	Pa	VIC-114, S-117	40352

300図 第422号住居跡出土遺物 (33)



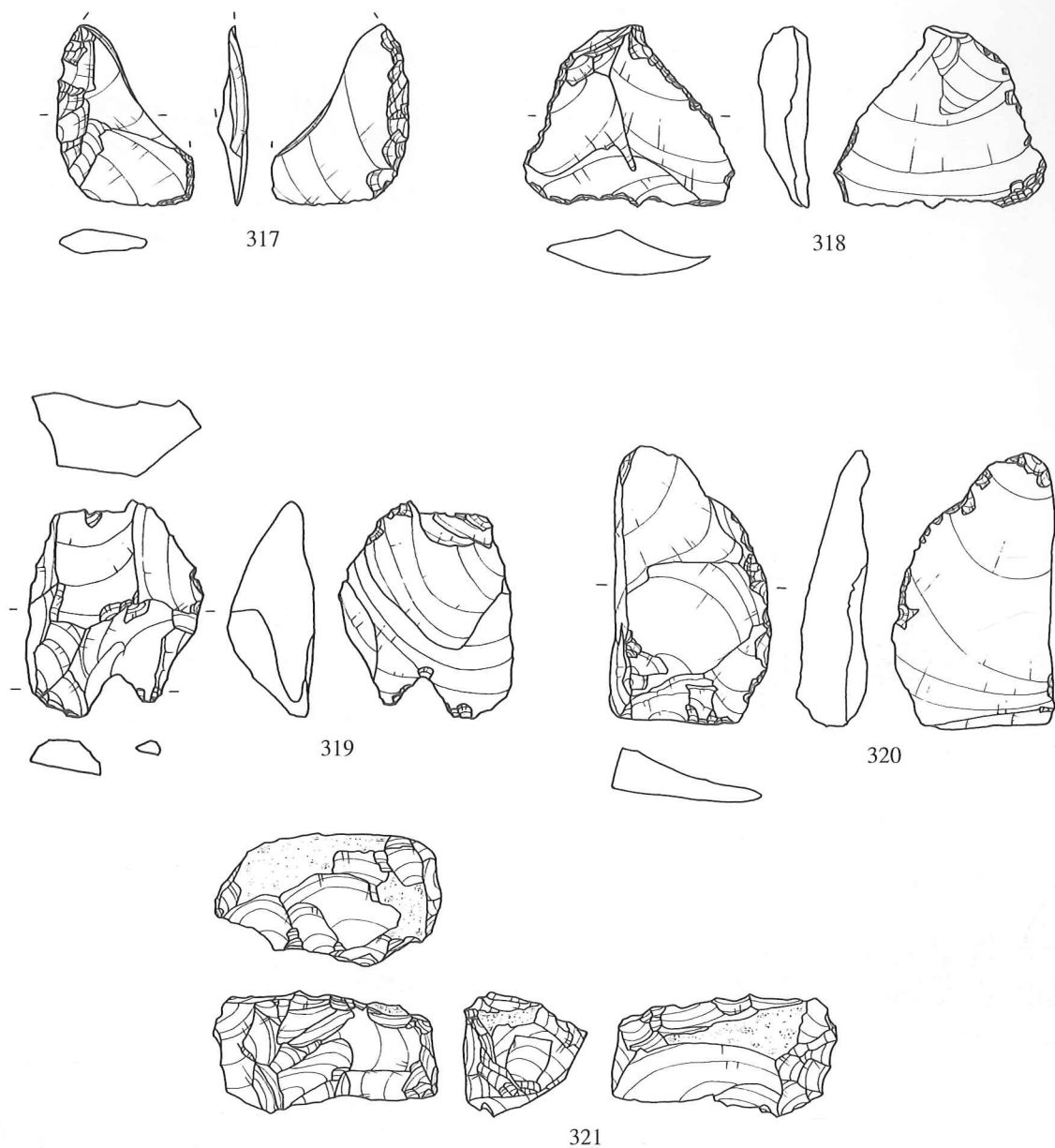
0 10cm



0 5cm

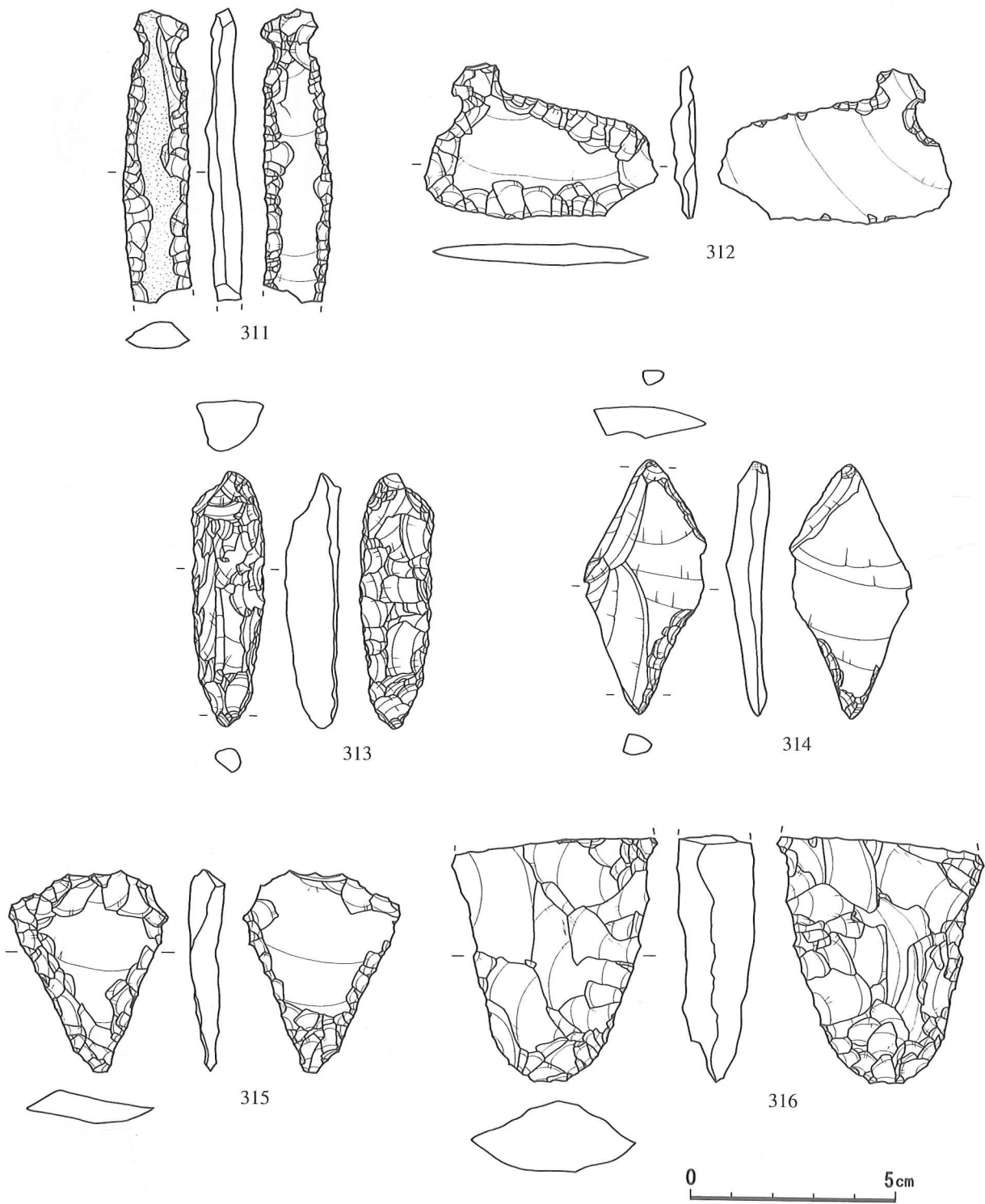
図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
302	422住	I	(118)	71	24	(247.0)	安	J	VIA-114、S-282	43960
303	〃	〃	(78)	(93)	(50)	(580.9)	〃	L	〃、S-87	49023
304	〃	堆積土	(34)	15	6	(2.8)	珪頁	Aa		52146
305	〃	〃	38	15	9	4.9	玉	A	未製品? VIA-114	52158
306	〃	〃	26	15	4	1.1	珪頁	Ac	VIB-113	52150
307	〃	〃	39	19	5	2.5	〃	Ad	未製品?	52143
308	〃	〃	28	19	4	1.9	〃	Af	VIB-113	40284
309	〃	〃	(30)	24	6	(3.7)	〃	Ad	VIC-114	40133
310	〃	〃	70	40	13	24.4	〃	Ca	S-70	52148

301図 第422号住居跡出土遺物 (34)



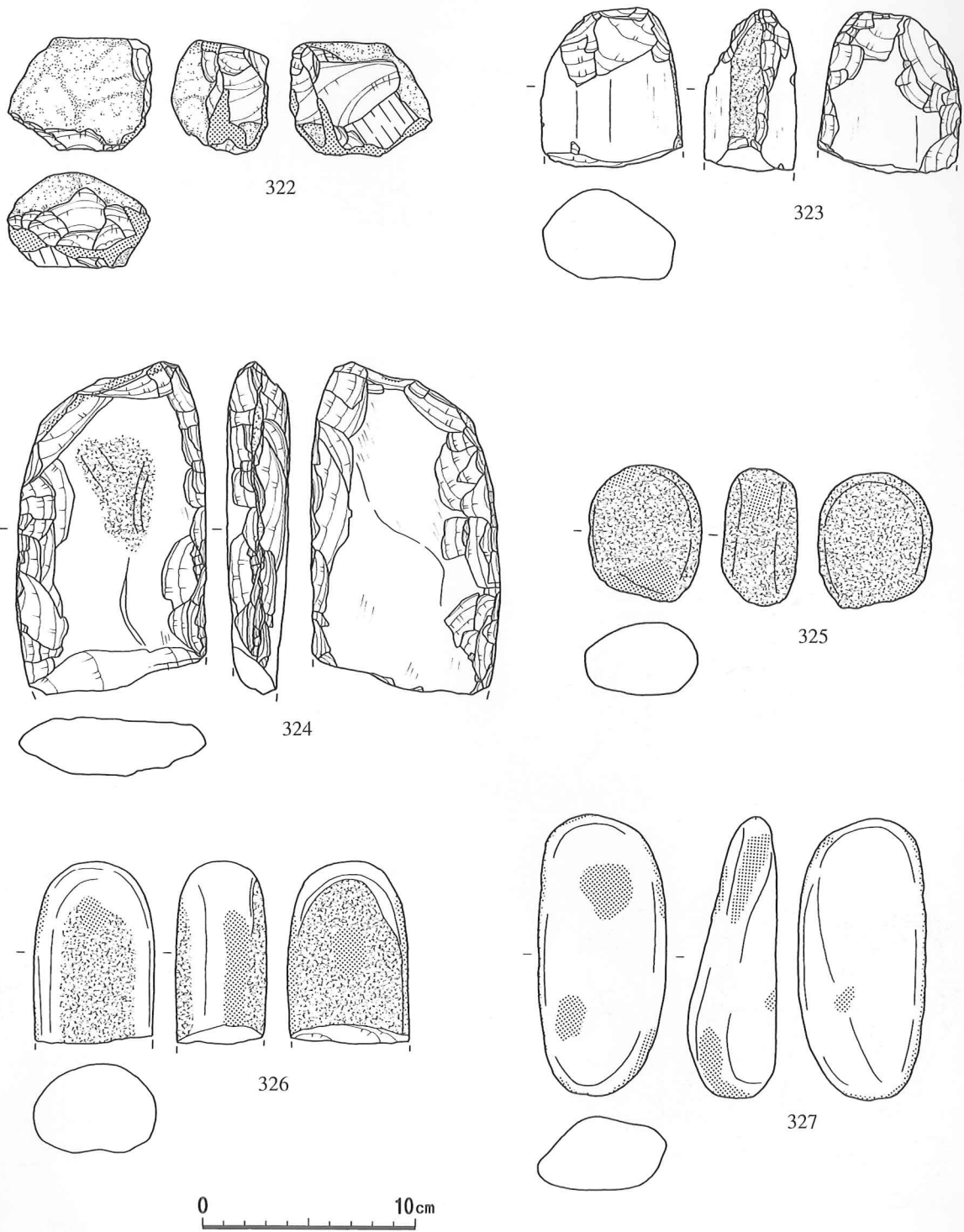
図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
317	422住	堆積土	(38)	(29)	(6)	(4.7)	珪頁	Ga		40326
318	〃	〃	38	45	11	11.7	〃	〃	VIC-114	40295
319	〃	〃	46	37	18	24.2	〃	Gb	VIA-110	43344
320	〃	〃	59	35	15	18.9	〃	〃		40344
321	〃	〃	21	48	21	35.6	〃	Pa	VIC-114	40309

303図 第422号住居跡出土遺物 (36)



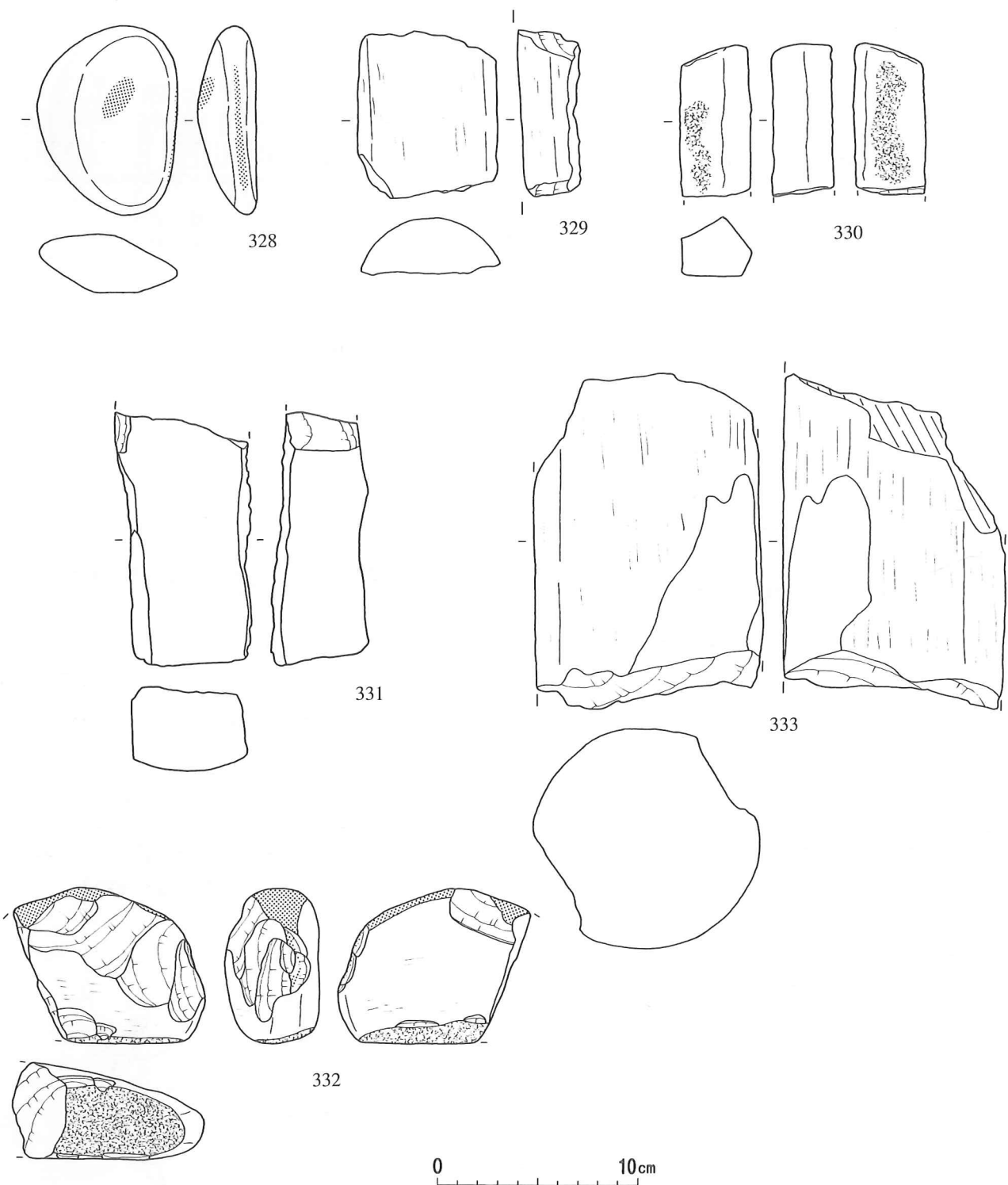
図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
311	422住	堆積土	(72)	(16)	9	(8.6)	珪頁	Ca	VIB-115	52168
312	〃	〃	38	57	6	9.5	〃	Cb		52145
313	〃	〃	63	18	13	17.0	〃	Da		52159
314	〃	〃	63	30	10	13.2	〃	Db	尖端磨耗、VIC-114	40279
315	〃	〃	49	39	9	9.1	〃	Ga	石錐?	52147
316	〃	〃	(60)	(51)	(19)	(52.3)	〃	〃		52144

302図 第422号住居跡出土遺物 (35)



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
322	422住	堆積土	53	67	45	186.8	珪頁	Ib	石核転用?	43335
323	〃	〃	(76)	(67)	(43)	(252.8)	安	Ic	VIB-113、S-1	48608
324	〃	〃	(158)	(99)	30	(539.9)	〃	J	VIB-114	43924
325	〃	〃	63	53	35	174.7	〃	Ic	VIA-113	43996
326	〃	〃	(86)	(57)	(42)	(281.8)	流	Ib	VIC-114	43919
327	〃	〃	133	61	51	437.1	安	〃		43978

304図 第422号住居跡出土遺物 (37)



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
328	422住	堆積土	94	71	29	244.0	安	Ib		43979
329	〃	〃	(83)	(70)	(31)	(216.4)	〃	Ma	VIC-114	44031
330	〃	〃	(75)	(36)	(31)	(118.0)	流	Ub		43977
331	〃	〃	(126)	(67)	(48)	(584.3)	安	Ua		43883
332	〃	〃	77	(96)	(47)	(463.9)	〃	Ic	石冠?	43879
333	〃	確認面	(167)	(114)	(111)	(2698.3)	流	Ma	VIB-114、S-19	43951

305図 第422号住居跡出土遺物 (38)

報 告 書 抄 録

ふりがな	さんないまるやまいせき
書名	三内丸山遺跡XV
副書名	旧野球場建設予定地発掘調査報告書3
巻字	
シリーズ名	青森県埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第283集
編著者名	岡田康博・木村真明・中村美杉・斎藤岳・小笠原雅行・中村哲也・秦光次郎
編集機関	青森県教育庁文化課
所在地	青森市新町2丁目3番1号 TEL 017-734-9924
発行年月日	西暦2000年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
さんないまるやまいせき 三内丸山遺跡	あおもりけんあおもりし おおあざさんないあざまるやま 青森県青森市大字三内字丸山	02201	01021	40°	140°	1992.4.20~11.30	38,000m ²	県営運動公園 拡張事業に係 る事前調査
				48′	42′	1993.4.12~12.17		
				40″	20″	1994.4.4~11.18		

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
三内丸山遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡 107棟 (今回報告分)	縄文土器(前・中期) 石器(前・中期) 土・石製品(前・中期)	縄文時代前期中葉から中期 末葉にわたる大規模拠点集 落跡

青森県埋蔵文化財調査報告書第283集

三内丸山遺跡 XV

—旧野球場建設予定地発掘調査報告書 3—

発行日 平成12年 3月31日

発行 青森県教育委員会

編集 青森県教育庁文化課
〒030-0801 青森市新町 2丁目 3-1

印刷所 東北印刷工業株式会社
〒030-0902 青森市合浦 1丁目 2-12

